

現場説明書（技術的事項）

工事名 新涯ポンプ場ポンプ棟耐震化工事（その2）

1. 現場の状況

- ・新涯ポンプ場は雨水排水施設であり、降雨に伴うポンプ稼働時以外は無人の施設です。
- ・降雨時は内水排除（ポンプ運転）を優先します。
- ・工事対象は、新涯ポンプ場のうち、道路側の建物（旧棟）です。
- ・工事期間中、近隣にて次の工事の施工が予定されているため、相互に連絡・調整等を密にし、重機や資材の搬入等に支障がないように努めてください。

工事名称：道路改良工事（新涯箕島線（橋梁下部）・7-1）

工事期間：2025 年 9 月下旬～2026 年 3 月 31 日（予定）

工事内容：橋脚整備 N=1 基

発注機関：福山市建設局土木部道路整備課

2. 留意事項

- ①本工事受注者は、地元企業・地場製品の活用に努めてください。
- ②本工事は建設リサイクル法対象工事に該当しませんが、特定建設資材の再利用化に努めると共に建設副産物入力システム（COBRIS）の計画・実施報告書を提出してください。
- ③現場代理人及び主任技術者については、契約約款、建設業法等に違反とならないよう適切に配置し、当該工事の施工管理を行ってください。
- ④契約後、14 日以内に実施工程表を提出し、監督員の承諾を受けてください。
- ⑤新涯ポンプ場は危険物一般取扱所です。本工事に伴う変更申請・検査等に要する費用は受注者の負担とします。
- ⑥その他、工事の施工上、官公署への手続きが必要な場合は、受注者の責任において速やかに行ってください。
- ⑦施工計画、実施工程により監守人へ工事内容の説明を行う予定としていますので、資料の作成をお願いします。
- ⑧工事で既存工作物等に損傷を与えないように対策を講じてください。

3. その他

- ①本工事は、受注者希望型の週休 2 日適用対象工事です。詳細については、別紙（福山市上下水道局週休 2 日適用工事の実施について）によるものとします。
- ②本工事は、インターネットを利用して、受発注者間の情報を電子的に交換・共有することにより、効率化を図る情報共有システムの対象工事です。
本工事で利用する情報共有システムは、「広島県工事中情報共有システム」とし、当該

サービス提供者との契約は受注者が行い利用料を支払うものとします。

運用に当たっては、「福山市上下水道局発注工事における情報共有システム利用実施要領」及び「情報共有システム利用手引（建築工事）」によるものとします。

本工事は発注者指定型であり、共通仮設費として情報共有システムの利用料を見込んでいます。

受注者は、本システムを利用できない特別の事由がある場合は、工事着手までに当該事由を記載した工事打合せ簿を監督員に提出し、その承諾を得ることで本システムを利用しないことができます。その場合の請負金額の変更については、情報共有システムの利用料を計上しないもので変更契約を行うものとします。

③墜落制止用器具の着用について

労働安全衛生法施行令第13条第3項第28号における墜落制止用器具の着用は、「墜落制止用器具の規格」（平成31年1月25日厚生労働省告示第11号）による墜落制止用器具（フルハーネス型墜落制止用器具、胴ベルト型墜落制止用器具及びランヤード等）とする。

④法定外の労災保険の付保について

本工事は、法定外の労災保険を見込んでいる。

⑤疑義が生じた場合は、監督員と協議すること。

福山市上下水道局週休 2 日適用工事の実施について

1 福山市上下水道局週休 2 日適用工事の実施に係る用語の定義は次の各号に定めるものとする。

(1)「週休 2 日」とは、次のアからイまでに定める区分に応じ、各条件を満たすものをいう。

ア 「完全週休 2 日（土日）」とは、対象期間の全ての週（原則として、土曜日から金曜日までの 7 日間とする。以下同じ。）毎に現場閉所又は現場休息（以下「現場閉所等」という。）を原則として土曜日及び日曜日に指定し、1 週間に 2 日以上現場閉所等を行うものをいう。

イ 「月単位の週休 2 日」とは、対象期間内の全ての月毎に現場閉所等の日数が、4 週 8 休（現場閉所等の割合が 28.5%（8 日／28 日）以上のものをいう。以下同じ。）以上であるものをいう。

(2)「現場閉所」とは、巡回パトロール、保守点検等の現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場事務所での作業を含めて 1 日を通して現場及び現場事務所が閉所された状態をいう。

(3)「現場休息」とは、分離発注工事の場合に、各発注工事単位で、現場事務所での作業を含めて 1 日を通して現場作業が無い状態をいう。

(4)「対象期間」とは、工事着手日（準備期間（契約上の工事の始期から現場事務所などの設置、測量、本体工事又は仮設工事のいずれか最も早い日までの期間をいう。）を除く。）から工事の完成日（後片付け期間（契約図書に基づく工事目的物の施工が全て完了し、余剰資材等の撤去、現場の清掃等、工事の完成検査を受けるために必要な作業を行う期間をいう。）を除く。）までの期間をいう。ただし、次の期間は対象期間から除くものとする。

ア 年末年始 6 日間及び夏季休暇 3 日間

イ 工場製作のみが行われている期間

ウ 災害時の緊急対応その他受注者の責めによらず、休工又は現場作業を余儀なくされた期間

(5)「発注者指定型」とは、週休 2 日適用工事として発注者が指定するものをいう。

(6)「受注者希望型」とは、受注者が工事着手前に、発注者に対して週休 2 日適用工事として取り組む旨を申し出たものをいう。

2 週休 2 日は、次の各号に定めるところにより実施するものとする。

(1) 完全週休 2 日（土日）

1 (1) アに定めるところにより実施するものとする。ただし、対象期間内のうち、日数が 7 日に満たない週においては、当該週の土曜日及び日曜日の合計日数以上の現場閉所等を行うことで実施できるものとする。

(2) 月単位の週休 2 日

1 (1) イに定めるところにより実施するものとする。ただし、暦上の土曜日及び日曜日の現場閉所等では 4 週 8 休に満たない月又は日数が 28 日に満たない月においては、当該月の対象期間内の土曜日及び日曜日の合計日数以上の現場閉所等を行うことにより実

施できるものとする。

- 3 受注者は、受注した工事が発注者指定型の場合は、工事着手までに監督員に対し、実施する週休2日の区分について申し出るとともに、現場閉所（現場休息）計画表兼実績表（様式1）（以下「計画表」という。）を提出するものとする。
- 4 受注者は、受注した工事が受注者希望型の場合は、工事着手までに監督員に対し、週休2日実施の有無及び実施する週休2日の区分について申し出るとともに、実施する場合は計画表を提出するものとする。工事着手前に週休2日を実施しない旨を申し出た場合は、工事着手後の週休2日を実施する旨の申出は受け付けられないものとする。なお、週休2日実施を希望しない受注者は、6～7に規定する義務を負わない。
- 5 受注者は、天候を理由として現場閉所等を行う場合のほか、次に掲げる場合は、監督員との協議により工事着手後であっても週休日を変更することができるものとする。
 - （1）品質管理、安全管理等のため作業を継続して行う必要がある場合
 - （2）その他工程の都合上やむを得ない場合
- 6 受注者は、当該工事が週休2日適用工事である旨を土木工事にあつては標示板の見えやすい位置に記載して工事現場に設置し、建築工事にあつては施設管理者の承諾を得て公衆の見やすい場所に掲示しなければならない。この場合において、記載内容は、別記様式に定めるものを基本とするものとする。
- 7 受注者は、計画表に現場閉所等の状況を記入し、現場閉所等の状況が確認できる書類（工事日誌、出勤簿等をいう。）とともに毎月7日（7日が閉庁日の場合は翌開庁日）まで及び工事完成後速やかに、工事打合せ簿により監督員に提出し、確認を受けるものとする。
- 8 週休2日を理由とする工期延長については、認めないものとする。
- 9 受注者は、週休2日を実施できなくなった場合は、速やかにその旨及び理由を工事打合せ簿により監督員に報告するものとする。
- 10 経費の補正は、次の各号に掲げるとおりとする。
 - （1）発注者指定型
月単位の週休2日の経費を見込んで発注し、現場閉所等の実績に基づき、完全週休2日（土日）を達成したと認めた場合は、完全週休2日（土日）の補正係数を適用して変更契約し、月単位の週休2日を達成できなかった場合は、月単位の週休2日の補正係数を除いて変更契約を行うものとする。
 - （2）受注者希望型
週休2日の経費は見込まず発注し、現場閉所等の実績に基づき、達成した週休2日の区分に応じて完全週休2日（土日）又は月単位の週休2日の補正係数を適用して変更契約を行うものとする。
- 11 土木工事に係る経費の補正係数については、次の各号に掲げる現場閉所等の実績に基づき、当該各号に定める補正係数、別表土木工事市場単価の補正係数及び土木工事標準単価の補正係数を用いるものとする。
 - （1）完全週休2日（土日）

ア 労務費	1.02
イ 共通仮設費	1.02
ウ 現場管理費	1.03
 - （2）月単位の週休2日

ア 労務費	1.02
-------	------

イ 共通仮設費 1.01

ウ 現場管理費 1.02

12 11(1)ア及び11(2)アに規定する労務費に係る補正対象は、公共工事設計労務単価、電気通信技術者、電気通信技術員、機械設備据付工とする。

13 建築工事に係る経費については、次の各号に掲げる現場閉所等の実績に基づき、当該各号に定める補正係数を用いて労務費（予定価格のもととなる工事費の積算に用いる複合単価、市場単価及び物価資料の掲載価格（材工単価）の労務費とする。）及び現場管理費を補正するものとする。

(1) 完全週休2日（土日）

ア 労務費 1.02

イ 現場管理費 1.01

(2) 月単位の週休2日

労務費 1.02

14 週休2日を達成したときは、工事成績評定表の「工程管理」及び「創意工夫」において評価するものとする。

週休2日を達成できなかった場合であっても、工事成績評定は減点しない。

15 計画表その他の提出資料に虚偽の記載等を行った場合は、指名除外措置の対象となる場合がある。

別表

土木工事市場単価の補正係数

名称	区分	補正係数	
		月単位の 週休２日	完全 週休２日 (土日)
鉄筋工		1.02	1.02
ガス圧接工		1.01	1.01
インターロッキングブロック工	設置	1.01	1.01
	撤去	1.02	1.02
防護柵設置工（ガードレール）	設置	1.00	1.00
	撤去	1.02	1.02
防護柵設置工（ガードパイプ）	設置	1.00	1.00
	撤去	1.02	1.02
防護柵設置工（横断・転落防止柵）	設置	1.02	1.02
	撤去	1.02	1.02
防護柵設置工（落石防護柵）		1.01	1.01
防護柵設置工（落石防止網）		1.01	1.01
道路標識設置工	設置	1.00	1.00
	撤去・移設	1.01	1.01
道路付属物設置工	設置	1.01	1.01
	撤去	1.02	1.02
法面工		1.01	1.01
吹付砕工		1.01	1.01
鉄筋挿入工（ロックボルト工）		1.01	1.01
道路植栽工		1.02	1.02
公園植栽工		1.02	1.02
橋梁用伸縮継手装置設置工		1.01	1.01
橋梁用埋設型伸縮継手装置設置工		1.02	1.02
橋面防水工		1.01	1.01
薄層カラー舗装工		1.00	1.00
グルーピング工		1.00	1.00
軟弱地盤処理工		1.01	1.01
コンクリート表面処理工 （ウォータージェット工）		1.01	1.01
硬質塩化ビニル管設置工		1.01	1.01
リブ付硬質塩化ビニル管設置工		1.01	1.01
砂基礎工	人力施工	1.02	1.02
	機械施工	1.02	1.02
碎石基礎工	人力施工	1.02	1.02
	機械施工	1.02	1.02
組立マンホール設置工		1.01	1.01
小型マンホール工		1.00	1.00
取付管及びます設置工	ます設置工	1.00	1.00
	取付管布設及 び支管取付工	1.01	1.01

土木工事標準単価の補正係数

名称	区分	補正係数	
		月単位の 週休２日	完全 週休２日 (土日)
区画線工		1.02	1.02
高視認性区画線工		1.02	1.02
橋梁塗装工		1.01	1.01
構造物とりこわし工	機械	1.01	1.01
	人力	1.02	1.02
コンクリートブロック積工		1.02	1.02
排水構造物工		1.02	1.02

(1) 土木工事

ご協力をお願いします	
週休2日適用工事	
〇〇〇〇〇を なおしています	
〇〇年〇〇月まで	
時間帯〇:〇〇~〇:〇〇	
〇〇〇〇工事	
発注者	福山市上下水道局 〇〇〇〇課
	電話 000-000-0000
施工者	〇〇〇〇建設株式会社
	電話 000-000-0000

(2) 建築工事

週休2日 適用工事

(A3サイズ以上)

(3) 共通

週休2日適用工事
この工事は、建設産業の労働環境を改善するため、週休2日の確保に取り組む工事です。
発注者：福山市上下水道局〇〇〇課
受注者：〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

(A3サイズ以上)

位置図

s=1:10,000

福山港海岸（福山地区）

工事施工箇所



新涯ポンプ場ポンプ棟耐震化工事（その2）

実施設計図 【ポンプ棟 建築】

令和7年8月

福山市上下水道局

新涯ポンプ場ポンプ棟耐震化工事（その2）

実施設計図

図面目録

(1 / 2)

図面番号	名 称	縮 尺	図面番号	名 称	縮 尺
	【建築】		025	改修前・改修後 1階詳細図(1)	1:50
001	全体平面図	1:200	026	改修前・改修後 1階詳細図(2)	1:50
002	建築工事特記仕様書(1)	No Scale	027	改修前・改修後 1階詳細図(3)	1:50
003	建築工事特記仕様書(2)	No Scale	028	改修前・改修後 1階詳細図(4)	1:50
004	建築工事特記仕様書(3)	No Scale	029	改修前・改修後 1階詳細図(5)	1:20, 1:50
005	建築工事特記仕様書(4)	No Scale	030	改修前・改修後 1階詳細図(6)	1:20, 1:50
006	建築工事特記仕様書(5)	No Scale	031	改修前・改修後 1階詳細図(7)	1:20, 1:50
007	建築工事特記仕様書(6)	No Scale	032	改修前・改修後 1階詳細図(8)	1:20, 1:50
008	仕上表	No Scale	033	改修前・改修後 1階詳細図(9)	1:50
009	地下2階平面図	1:100	034	改修前・改修後 1階詳細図(10)	1:20, 1:50
010	地下1階平面図	1:100	035	改修前・改修後 1階詳細図(11)	1:50
011	1階平面図	1:100	036	改修前・改修後 1階詳細図(12)	1:20, 1:50
012	1階上部平面図	1:100	037	改修前・改修後 1階詳細図(13)	1:20, 1:50
013	2階平面図	1:100	038	改修前・改修後 2階詳細図(1)	1:50
014	南立面図	1:100	039	改修前・改修後 2階詳細図(2)	1:50
015	北立面図	1:100	040	改修前・改修後 2階詳細図(3)	1:20, 1:50
016	東立面図	1:100	041	改修前・改修後 2階詳細図(4)	1:20, 1:50
017	改修前 1階平面図	1:50	042	改修前・改修後 2階詳細図(5)	1:20, 1:50
018	改修後 1階平面図	1:50	043	改修前・改修後 2階詳細図(6)	1:20, 1:50
019	改修前 2階平面図	1:50	044	改修前・改修後 建具キープラン	1:200
020	改修後 2階平面図	1:50	045	改修前・改修後 建具表	No Scale
021	改修前 南立面図	1:50	046	構造細目共通図(建築構造物)(1)	No Scale
022	改修後 南立面図	1:50	047	構造細目共通図(建築構造物)(2)	No Scale
023	改修前 西立面図	1:50	048	構造細目共通図(建築構造物)(3)	No Scale
024	改修後 西立面図	1:50	049	構造細目共通図(建築構造物)(4)	No Scale

新涯ポンプ場ポンプ棟耐震化工事（その2）

実施設計図

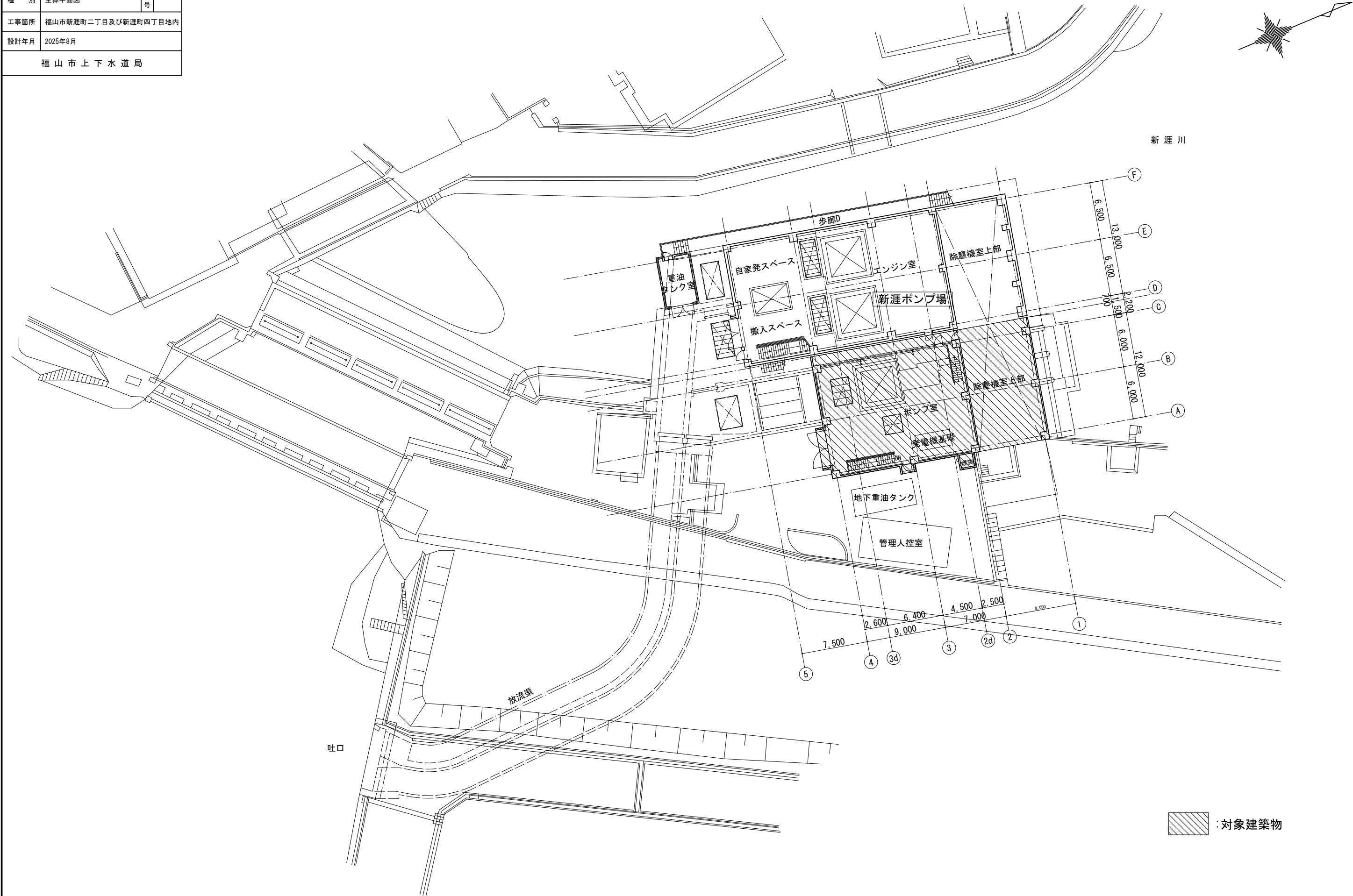
図面目録

(2 / 2)

図面番号	名 称	縮 尺	図面番号	名 称	縮 尺
050	構造細目共通図(建築構造物)(5)	No Scale	075	建築機械工事特記仕様書(1)	No Scale
051	構造細目共通図(建築構造物)(6)	No Scale	076	建築機械工事特記仕様書(2)	No Scale
052	耐震補強特記仕様書	図 示	077	建築電気工事特記仕様書	No Scale
053	耐震改修標準詳細図	No Scale	078	1F壁 A通 配管移設図(1)	1:50
054	改修前 床伏図	1:100	079	1F壁 A通 配管移設図(2)	1:50
055	改修後 床伏図	1:100	080	換気設備 改修前 平面図	1:100
056	改修前 C通り軸組図	1:100	081	換気設備 改修後 平面図	1:100
057	改修後 C通り軸組図	1:100	082	換気設備 改修前 断面図	1:100
058	改修前 A通り, 1通り軸組図	1:100	083	換気設備 改修後 断面図	1:100
059	改修後 A通り, 1通り軸組図	1:100	084	建築電気設備 改修前 平面図	1:100
060	改修前 2～4通り軸組図	1:100	085	建築電気設備 改修後 平面図	1:100
061	改修後 2～4通り軸組図	1:100	086	1階仮設計画図（参考図）	1:100
062	改修後 B通り軸組図	1:100	087	1階上部仮設計画図（参考図）	1:100
063	耐震補強詳細図(1)	1:50	088	2階仮設計画図（参考図）	1:100
064	耐震補強詳細図(2)	1:30, 1:50	089	南立面仮設計画図（参考図）	1:100
065	耐震補強詳細図(3)	1:50	090	北立面仮設計画図（参考図）	1:100
066	耐震補強詳細図(4)	1:50			
067	耐震補強詳細図(5)	1:30, 1:50			
068	耐震補強詳細図(6)	1:50			
069	耐震補強詳細図(7)	1:30, 1:50			
070	耐震補強詳細図(8)	No Scale			
071	耐震補強詳細図(9)	1:30, 1:50			
072	耐震補強詳細図(10)	1:50			
073	耐震補強詳細図(11)	1:50			
074	耐震補強詳細図(12)	1:50			

図面番号	A-001	縮 尺	1/200	
工 事 名	新涯ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	全体平面図		番 号	
工事箇所	福山市新涯町二丁目及び新涯町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

全体平面図 S=1:200



特記仕様書

1. 工事概要

1. 工事名称	新渡ポンプ場ポンプ棟耐震化工事（その2）
2. 工事場所	福山市新渡町二丁目及び新渡町四丁目地内
3. 用途地域	第一種住居地域
4. 防火地域	☐ 防火地域 ☐ 準防火地域 ☒ 指定なし
5. 工事種別	☒ 新 築 ☐ 増 築 ☐ 改 築 ☒ 改 修
6. 敷地面積	1,785.68 m ²
7. 建築概要	下水道施設（ポンプ場）
1) 構 造	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上2階
2) 面 積	建築面積 326.53m ² 延べ面積 756.51m ²
8. 工事種目	1) 建築工事 一式
9. 工事内容	
1) 建築工事	耐震補強工事
2) 電気設備工事	耐震補強工事に係る電気設備工事
3) 機械設備工事	耐震補強工事に係る機械設備工事

※ 本工事の工期は設備工事の工期と工事検査期間としての14日を含んでいる。
※ 契約締結後14日以内に実施工程表を提出する。

10. 指定部分

-有 -無 対象部分（ ）
指定部分工期 年 月 日

11. 工事範圍

※「3. 工事種目」すべてを工事範囲とする。

- 「3. 工事種目」のうち各工事項目における工事範囲は下記表のとおりとする。

ただし、他の工事種目は全て、今回工事範囲とする。

工事種目 工事項目	ポンプ棟 耐震補強			
2 仮設工事	○			
3 防水改修工事	○			
4 外壁改修工事 コンクリート打ち放し仕上げ外壁				
外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁				
外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁				
外壁改修工事 塗り仕上げ外壁				
5 建具改修工事	○			
6 内装改修工事	○			
7 塗装改修工事	○			
8 耐震改修工事等	○			
9 環境配慮改修工事	○			

II. 建築改修工事仕様

1. 共通仕様

- (1) 図表及び本特記事項に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁審判部審判部決定の下記仕様書等のうち、○を付けたものを用いる。
- 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和7年版）（以下、「改修標準仕様書」という。）
 - 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和7年版）（以下、「標準仕様書」という。）
 - 建築工事詳細図（令和4年版）（以下、「標準詳細図」という。）
 - 建築物解体工事共通仕様書（令和7年版）
- (2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、それれれ公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）、公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）による。
- (3) 本特記仕様書の表記
- ① 項目は、番号に○印の付いたものを選択する。
- ② 特記事項は、○印の付いたものを選択する。
- 印の付かない場合は、×印の付いたものを選択する。（×印のみ場合は適用しない。）
- 印 × ○印の付いた場合は、共に適用する。
- ③ 特記事項中の当該項目に○ 内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
- ④ 特記事項中の当該項目に× 内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
- 印は、「国庫」に属する建築物等の調査の進捗等に関する法律（「グリーン購入法」）の特定調達品目とする。

章	1	一般共通事項
---	---	--------

① 適用区分

- 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。
 - 風圧力
 風速 (Vo= 34 m/s)
 地表面粗糙度区分 (- I - II - III - IV)
 - 積雪荷重
 平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域 別表 (34)

② 環境への配慮

(1) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の1から4を満たすものとする。

- 1 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、繊維材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発量が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。
- 2 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。
- 3 接着剤等、可塑性（アラル酸ジメチル及びアラル酸ジエチルヘキシル等を含有しない難燃発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。
- 4 10材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないが、発量が極めて少ない材料を使用したものとする。

(2) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の1又は2に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の3又は4に該当する材料を指す。

- 1 建築基準法施行令第20 条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料
- 2 建築基準法施行令第20 条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
- 3 建築基準法施行令第20 条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料
- 4 建築基準法施行令第20 条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料

③ 材料の品質等

(1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常すべき品質及び性能を有するものとする。

(2) 備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものと、同等品を使用する場合は製造業者の承認を得る。

	⑥ 販売、保存等の際の営業体制を整えていること。 (5) 製造業者等に関する資料の提出を求める材料 無鉛鉛グラウト材、乾式保型材、既設鋼合モルタル、既設鋼合地目材、錠前類、クローゾ類、自動扉機構、自閉式上吊り引戸機構、防水剤、現場発泡断熱材、フリアークセスフロア、移動間仕切り、トイレブース、煙突用成形ライニング材、天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム、エポキシ樹脂、ポリマーセメントモルタル、 床型付鋼製デッキプレート、鉄骨柱下無収縮保冷材、ルーフドレン、吸水調整材、重量シャッター、軽量シャッター、オーバーヘッドドア、可動間仕切り、トップライト、 録画製品た									
4 室内空気中の 化学物質の濃度測定	(1) 室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、測定結果を監督官に報告する。 (2) 測定対象室及び測定箇所数等とは下記による。 <table border="1"> <tr> <td>着工前の測定</td><td>- 行う</td><td></td></tr> <tr> <td>測定対象室</td><td>- 図示</td><td>監督官と協議して決定する。</td></tr> <tr> <td>測定箇所数</td><td>- 図示</td><td>4ヶ所</td></tr> </table> (3) 測定は、バッチ型採集機器により行う。 (4) 測定方法及び測定結果の報告は、現場説明書による。	着工前の測定	- 行う		測定対象室	- 図示	監督官と協議して決定する。	測定箇所数	- 図示	4ヶ所
着工前の測定	- 行う									
測定対象室	- 図示	監督官と協議して決定する。								
測定箇所数	- 図示	4ヶ所								
⑤ 埋設配管・配線および鉄筋調査	あと施工アンカー工事 8章(あと施工アンカー)による									
コア抜き、はつり工事等	☑ 既存資料調査 ☑ 探査機（電磁波レーダー法又は電磁波透視法）による探査 配管・配線等の位置の墨出しを行う 範囲 ☑ 図示 → 改修後RC柱、梁撤去部 - 放射線透過試験 労働安全衛生法、「電磁放射線障害防止規制」（昭和47年労働省令第41号）等に定めるところによるほか、次による。 (1) 作業主任者は、エックス線作業主任者の資格を有するものとし、資格を証明する資料を監督職員に提出する。 (2) 放射線照射量は最小限のものとし、照射中に人体に影響の無い程度まで照射器より離れる。また、作業者以外の立入禁止措置を講ずる。 (3) 露出時間は、コンクリートの厚さ等により、適宜調整する。 (4) 付近にフィルム、磁気ディスク等放射線の影響を受けるものも有無を確認する。 (5) 曝射の墨出しは、表裏でズレないように措置を講ずる。									
	撮影枚数 枚 フィルムサイズ コンクリート厚さ cm									

2 仮設工事

① 足場その他		[2. 2. 1]
	「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における(2)手すり設置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。	
☐ 内部足場	設置する（※ 脚立・足場板等 - ） - 設置しない	
☐ 外部足場	設置する - 設置しない - 防護シート - 設置する - 設置しない	
	材料、撤去材等の選定方法	[表 2.2.1]
	種別 ☒ A種 ☐ B種 - C種 - D種 - E種) C種：利用可能なエレベーター () D種：利用可能な階段 (図示)	

② 既存部分の養生

[2.3.1]

1) 養生の方法等

○ 既存部分	養生の方法 (※ ビニルシート、合板等 -)
○ 既存家具、既存設備等	養生の方法 (※ ビニルシート等 -)
- 既存ブラインド、カーテン等	養生の方法 (※ ビニルシート等 -)
	保管場所 ○ 指示 ○ 協議による
○ 備品、机、ロッカー等の移動	○ 図面 ○ 協議による

2) 既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任にて速やかに修復等の処置を行う。

[2.3.2]表 2.3.1]

1) 仮設開切及び仮設扉の設置箇所 - 図示 - 協議による

2) 仮設開切及び仮設扉の種別と材質等

種 別	下 地	仕 上 げ (厚さmm)	塗 装	完 成 材
- A 種	- 木	- セッコウボード (9.5mm)	- 無し	- 有り
- B 種	- 軽金属骨	- 合板 (12.0mm)	- 片面	
※ C 種	単管	防炎シート		

完成材 - グラスウール 32k (厚: 50mm以上)

3) 仮設開切及び仮設扉に付ける仮設扉の材質等

材 質	仕 上 げ	塗 装	完 成 材
※ 木製	※ 合板張り程度	- 無し	※ 有り
-	-	- 片面	- 無し
-	-		

完成材 - グラスウール 32k (厚: 50mm以上)

[1. 5. 2. 3]

調査範囲 - 図示

調査方法 - 図示 -

既存部分の破壊を行った場合の補修方法 - 図示 -

調査報告書 提出部数 - 2部 -

[3. 1. 3]

※改修標準仕様書 3. 1. 3 (a) ①～③による。 -

[3. 2. 3, 4, 6]

既存保護層の除去	- 行う (範囲	- 指示	-)
	- 行わない		
既存防水層の除去	- 行う (範囲	- 指示	-)
	- 行わない		
露出防水層表面の仕上り塗装除去	- 行う (- M4S	- M4S1	- M4C
	- 行わない	- M4D1	- L4X)

既存地下の補修箇所の形状、長さ、数量等 - 図示

POS工法及びPOS1工法（機械式固定工法）の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の補修及び処置 ※改修標準仕様書3.2.6.d (3) (vii) 1～3による -

工法	種別	施工箇所	断熱材 ⑤	絶縁用シート	立上り部の保護
- P2A	- A-1 ※ A-2 - A-3			※ポリエチレン フィルム 厚さ0.15mm以上	
- P1B	- B-1 ※ B-2 - B-3			-	- 乾式 保護材 - コンクリート 押え
- P2A1	- A1-1 ※ A1-2 - A1-3		(材質) ※JIS A 9521 による 押出法ポリスチレンフォーム 断熱材3種bA (スキャン層付) 又は JIS A 9511によるA種押出法 ポリスチレンフォーム保温材 の保温板3種b (スキャンあり) - (厚さ) - 25mm -	※フラットヤーン クロス 70g/m ² 程度	- れんがが 押え
- P1B1	- B1-1 ※ B1-2			-	
- T1B1	- B1-3				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による

平床の厚さコンクリートの厚さ
 こて上げ 泓水 80mm以上
 床タイル張り 泓水 60mm以上
 ・ 乾式保排水材
 富貴系パネル：無石棉の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレープ養生したもの。

(品質・性能)
建築材料等品質性能表による
(試験方法)

屋根露出防水
防水層の種類

工法	種別	施工箇所	断熱材 ⑥	仕上原料		高日射 反射率 防水の 適用 ⑥	備考
				種類	使用量		
- W4C	- C-1 ※C-2 - C-3 - C-4			-	-		
				- 製造所の 指定による	- 製造所の 指定による		
- W3D - P0D	- D-1 ※D-2 - D-3 - D-4			-	-		
				- 製造所の 指定による	- 製造所の 指定による		断気装置 - 設ける - 設けない 改修用ドレン - 設ける - 設けない
- P0D1 - W3D1 - W4D1	- D1-1 ※D1-2			-	-		
				- 製造所の 指定による	- 製造所の 指定による		断気装置 - 設ける - 設けない 改修用ドレン - 設ける - 設けない

6 改質アスファルト
シート防水

※気装置の種類及び設置数量

※アスファルトルーフィング類製造所の指定による 1 気装置の種類 1 設置数量 個/m²

屋根断熱防水絶縁断熱工法の場合、ルーフトレンドリ回り及び立上り断熱面の断熱材の張りまい

位置 ※図示 -

壁内防水

工法	種別	施工箇所	備考
- PIE	- E-1		保護層 - 設ける
- PFE	※E-2		- 設けない

押入金物の材質及び形状

※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

屋根排水溝 ※図示

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		高日射反 射率防水 の適用	備考
				種類	使用量		
- IMAS	- AS-T1			-	-	-	
	- AS-T2			-	-		
	- AS-J2			- 製造所 の指定に よる	- 製造所 の指定に よる		
- M3AS	- AS-T3			-	-	-	断気装置 - 設ける - 設けない
	- AS-T4			-	-		
	- AS-J1			- 製造所 の指定に よる	- 製造所 の指定に よる		
- PGAS	- AS-J3			-	-	-	改修用ドレン - 設ける - 設けない
	- AS-T3			-	-		
	- AS-T4			- 製造所 の指定に よる	- 製造所 の指定に よる		
- M3AS - IMAS - PGAS	- AS-J1			-	-	-	断気装置 - 設ける - 設けない 改修用ドレン - 設ける - 設けない 防漏層 - 設ける - 設けない
	- AS-J3			-	-		
	- AS-T1			-	-		

(材質) ※JIS A 9521による
硬質ウレタンフォーム断熱材
2種1号若しくは2号で透湿
係数を除く規定に適合する
もの又は JIS A 9511による
A種硬質ウレタンフォーム
保温材の保温板2種1号
若しくは2号で透湿係数を
除く規格に適合するもの
(厚さ) - 25mm

改質アスファルトシートの種類及び厚さ

- ※改修標準仕書表3.4.1から表3.4.3による
- ※粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
- ※改修標準仕書表3.4.1から表3.4.3による
- ※部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
- ※改修標準仕書表3.4.1から表3.4.3による

脱気装置の種類及び設置数量

- ※改質アスファルトシート製造所の指定による
 - 脱気装置の種類、設置数量 個/m²

押入物

- ※改質アスファルト製造所の仕様による

7 合成高分子系
ルーフィングシート
防水

工法	種別	施工箇所	断熱材 6	仕上材料		高日射反 射率防水 の適用 6	備考
				種類	使用量		
- P05 - S45	- S-F1			- 製造所の 指定による	- 製造所の 指定による	-	断気装置 - 設ける
	- S-F2			- 製造所の 指定による	- 製造所の 指定による	-	- 設けない
	- S-M1			- 製造所の 指定による	- 製造所の 指定による	-	改修用ドレン - 設ける
	- S-M2			-	-	-	- 設けない
	- S-M3			-	-	-	
- S35	- S-F1			- 製造所の 指定による	- 製造所の 指定による	-	断気装置 - 設ける
	- S-F2			- 製造所の 指定による	- 製造所の 指定による	-	- 設けない
- M45	- S-M1			- 製造所の 指定による	- 製造所の 指定による	-	断気装置 - 設ける
	- S-M2			-	-	-	- 設けない
	- S-M3			-	-	-	
				-	-	-	
- P05I - S35I - S45I - M45I	- SI-F1		(材質) ※改修標準仕様 書 3. 5. 2 (c) (i) (i) による	- 製造所の 指定による	- 製造所の 指定による	-	断気装置 - 設ける
	- SI-F2		(厚さ) -25mm -	- 製造所の 指定による	- 製造所の 指定による	-	- 設けない
	- SI-M1		(材質) ※改修標準仕様 書 3. 5. 2 (c) (i) (i) による	- 製造所の 指定による	- 製造所の 指定による	-	改修用ドレン - 設ける
	- SI-M2		(厚さ) -25mm -	- 製造所の 指定による	- 製造所の 指定による	-	- 設けない
				-	-	-	

屋内外水 防水層の種別		保水層		
種別	施工箇所	平面のモルタル塗り		立上り部の保水 モルタル塗り厚さ
		塗り厚さ	- 床張り工法 - 下地モルタル塗り	
- S-C1		※標準仕様書 15.2.5 (b) (2) 及び (3) に準ずる -	※標準仕様書 15.2.5 (c) (1) に準ずる -	※7mm以下 -

屋内外防水を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ

ルーフィングシートの種類及び厚さ ※改修標準仕様書表3.5.1.4から表3.5.3.1による -

絶縁用シートの材質 ※発泡ポリエチレンシート -

固定金具の材質及び寸法形状

※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板及びそれらの片面又は両面に樹脂を
積層加工した鋼板

-

防水装置の種類及び設置数量 ※ルーフィングシート製造所の指定による

- 防水装置の種類 - 設置数量 個/m²

[illegible]

No.	項目	仕様	工事内容	工事名称	図面No.																																																														
8	遮膜防水	既存防水下地及びPCコンクリート部材下地及びALCパネル下地で種別 S-CI の場合の目的地理 → 行う (- 図示 -) - 行わない PCコンクリート部材の入隅部の増張り (種別 S-F1、S-F1、S-CI の場合) → 行う (- 図示 -) - 行わない ALCパネル下地の入隅部の増張り (種別 S-CI の場合) → 行う (- 図示 -) - 行わない 機械的固定工法の場合の一層部のルーフィングシートの張付け 建築基準法に基づき定まる風圧力の (- 1 - 1.15 - 1.3) 倍の風圧力に對に対応した工法 [3.6.2.3] <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>仕上塗料の種類</th><th>使用量</th><th>高圧耐反射率防水の適用</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>- POX</td><td>※X-1 - X-2</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>防水装置 - 設ける - 設けない</td></tr> <tr> <td>- LAX</td><td>※X-1 ※X-2</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>防水装置 - 設ける - 設けない</td></tr> <tr> <td>- PIY</td><td>※Y-2</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>保護層 - 設ける - 設けない</td></tr> <tr> <td>- PZY</td><td>※Y-2</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>保護層 - 設ける - 設けない</td></tr> </tbody> </table> 防水装置の種類及び設置数量 ※主材料製造所の指定による - 防水装置の種類 - 設置数量 個/m² シーリング [3.7.2.3、7、8] シーリング改修工法の種類 ○シーリング充填工法 - シーリング再充填工法 - 拡張シーリング再充填工法 -ブリッジ工法 ボンドブレイカー張り - 適用する - 適用しない エッジング材張り - 適用する - 適用しない シーリング材の種類、施工箇所 下表以外は、改修標準仕様書表3.7.11による。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th><th>シーリング材の種類 (記号)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td></tr> </tbody> </table> シーリング材の目付寸法 ※改修標準仕様書3.7.3(a)(1)～(3)による [3.8.2.3] 10	工法	種別	施工箇所	仕上塗料の種類	使用量	高圧耐反射率防水の適用	備考	- POX	※X-1 - X-2	-	-	-	-	防水装置 - 設ける - 設けない	- LAX	※X-1 ※X-2	-	-	-	-	防水装置 - 設ける - 設けない	- PIY	※Y-2	-	-	-	-	保護層 - 設ける - 設けない	- PZY	※Y-2	-	-	-	-	保護層 - 設ける - 設けない	施工箇所	シーリング材の種類 (記号)							とい	この材質 ※ 配管用鋼管 - 硬質ポリ塩化ビニル管 (カラー) ○ステンレス (丸) ルーフレッドレン <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th><th>施工箇所</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>- 〇〇層用 (- 縦型 - 横型)</td><td></td></tr> <tr> <td>- バルコニー用</td><td></td></tr> <tr> <td>- バルコニー中継用</td><td></td></tr> </tbody> </table> ロックワール保護膜及びフェノールフォーム保護膜のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 - 既存のといその他の除去及び降雨等に対する養生方法 ※図示 - 鋼管製といの防露巻き ※改修標準仕様書表3.8.5による - たてとい受金物の取付け ※図示 - 除去取付け位置に合う ルーフレッドレンの取付け ※水はけがよく、床面より下、周囲の隙間にモルタルを充填 [3.9.2.3] 11	種別	施工箇所	- 〇〇層用 (- 縦型 - 横型)		- バルコニー用		- バルコニー中継用		アルミニウム製窓木	種類 - オープン形式 (- 押出250形 - 押出300形 - 押出350形) - 板材折曲げ形 (- オープン形式 - シール形式) 本体幅: () mm 板厚 (※ 2.0mm - mm) 表面処理 種類 () 種 皮膜等の種類 (※標準仕様書表14.2.11による -) 着色 (- アンバー - ブロンズ - ブラック系 - ステンカラー) 既存窓木の除去 - 行う (範囲 - 図示 -) - 行わない 下地補修の工法 ※図示 - 板材折曲げ形の窓木の取付け方法 ※図示 - 窓木の固定金具の工法等 建築基準法に基づき定まる風圧力の (- 1 - 1.15 - 1.3) 倍の風圧力に對に対応した工法 [1.5.2.3] 4	外壁改修工事	調査範囲 - 外壁改修範囲 - 図示の範囲 調査時期 - 外壁仕上げ等除去前 - 外壁仕上げ等除去後 調査内容 ひび割れの幅及び長さを変面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び 腐蝕の発生の有無を調査する。 モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の 形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を表面に表示する。 塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を表面に 表示する。また、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。 既存部分の破壊を行った場合の補修方法 - 図示 調査報告書の部数 - 部 [4.2.2] 2	可とう性エポキシ樹脂	(品質・性能) 工事建築材料等品質性能表による (試験方法) 工事建築材料等品質性能表による [4.2.2] 3	パテ状エポキシ樹脂	(品質・性能) 工事建築材料等品質性能表による (試験方法) 工事建築材料等品質性能表による [4.2.2] 4	エポキシ樹脂モルタル	(品質・性能) 工事建築材料等品質性能表による (試験方法) 工事建築材料等品質性能表による [4.2.2] 5	ポリマーセメントモルタル	(性能) 工事建築材料等品質性能表による [4.2.2]
工法	種別	施工箇所	仕上塗料の種類	使用量	高圧耐反射率防水の適用	備考																																																													
- POX	※X-1 - X-2	-	-	-	-	防水装置 - 設ける - 設けない																																																													
- LAX	※X-1 ※X-2	-	-	-	-	防水装置 - 設ける - 設けない																																																													
- PIY	※Y-2	-	-	-	-	保護層 - 設ける - 設けない																																																													
- PZY	※Y-2	-	-	-	-	保護層 - 設ける - 設けない																																																													
施工箇所	シーリング材の種類 (記号)																																																																		
種別	施工箇所																																																																		
- 〇〇層用 (- 縦型 - 横型)																																																																			
- バルコニー用																																																																			
- バルコニー中継用																																																																			
6	ポリマーセメントスラリー	スラリー [4.2.2] 7	既製調合モルタル	[4.2.2] モルタル下地としたタイル工事に使用する薄付け用モルタルとして、セメント、細骨材、遅凝剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。 (品質・性能) 工事建築材料等品質性能表による (試験方法) 工事建築材料等品質性能表による [4.2.2] 1	ひび割れ部改修工法	[4.1.4][4.2.2][4.3.4～6] - 樹脂注入工法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>注入口間隔 (mm)</th><th>注入量 (mL/m)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～0.5未満</td><td>低 ※ 200～300</td><td>- 130</td></tr> <tr> <td>樹脂注入工法</td><td>0.5以上～1.0以下</td><td>中</td><td>-</td></tr> <tr> <td>- 手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～0.3未満</td><td>低 - 50～100</td><td>- 40 -</td></tr> <tr> <td>注入工法</td><td>0.3以上～0.5未満</td><td>低 - 100～200</td><td>- 70 -</td></tr> <tr> <td>- 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.5以上～1.0以下</td><td>中 - 150～250</td><td>- 130 -</td></tr> </tbody> </table> 注入口間隔 ※エポキシ樹脂 低: 低粘度部 中: 中粘度部 コア抜き取り検査 - 行う ひび割れ幅 抜き取り箇所 ※長さ500mmごと及びその端数につき1箇所 抜き取り部の補修方法 ※図示 - - ひび割れ部シール材充填工法 - シーリング材 充填材料 ※1成分又は2成分シリコン樹脂系 - ポリマーセメントモルタルの充填 - 行う - 行わない - 可とう性エポキシ樹脂 - シール工法 - パテ状エポキシ樹脂 - 可とう性エポキシ樹脂 欠損部改修工法 ※ 充填工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.7] 耐震壁補修 1	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.5未満	低 ※ 200～300	- 130	樹脂注入工法	0.5以上～1.0以下	中	-	- 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	低 - 50～100	- 40 -	注入工法	0.3以上～0.5未満	低 - 100～200	- 70 -	- 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0以下	中 - 150～250	- 130 -	既存モルタル塗りの撤去	- 行う (※ 全面 - 図示の範囲) [4.1.4][4.2.2][4.4.5～7] 2	ひび割れ部改修工法	- 樹脂注入工法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>注入口間隔 (mm)</th><th>注入量 (mL/m)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～0.5未満</td><td>低 ※ 200～300</td><td>- 130</td></tr> <tr> <td>樹脂注入工法</td><td>0.5以上～1.0以下</td><td>中</td><td>-</td></tr> <tr> <td>- 手動式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2以上～0.3未満</td><td>低 - 50～100</td><td>- 40 -</td></tr> <tr> <td>注入工法</td><td>0.3以上～0.5未満</td><td>低 - 100～200</td><td>- 70 -</td></tr> <tr> <td>- 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.5以上～1.0以下</td><td>中 - 150～250</td><td>- 130 -</td></tr> </tbody> </table> 注入口間隔 ※エポキシ樹脂 低: 低粘度部 中: 中粘度部 コア抜き取り検査 - 行う ひび割れ幅 抜き取り箇所 ※長さ500mmごと及びその端数につき1箇所 抜き取り部の補修方法 ※図示 - - ひび割れ部シール材充填工法 - シーリング材 充填材料 ※1成分又は2成分シリコン樹脂系 - ポリマーセメントモルタルの充填 - 行う - 行わない - 可とう性エポキシ樹脂 - シール工法 - パテ状エポキシ樹脂 - 可とう性エポキシ樹脂 欠損部改修工法 ※ 充填工法 [4.1.4][4.2.2][4.4.8、9] 3	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.5未満	低 ※ 200～300	- 130	樹脂注入工法	0.5以上～1.0以下	中	-	- 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	低 - 50～100	- 40 -	注入工法	0.3以上～0.5未満	低 - 100～200	- 70 -	- 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0以下	中 - 150～250	- 130 -	欠損部改修工法	- 充填工法 - エポキシ樹脂モルタル - ポリマーセメントモルタル - モルタル塗替え工法 既設目地材 - 使用する (形状) 仕上厚又は全厚が25mmを超える場合の処理 ※図示 - [4.1.4][4.2.2][4.4.10～15] 4	浮き部改修工法	[4.1.4][4.2.2][4.4.10～15] <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法の種類</</th></tr></thead></table>	工法の種類</				
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.5未満	低 ※ 200～300	- 130																																																																
樹脂注入工法	0.5以上～1.0以下	中	-																																																																
- 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	低 - 50～100	- 40 -																																																																
注入工法	0.3以上～0.5未満	低 - 100～200	- 70 -																																																																
- 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0以下	中 - 150～250	- 130 -																																																																
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.5未満	低 ※ 200～300	- 130																																																																
樹脂注入工法	0.5以上～1.0以下	中	-																																																																
- 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	低 - 50～100	- 40 -																																																																
注入工法	0.3以上～0.5未満	低 - 100～200	- 70 -																																																																
- 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0以下	中 - 150～250	- 130 -																																																																
工法の種類</																																																																			

5

建具改修工事

①改修工法

建具の種類

かぶせ工法

撤去工法

適用箇所

○アルミニウム製建具

-

-

○建具表による

-

-

-

-

○樹脂製建具

-

-

-

-

-

-

-

○鋼製建具

○外部

-

-

○建具表による

-

-

-

-

○内部

-

-

○建具表による

-

-

-

-

-

鋼製軽量建具

-

-

-

-

-

-

-

-

ステンレス製建具

-

-

-

-

-

-

-

新規に建具を設ける場合
壁部分の開口の開け方 ※図示 -
新規建具周囲の補修工法及び範囲 ※図示 -

②防火戸

③

見本の製作等

建具見本の製作

- 行う (建具符号:)

- 行わない

建具見本の程度

- 工事に使用するものとして、あらかじめ製作する

- 納まり等がわかる程度のもの

特別な建具の仮組

- 行う (建具符号:)

- 行わない

④

防犯建物部品

- 適用する ()

適用箇所 (- 建具表による -)

- 適用しない

⑤

アルミニウム製建具

性能等級

外部に面する建具

- A種 (建具符号: - 建具表による -)

- B種 (建具符号: - 建具表による -)

- C種 (建具符号: - 建具表による -)

防音ドアセット、防音サッシ

- 適用する 遮音性の等級 ()

(建具符号: - 建具表による -)

- 適用しない

断熱ドアセット、断熱サッシ

- 適用する 断熱性の等級 ()

(建具符号: - 建具表による -)

- 適用しない

耐震ドアセット

- 適用する 面内変形追随性の等級 ()

(建具符号: - 建具表による -)

- 適用しない

特の見込み寸法

○建具表による

表面処理

外部に面する建具

○A-1種 - B-2種 -

皮膜等の種類 (※改修標準仕様書表5.2.2iによる -)

着色 (- アンバー - ブロンズ - ブラック系 - スタンカラー)

屋内の建具

○A-1種 - C-2種 -

皮膜等の種類 (※改修標準仕様書表5.2.2iによる -)

着色 (- アンバー - ブロンズ - ブラック系 - スタンカラー)

結露水の処理方法

○図示 -

水切り板、ぜん板

○図示 -

網戸等

種類

材種

線径

網目

- 防虫網

※合成樹脂製
- ガラス繊維入り合成樹脂製

○0.25mm以上

○16～18メッシュ

- 防角網

○ステンレス (SUS316) 製

1.5mm

網目寸法15mm

6

樹脂製建具

性能等級

外部に面する建具

- A種 (建具符号: - 建具表による -)

- B種 (建具符号: - 建具表による -)

- C種 (建具符号: - 建具表による -)

防音ドアセット、防音サッシ

- 適用する 遮音性の等級 (- T-1 - T-2)

(建具符号: - 建具表による -)

- 適用しない

断熱ドアセット、断熱サッシ

- 適用する 断熱性の等級 (- H-4 - H-5 - H-6 -)

(建具符号: - 建具表による -)

- 適用しない

特の見込み寸法

- 建具表による -

表面色 ※標準色 - 特注色

水切り板、ぜん板 ※図示 -

ガラス ※複層ガラス

⑦

鋼製建具

性能等級

簡易気密型ドアセット

○適用する (建具符号: - 建具表による -)

- 適用しない

外部に面する建具の耐風圧性

- S-4 (建具符号: - 建具表による -)

- S-5 (建具符号: - 建具表による -)

- S-6 (建具符号: - 建具表による -)

既存のまま

防音ドアセット、防音サッシ

- 適用する 遮音性の等級 ()

(建具符号: - 建具表による -)

- 適用しない

断熱ドアセット、断熱サッシ

- 適用する 断熱性の等級 ()

(建具符号: - 建具表による -)

- 適用しない

耐震ドアセット

- 適用する 面内変形追随性の等級 ()

(建具符号: - 建具表による -)

- 適用しない

扉板

材料

めっき付着量

厚さ

○JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板)

※Z12又はF12

○標準仕様書表5.4.2iによる

- JIS G 3317 (溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板)

※Y08

-

8

鋼製軽量建具

性能等級

簡易気密型ドアセット

- 適用する (建具符号: - 建具表による -)

- 適用しない

防音ドアセット、防音サッシ

- 適用する 遮音性の等級 ()

(建具符号: - 建具表による -)

- 適用しない

断熱ドアセット、断熱サッシ

- 適用する 断熱性の等級 ()

(建具符号: - 建具表による -)

- 適用しない

耐震ドアセット

- 適用する 面内変形追随性の等級 ()

(建具符号: - 建具表による -)

- 適用しない

鋼板 ※ 亜鉛めっき鋼板 - ビニル被膜鋼板 - カラー鋼板 - ステンレス鋼板

鋼板の厚さ - 改修標準仕様書表5.5.1iによる

召合せ、緩小口包み板の材質 ※鋼板 - 建具表による

9

ステンレス製建具

性能等級

簡易気密型ドアセット

- 適用する (建具符号: - 建具表による -)

- 適用しない

外部に面する建具の耐風圧性

- S-4 (建具符号: - 建具表による -)

- S-5 (建具符号: - 建具表による -)

- S-6 (建具符号: - 建具表による -)

防音ドアセット、防音サッシ

- 適用する 遮音性の等級 ()

(建具符号: - 建具表による -)

- 適用しない

断熱ドアセット、断熱サッシ

- 適用する 断熱性の等級 ()

(建具符号: - 建具表による -)

- 適用しない

耐震ドアセット

- 適用する 面内変形追随性の等級 ()

(建具符号: - 建具表による -)

- 適用しない

鋼板 (屋外) -SUS430J/L、SUS443J/L、SUS304 -

鋼板 (屋内) ※SUS430、SUS430J/L、SUS443J/L、SUS304 -

表面仕上げ ※R - 鏡面仕上げ -

ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ - 角出し曲げ

⑩

建具用金物

金物の種類及び見え掛り部の材質等 ※改修標準仕様書表5.7.1iによる -

樹脂製建具に使用する丁番 ※改修標準仕様書表5.7.3iによる -

握り玉、レバーハンドル、押板、クレセントの取付け位置 ○建具表による -

⑪

鍵

○錠前類 【シリンダ箱錠及びシリンダ本錠り錠】 (品質)

工事建築材料等品質性能表による (試験方法)

工事建築材料等品質性能表による (試験方法)

○錠前類 【レバーハンドル】 (性能)

工事建築材料等品質性能表による (試験方法)

工事建築材料等品質性能表による (試験方法)

○ローザ類 (品質・性能)

工事建築材料等品質性能表による (試験方法)

工事建築材料等品質性能表による (試験方法)

12

自動ドア開閉装置

自動ドア

性能

防鎖

センサーの種類

凍結防止

- SSD-1

※改修標準仕様書表5.8.1iによる

-

- マットスイッチ

-

- SSD-2

-

-

- 光線 (反射) スイッチ

-

- SSD-1

-

- 適用する

- 熱線スイッチ

- 行う (適用箇所は建具表による)

- SSD-2

-

- 適用しない

- 音波スイッチ

-

- SMD-1

※改修標準仕様書表5.8.2iによる

-

- 光電スイッチ

-

- SMD-2

-

-

- 電波スイッチ

-

-

-

-

- タッチスイッチ

-

- 図示

-

-

- 押しボタンスイッチ

-

-

-

-

- ベダルスイッチ

-

-

-

-

- 多機能トイレスイッチ

-

13

自閉式上吊り引戸装置

性能

※改修標準仕様書表5.9.1iによる (試験)

工事建築材料等品質性能表による

14

重量シャッター

性能

※改修標準仕様書表5.9.1iによる (試験)

工事建築材料等品質性能表による

シャッターの種類

耐風圧強度

シャッターの種類

耐風圧強度 () N/m²

- 管理用シャッター

耐風圧強度 () N/m²

- 外壁用防火シャッター

耐風圧強度 () N/m²

- 屋内用防火シャッター

-

- 屋内用防煙シャッター

-

開閉機能による種類

※上部電動式 (手動併用) - 上部手動式

屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構

※改修標準仕様書5.10.2(d)(4)(i)かつ(iii)

管理用シャッターのシャッターケース - 設ける - 設けない

15

軽量シャッター

スラット及びシャッターケース用鋼板

鋼板の種類

- JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板)

- JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板)

めっき付着量 ※Z12又はF12 -

開閉形式

※手動式 - 上部電動式 (手動併用)

耐風圧強度 () N/m²

スラットの材質

- JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板)

めっき付着量 (※Z05又はF06 -)

- JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板)

めっき付着量 (※A20 -)

スラットの形状 - インターロックング形 - オーバーラッピング形

セクション材料

耐風圧 区分

開閉方式 による区分

収納形式

ガイドレール

※スチールタイプ

- 125

※バランスタイプ

- スタンダード形

※溶融亜鉛

- アルミニウムタイプ

- 100

- ロードヘッド形

めっき鋼板

- ファイバーグラストタイプ

- 75

- 電動式

- ハイルフト形

- ステンレス鋼板

-

- 50

-

- パーチカル形

-

16

オーバーヘッドドア

セクション材料

耐風圧 区分

開閉方式 による区分

収納形式

ガイドレール

※スチールタイプ

- 125

※バランスタイプ

- スタンダード形

※溶融亜鉛

- アルミニウムタイプ

- 100

- ロードヘッド形

めっき鋼板

- ファイバーグラストタイプ

- 75

- 電動式

- ハイルフト形

- ステンレス鋼板

-

- 50

-

- パーチカル形

-

17

ガラス

合わせガラス

品種

構成種類

性能

- フロート合わせガラス

- フロート板合わせガラス

- 1種

- 熱線吸収、フロート板合わせガラス

- 熱線吸収強化ガラス

- 1種 - 11-2種

- 網入磨き合わせガラス

- 網入磨き、フロート板合わせガラス

- 11-1種 - 11-2種

- 網入磨き、熱線吸収合わせガラス

- 111種

-

強化ガラス

材料板ガラスによる種類

種類

性能

- フロートガラス

- フロート強化ガラス

- 1種 - 1111種

- 熱線吸収強化ガラス

-

-

型板ガラス

- 型板強化ガラス

-

熱線吸収ガラス

品種

性能

色調

- 熱線吸収フロート板ガラス

- 1種 - 2種

- ブルー - グレー - ブロンズ

- 熱線吸収網入磨きガラス

-

-

複層ガラス

品種

断熱性

日射熱遮へい性

- 断熱複層ガラス

- 1種

U1

- 2種

U2

- 3種

-U3-1 -U3-2

- 日射熱遮へい複層ガラス

- 4種

E4

- 5種

E5

熱線反射ガラス

品種

日射熱遮へい性

耐久性

- 熱線反射ガラス

- 1種

A種

- 色調 (- ブルー - グレー)

- 2種

A種 - B種

- 高性能熱線反射ガラス

- 3種

B種

- 色調 (- ブロンズ - シルバー)

-

-

反射鏡調面

内面 - 外面

映像調整

- 行わない - 行う

倍強度ガラス

材料板ガラスによる種類の名称

色調

- フロート倍強度ガラス

-

-

- 熱線吸収倍強度ガラス

-ブルー -グレー -ブロンズ

-

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類

ガラス留め材

ガラス溝の大きさ (mm)

アルミニウム製

- シーリング材

※改修標準仕様書表5.13.1iによる

- ガスケット

- 図示 -

- グレージングチャンネル形

-

鋼製及び鋼製軽量

- シーリング材

※改修標準仕様書表5.13.1iによる

-

- 図示 -

ステンレス製

- シーリング材

※改修標準仕様書表5.13.1iによる

-

- 図示 -

18

ガラスブロック

表面形状

呼び寸法 (mm)

厚さ (mm)

色調 クリア 乳白

目地幅 (mm) 平積み 曲面積み

伸縮調整 目地 (mm)

防火性能

- 125×125

80

-

-

※8～15

外側 ※15以下

※6m以下ごとに幅10～25

-

※無し - 有り

- 160×160

95

-

-

- 15～25

-

-

-

- 125

-

-

-

-

-

-

-

- 200×200

95

-

-

-

内側 ※6以上

-

-

- 95

-

-

-

-

-

-

-

- 320×320

95

-

-

-

-

-

-

- 250×125

80

-

-

-

-

-

-

- 320×160

95

-

-

-

-

-

-

曲面積みの曲面半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。

壁用金属枠及び補強材 - 設ける (形状 ※図示 -)

- 設けない

力骨 材質 ※ステンレス鋼 (SUS304) -

寸法 ※底5.5mm -

形状 ※はしり形状横筋及び縦筋 -

化粧目地モルタルの色 ()

金属化粧力骨バー 材質 - ステンレス製 - アルミニウム製

寸法 - 図示 -

形状 - 図示 -

工法

建築基準法に基づき定まる風圧力の (-1 - 1.15 - 1.3) 倍の風圧力に対応した工法

目地部の力骨の補強方法

※ガラスブロック製造所の仕様による - 図示 -

19

ガラス用フィルム

名称

種類

張り面

性能値

- ガラス飛散防止フィルム

GS

- 内張り - 外張り

飛散防止率D1

- 日射調整フィルム

E

-

-

-

-

-

-

品質

JIS A 5759による

①改修範囲

②

既存床の除去及び下地補修

ビニル床シート等の除去

※ 仕上げ材のみ (接着剤とも)

○下地モルタルとも (- 図示の範囲 - 除去範囲全て)

合成樹脂床材の除去工法

○機械的除去工法 - 目視し工法

コンクリート又はモルタル基の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂

モルタルは、4層外壁改修工事による。

改修後の床の清掃範囲

○改修箇所の室内

③

既存壁の除去及び下地補修

間仕切壁除去に伴う他の構造体の補修

○改修標準仕様書4.4.9iによるモルタル塗り (塗り厚25mmを超える場合の補修 ○行う - 行わない)

- 図示

4

木下地等の表面仕上げ

表面仕上げの種類

適用箇所

- A種

-

- B種

-

- C種

-

5

製材

「製材の日本森林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所

樹種

寸法 (mm)

等級

形状

含水率

間伐材等の適用

※2級

※A種 - B種

-

※2級

※A種 - B種

-

※2級

※A種 - B種

-

「製材の日本森林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所

樹種

寸法 (mm)

等級

形状

含水率

間伐材等の適用

※1種

※A種 - B種

-

※1種

※A種 - B種

-

※2級

※A種 - B種

-

「製材の日本森林規格」による広葉樹製材

施工箇所

樹種

寸法 (mm)

等級

形状

含水率

間伐材等の適用

※1等

※10%以下

-

※1等

※10%以下

-

※1等

※10%以下

-

「製材の日本森林規格」以外の製材

施工箇所

樹種

寸法 (mm)

造作材の材質

防虫処理の適用

乾燥処理の適用

含水率

間伐材等の適用

()

※A種 - B種

-

造作材の場合 (※A種 - B種)

-

-

「製材の日本森林規格」以外の製材

施工箇所

樹種

寸法 (mm)

造作材の材質

防虫処理の適用

乾燥処理の適用

含水率

間伐材等の適用

※1等

※10%以下

-

※1等

※10%以下

-

※1等

※10%以下

-

「製材の日本森林規格」による化粧用集成材

施工箇所

化粧薄板の樹種

芯材の樹種

寸法 (mm)

化粧薄板の厚さ (mm)

見付け材面の品質

間伐材等の適用

※1等 - 2等

-

※1等 - 2等

-

※1等 - 2等

-

「製材の日本森林規格」による化粧用集成材

施工箇所

化粧薄板の樹種

芯材の樹種

寸法 (mm)

化粧薄板の厚さ (mm)

見付け材面の品質

間伐材等の適用

※1等 - 2等

-

※1等 - 2等

-

※1等 - 2等

-

「製材の日本森林規格」による化粧用集成材

施工箇所

化粧薄板の樹種

芯材の樹種

寸法 (mm)

化粧薄板の厚さ (mm)

見付け材面の品質

間伐材等の適用

※15%以下

-

※15%以下

-

※15%以下

-

「製材の日本森林規格」以外の化粧用集成材

施工箇所

化粧薄板の樹種

芯材の樹種

寸法 (mm)

化粧薄板の厚さ (mm)

見付け材面の品質

間伐材等の適用

※15%以下

-

※15%以下

-

※15%以下

-

「製材の日本森林規格」以外の化粧用集成材

施工箇所

化粧薄板の樹種

芯材の樹種

寸法 (mm)

化粧薄板の厚さ (mm)

見付け材面の品質

間伐材等の適用

※15%以下

-

※15%以下

-

※15%以下

-

20

内装改修工事

①改修範囲

②

既存床の除去及び下地補修

ビニル床シート等の除去

※ 仕上げ材のみ (接着剤とも)

○下地モルタルとも (- 図示の範囲 - 除去範囲全て)

合成樹脂床材の除去工法

○機械的除去工法 - 目視し工法

コンクリート又はモルタル基の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂

モルタルは、4層外壁改修工事による。

改修後の床の清掃範囲

○改修箇所の室内

③

既存壁の除去及び下地補修

間仕切壁除去に伴う他の構造体の補修

○改修標準仕様書4.4.9iによるモルタル塗り (塗り厚25mmを超える場合の補修 ○行う - 行わない)

- 図示

4

木下地等の表面仕上げ

表面仕上げの種類

適用箇所

- A種

-

- B種

-

- C種

-

5

製材

「製材の日本森林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所

樹種

寸法 (mm)

等級

形状

含水率

間伐材等の適用

※2級

※A種 - B種

-

※2級

※A種 - B種

-

※2級

※A種 - B種

-

「製材の日本森林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所

樹種

寸法 (mm)

等級

形状

含水率

間伐材等の適用

※1種

※A種 - B種

-

※1種

※A種 - B種

-

※2級

※A種 - B種

-

「製材の日本森林規格」による広葉樹製材

施工箇所

樹種

寸法 (mm)

等級

形状

含水率

間伐材等の適用

※1等

※10%以下

-

※1等

※10%以下

-

※2級

※A種 - B種

-

「製材の日本森林規格」以外の製材

施工箇所

樹種

寸法 (mm)

造作材の材質

防虫処理の適用

乾燥処理の適用

含水率

間伐材等の適用

()

※A種 - B種

-

造作材の場合 (※A種 - B種)

-

-

「製材の日本森林規格」以外の製材

施工箇所

樹種

寸法 (mm)

造作材の材質

防虫処理の適用

乾燥処理の適用

含水率

間伐材等の適用

※1等

※10%以下

-

※1等

※10%以下

-

※1等

※10%以下

-

「製材の日本森林規格」による化粧用集成材

施工箇所

化粧薄板の樹種

芯材の樹種

寸法 (mm)

化粧薄板の厚さ (mm)

見付け材面の品質

間伐材等の適用

※1等 - 2等

-

※1等 - 2等

-

※1等 - 2等

-

「製材の日本森林規格」による化粧用集成材

施工箇所

化粧薄板の樹種

芯材の樹種

寸法 (mm)

化粧薄板の厚さ (mm)

見付け材面の品質

間伐材等の適用

※15%以下

-

※15%以下

-

※15%以下

-

「製材の日本森林規格」以外の化粧用集成材

施工箇所

化粧薄板の樹種

芯材の樹種

寸法 (mm)

化粧薄板の厚さ (mm)

見付け材面の品質

間伐材等の適用

※15%以下

-

※15%以下

-

※15%以下

-

21

外装改修工事

①改修範囲

②

既存床の除去及び下地補修

ビニル床シート等の除去

※ 仕上げ材のみ (接着剤とも)

○下地モルタルとも (- 図示の範囲 - 除去範囲全て)

合成樹脂床材の除去工法

○機械的除去工法 - 目視し工法

コンクリート又はモルタル基の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂

モルタルは、4層外壁改修工事による。

改修後の床の清掃範囲

○改修箇所の室内

③

既存壁の除去及び下地補修

間仕切壁除去に伴う他の構造体の補修

○改修標準仕様書4.4.9iによるモルタル塗り (塗り厚25mmを超える場合の補修 ○行う - 行わない)

- 図示

4

木下地等の表面仕上げ

表面仕上げの種類

適用箇所

- A種

-

- B種

-

- C種

-

5

製材

「製材の日本森林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所

樹種

寸法 (mm)

等級

形状

含水率

間伐材等の適用

※2級

※A種 - B種

-

※2級

※A種 - B種

-

※2級

※A種 - B種

-

[illegible]

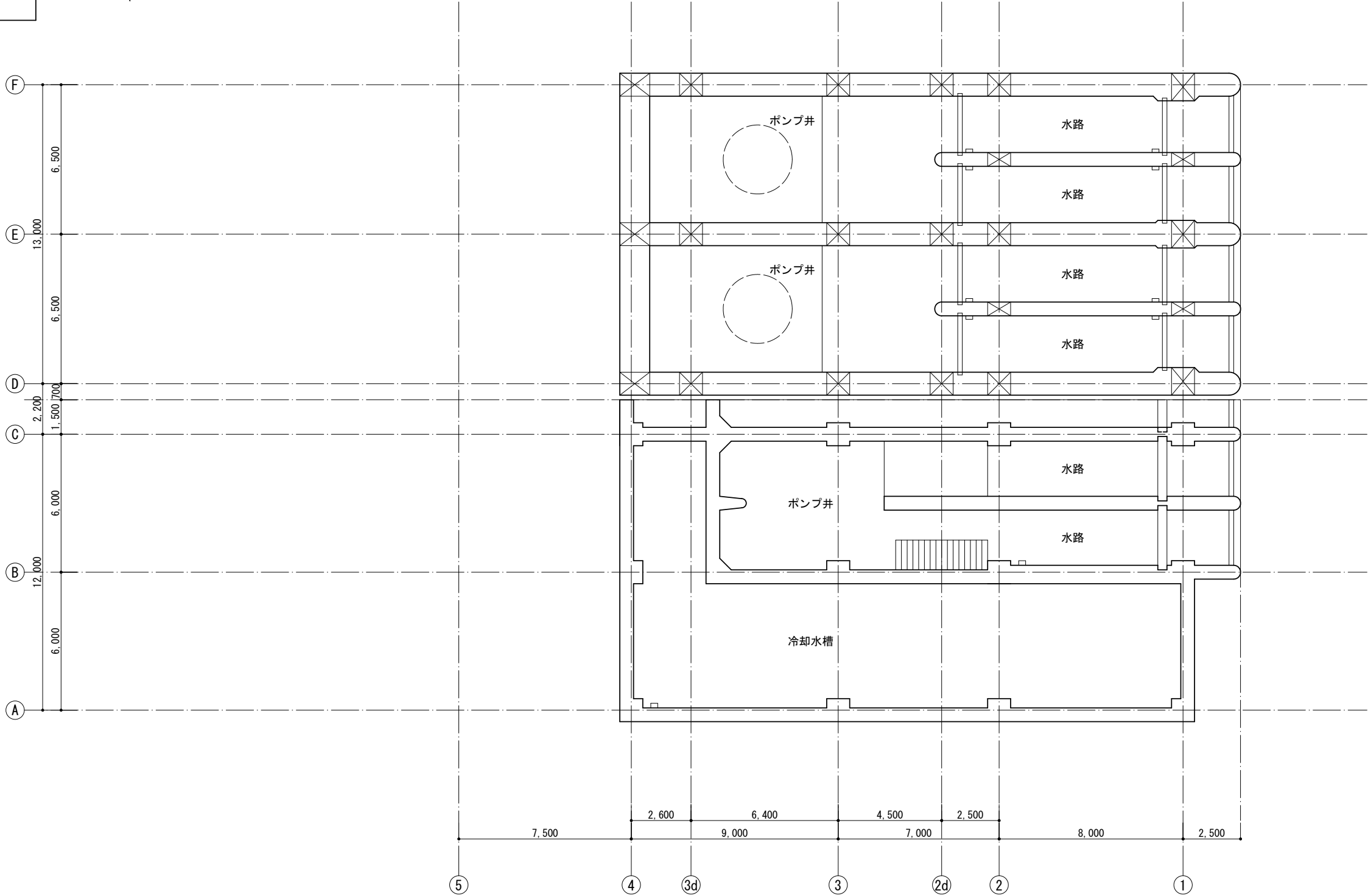
図面番号	A-009	縮 尺	1/100	
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	地下2階平面図		番 号	
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				



地下2階平面図

S=1:100

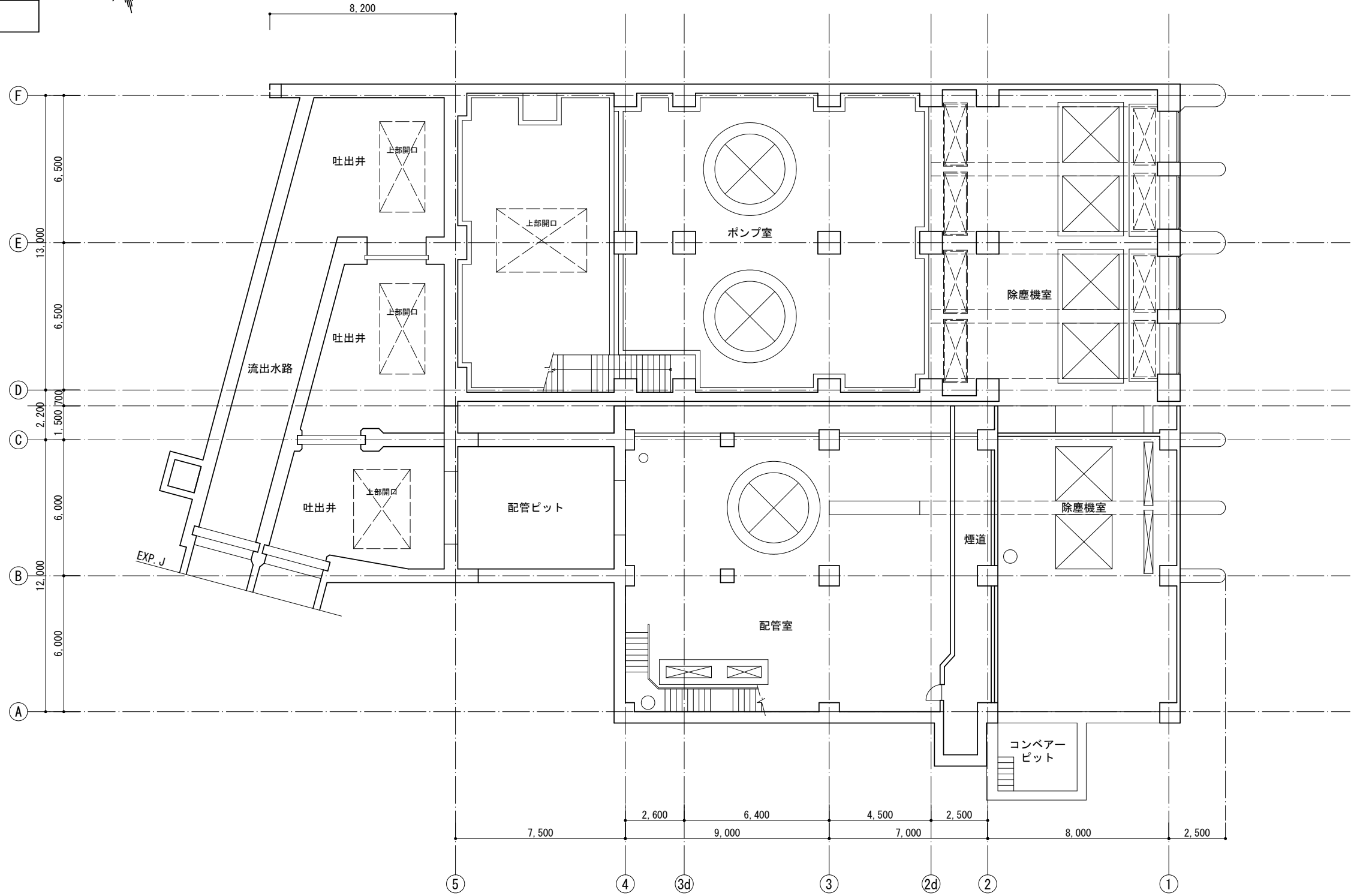
(今回工事対象外)



図面番号	A-010	縮 尺	1/100	
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	地下1階平面図		番 号	
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				



地下1階平面図 S=1:100
(今回工事対象外)

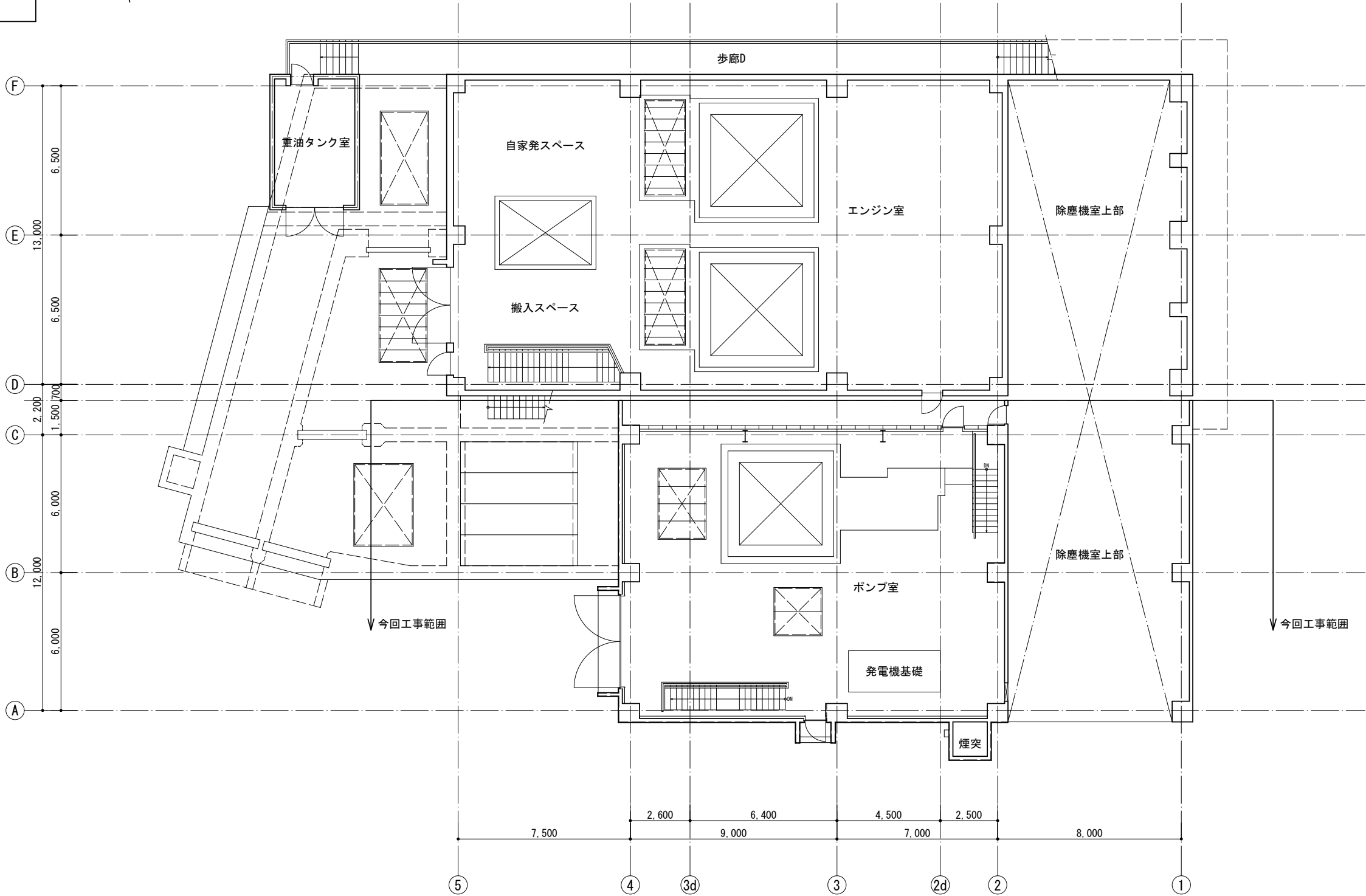


図面番号	A-011	縮 尺	1/100	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	1階平面図		番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				



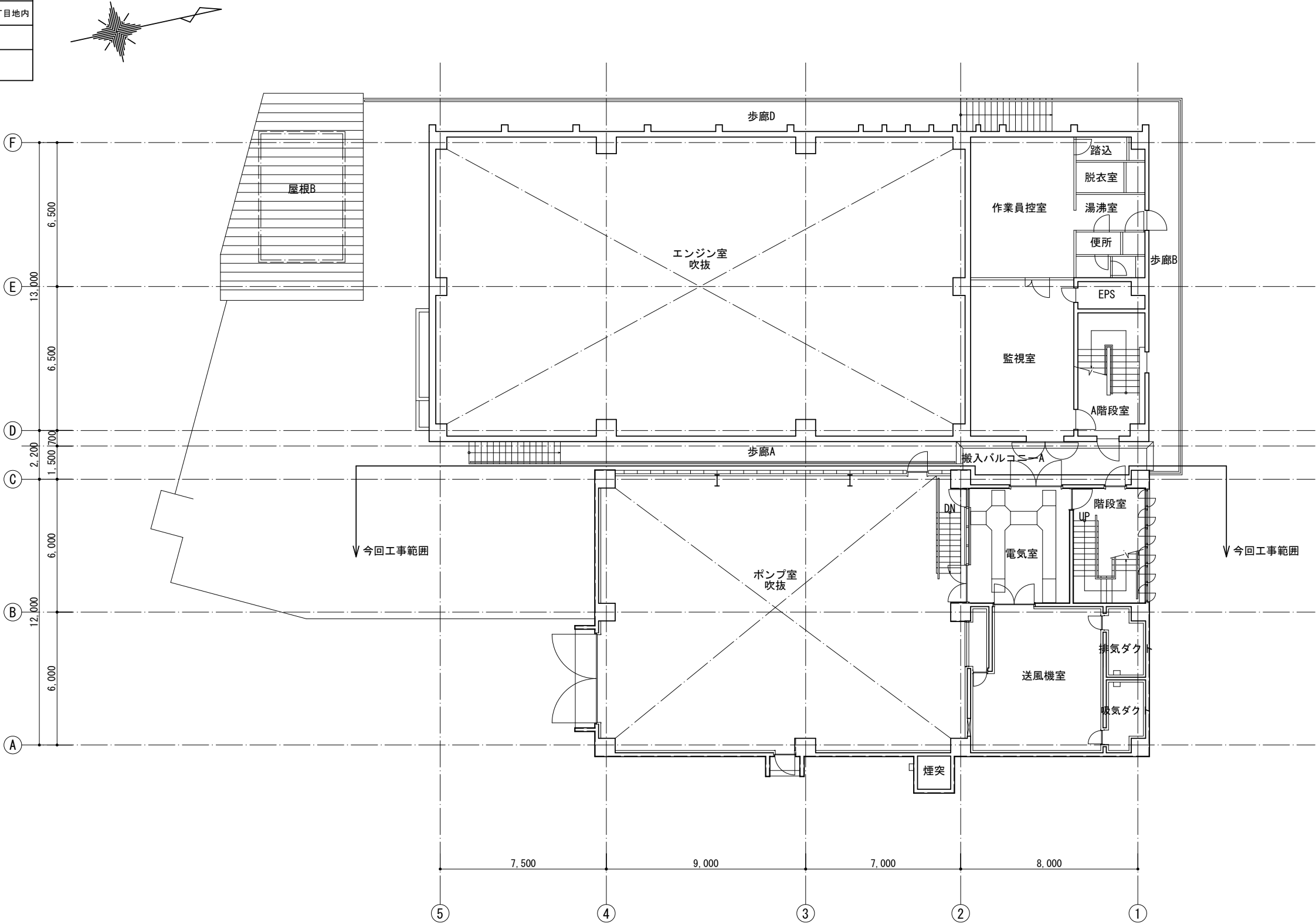
1階平面図

S=1:100



図面番号	A-012	縮 尺	1/100	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	1階上部平面図		番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

1階上部平面図 S=1:100

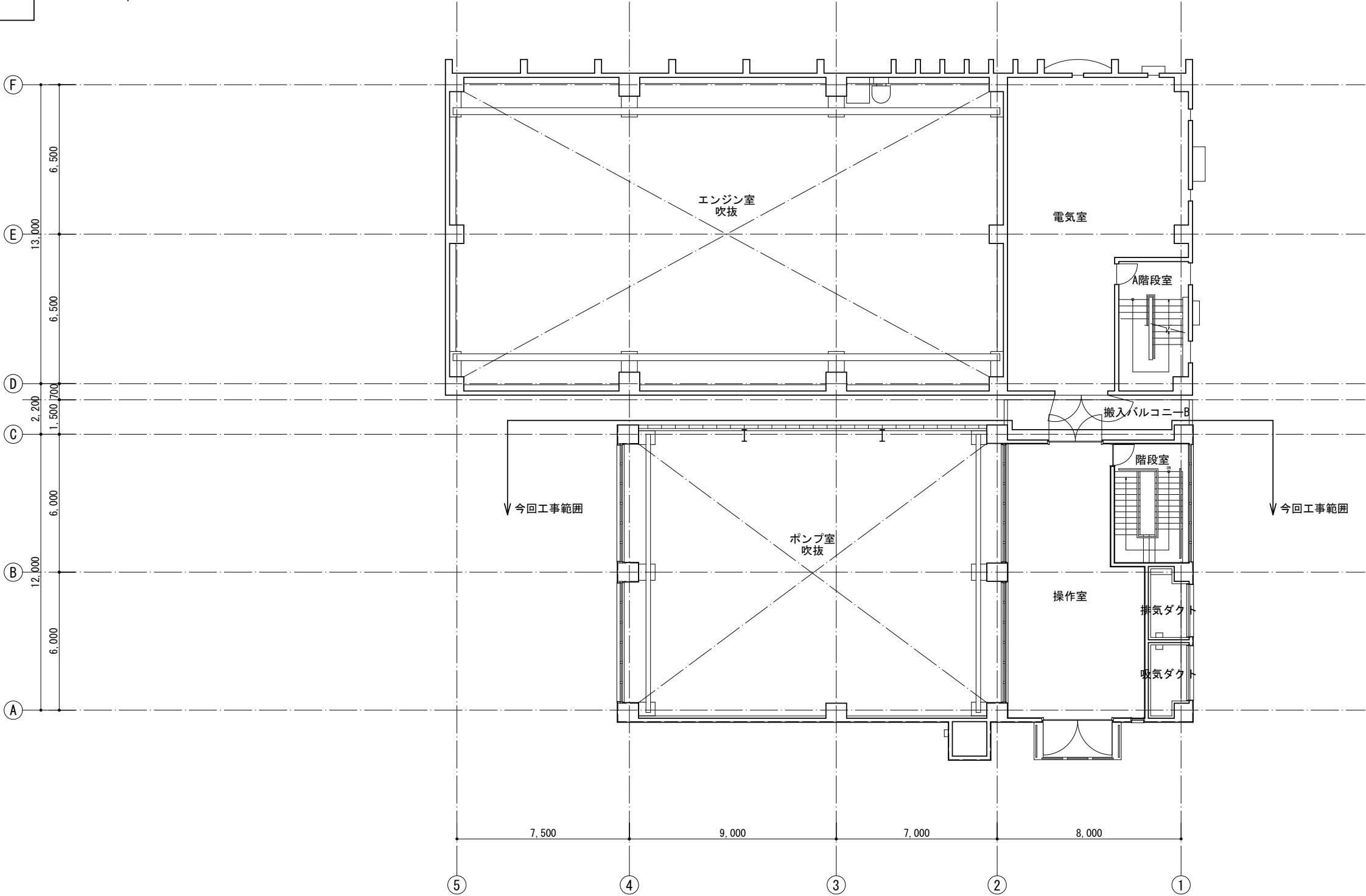


図面番号	A-013	縮 尺	1/100	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	2階平面図		番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				



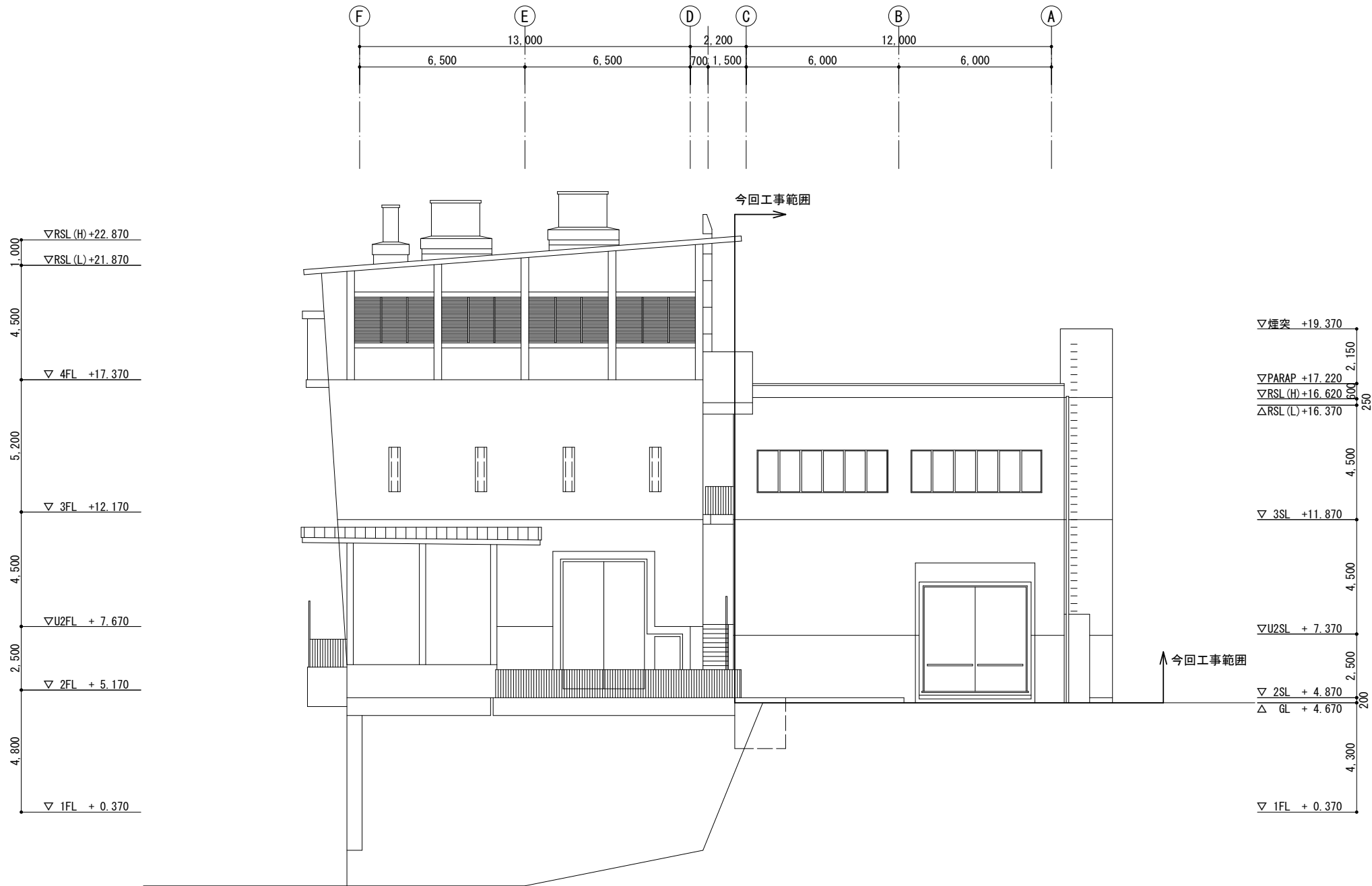
2階平面図

S=1:100



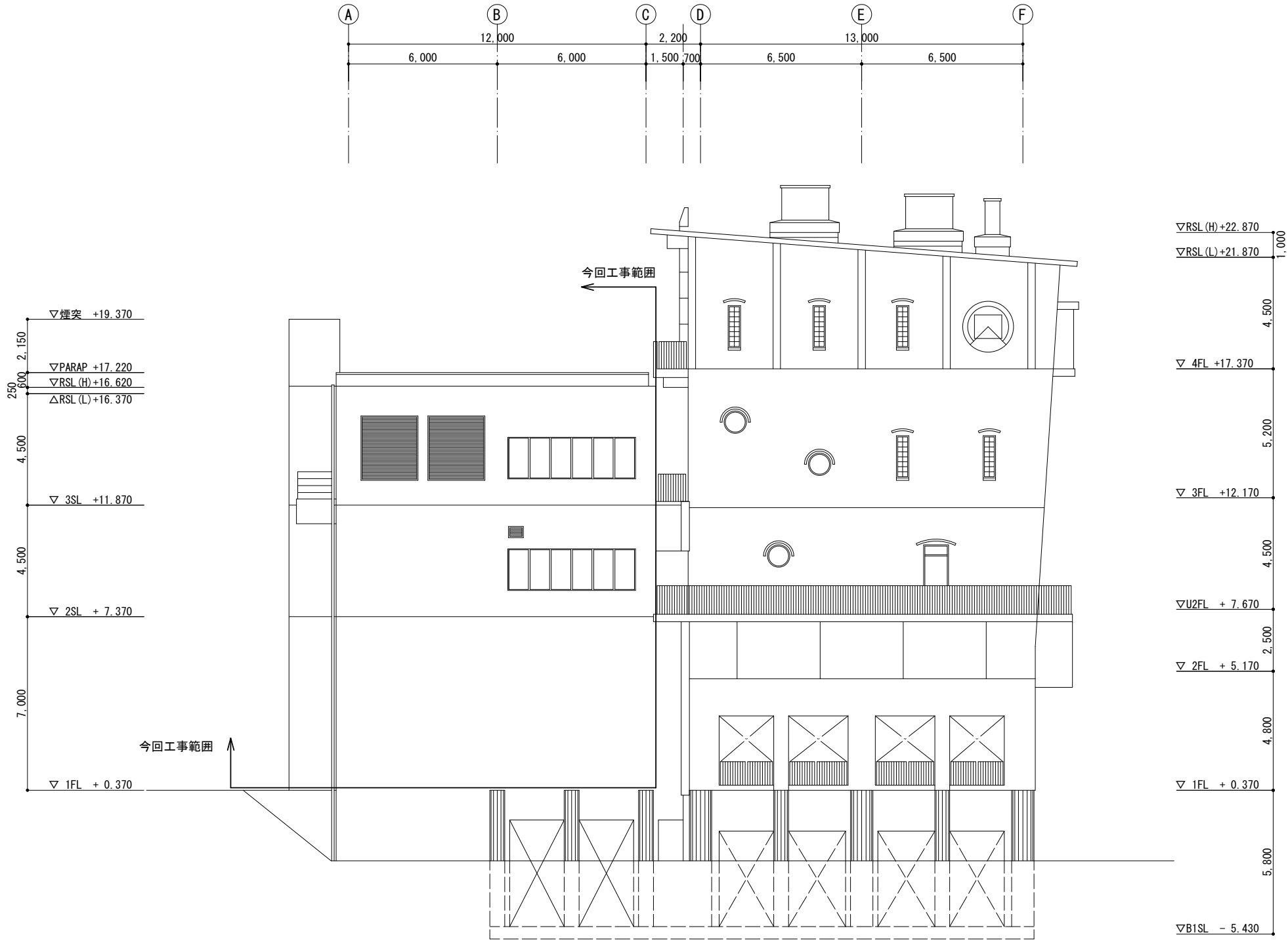
図面番号	A-014	縮 尺	1/100	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	南立面図		番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

南立面図 S=1:100



図面番号	A-015	縮 尺	1/100	
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	北立面図		番 号	
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

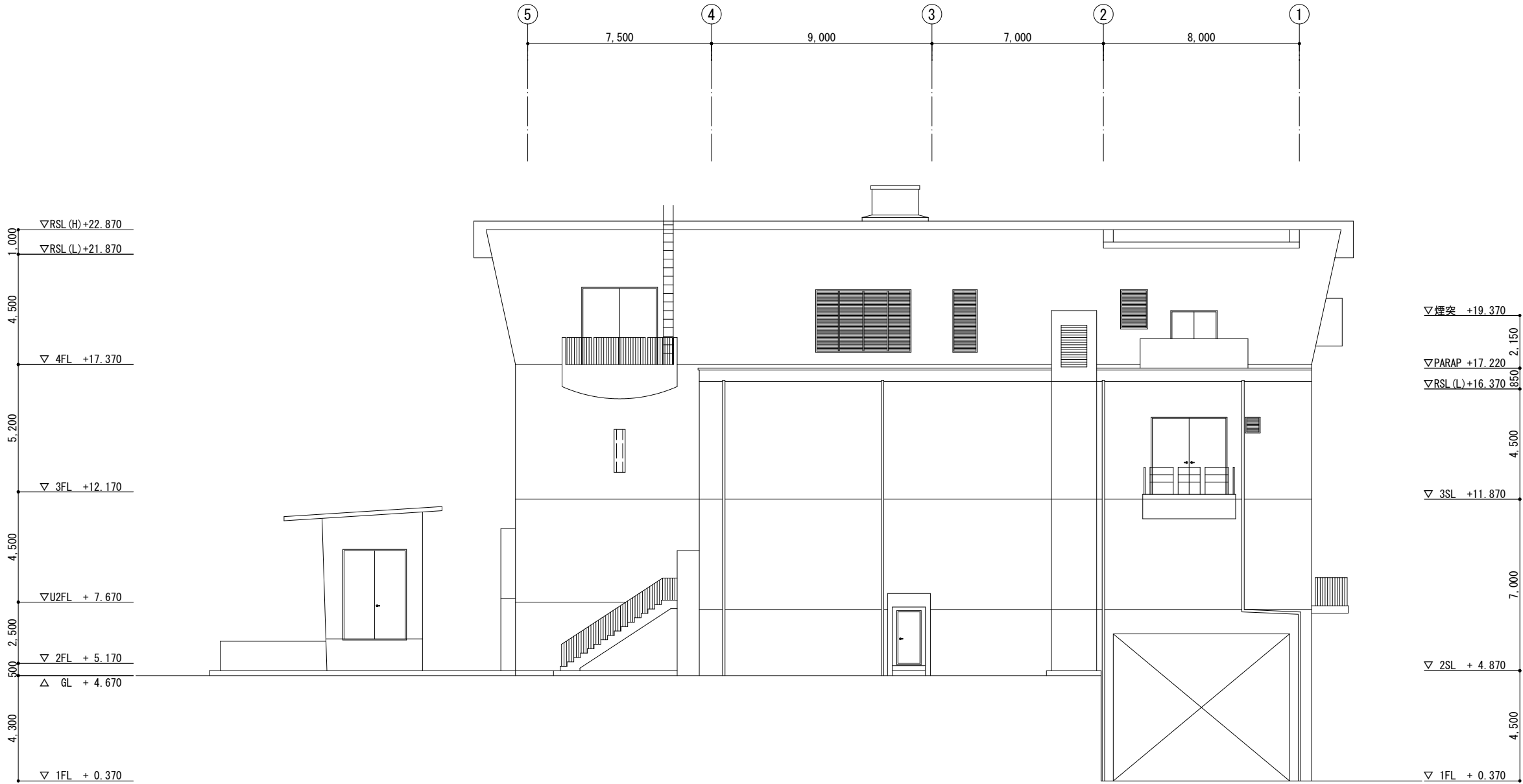
北立面図 S=1:100



図面番号	A-016	縮 尺	1/100	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	東立面図		番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

東立面図

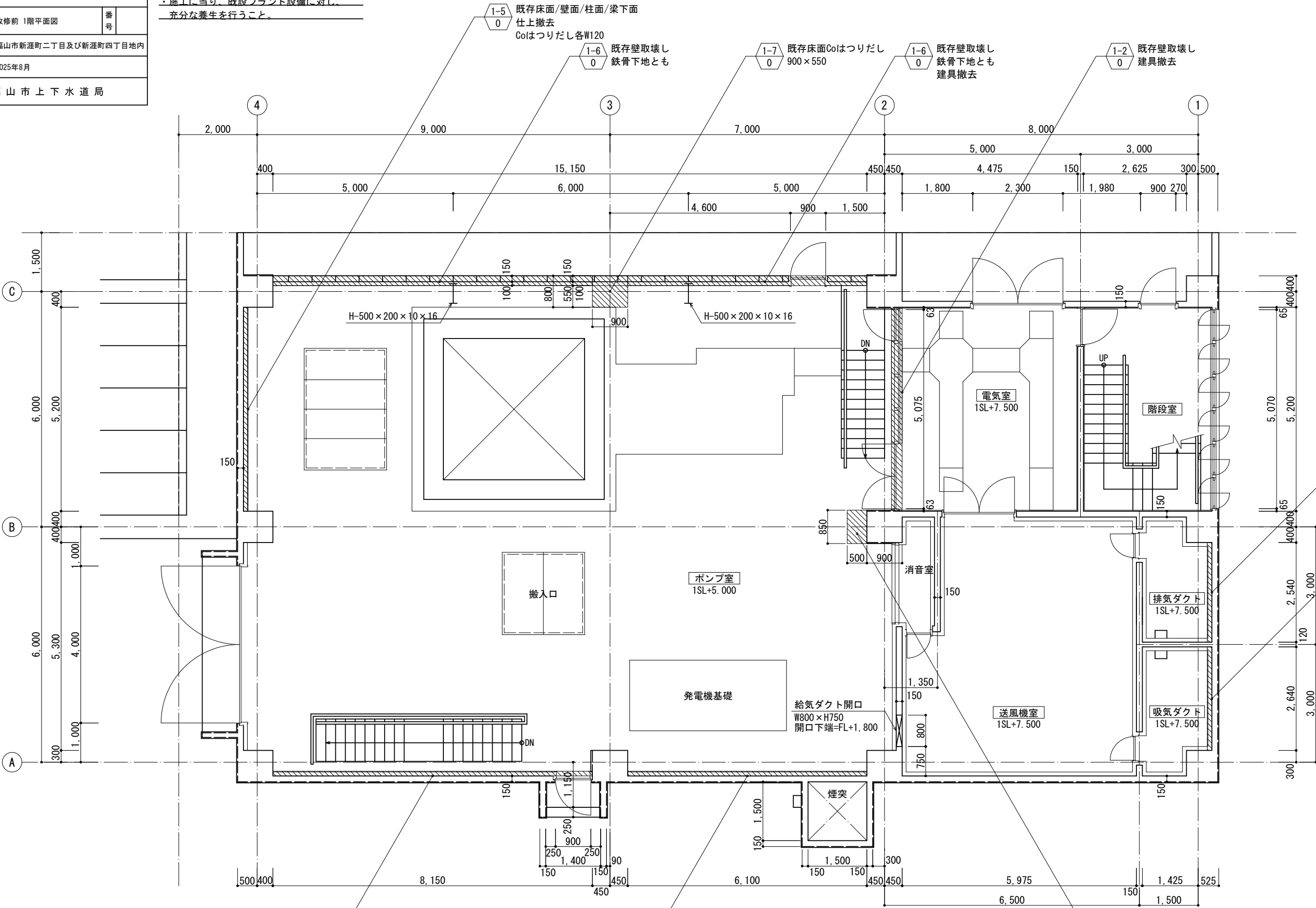
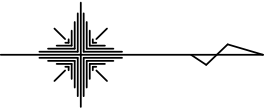
S=1:100



図面番号	A-017		縮 尺	1/50	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	改修前 1階平面図			番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

＜特記事項＞
・施工に当り、既設プラント設備に対し、
充分な養生を行うこと。

改修前 1階平面図 S=1:50



1-1
0
既存床面/壁面/柱面/梁下面
仕上撤去
Colはつりだし各W120

1-1
0
既存床面/壁面/柱面/梁下面
仕上撤去
Colはつりだし各W120

既存床面/壁面/柱面/梁下面
仕上撤去
Colはつりだし各W150
建具撤去

既存床面/壁面/柱面/梁下面
仕上撤去
Colはつりだし各W120

1-3
0
既存床面/柱面
仕上撤去
Colはつりだし
500×850

凡 例

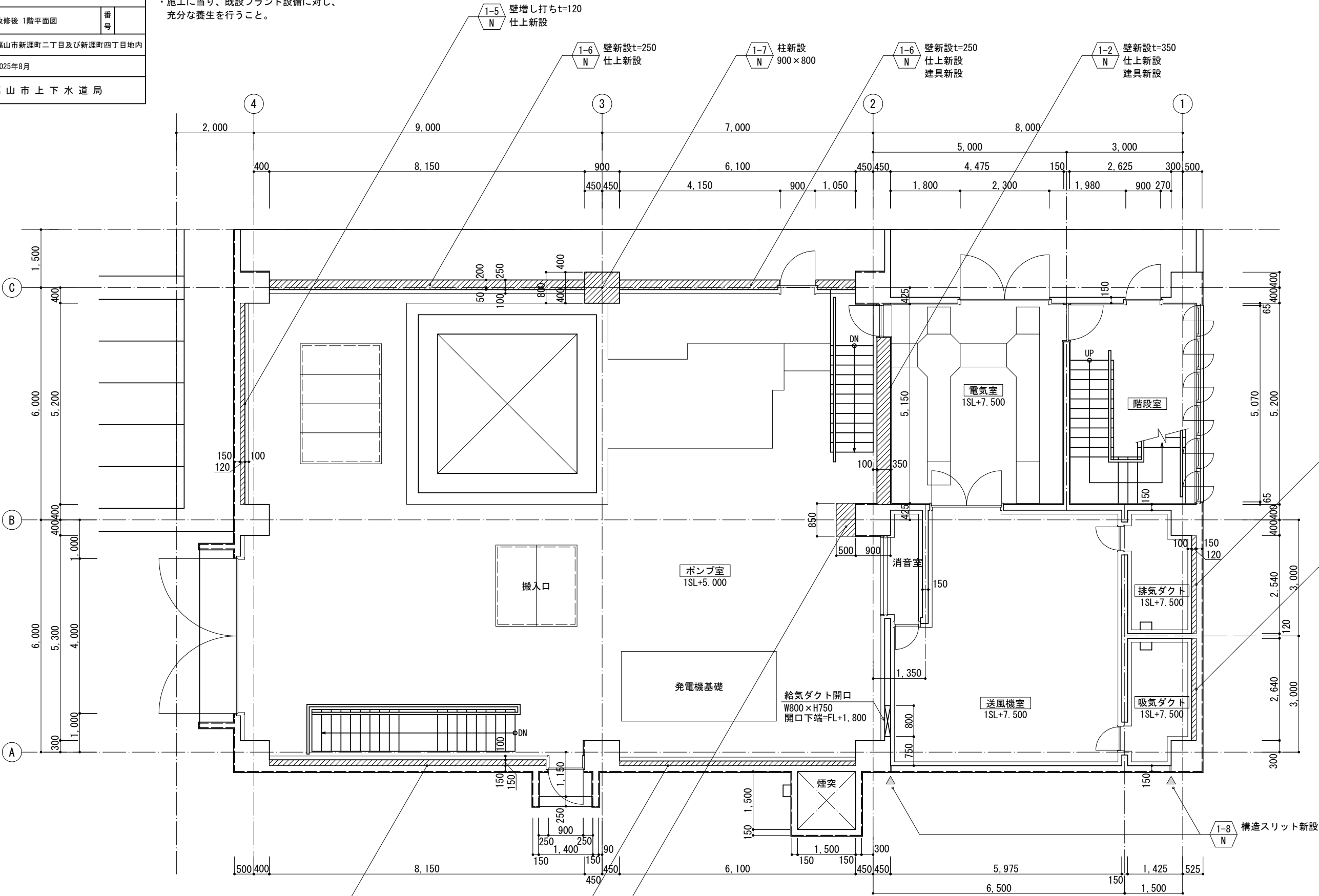
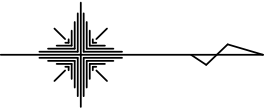
改修工事範囲

階数 — 0-0 部位番号
0 0: 改修前

図面番号	A-018	縮 尺	1/50	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	改修後 1階平面図		番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

<特記事項>
・施工に当り、既設プラント設備に対し、
充分な養生を行うこと。

改修後 1階平面図 S=1:50



凡 例

改修工事範囲

階数 — 0-0 部位番号
N: 改修後

壁増し打ちt=150
仕上新設
建具新設

壁増し打ちt=120
仕上新設

柱増し打ち
500×850

壁増し打ちt=120
仕上新設

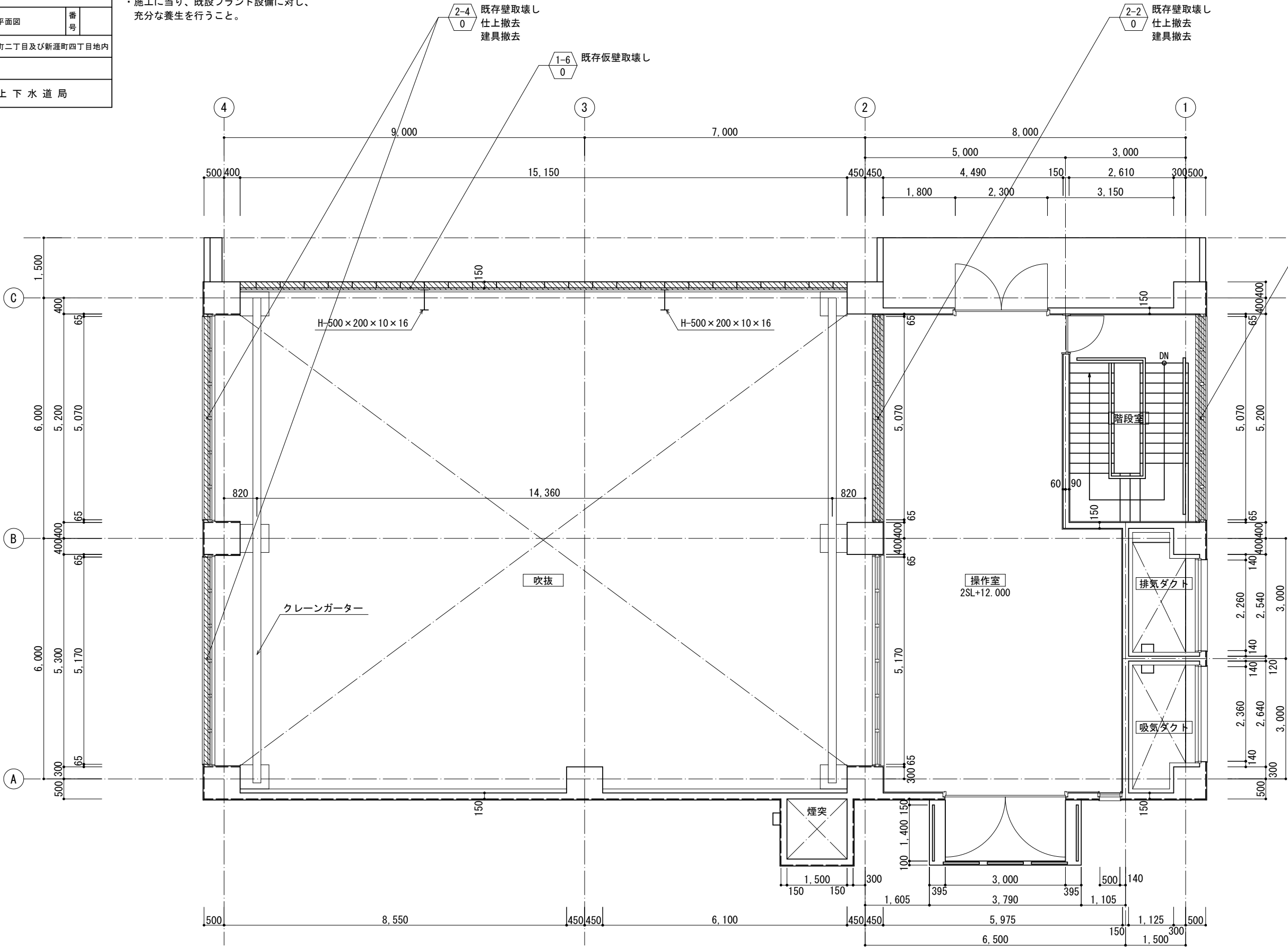
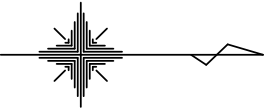
壁増し打ちt=120
仕上新設

構造スリット新設

図面番号	A-019	縮 尺	1/50	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	改修前 2階平面図		番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

<特記事項>
・施工に当り、既設プラント設備に対し、
十分な養生を行うこと。

改修前 2階平面図 S=1:50



凡 例

改修工事範囲

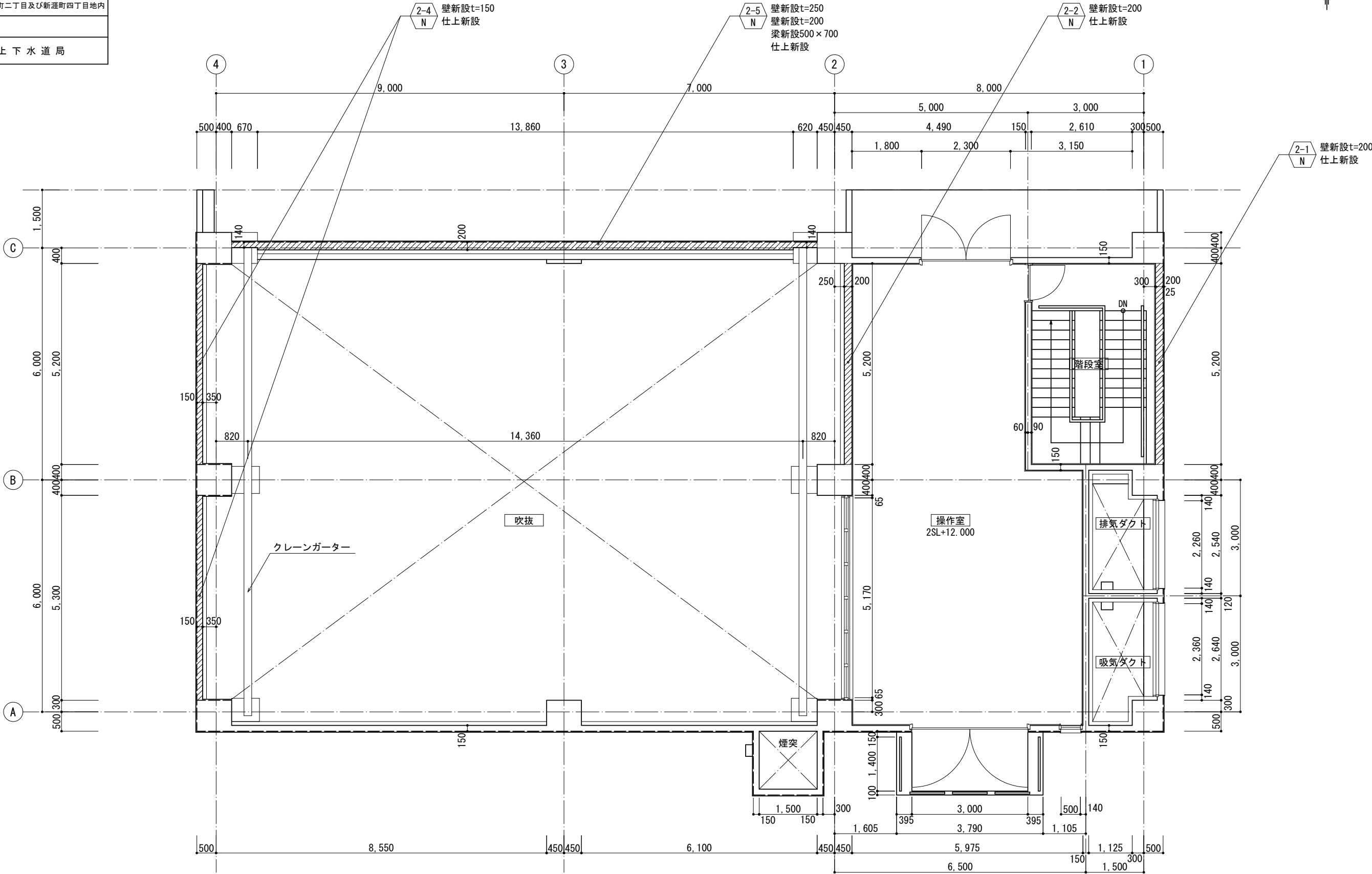
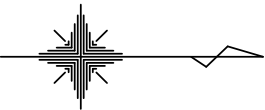
階数 — 0-0 部位番号
0 0: 改修前

図面番号	A-020		縮 尺	1/50	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	改修後 2階平面図			番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

<特記事項>
・施工に当り、既設プラント設備に対し、
十分な養生を行うこと。

改修後 2階平面図

S=1:50



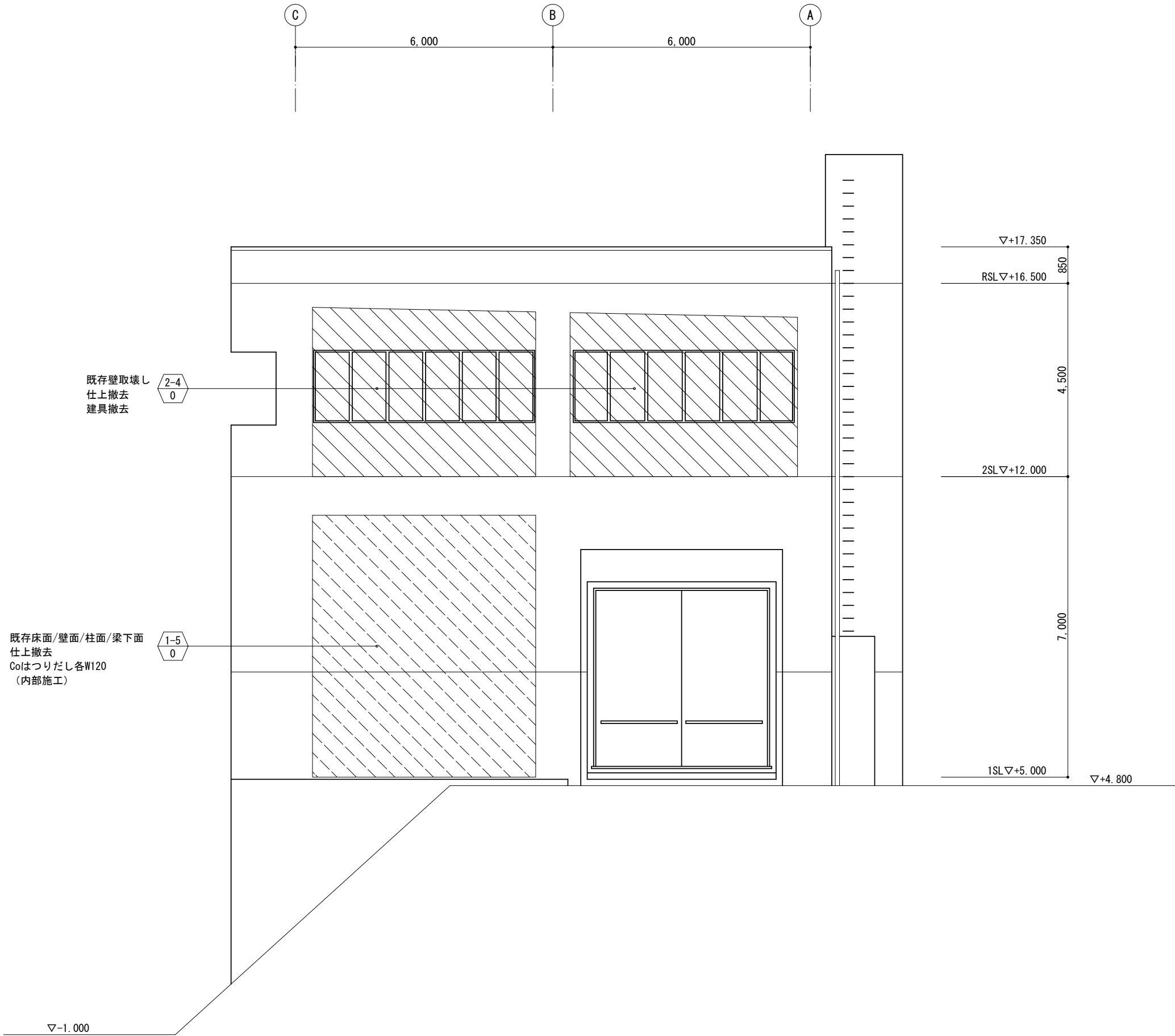
凡 例

改修工事範囲

階数 — 0-0 部位番号
N: 改修後

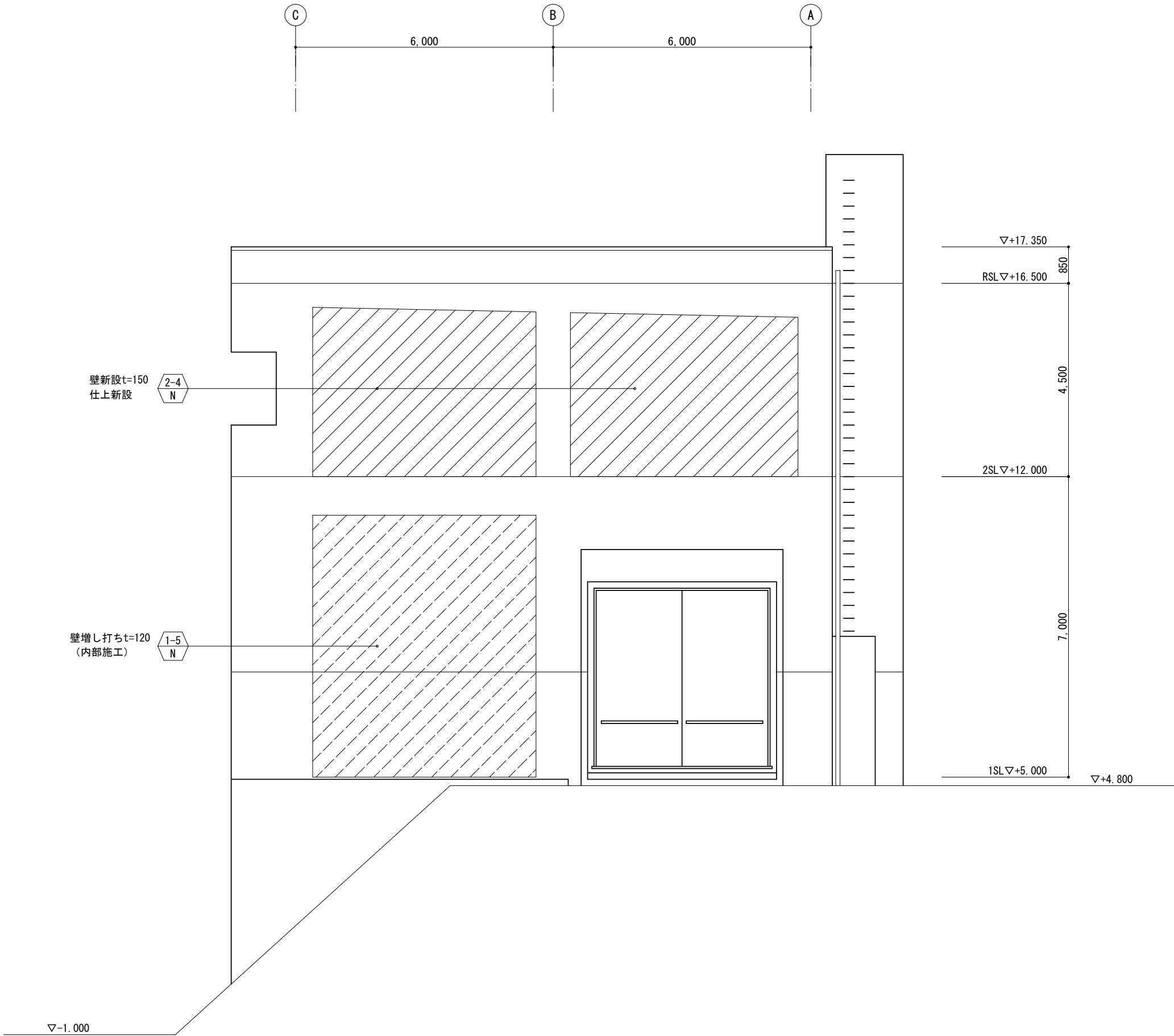
図面番号	A-021	縮 尺	1/50	
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	改修前 南立面図		番 号	
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

改修前 南立面図 S=1:50



図面番号	A-022	縮 尺	1/50	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	改修後 南立面図		番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

改修後 南立面図 S=1:50



南立面図 S=1:50

凡 例

改修工事範囲

階数 —

0-0

 部位番号

N: 改修後

図面番号	A-023	縮 尺	1/50	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	改修前 西立面図		番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				



図面番号	A-024	縮 尺	1/50
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)		
種 別	改修後 西立面図	番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内		
設計年月	2025年8月		
福 山 市 上 下 水 道 局			



図面番号	A-025	縮 尺	1/50
工 事 名	新渚ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)		
種 別	改修前・改修後 1階詳細図(1)	番 号	
工事箇所	福山市新渚町二丁目及び新渚町四丁目地内		
設計年月	2025年8月		
福 山 市 上 下 水 道 局			

改 修 前

 1階 1通 A～B通間 床面/壁面/柱面/梁下面 Colはつり出し

凡 例

 躯体撤去

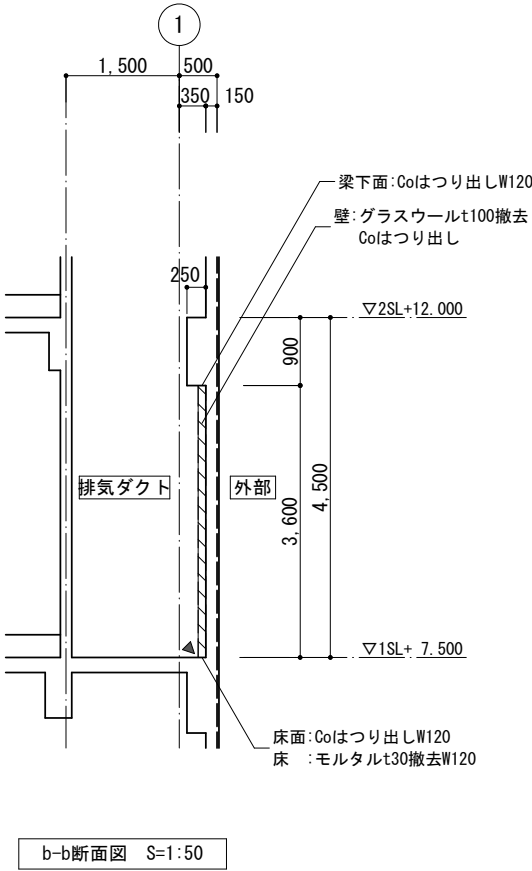
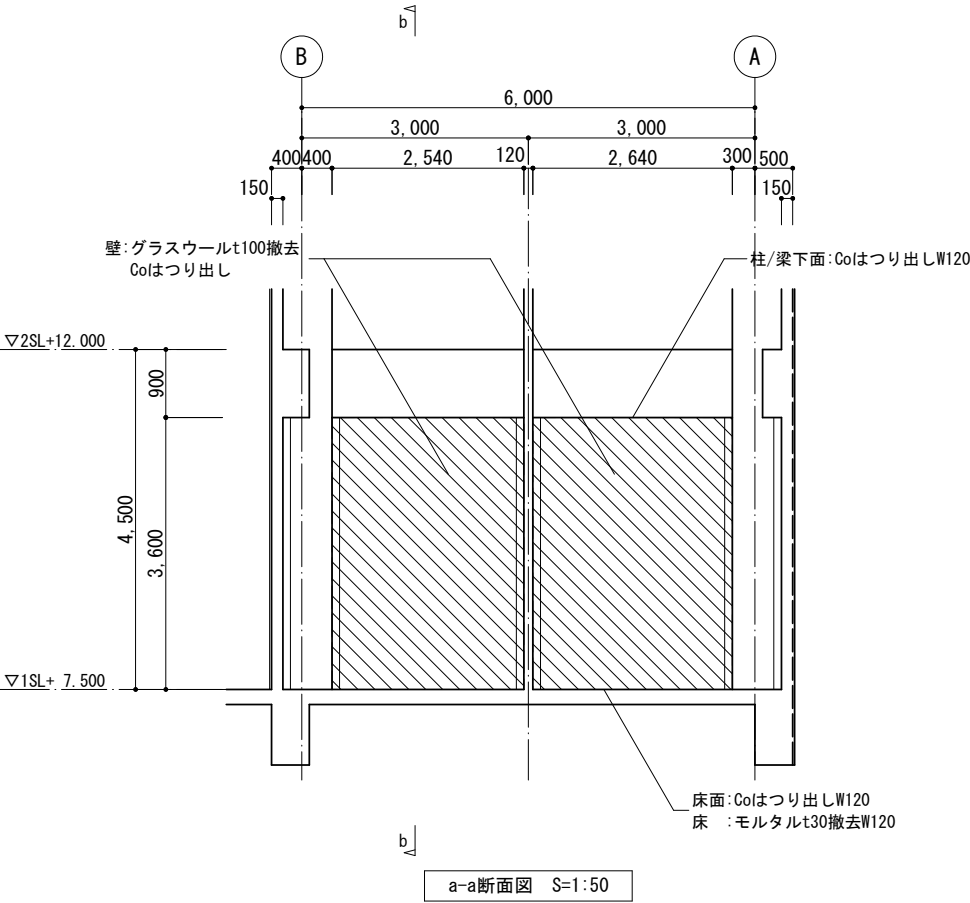
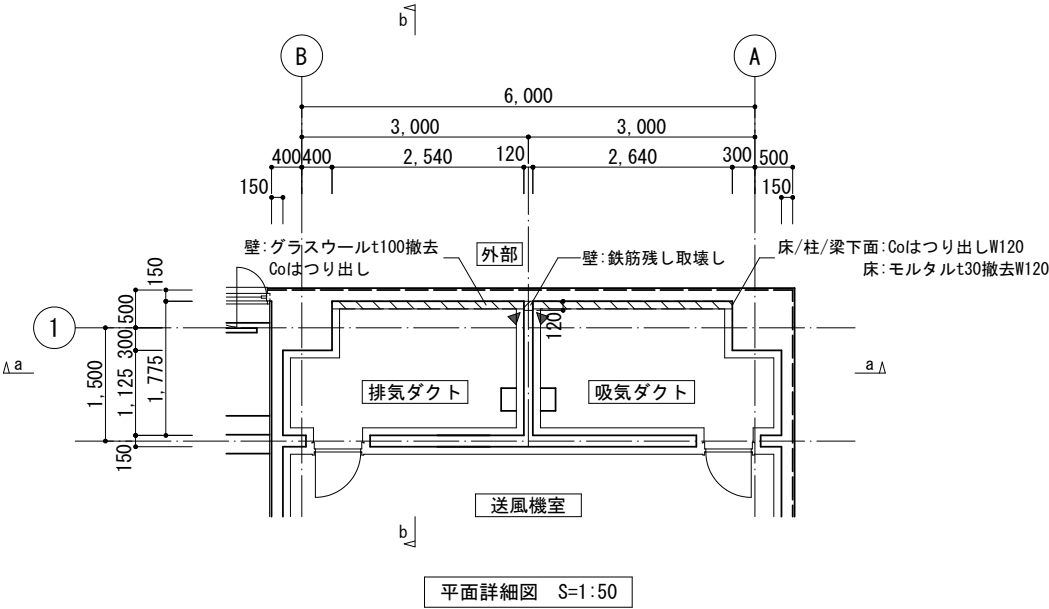
 壁仕上撤去

 無筋コンクリート撤去

 床仕上撤去

 天井仕上撤去

 カッター入れ



図面番号	A-026		縮 尺	1/50	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	改修前・改修後 1階詳細図(2)			番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

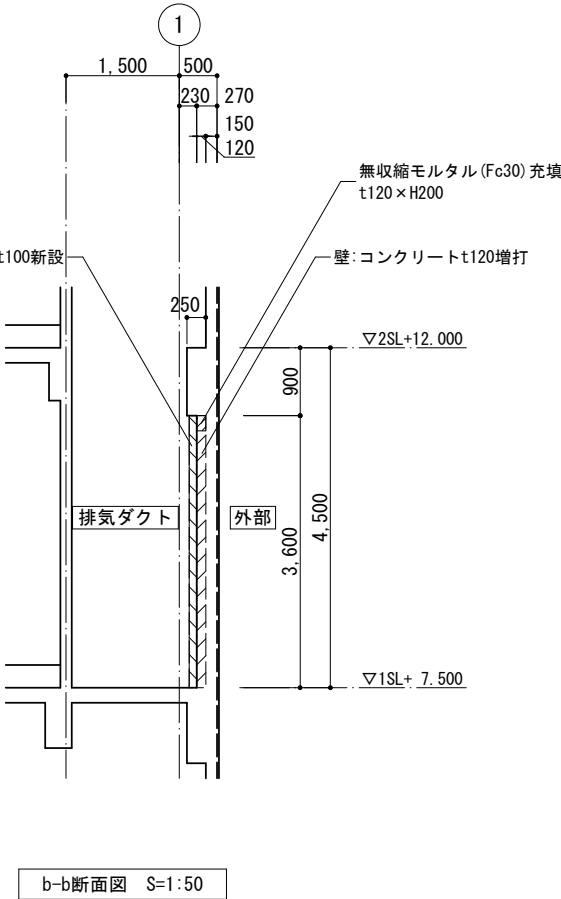
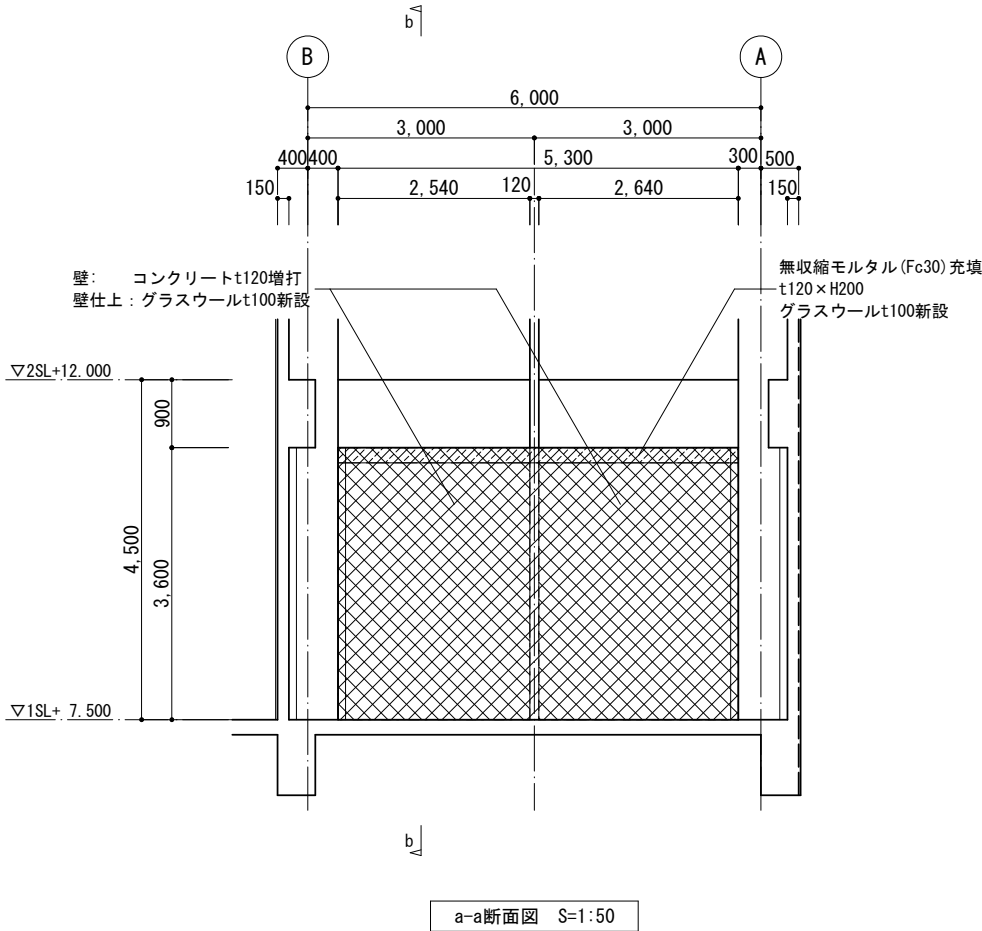
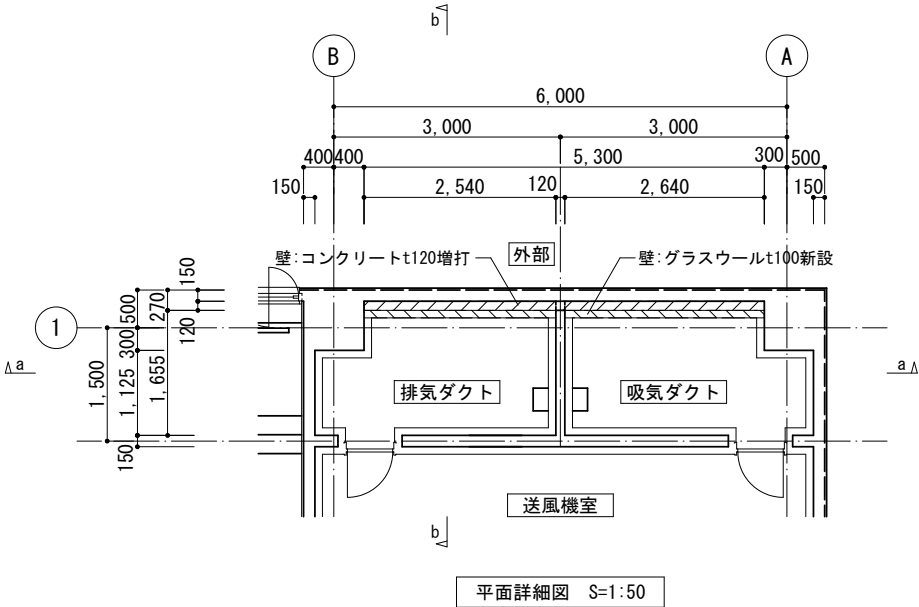
改 修 後



1階 1通 A～B通間 耐震壁EW12増打

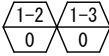
凡 例

- 躯体新設
- 壁仕上新設
- 無筋コンクリート新設
- 床仕上新設
- 天井仕上新設
- 伸縮目地・打継目地

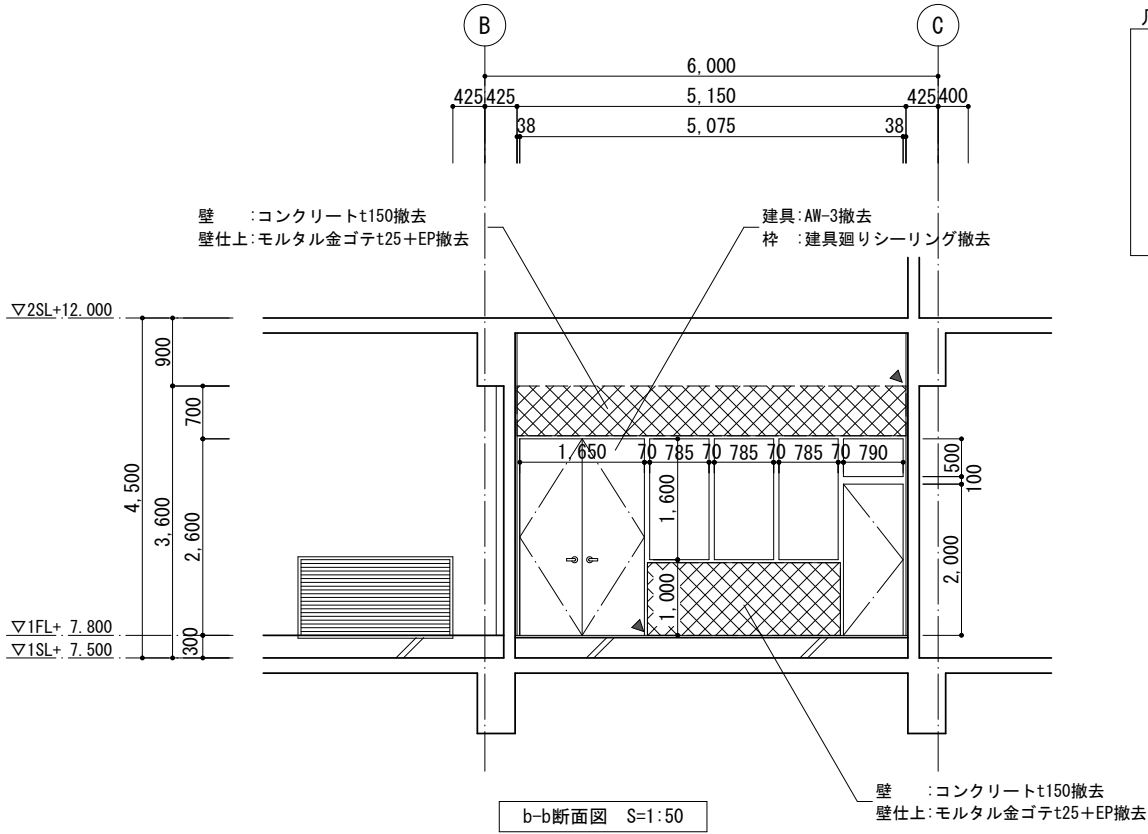
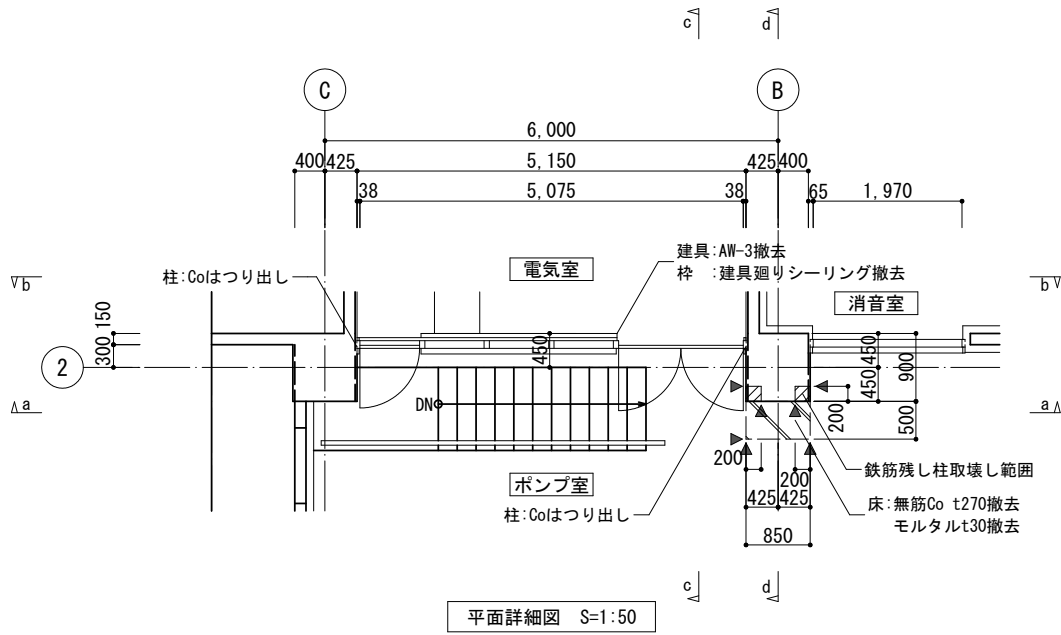


図面番号	A-027	縮 尺	1/50
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)		
種 別	改修前・改修後 1階詳細図(3)	番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内		
設計年月	2025年8月		
福 山 市 上 下 水 道 局			

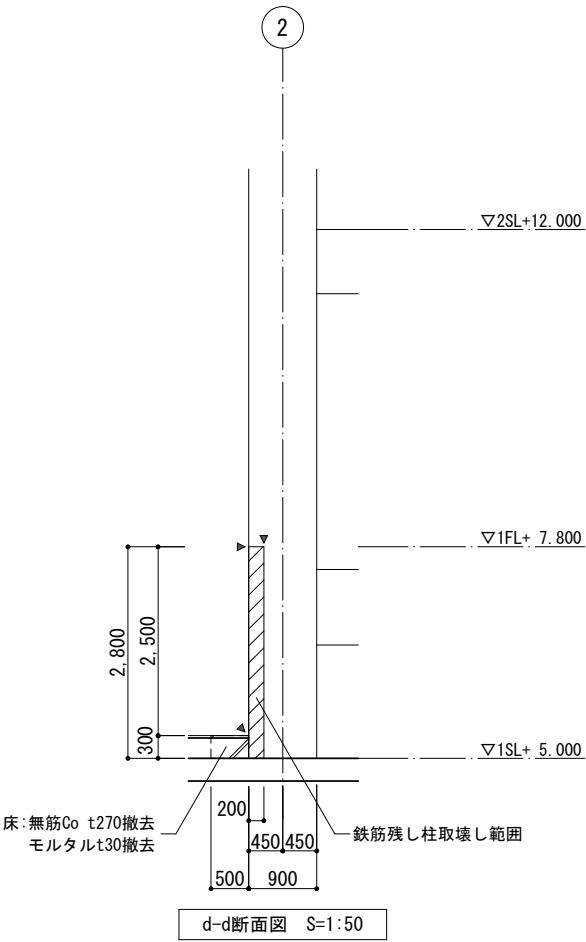
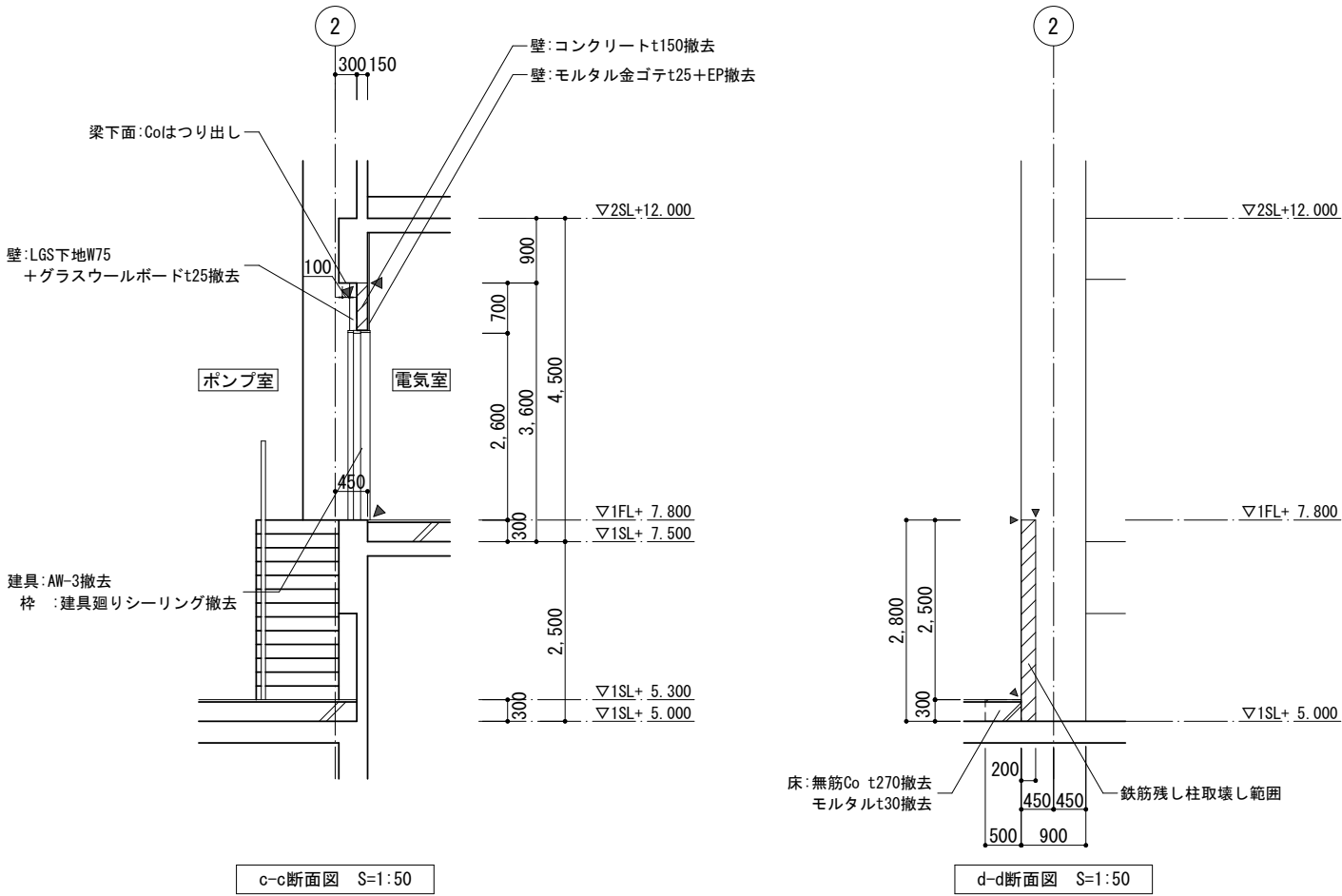
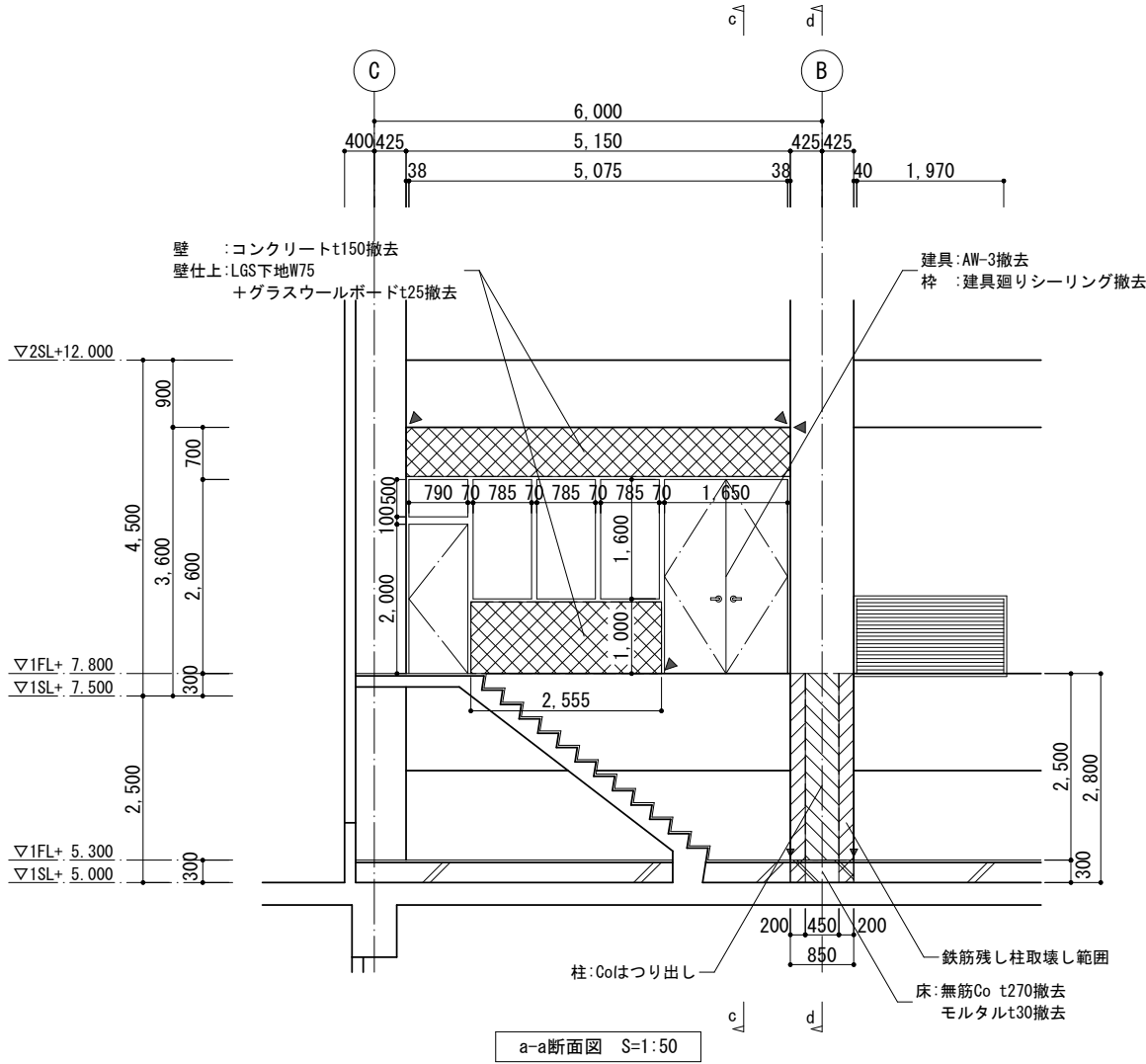
改 修 前



1階 2通 B～C間 壁取壊し、建具撤去、床面/柱面 Coはつり出し

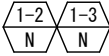


- 凡 例
- 躯体撤去
 - 壁仕上撤去
 - 無筋コンクリート撤去
 - 床仕上撤去
 - 天井仕上撤去
 - ▶ カッター入れ

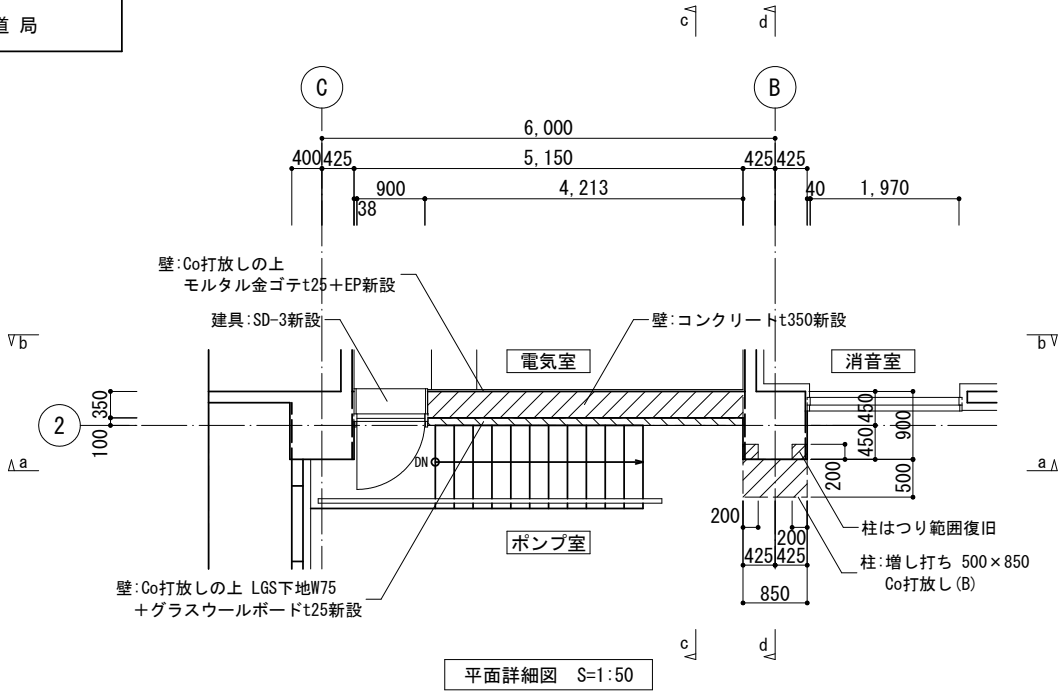


図面番号	A-028	縮 尺	1/50	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	改修前・改修後 1階詳細図(4)		番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

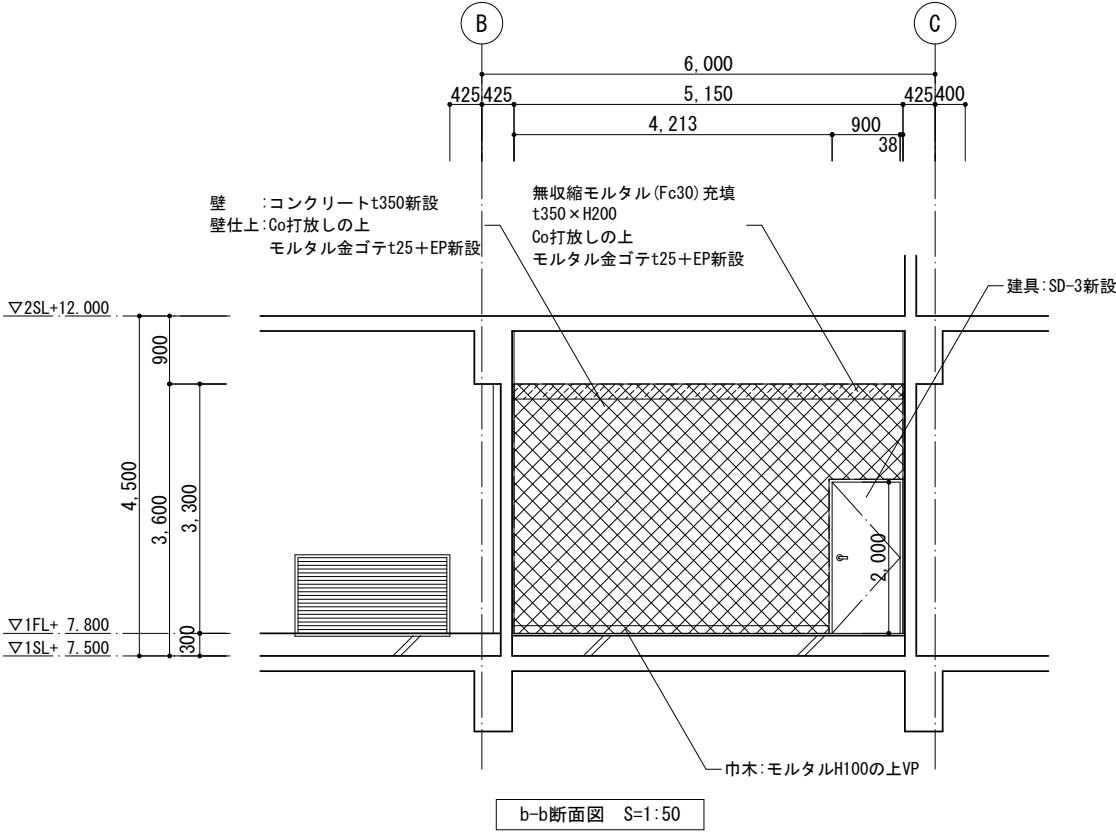
改 修 後



1階 2通 B～C通間 耐震壁EW35新設、建具新設、柱増打



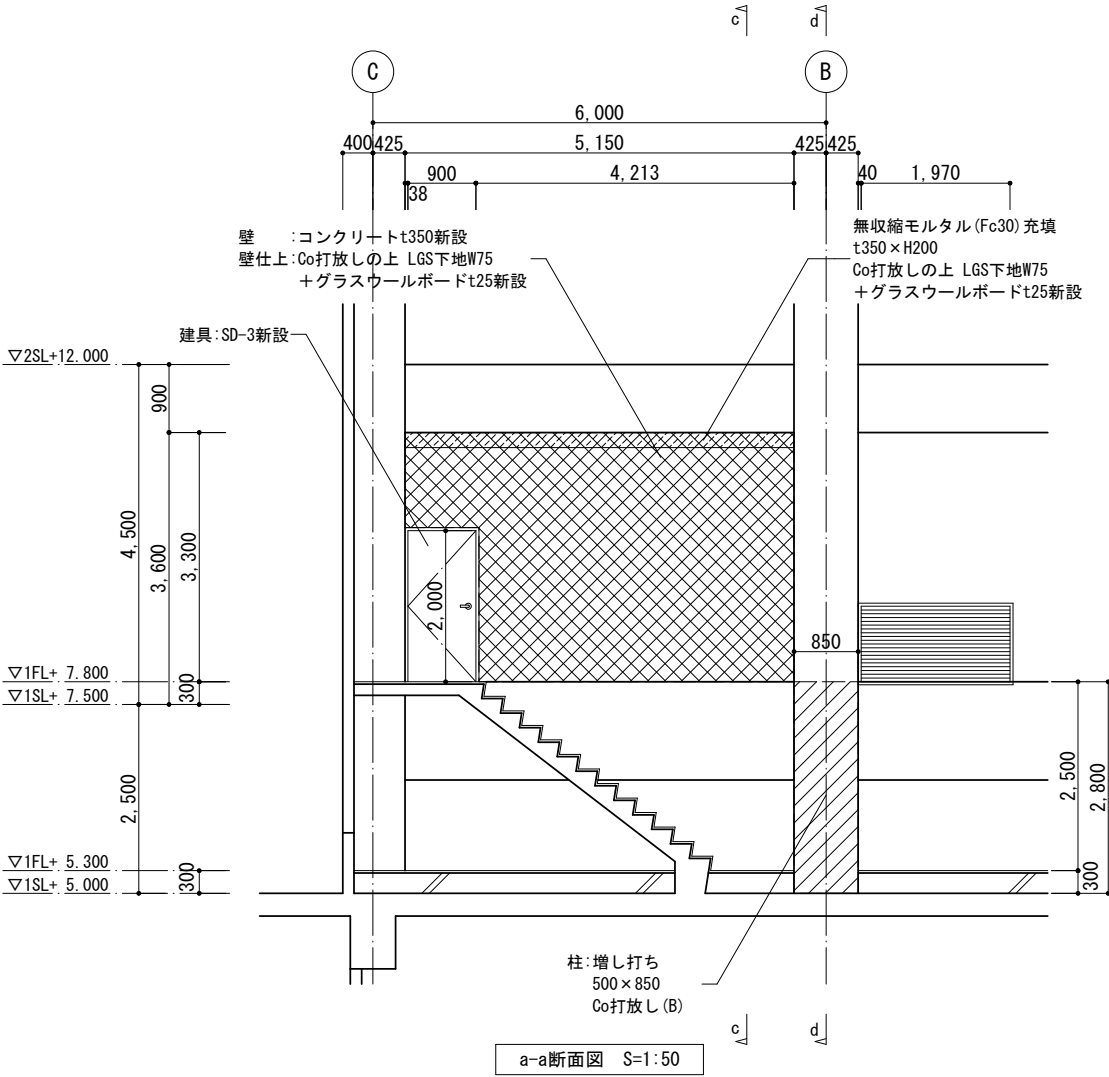
平面詳細図 S=1:50



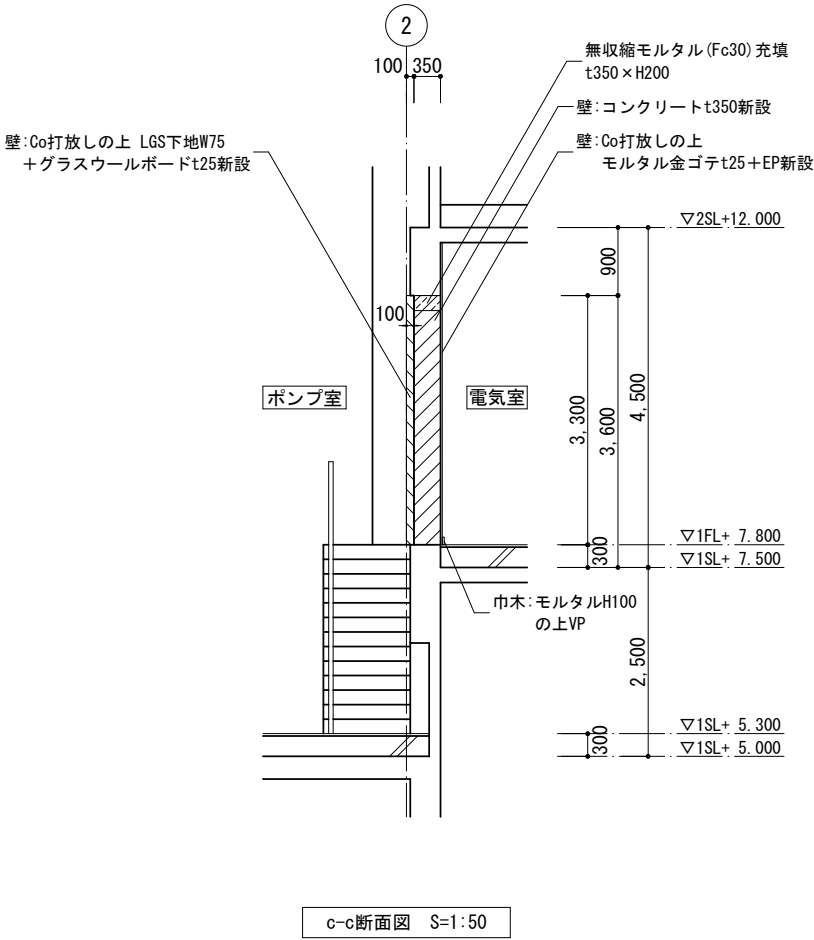
b-b断面図 S=1:50

凡 例

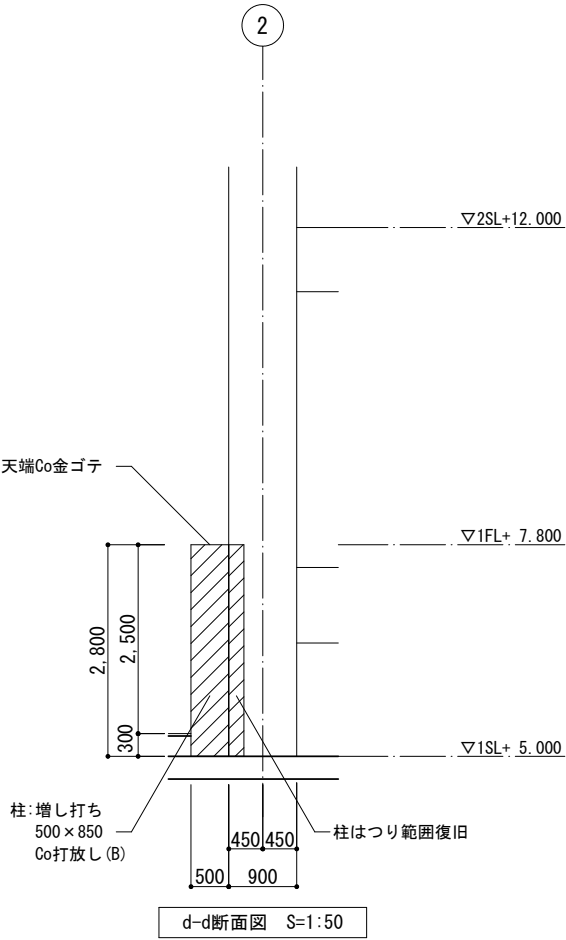
- 躯体新設
- 壁仕上新設
- 無筋コンクリート新設
- 床仕上新設
- 天井仕上新設
- 伸縮目地・打継目地



a-a断面図 S=1:50



c-c断面図 S=1:50



d-d断面図 S=1:50

図面番号	A-029	縮 尺	1/20, 1/50
工 事 名	新選ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)		
種 別	改修前・改修後 1階詳細図(5)	番 号	
工事箇所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
設計年月	2025年8月		
福 山 市 上 下 水 道 局			

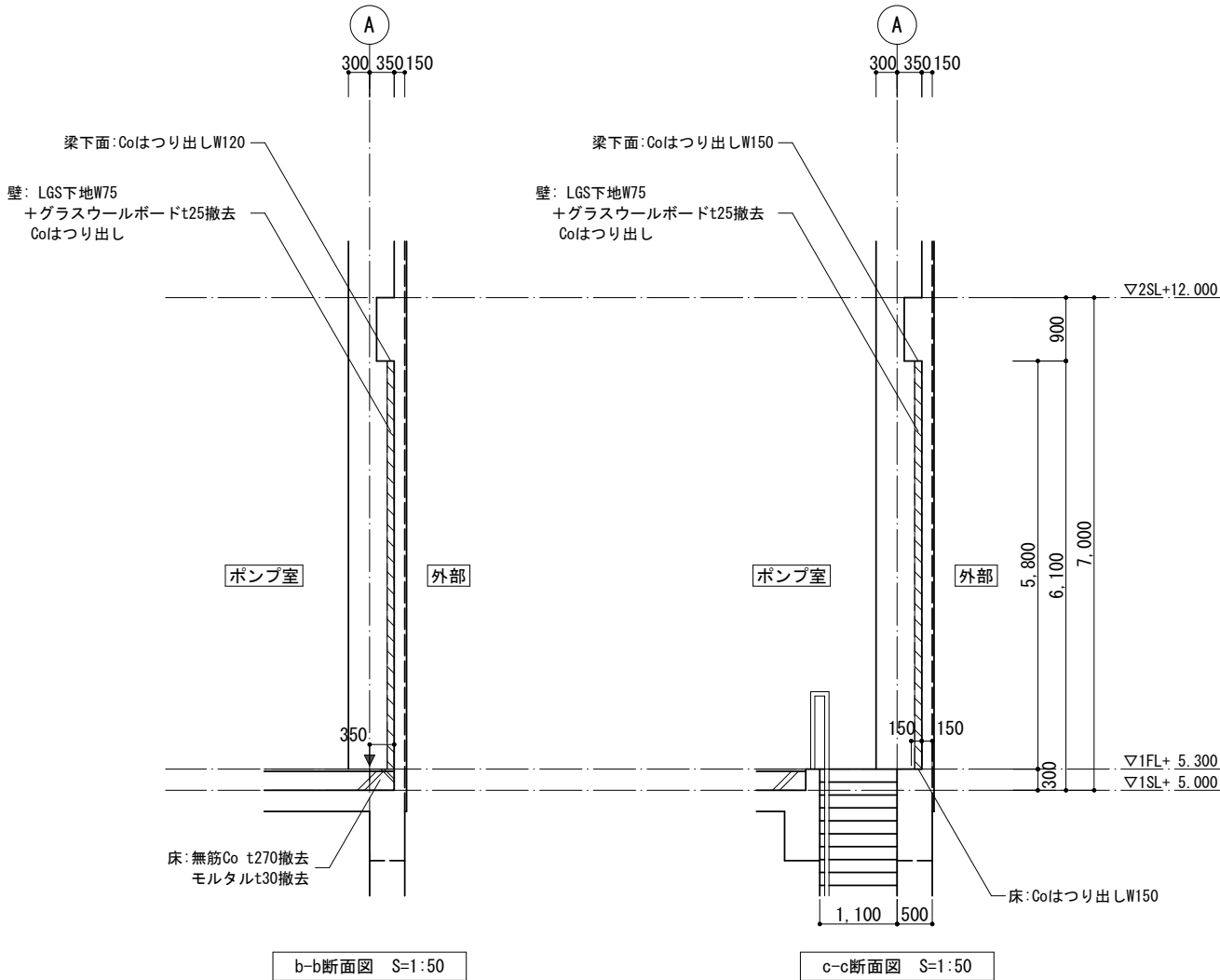
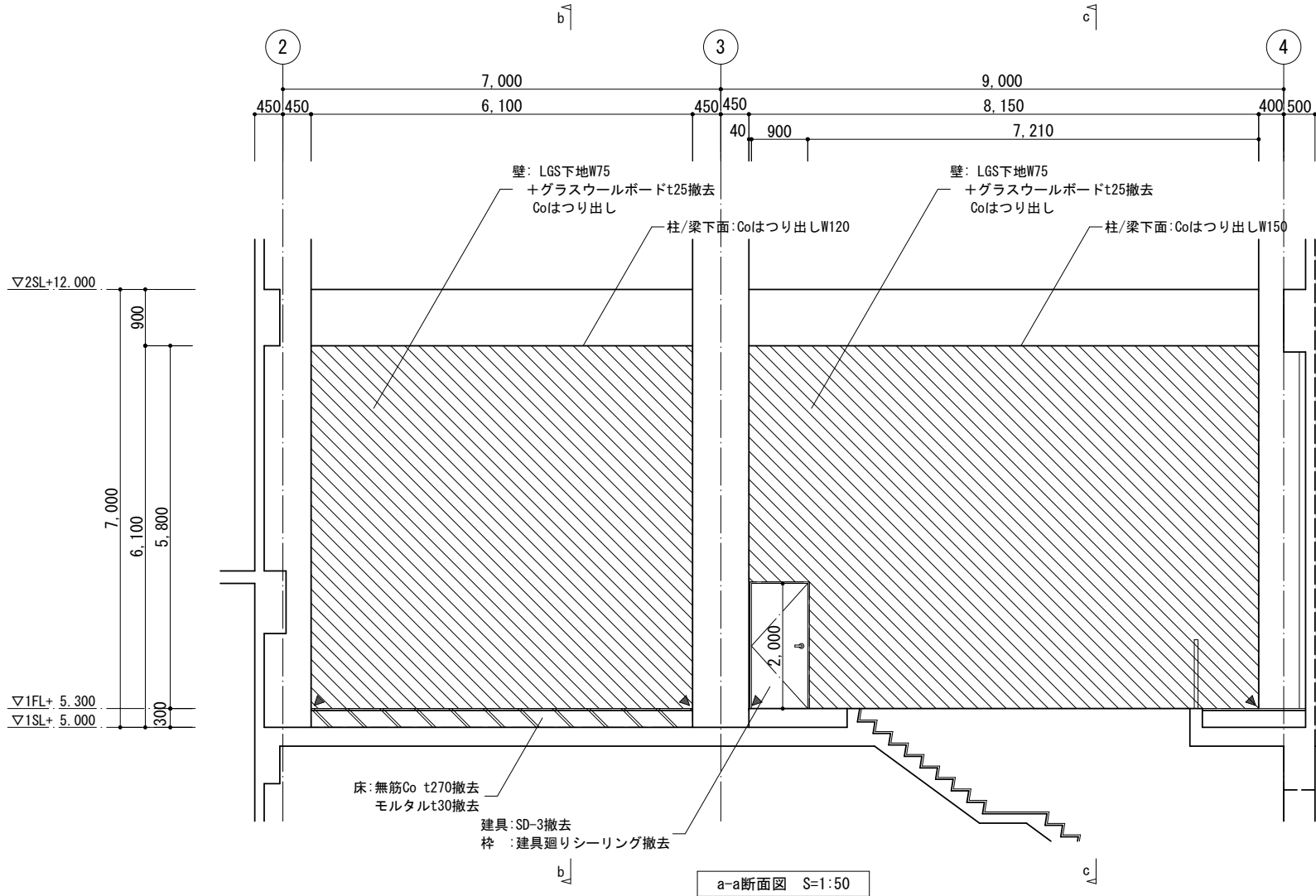
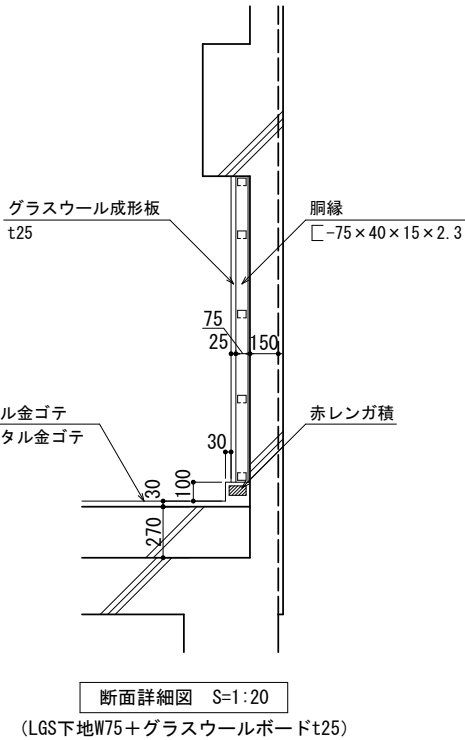
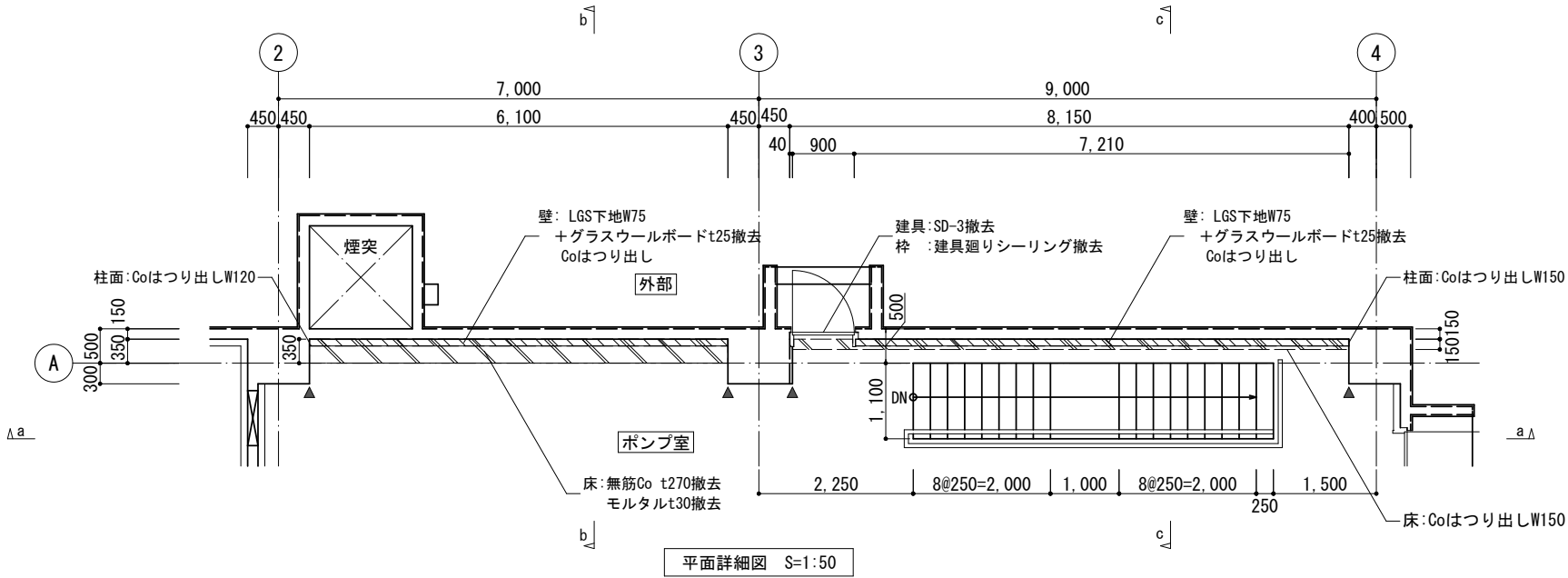
改 修 前

1-4
0

1階 A通 2~4通間 床面/壁面/柱面/梁下面 Colはつり出し

凡 例

- 躯体撤去
- 壁仕上撤去
- 無筋コンクリート撤去
- 床仕上撤去
- 天井仕上撤去
- ▶ カッター入れ



c-c断面図 S=1:50

図面番号	A-030		縮 尺	1/20, 1/50	
工 事 名	新渚ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	改修前・改修後 1階詳細図(6)			番 号	
工事箇所	福山市新渚町二丁目及び新渚町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

改 修 後

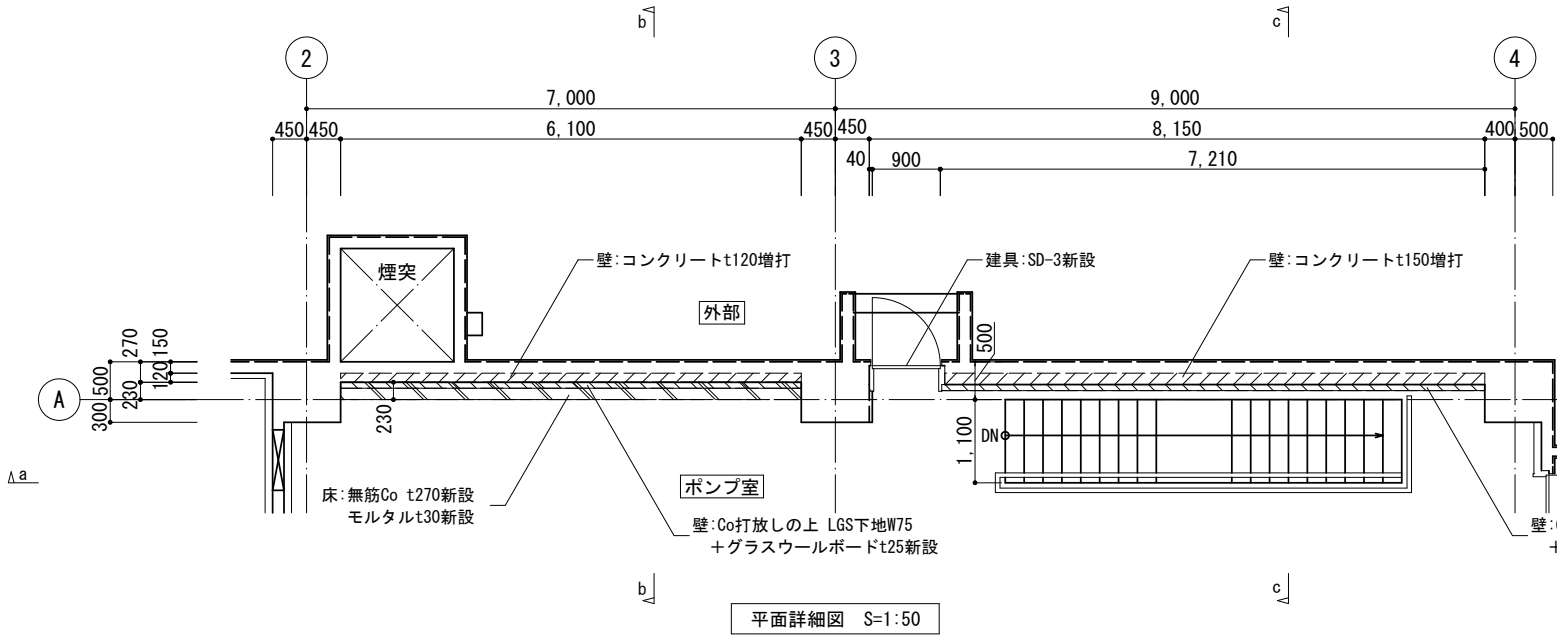


1階 A通 2~4通間 耐震壁EW15増打、耐震壁EW12増打、建具新設

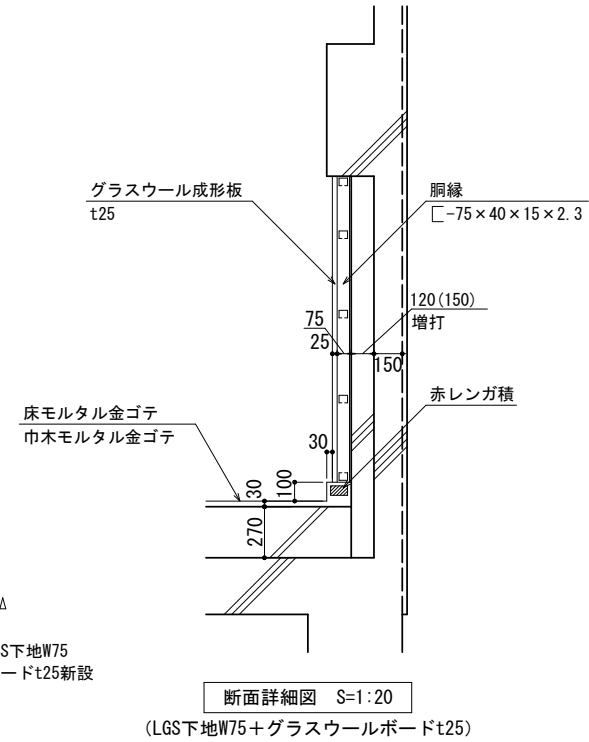
凡 例

- 躯体新設
- 壁仕上新設
- 無筋コンクリート新設
- 床仕上新設
- 天井仕上新設

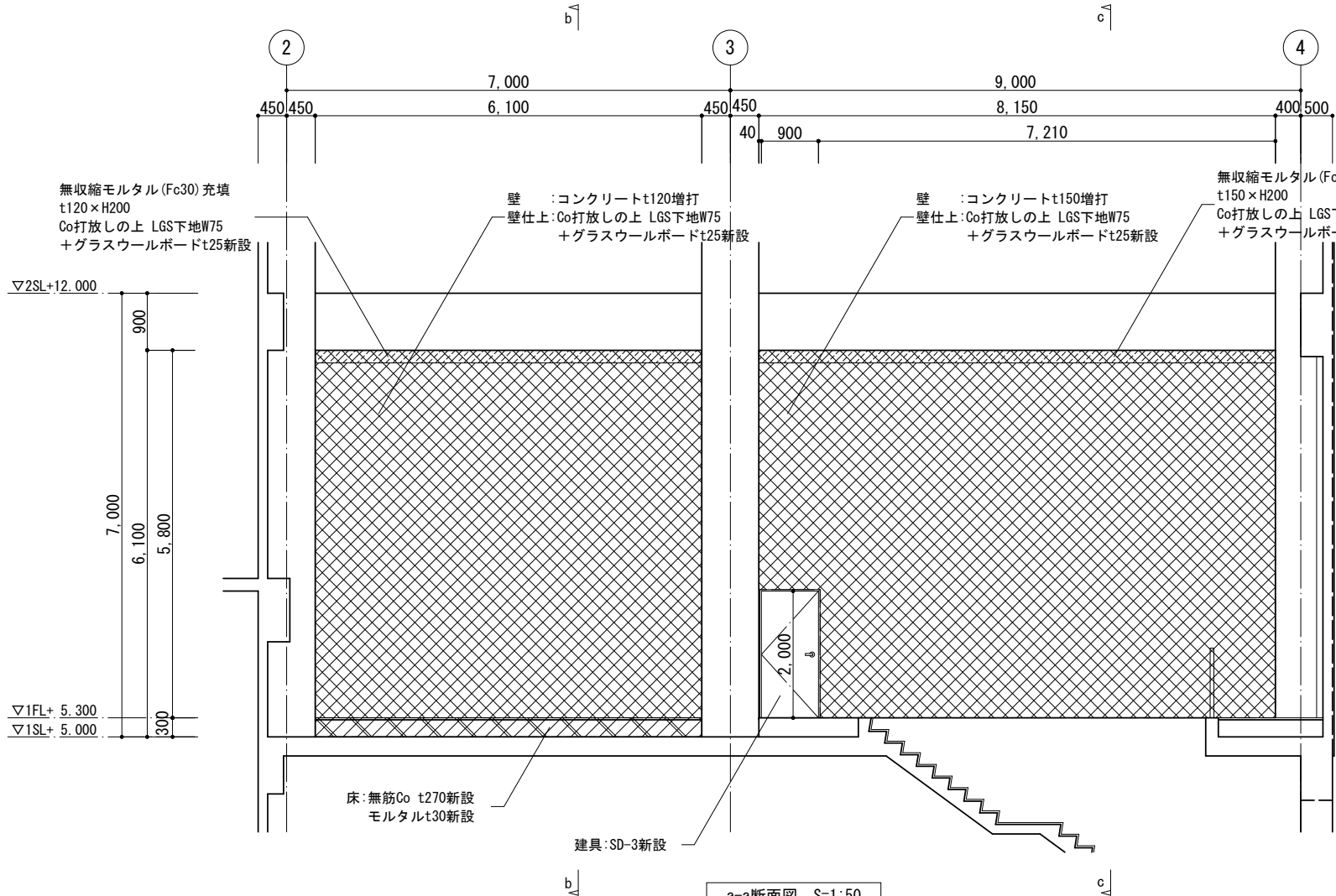
伸縮目地・打継目地



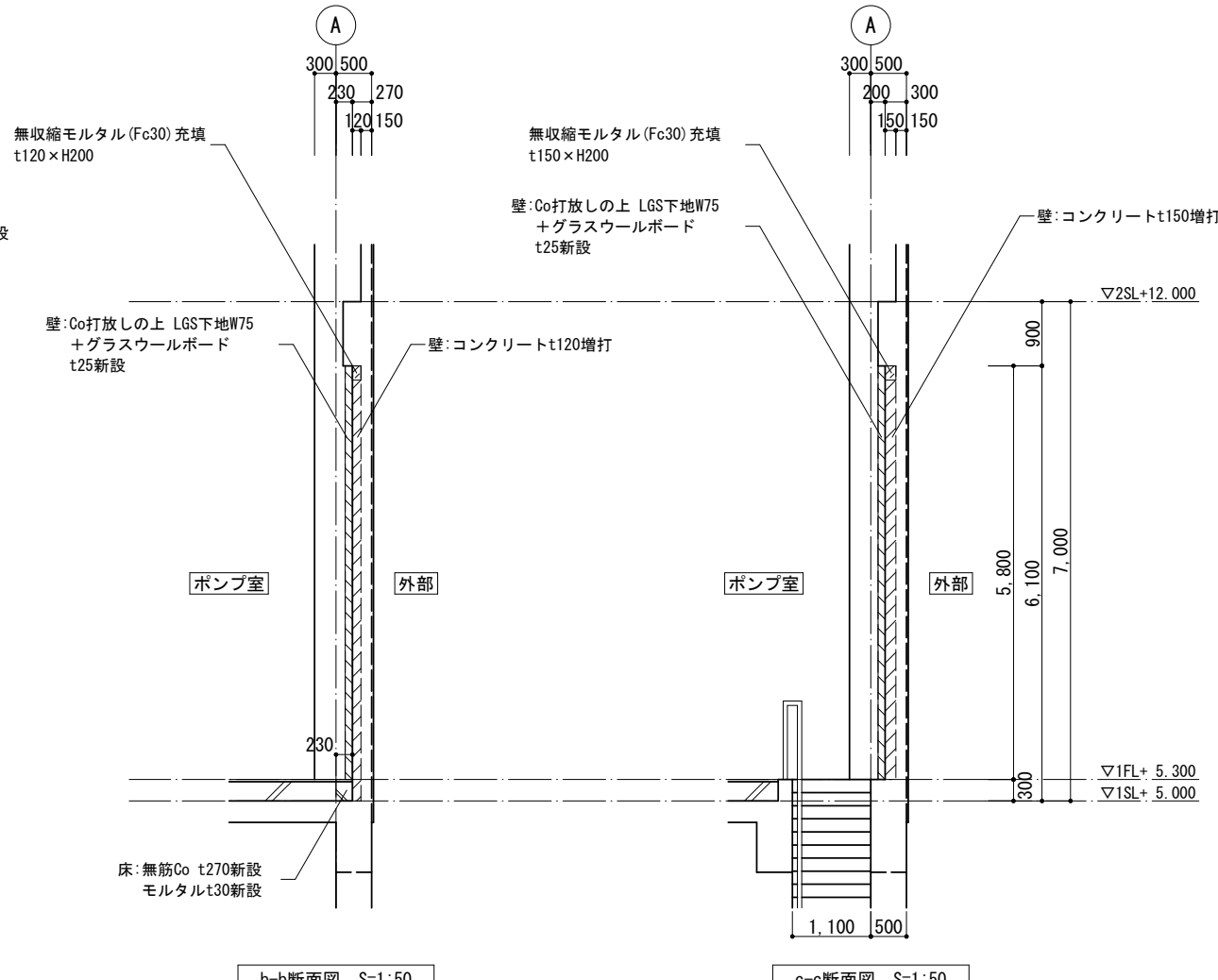
平面詳細図 S=1:50



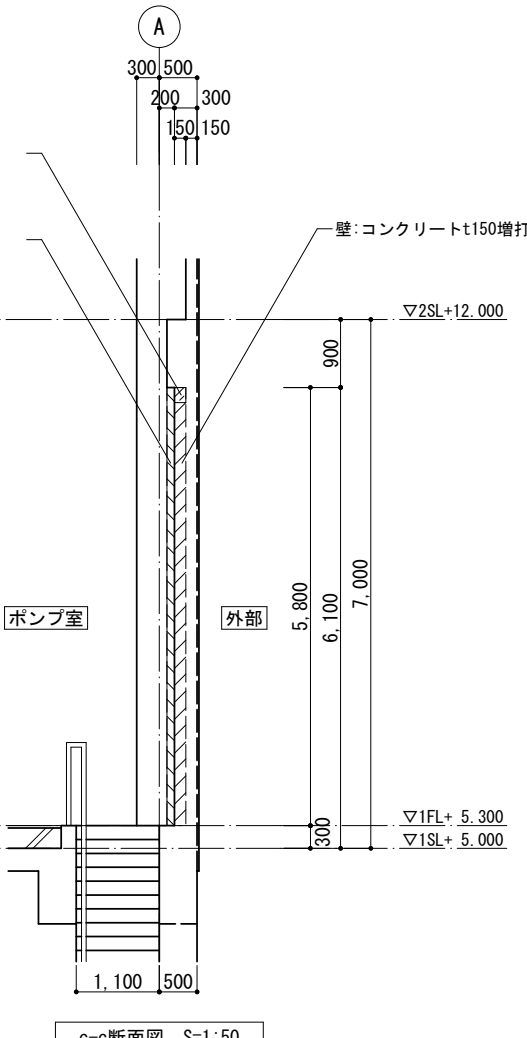
断面詳細図 S=1:20
(LGS下地W75+ガラスウールボードt25)



a-a断面図 S=1:50



b-b断面図 S=1:50

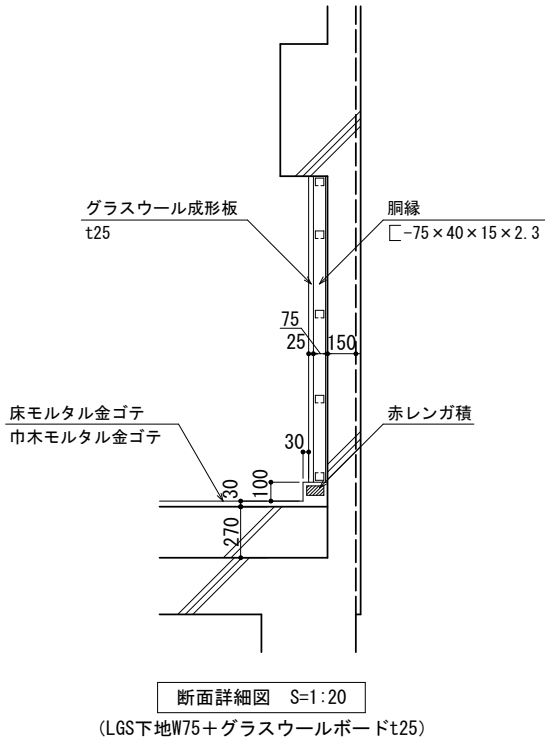
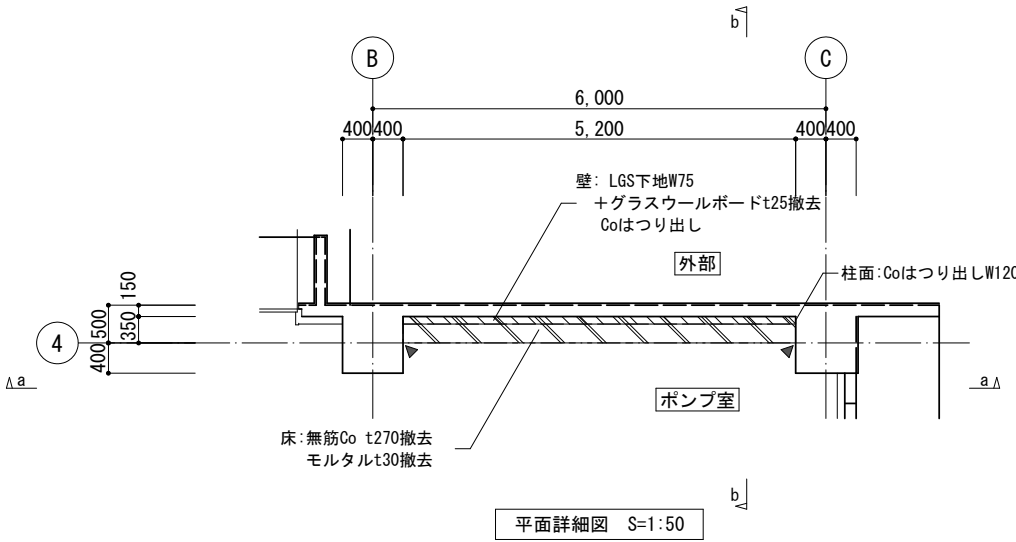


c-c断面図 S=1:50

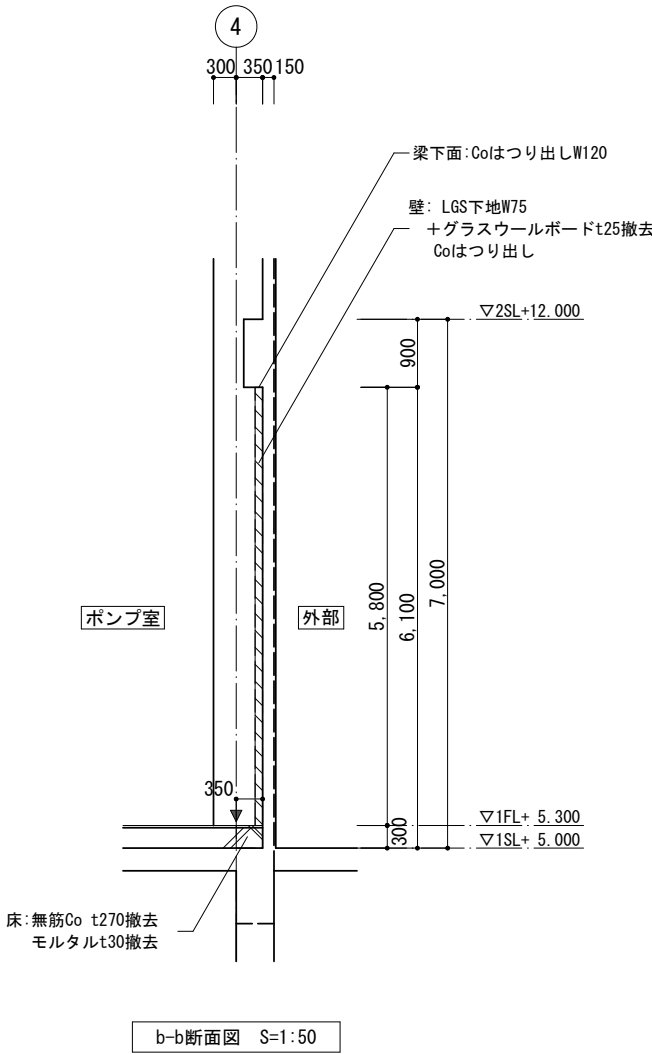
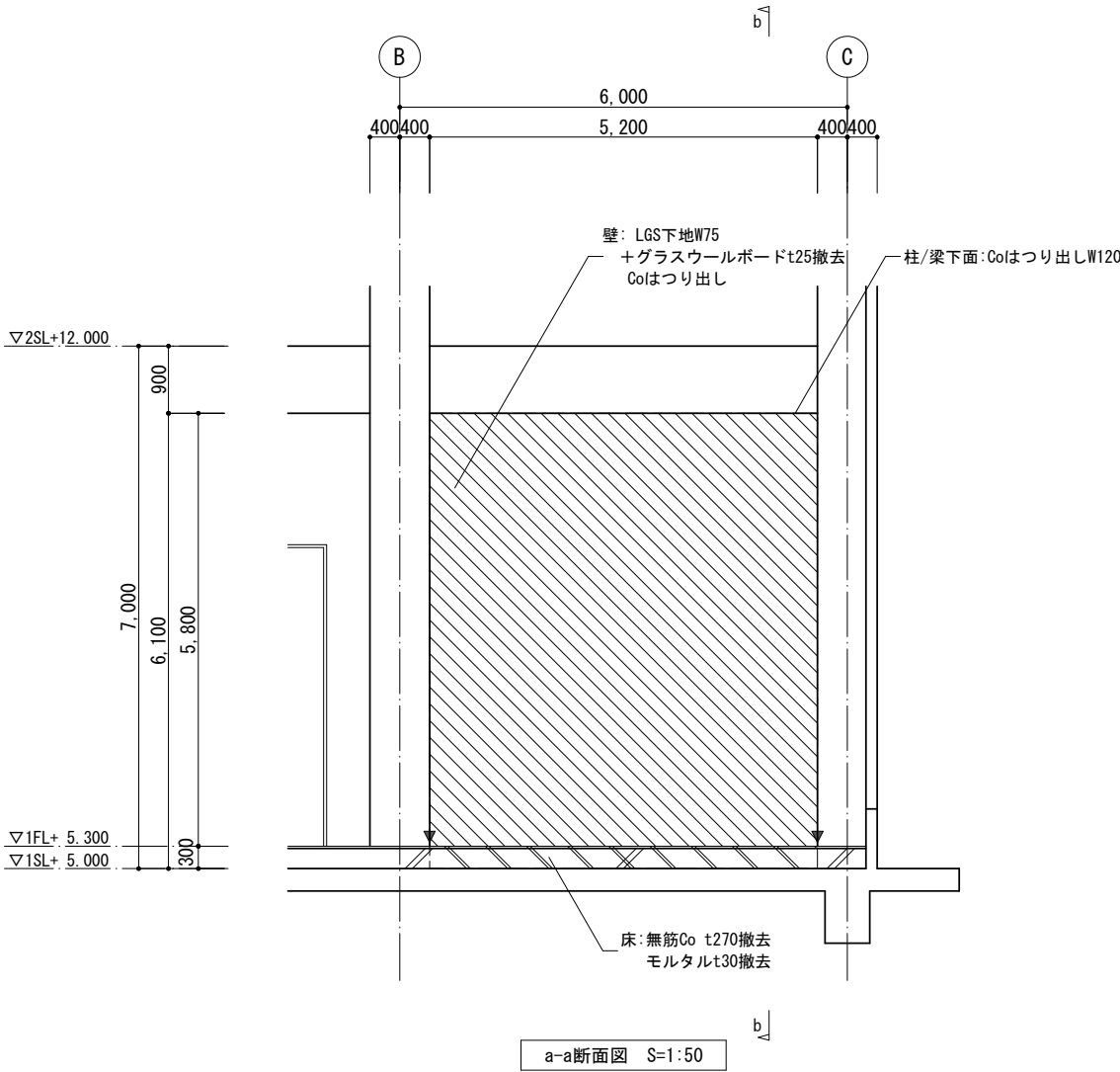
図面番号	A-031	縮 尺	1/20, 1/50
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)		
種 別	改修前・改修後 1階詳細図(7)	番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内		
設計年月	2025年8月		
福 山 市 上 下 水 道 局			

改 修 前

1-5
0 1階 4通 B〜C通間 床面/壁面/柱面/梁下面 Colはつり出し



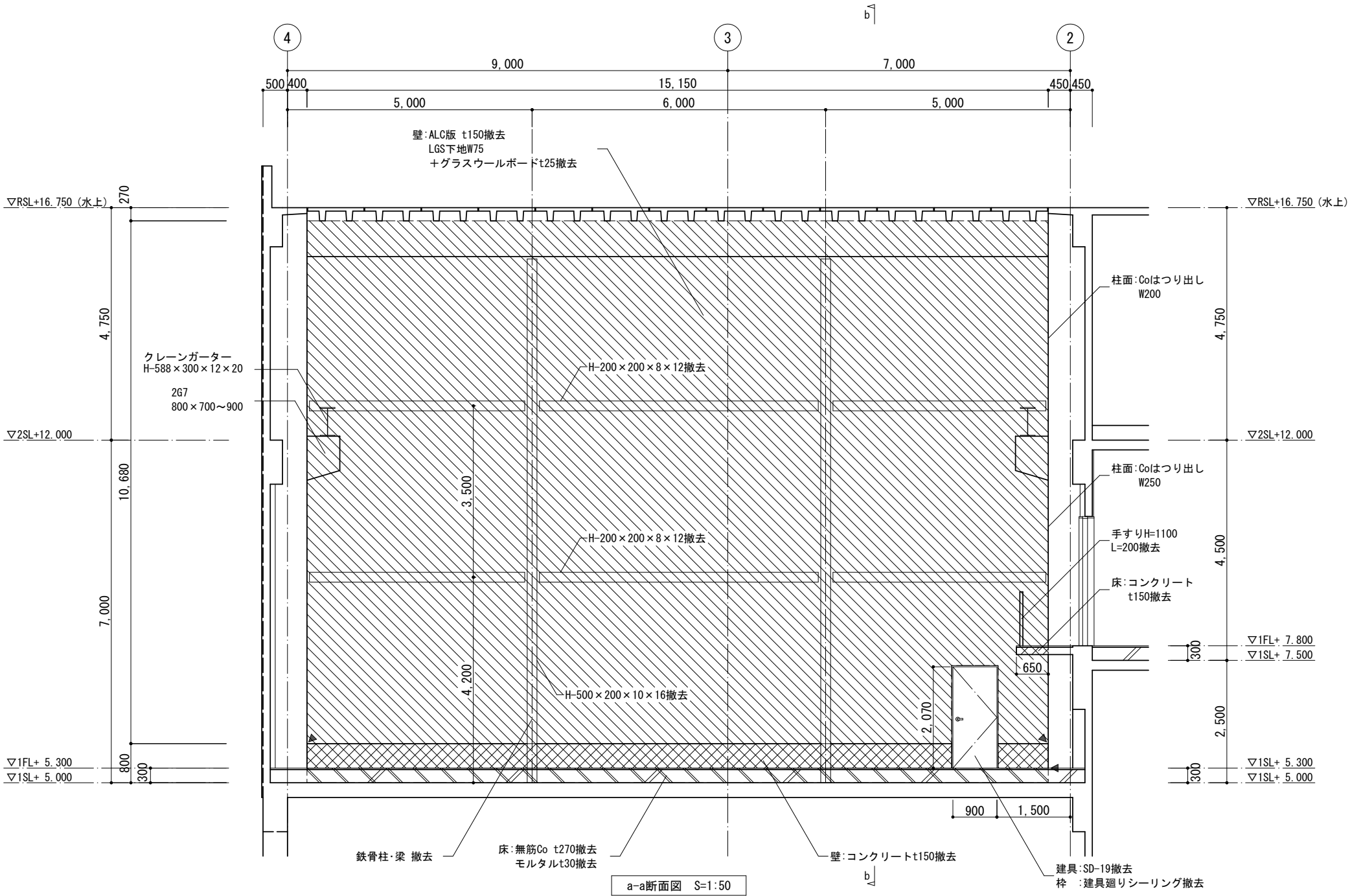
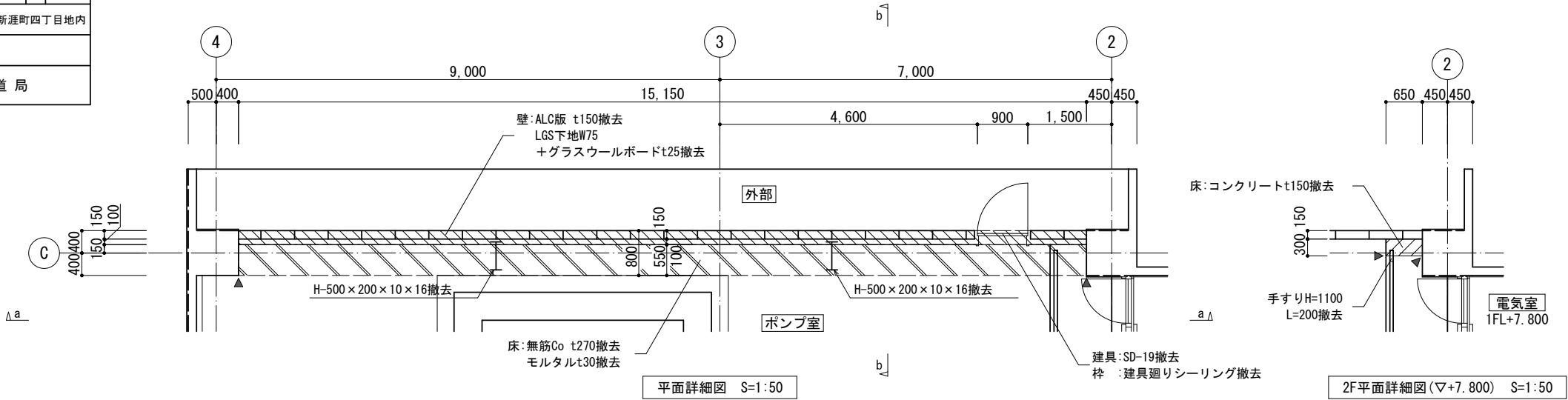
- 凡 例
- 躯体撤去
 - 壁仕上撤去
 - 無筋コンクリート撤去
 - 床仕上撤去
 - 天井仕上撤去
 - ▶ カッター入れ



図面番号	A-033	縮 尺	1/50
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)		
種 別	改修前・改修後 1階詳細図(9)	番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内		
設計年月	2025年8月		
福 山 市 上 下 水 道 局			

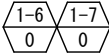
改 修 前

1-6 1-7
0 0 1階 C通 2~4通間 壁取壊し

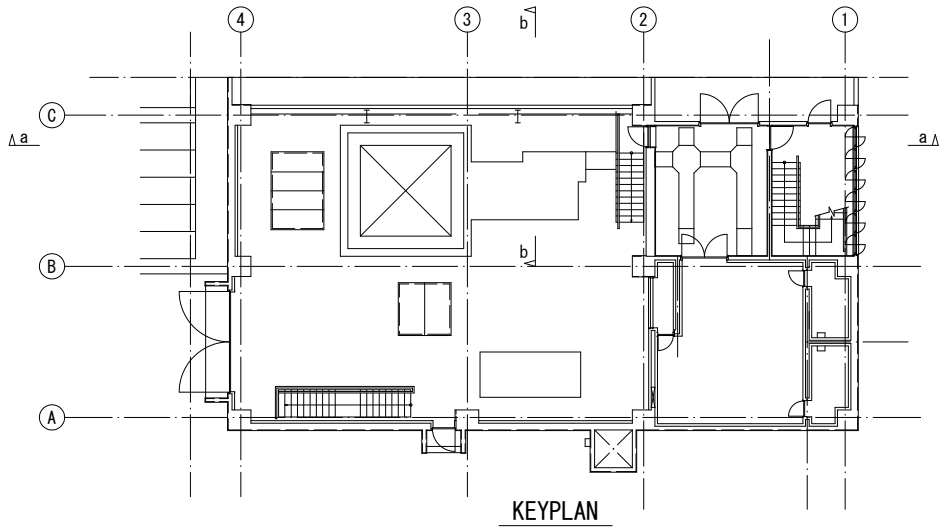


図面番号	A-034	縮 尺	1/20, 1/50
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)		
種 別	改修前・改修後 1階詳細図(10)	番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内		
設計年月	2025年8月		
福 山 市 上 下 水 道 局			

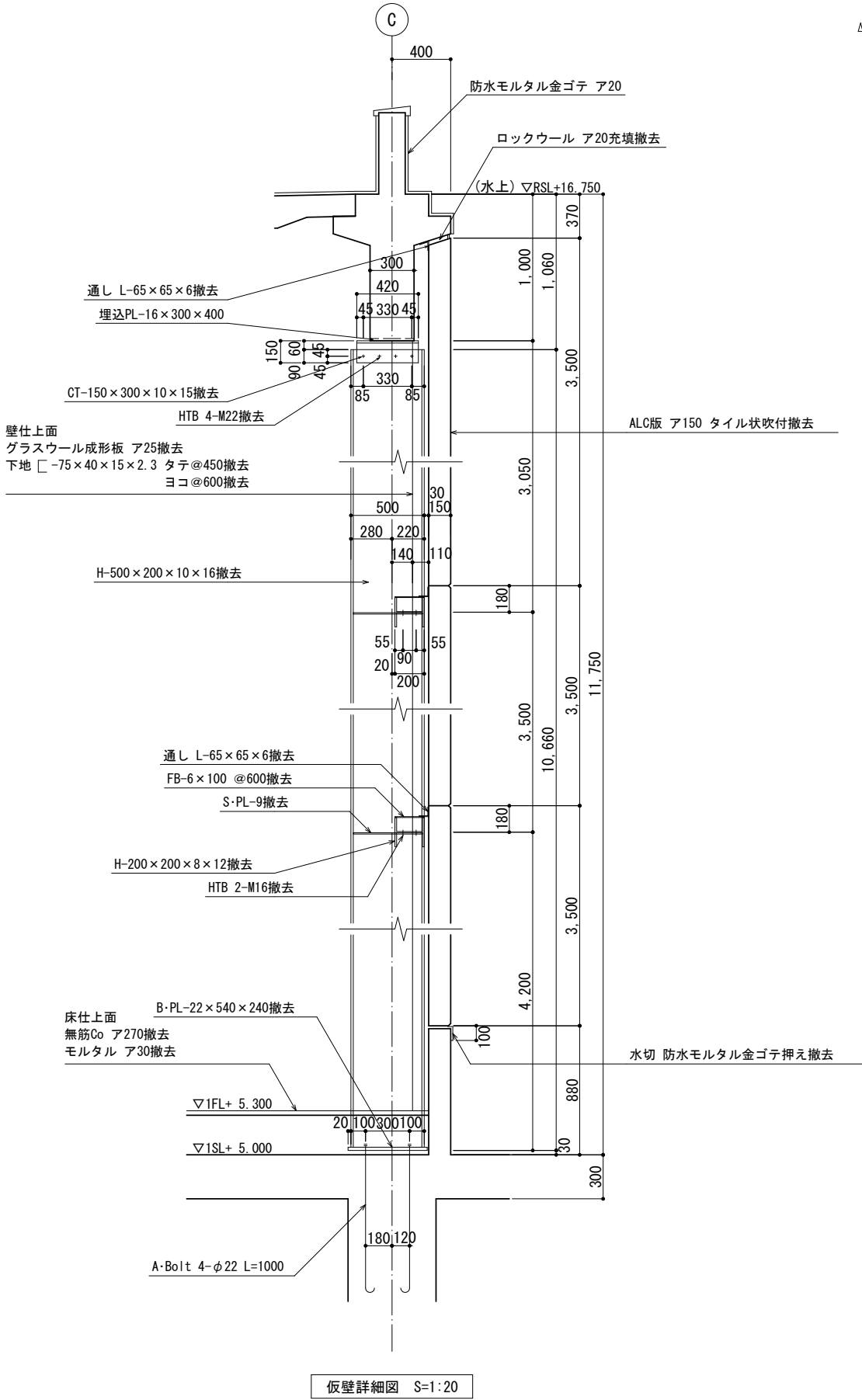
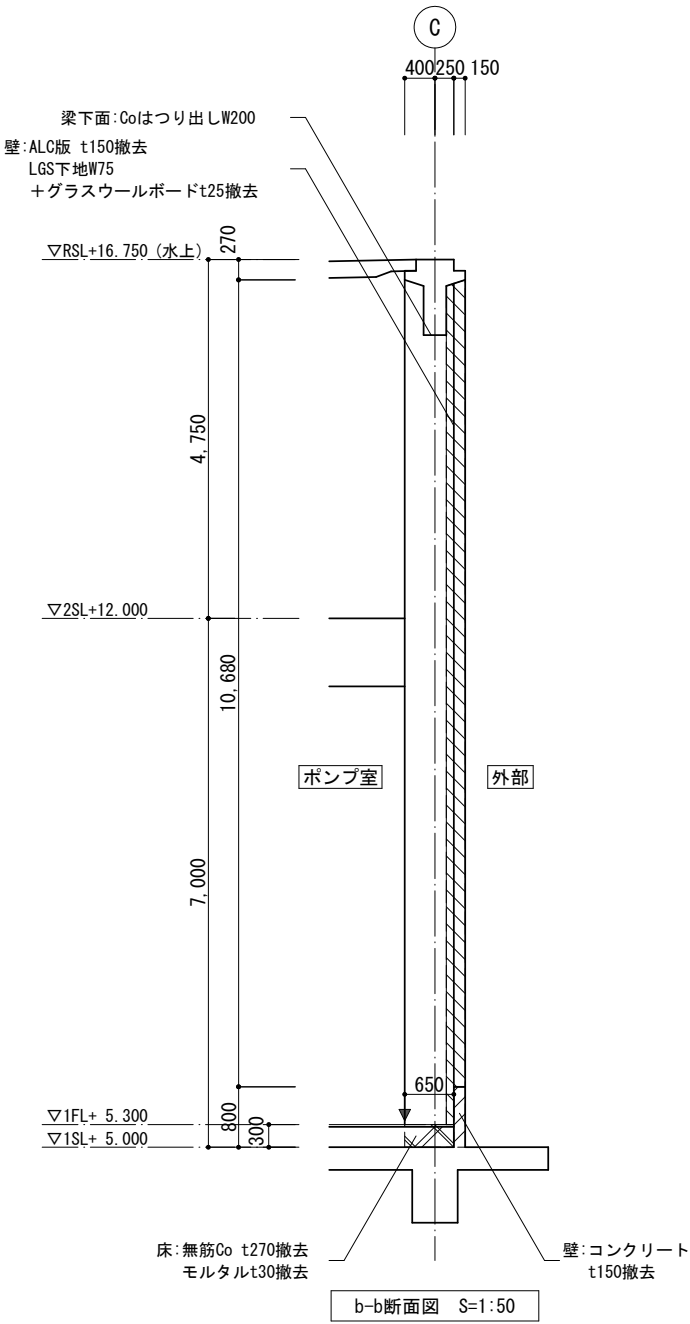
改 修 前



1階 C通 2~4通間 壁取壊し



- 凡 例
- 躯体撤去
 - 壁仕上撤去
 - 無筋コンクリート撤去
 - 床仕上撤去
 - 天井仕上撤去
 - ▶ カッター入れ



図面番号	A-035		縮 尺	1/50	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	改修前・改修後 1階詳細図(11)			番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

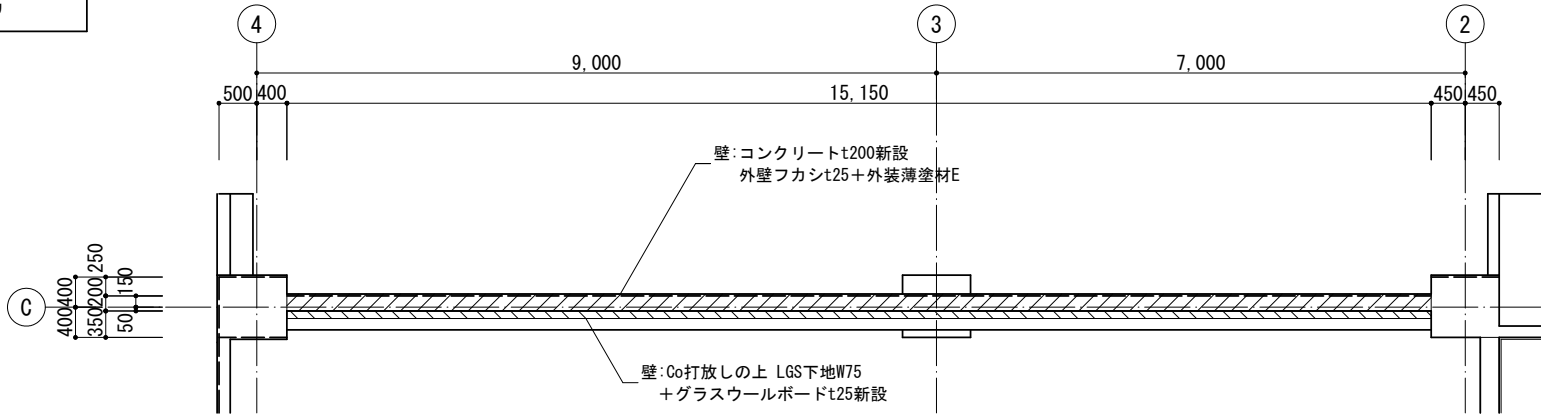
改 修 後



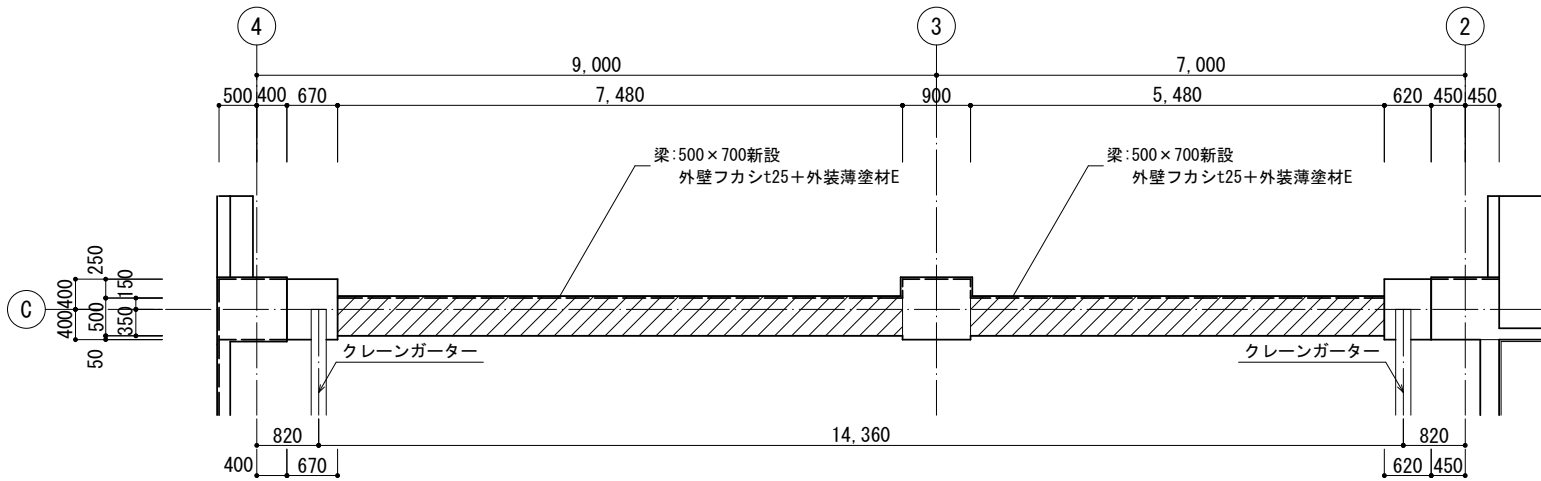
1階 C通 2～4通間 耐震壁EW25新設、耐震壁EW20新設、柱新設、梁新設、建具新設

凡 例

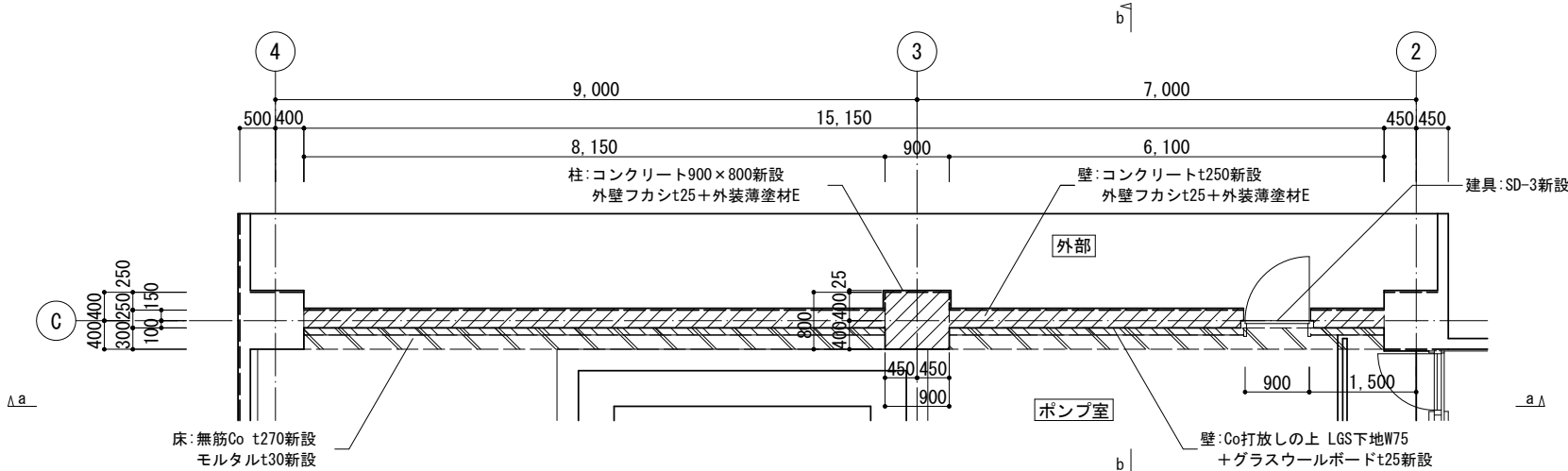
躯体新設

壁仕上新設

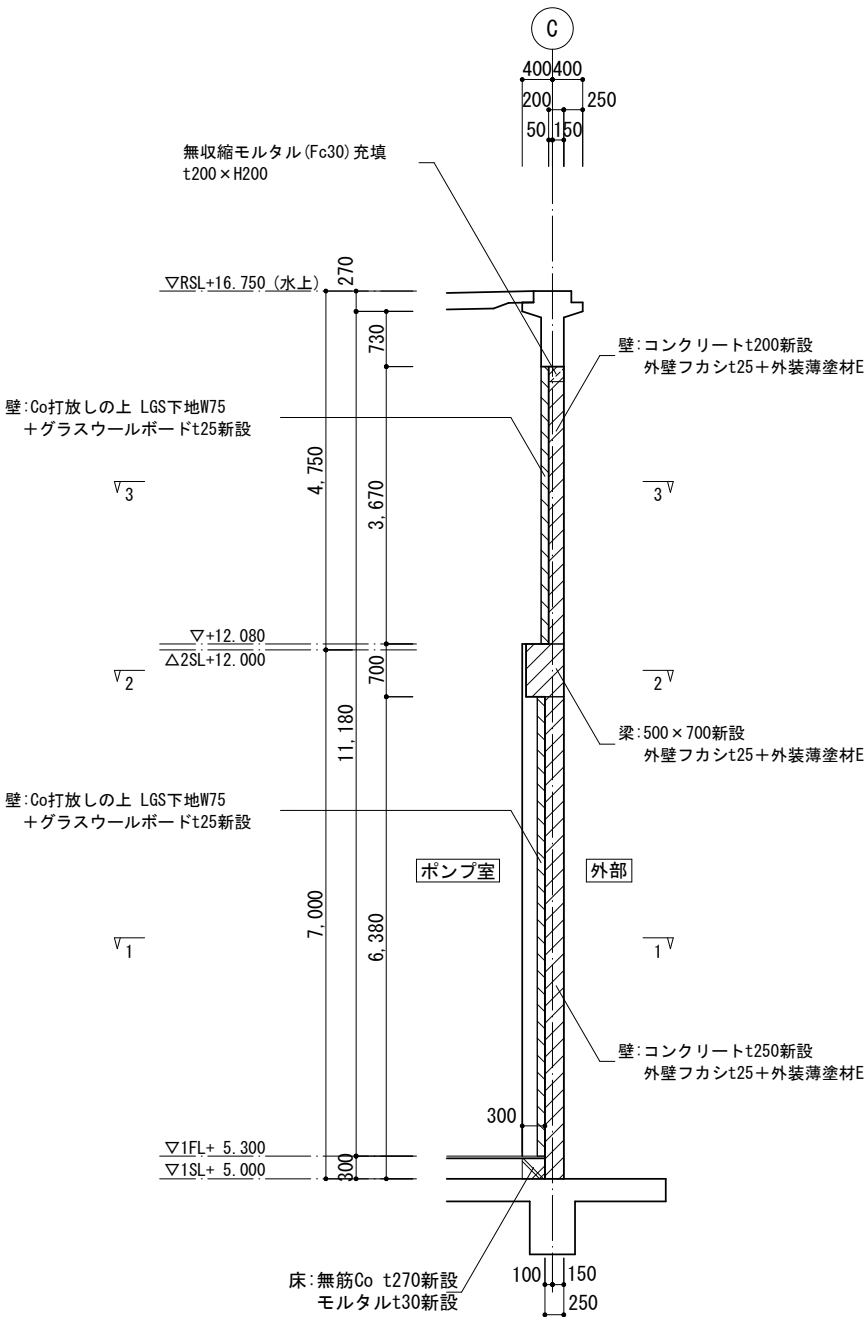
3-3平面図 S=1:50



2-2平面図 S=1:50



1-1平面図 S=1:50



b-b断面図 S=1:50

図面番号	A-036	縮 尺	1/20, 1/50
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)		
種 別	改修前・改修後 1階詳細図(12)	番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内		
設計年月	2025年8月		
福 山 市 上 下 水 道 局			

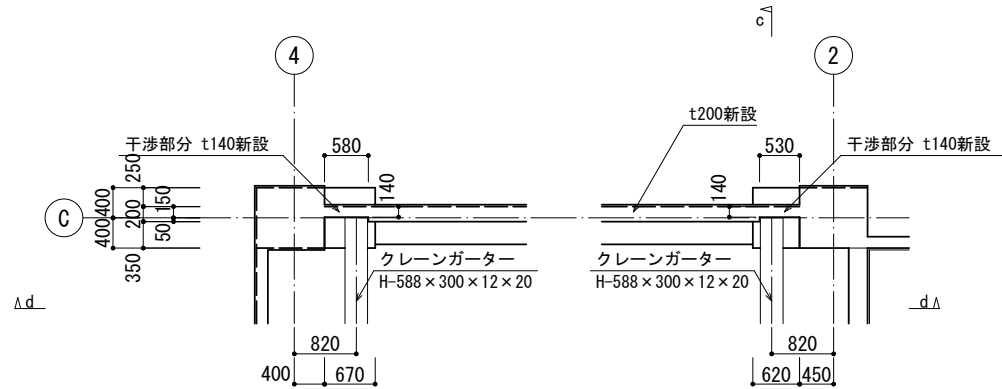
改 修 後



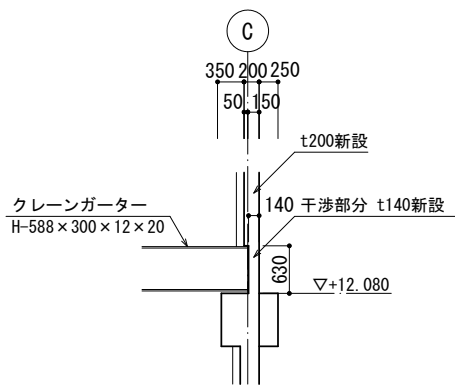
1階 C通 2～4通間 耐震壁EW25新設、耐震壁EW20新設、柱新設、梁新設、建具新設

凡 例

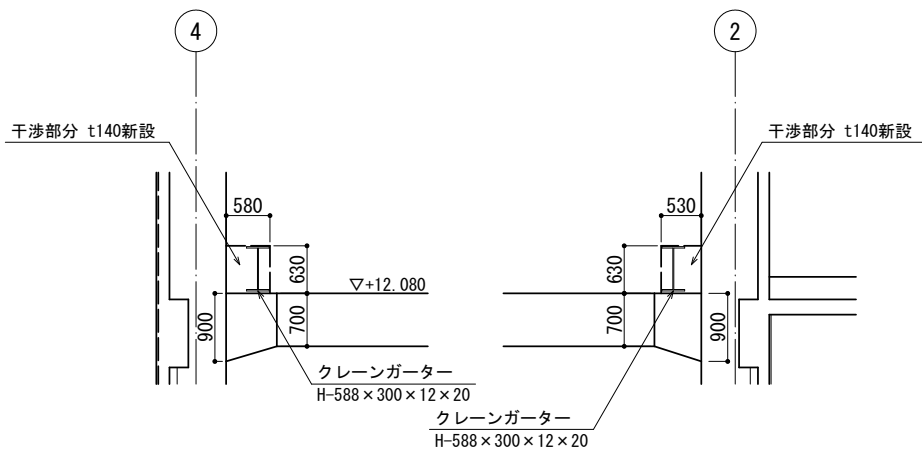
- 躯体新設
- 壁仕上新設
- 無筋コンクリート新設
- 床仕上新設
- 天井仕上新設
- 伸縮目地・打継目地



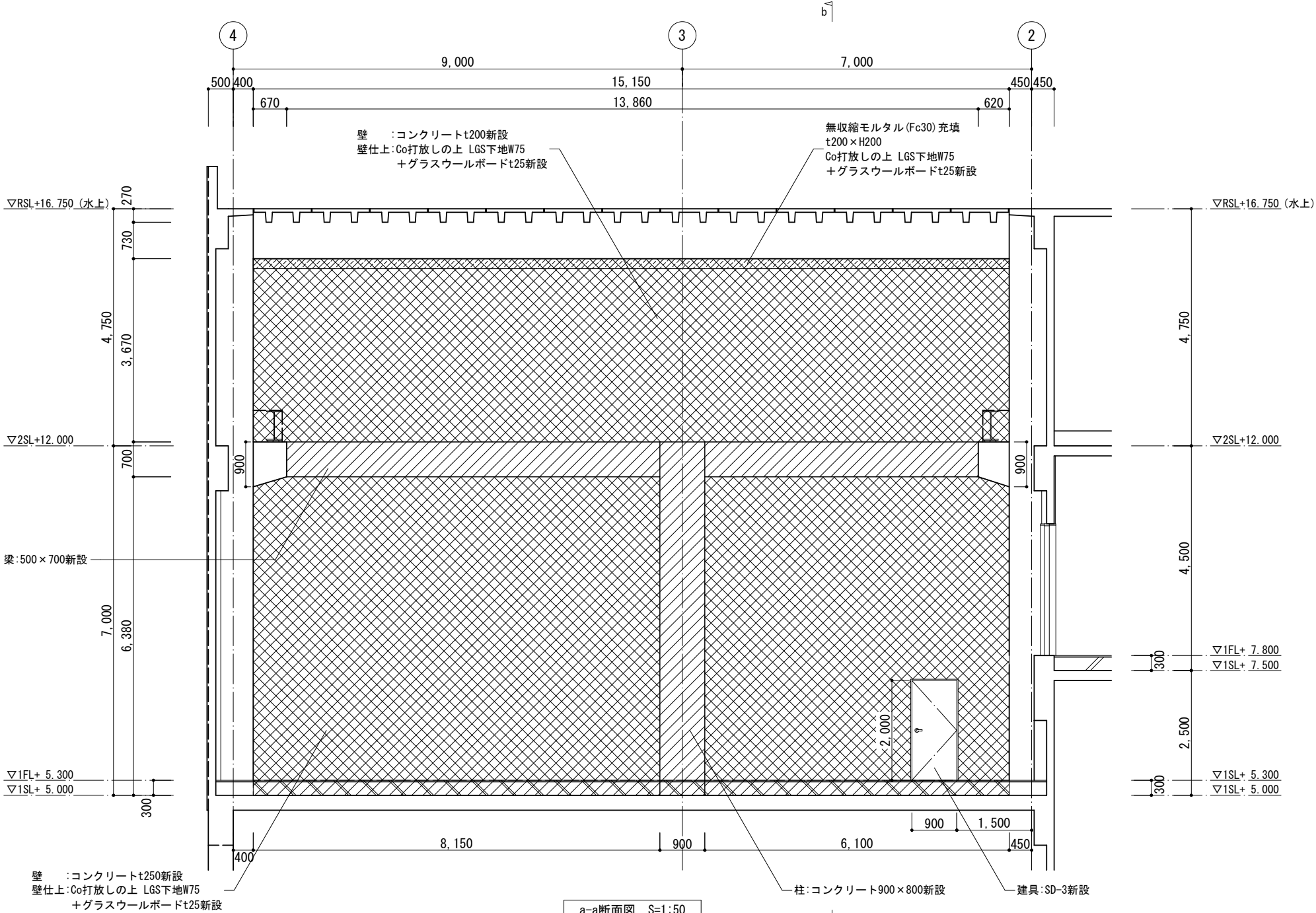
クレーンガーター干渉部分平面図 S=1:50



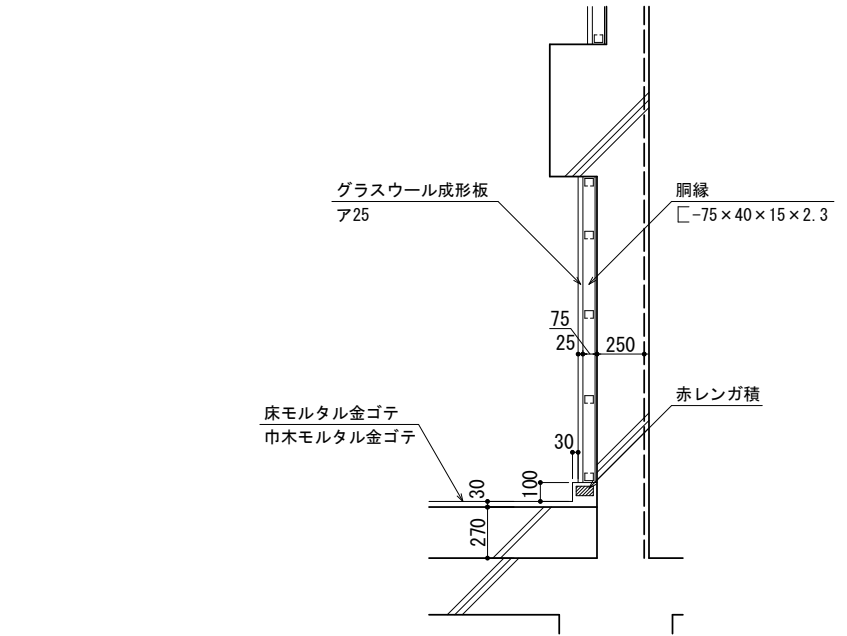
c-c断面図 S=1:50



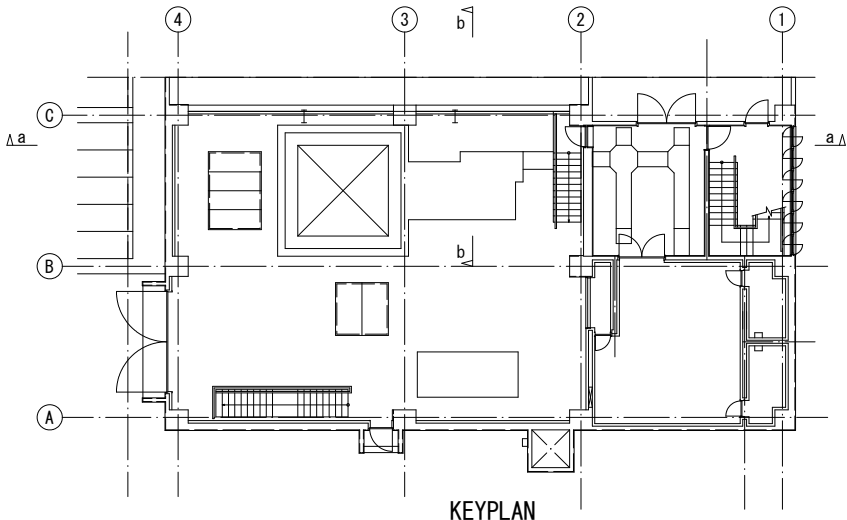
d-d断面図 S=1:50



a-a断面図 S=1:50



断面詳細図 S=1:20
(LGS下地W75+グラスウールボードt25)



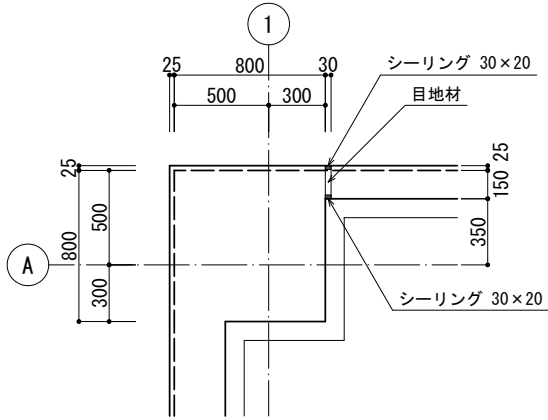
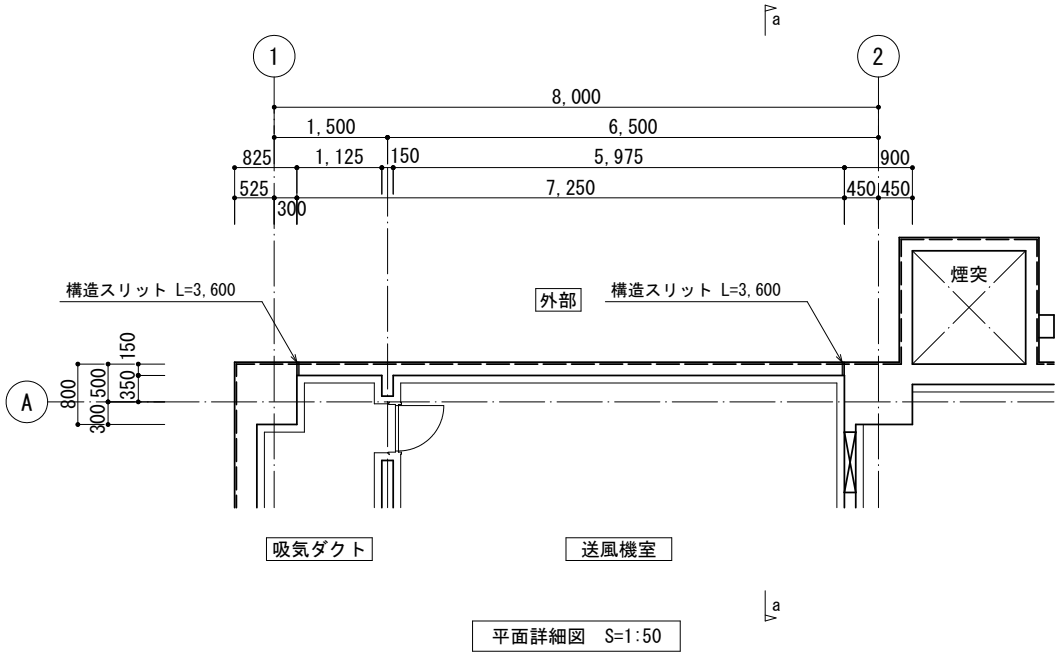
KEYPLAN

図面番号	A-037		縮 尺	1/20, 1/50	
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	改修前・改修後 1階詳細図(13)			番 号	
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

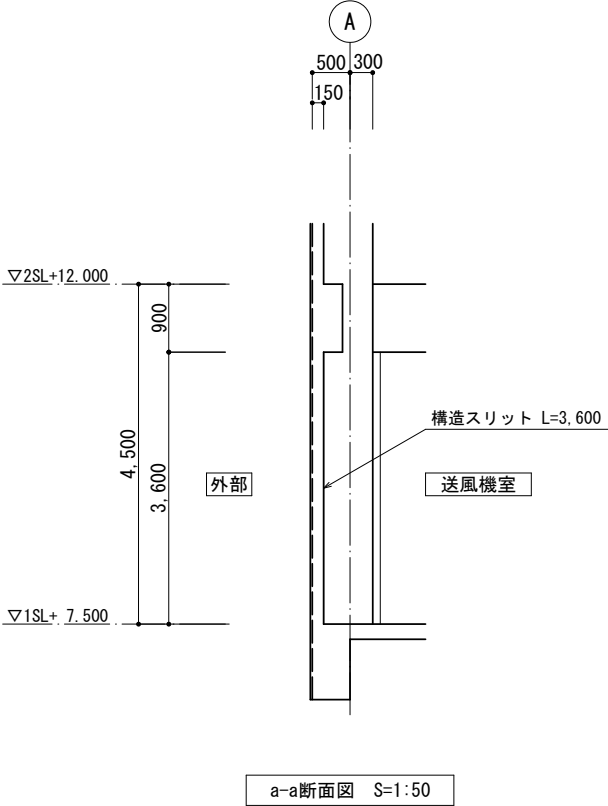
改 修 後



1階 A通 1～2通間 構造スリット新設



- <特記事項>
- ・施工時に埋設配管等の有無を確認すること。
 - ・施工時は配管等の部分に損傷を与えないこと。
 - ・壁厚さは躯体寸法を示している。
 - ・シーリングはPS-2をバックアップ材を用いて施工する。



図面番号	A-038		縮 尺	1/50	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	改修前・改修後 2階詳細図(1)			番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

改 修 前

2階 1通 B～C通間 壁取壊し、建具撤去

- 注)
- 天井仕上材の「ロックウール吸音板」は「アスベスト含有材」

凡 例

躯体撤去

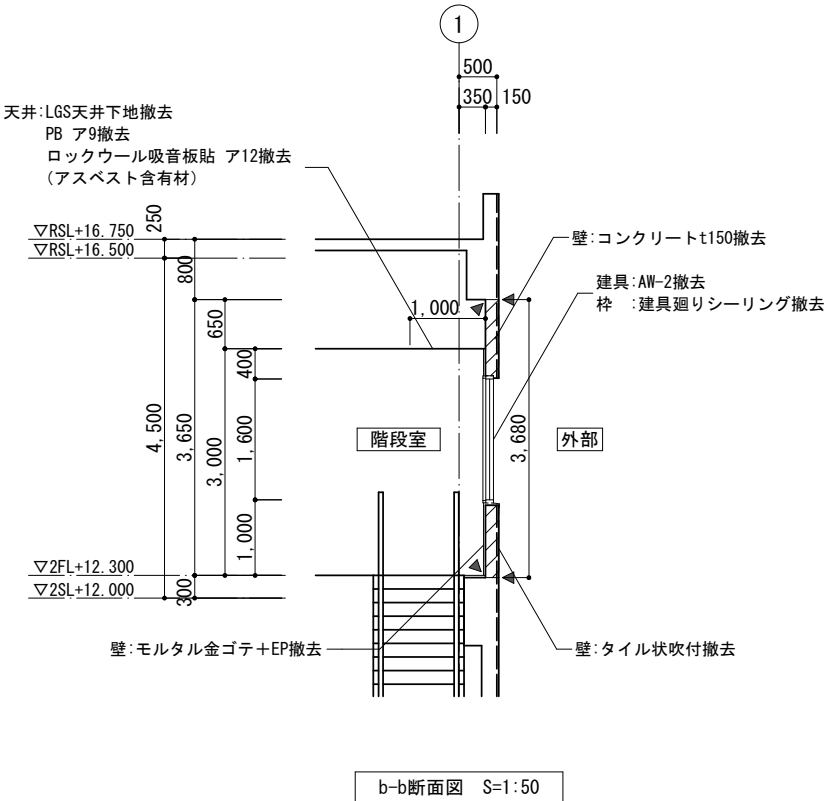
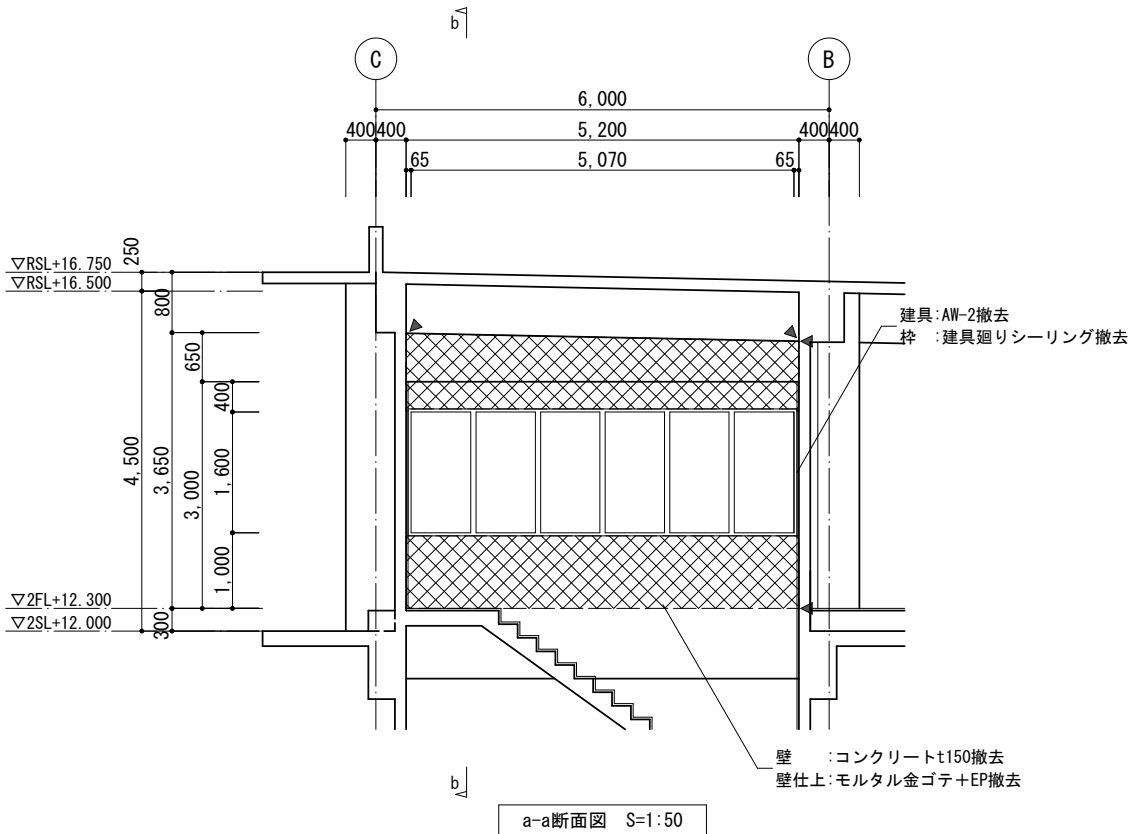
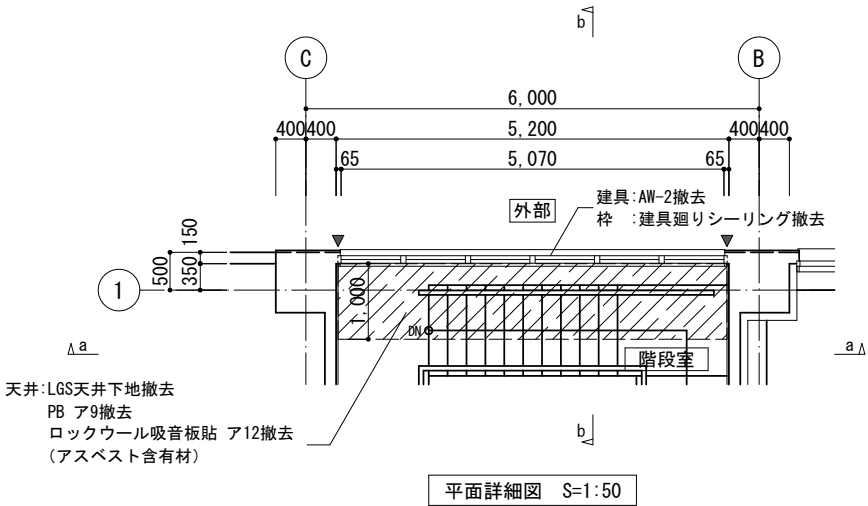
壁仕上撤去

無筋コンクリート撤去

床仕上撤去

天井仕上撤去

カッター入れ



図面番号	A-039	縮 尺	1/50
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)		
種 別	改修前・改修後 2階詳細図(2)	番 号	
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内		
設計年月	2025年8月		
福 山 市 上 下 水 道 局			

改 修 後

2-1
N
2階 1通 B～C通間 耐震壁EW20新設

凡 例

躯体新設

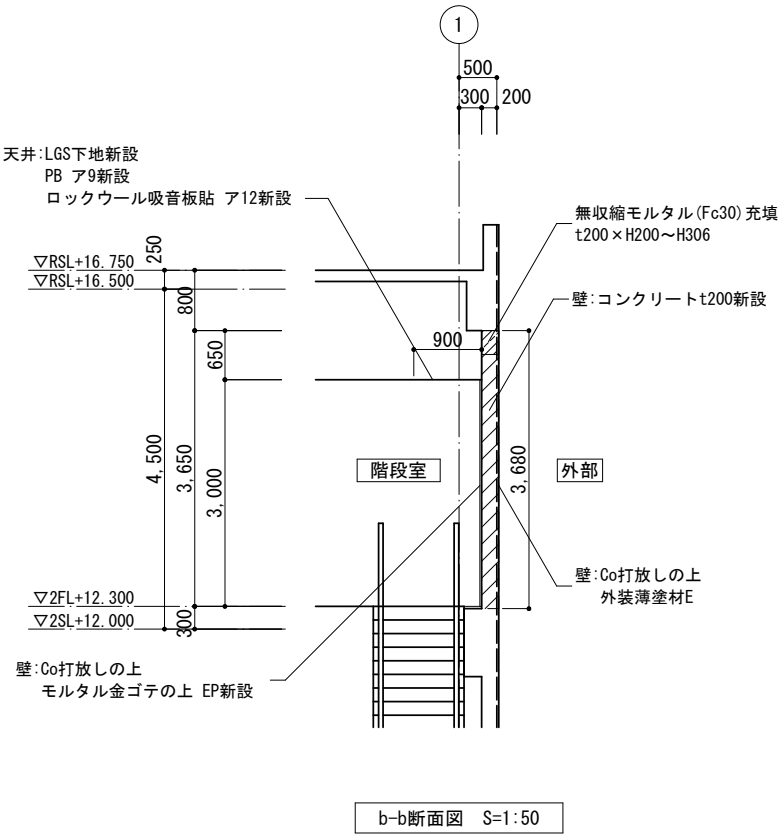
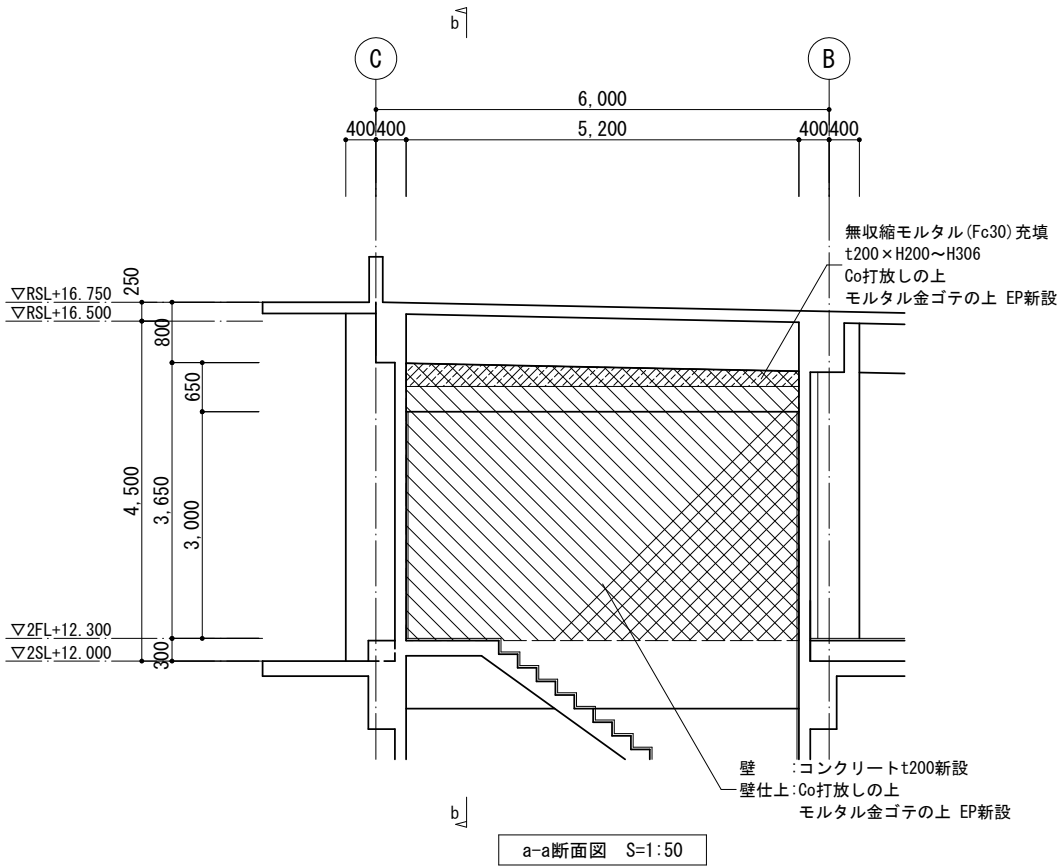
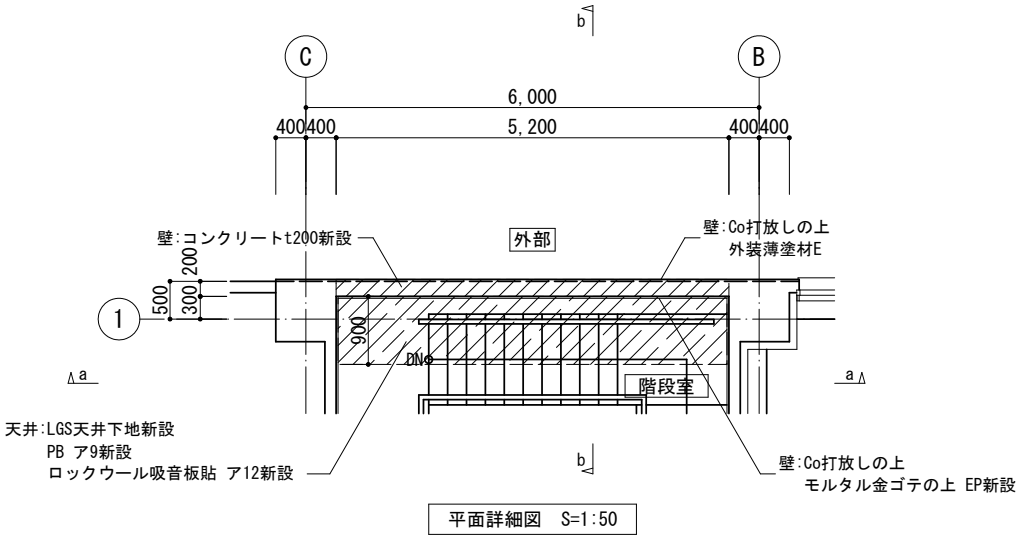
壁仕上新設

無筋コンクリート新設

床仕上新設

天井仕上新設

伸縮目地・打継目地

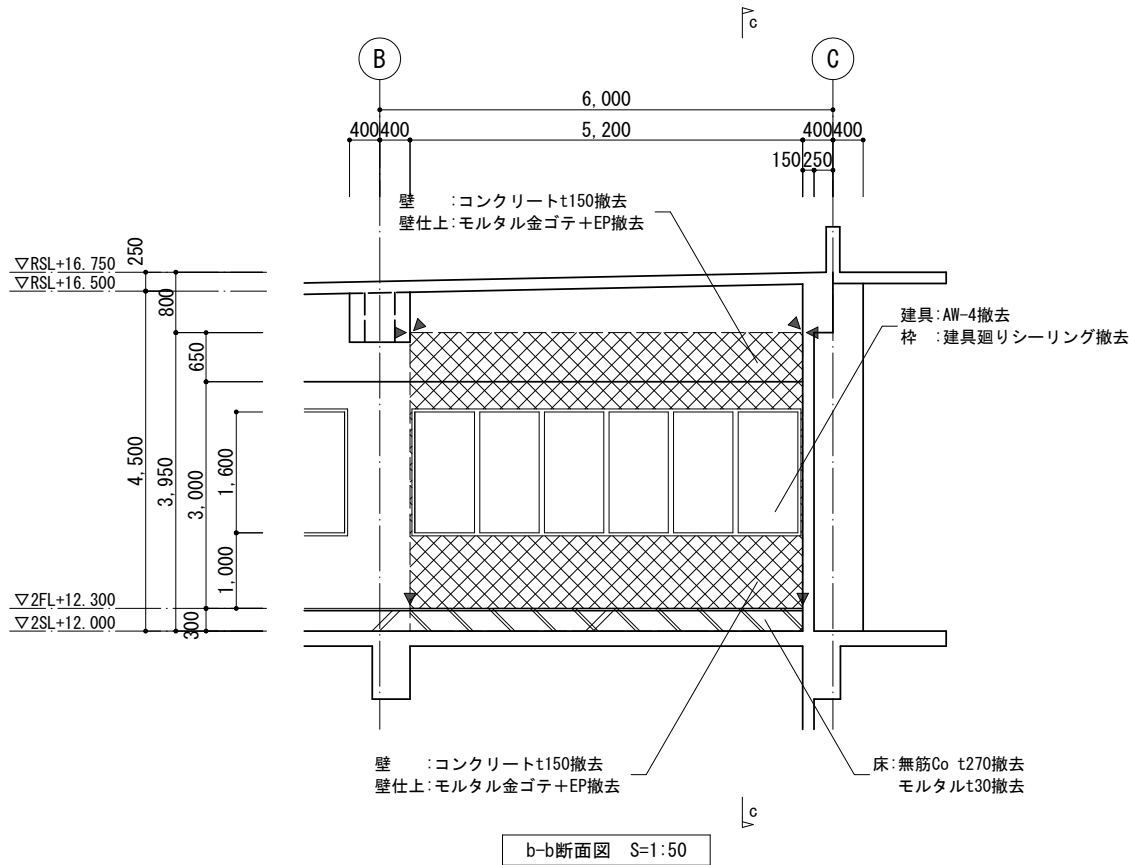
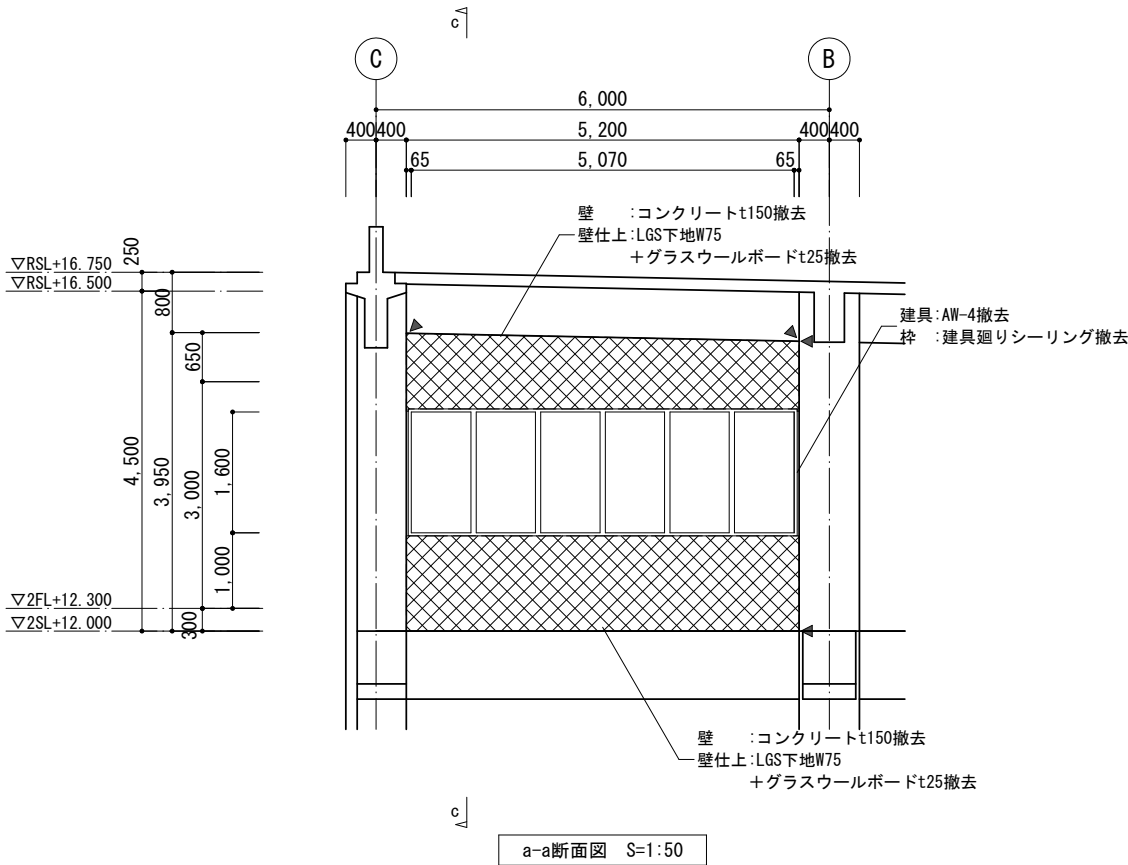
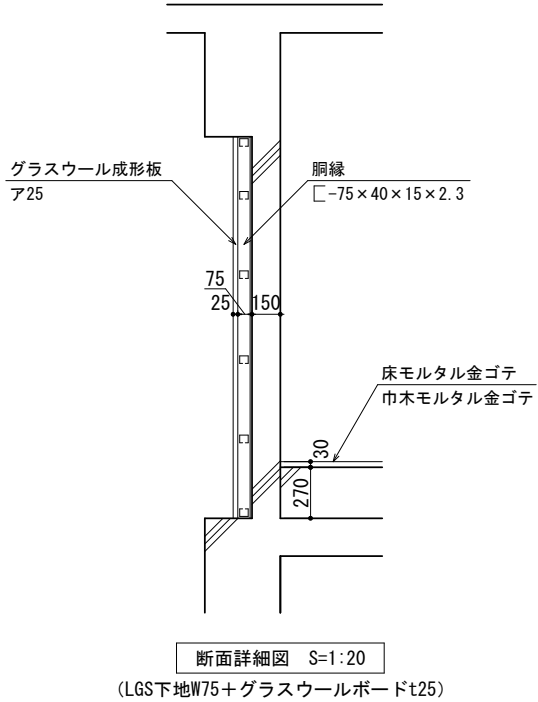
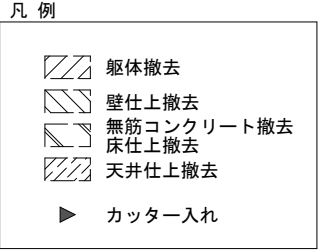
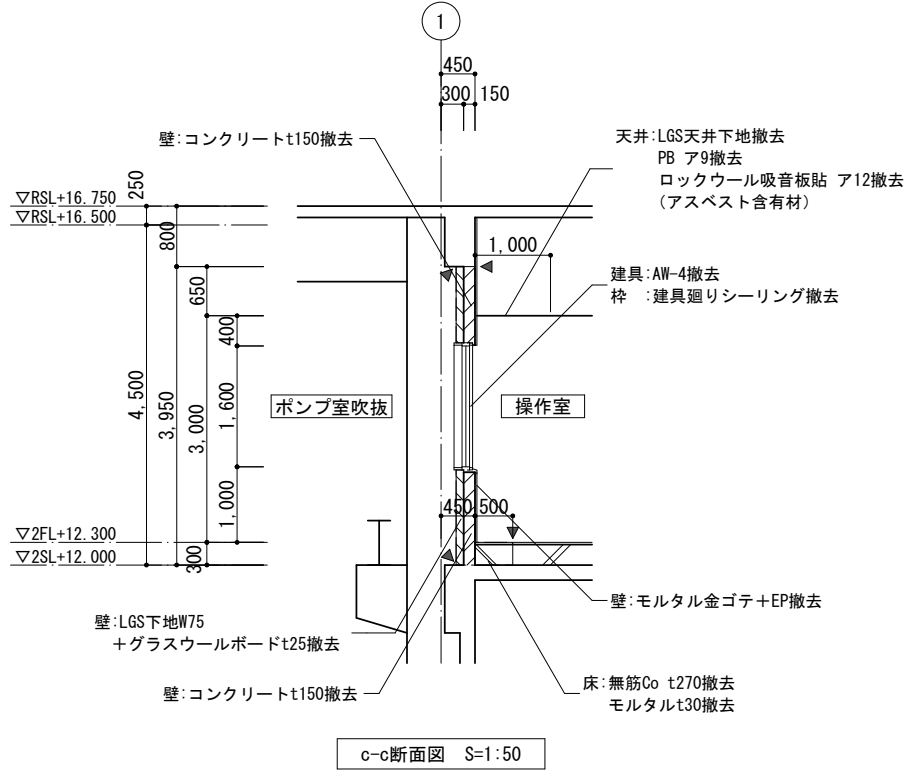
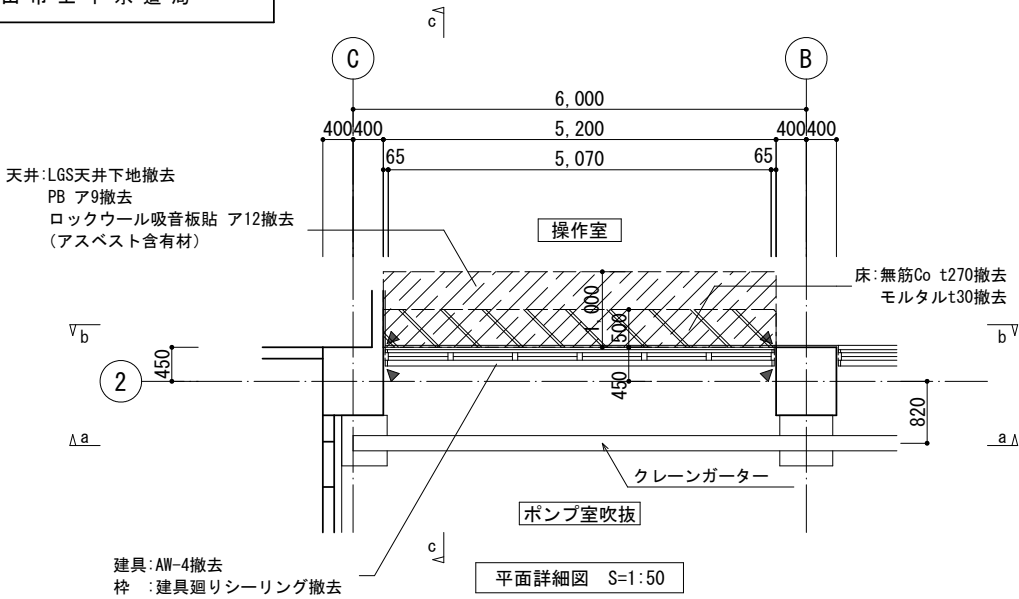


図面番号	A-040	縮 尺	1/20, 1/50
工 事 名	新選ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)		
種 別	改修前・改修後 2階詳細図(3)	番 号	
工事箇所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内		
設計年月	2025年8月		
福 山 市 上 下 水 道 局			

改 修 前

2-2
0
2階 2通 B～C通間 壁取壊し、建具撤去

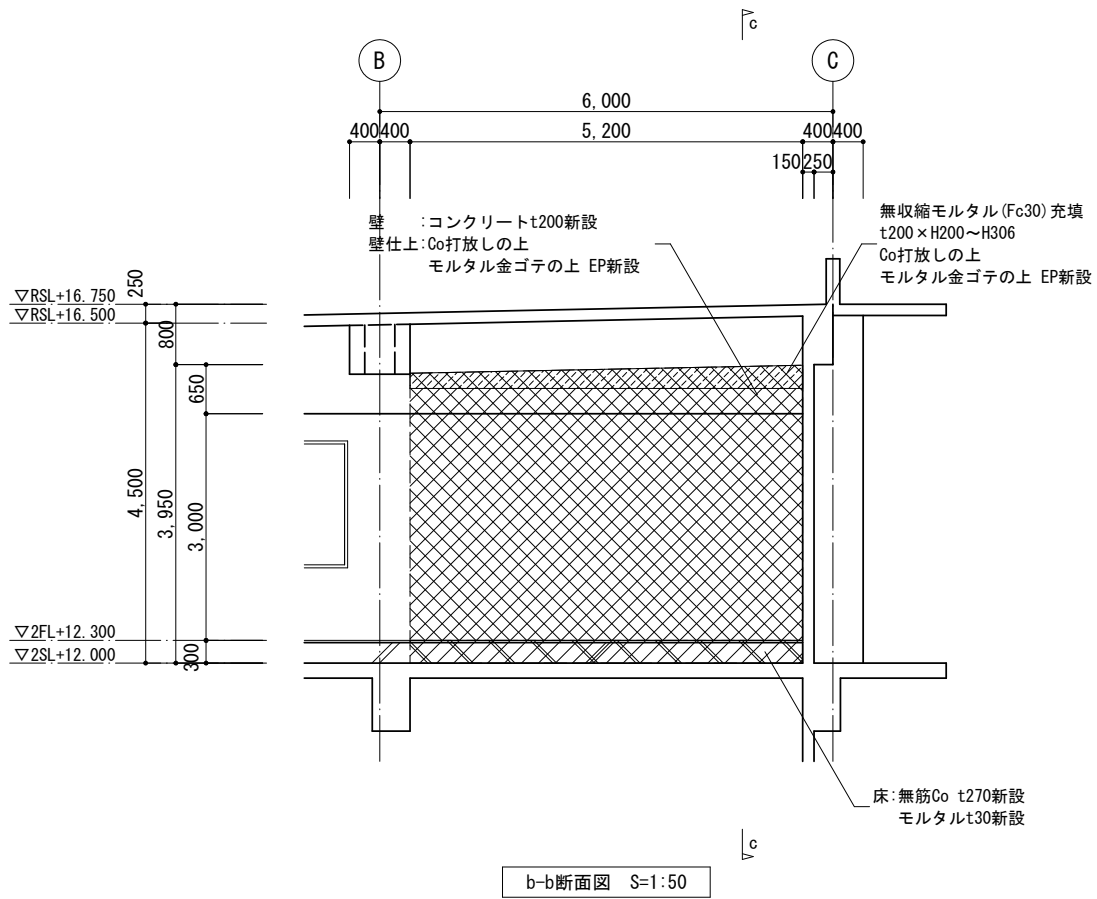
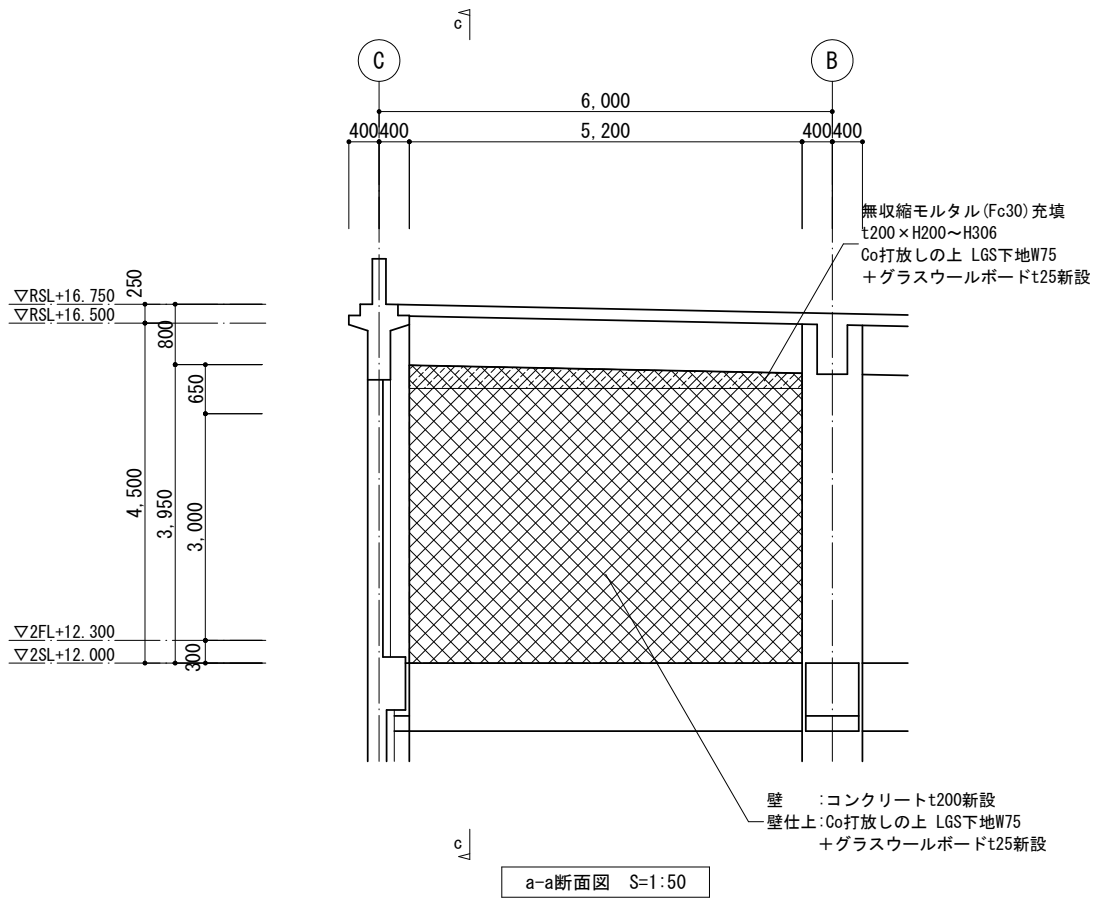
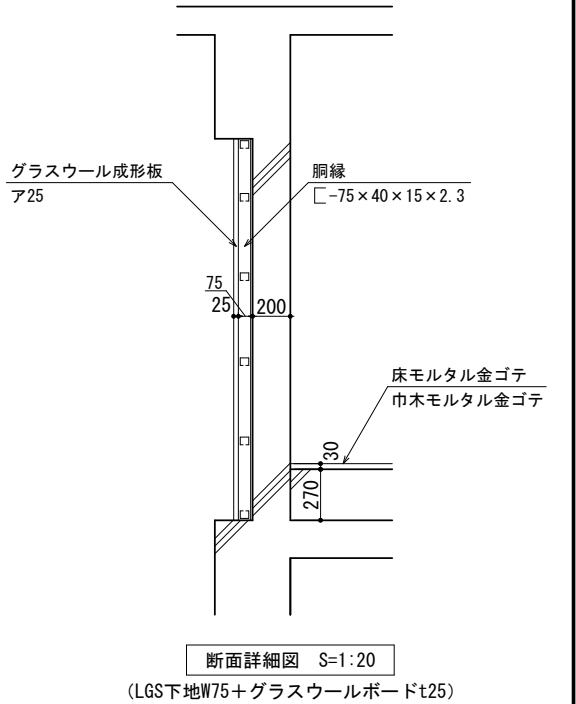
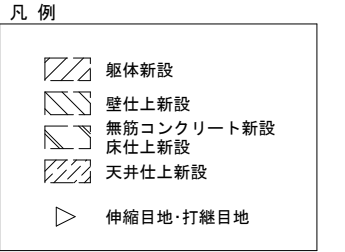
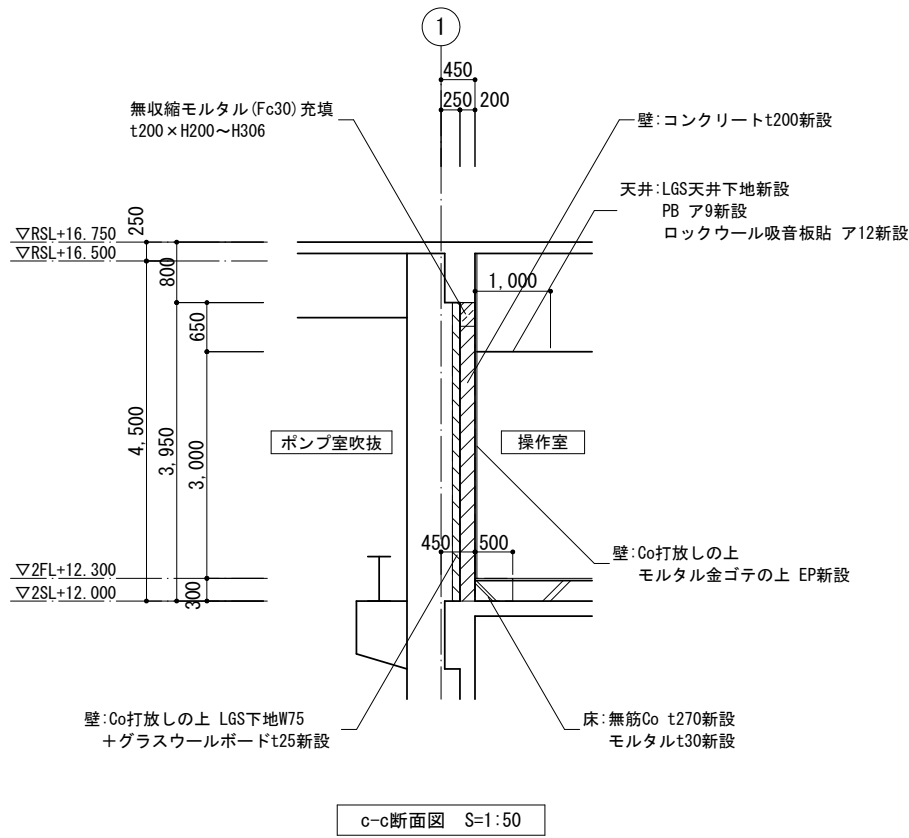
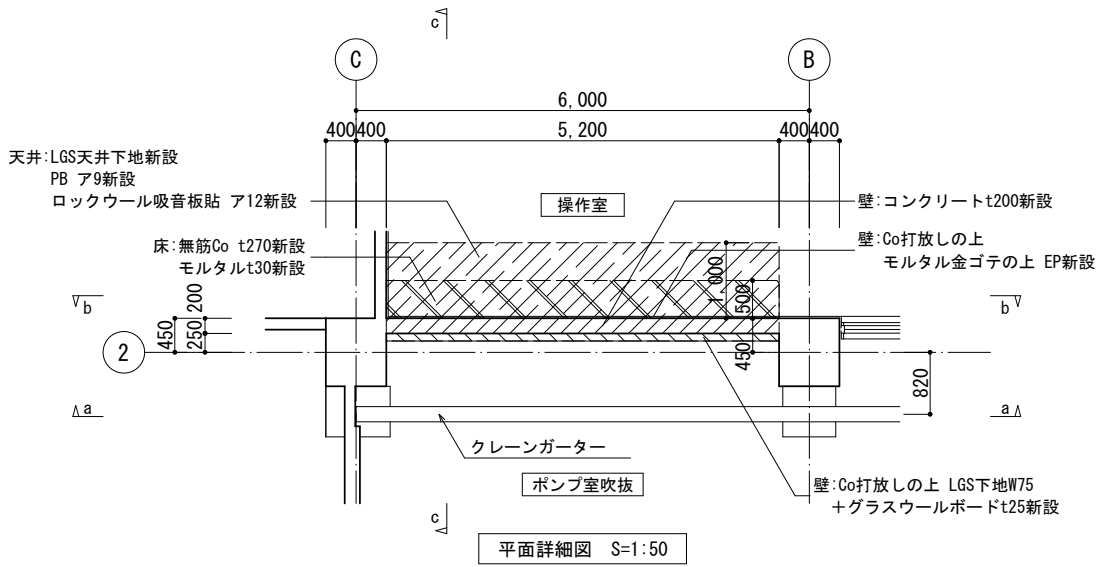
注)
1. 天井仕上材の「ロックウール吸音板」は「アスベスト含有材」



図面番号	A-041	縮 尺	1/20, 1/50
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)		
種 別	改修前・改修後 2階詳細図(4)	番 号	
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内		
設計年月	2025年8月		
福 山 市 上 下 水 道 局			

改 修 後

2-2
N
2階 2通 B～C通間 耐震壁EW20新設



図面番号	A-042	縮 尺	1/20, 1/50
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)		
種 別	改修前・改修後 2階詳細図(5)	番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内		
設計年月	2025年8月		
福 山 市 上 下 水 道 局			

改 修 前

2-4
0
2階 4通 A～C通間 壁取壊し、建具撤去

凡 例

躯体撤去

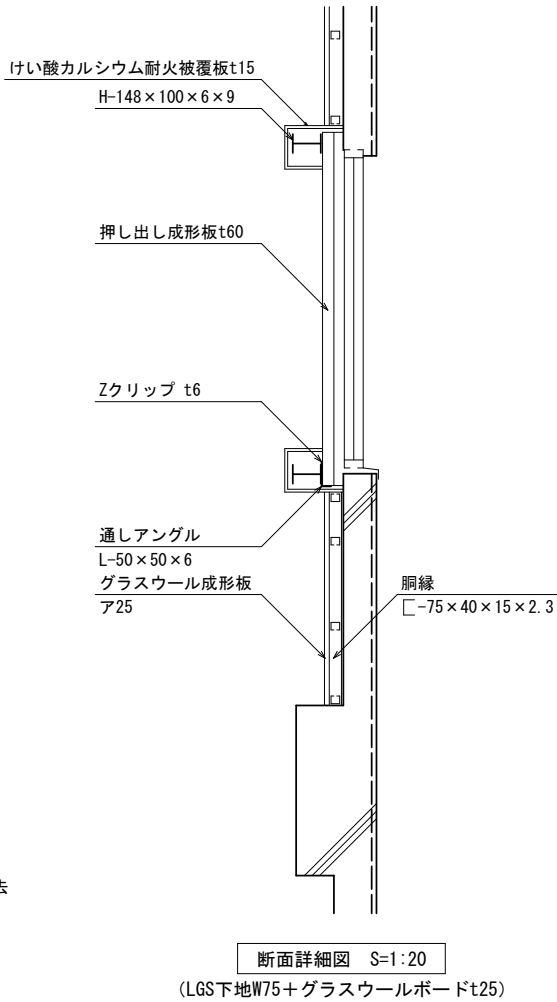
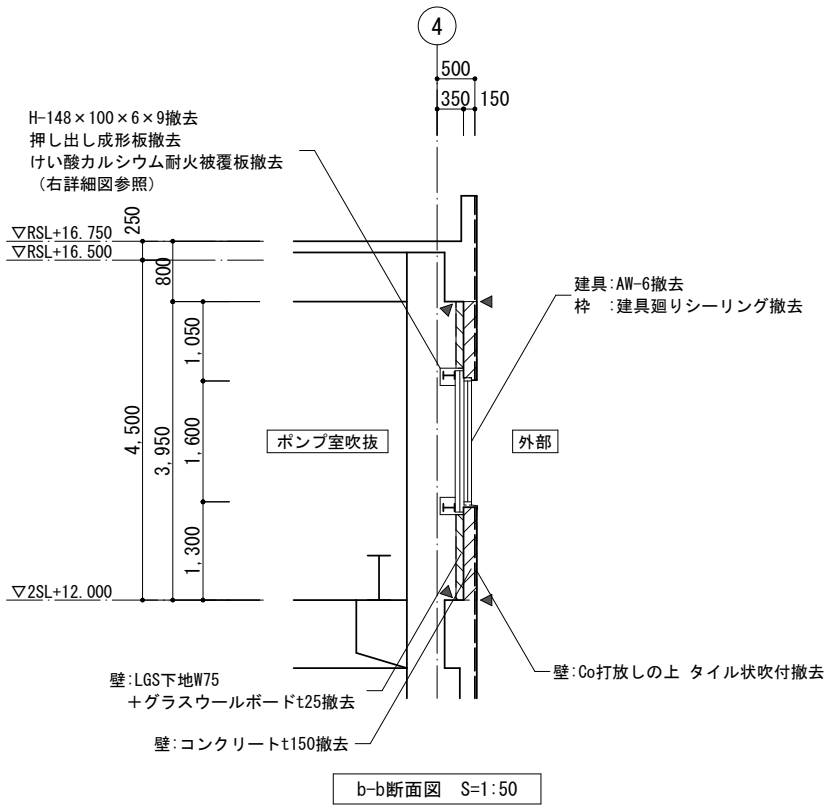
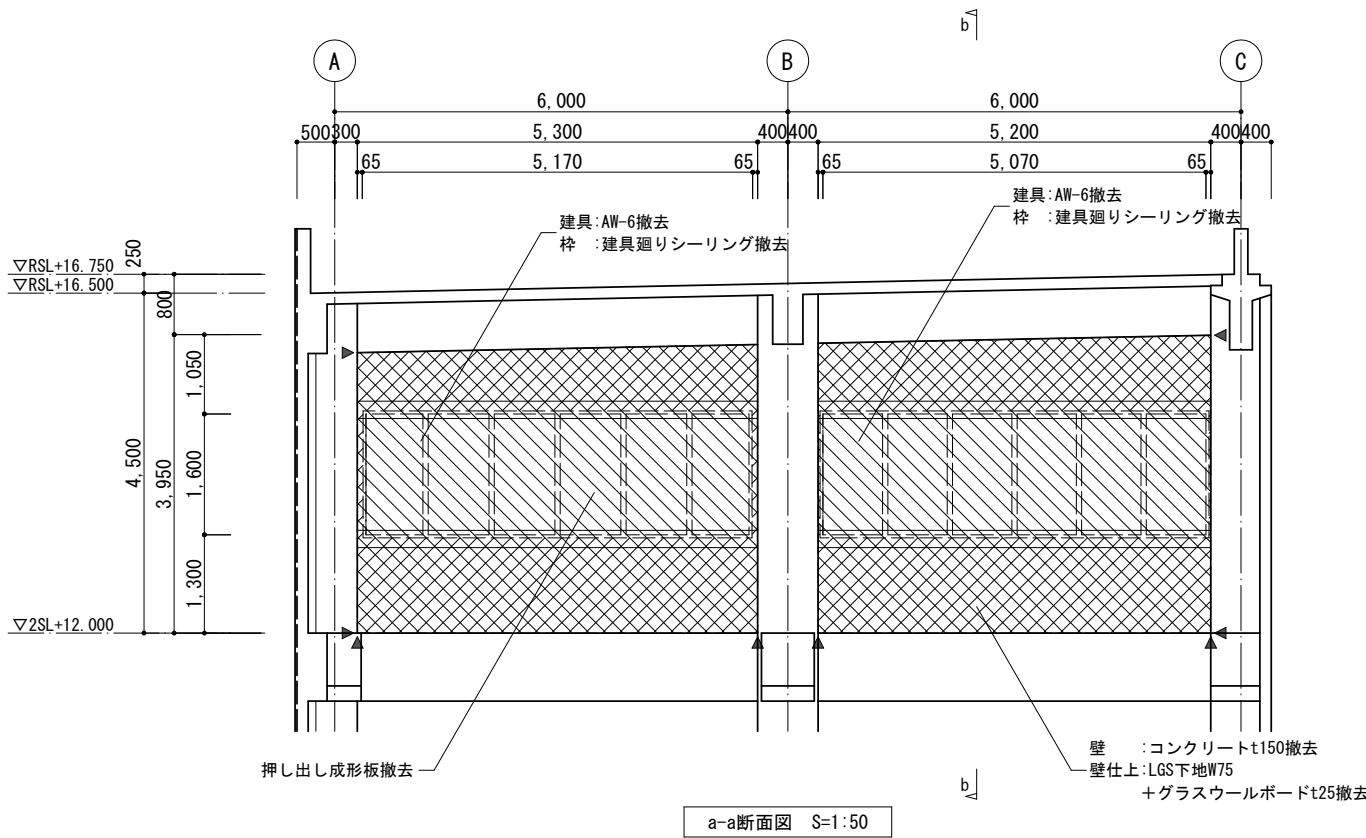
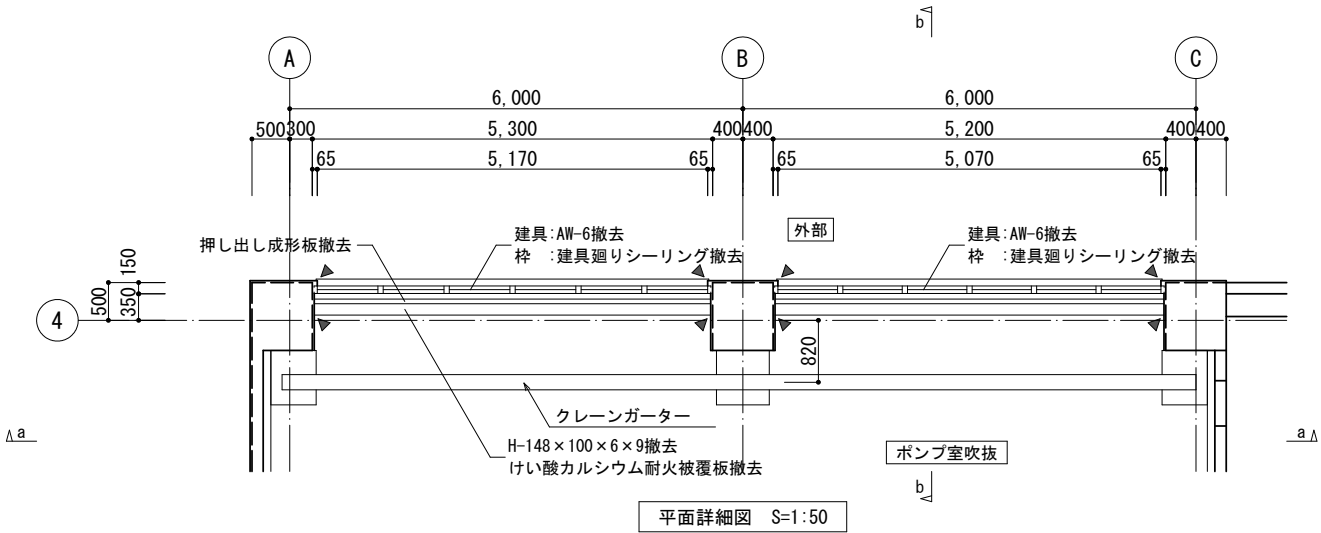
壁仕上撤去

無筋コンクリート撤去

床仕上撤去

天井仕上撤去

カッター入れ



図面番号	A-043	縮 尺	1/20, 1/50	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	改修前・改修後 2階詳細図(6)		番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

改 修 後



2階 4通 A～C通間 開口閉塞t150

凡 例

躯体新設

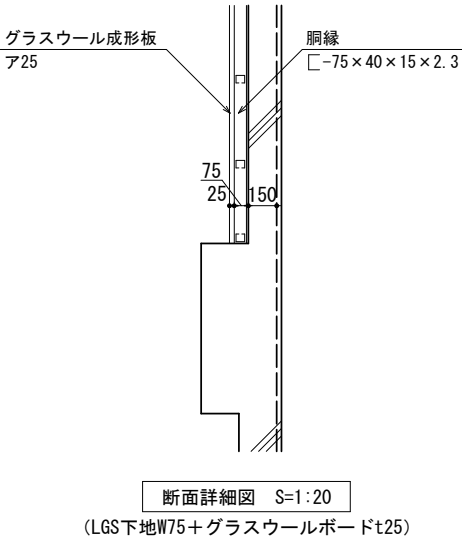
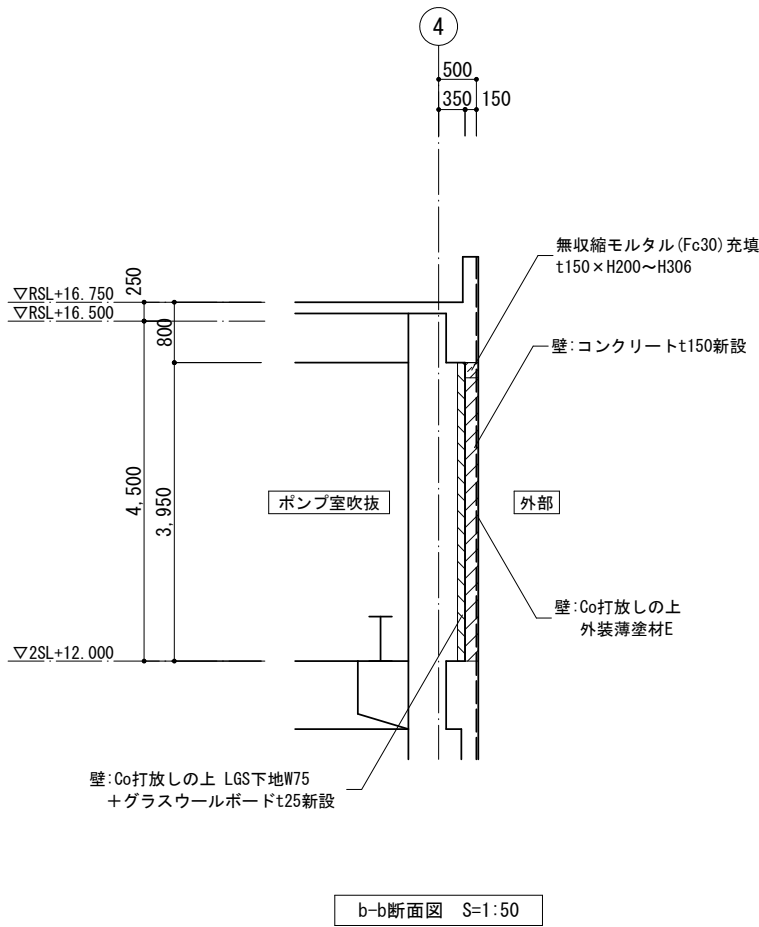
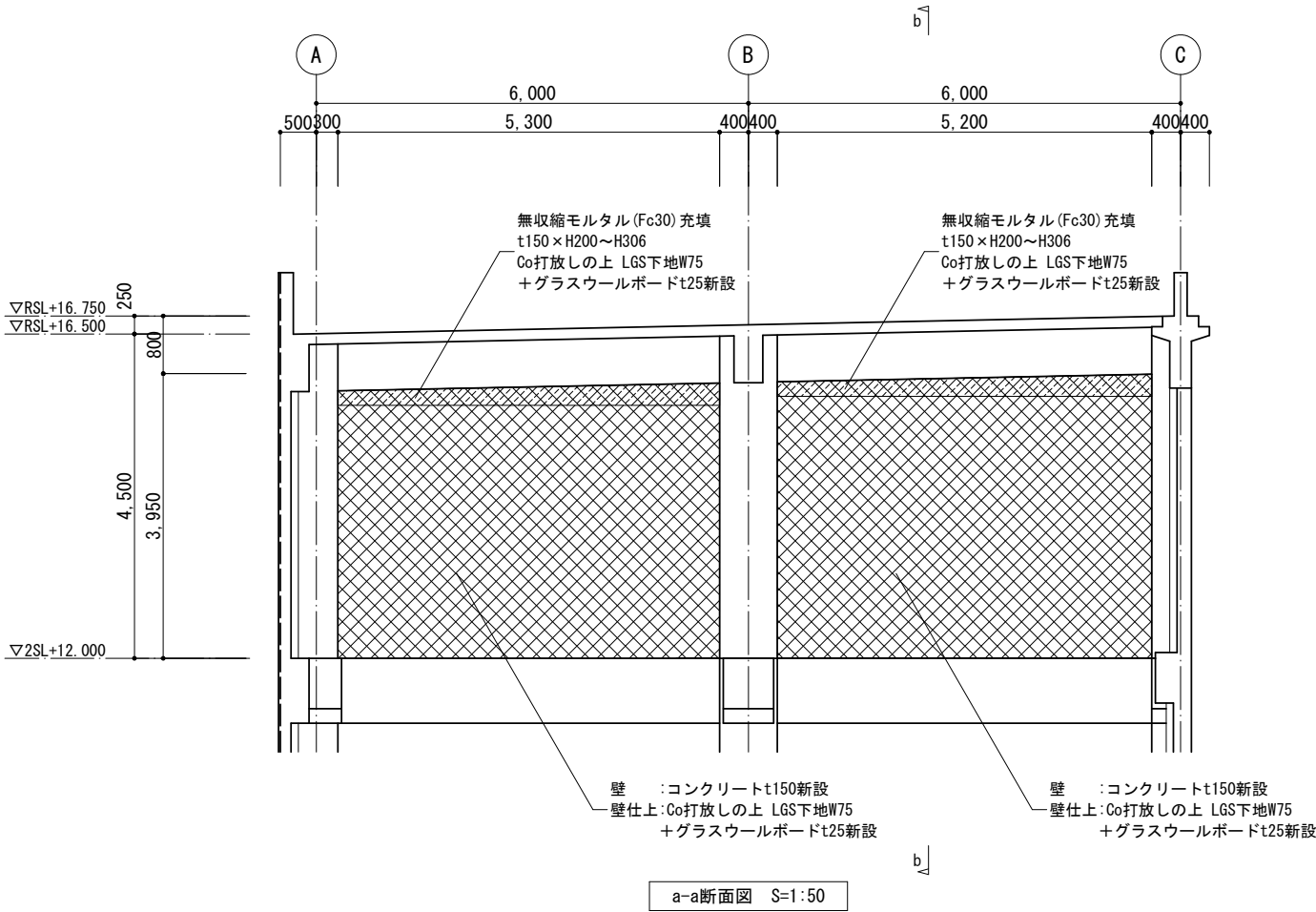
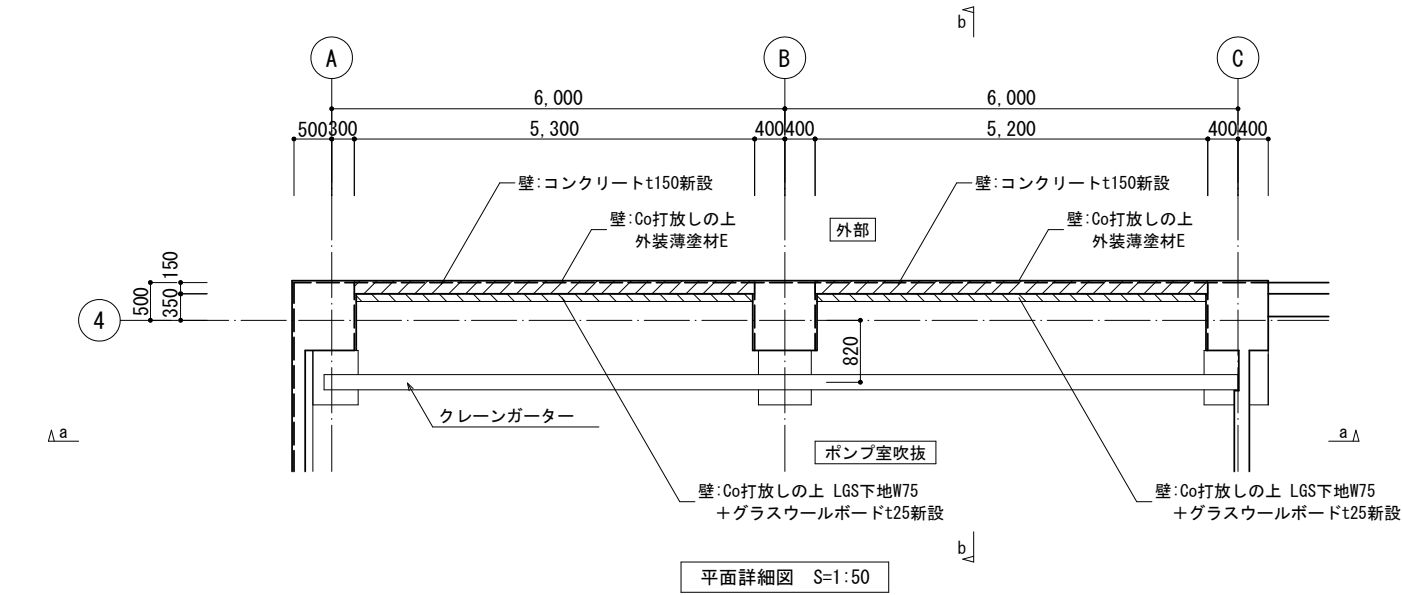
壁仕上新設

無筋コンクリート新設

床仕上新設

天井仕上新設

伸縮目地・打継目地

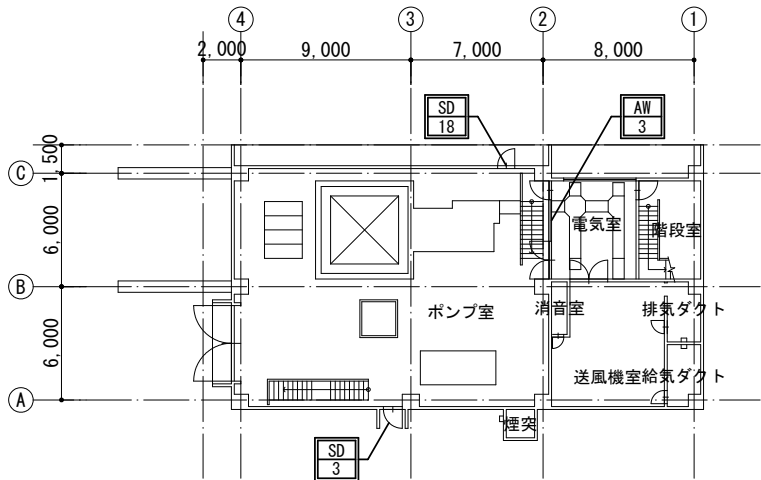


図面番号	A-044	縮 尺	1/200
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)		
種 別	改修前・改修後 建具キープラン	番 号	
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内		
設計年月	2025年8月		
福 山 市 上 下 水 道 局			

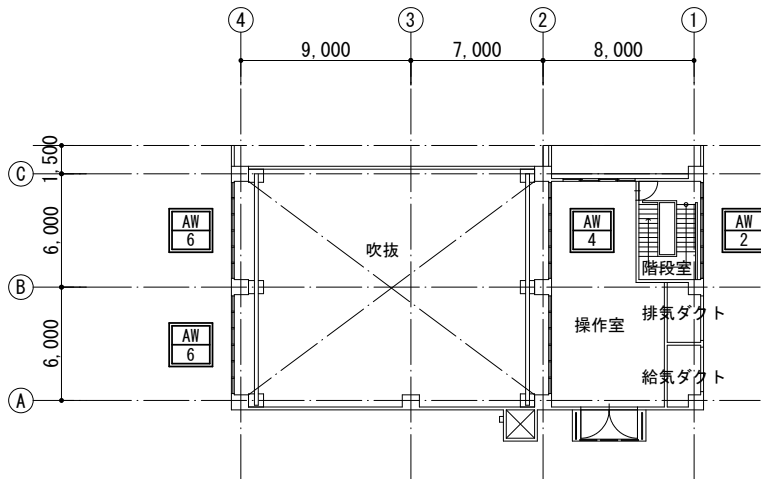
改修前・改修後 建具キープラン

S=1:200

改 修 前

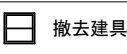


改修前 1階平面図 S=1:200

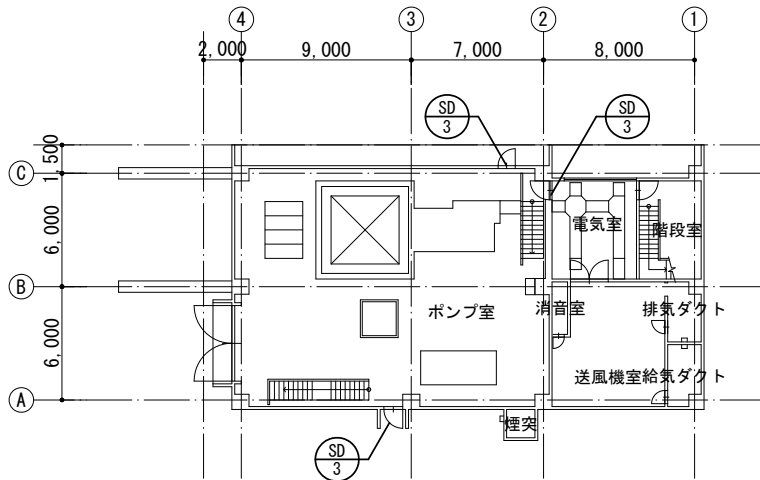


改修前 2階平面図 S=1:200

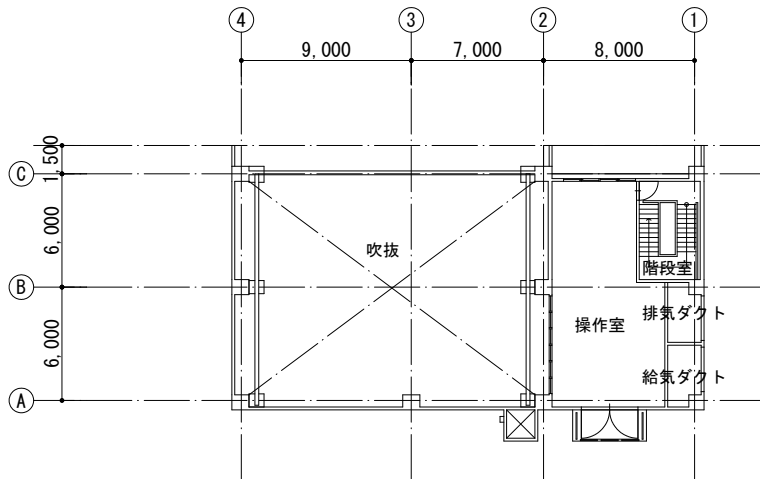
凡例



改 修 後

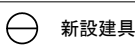


改修後 1階平面図 S=1:200



改修後 2階平面図 S=1:200

凡例



図面番号	A-045	縮 尺	—	共 通 事 項 1. 特記なき限り外部はシリンダ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締り錠とする。 2. バイプスペース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンダ本締り錠（特記なき限り同一キー）とする。（内部はサムターン付） 3. 便所等の施錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。 4. A H、F Hを除きD Cの有無にかかわらず出入口には戸当たり、あおり止め（防火戸を除く）をつける。壁仕上げボード類等の場合は床付とする。（但し、通行に支障のあるものは除く。）。（枠廻り詳細による。） 5. 特記なき限り外部に面するガラリ戸は防鳥網付きとする。 6. アルミニウム製窓の締り金物、排煙口用操作レバーの位置は床から1, 5 0 0以内とする。・ 7. 大型気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。 8. 特記なき限り内部建具ガラリはイ型とする。（枠廻り詳細による。） 9. 特記なき限り鋼製戸の見込みは4 0mmとする。 1 0. 防火戸の位置は建具配置図による。 1 1. 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行わないものとする。 1 2. 階段室の施錠を必要としない箇所は空錠とする。 1 3. 特記なき限り両開きの防火戸は順位調整器付とする。 1 4. 特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。									
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事（その2）												
種 別	改修前・改修後 建具表	番号											
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内												
設計年月	2025年8月												
福 山 市 上 下 水 道 局													
建 具 略 号				金物略号									

図面番号	A-046	縮 尺	—	
工 事 名	新遼ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	構造細目共通図(建築構造物)(1)	番 号		
工事箇所	福山市新遼町二丁目及び新遼町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

構造細目共通図(建築構造物)

< 令和4年版 >

※本図面は(一社)全国上下水道コンサルタント協会が著作権を有するものである。
使用にあたっては、上記協会への使用願いの提出と、配布番号の記載が必要である。
枠外右下の【協会員番号】と【配布番号】の記載が無い図面は無効とする。

1 特記事項

1. 1 適用範囲

- (1)本構造細目共通図は下水道施設における処理場、ポンプ場の建築構造物に適用する。
(2)図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

1)建築工事特記仕様書 2)建築改修工事特記仕様書 3)建築工事一般仕様書 4)公共建築工事標準仕様書(建築工事編) 国土交通省大臣官房官庁営繕部(令和 7 年版) 5)公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) 国土交通省大臣官房官庁営繕部(令和 7 年版)	(別紙による。) (別紙による。) (令和 年版) (令和 7 年版) (令和 7 年版)
---	---

- (3)項目は、○印のついたものを適用する。○印のない場合は、※印のあるものを適用する。○印と※印のある場合は、共に適用する。

1. 2 鉄筋の仕様

鉄筋の種類及び継手は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。

1. 1表 鉄筋の種類及び継手

	種 別	径
鉄筋の種類	SD 295	※D16以下
	SD 345	※D19以上
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外
	ガス圧接	※D19以上、D29以下の柱、梁主筋
	機械式継手	※図示による。

1. 3 コンクリートの仕様

コンクリートの仕様は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。

1. 2表 コンクリートの仕様

分 類		コンクリート種別	設計基準強度(N/mm ²)	スランプ(cm)	セメントの種類
鉄筋コンクリート	地上	※普通コンクリート	※24	※18	※普通ポルトランドセメント
	地下 基礎、基礎梁	※普通コンクリート	※24	※15	※普通ポルトランドセメント
無筋コンクリート		※普通コンクリート	※18	※15	※ 普通ポルトランドセメント

注1:無筋コンクリートには捨てコンクリートを含む。

1. 4 砕石及び捨てコンクリート

砕石及び捨てコンクリートの厚さは、特記がなければ1. 3表による。

1. 3表 砕石及び捨てコンクリートの仕様

種 別	厚さ(mm)
砂利または砕石	※ 60
捨てコンクリート	※ 50

2 共通事項

2. 1 記号及び符号

設計図中で使用する記号及び符号は、2. 1表及び2. 2表を標準とする。

2. 1表 鉄筋の断面表示

径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
記 号	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	⊕

2. 2表 一般凡例

記 号 符 号	内 容	※印の説明及び注意事項
F※	フーチング断面種別	※ 番号
※1C※2	柱断面種別	※1 階数 ※2 その階の番号
※1G※2	大梁断面種別	※1 階数、地中大梁はFとする ※2 その階の番号 X方向1, 2, 3---- Y方向A, B, C----
CG※	片持大梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1B※2	小梁断面種別	※1 地中小梁のみFとする。 ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く
CB※	片持小梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1W※2	壁配筋種別	※1 E:耐震壁、K:階段壁 D:土圧、水圧を受ける壁 ※2 階別区分はしない 壁厚(cm)
※1S※2※3	床版配筋種別	※1 片持床版のみCとする ※2 床版厚(cm) ※3 配筋種別(英大文字) 階別区分はしない
※1K※2	階段の配筋種別	※1 A:片持床版形 B:二辺固定床版形 ※2 配筋種別(数字) 階別区分はしない
CB※	コンクリートブロック壁	※ 壁厚(cm)
	打ち増し範囲	
	梁・床版の上がり下がり	一般には基準FLよりの+、-に応じた凡例により表示
(※)	床用積載荷重	積載荷重の値(kN/m ²)
STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱
S.HOOP	スパイラル筋、らせん筋	柱
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁
組立筋	組立て筋	床版、底版

2. 2 一般注意事項

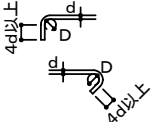
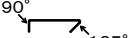
- (1)設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。
変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。

3 鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、3. 1表を標準とする。

- (1)Dは、折曲げ内法直径を示す。
(2)dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。

3. 1表 鉄筋の折曲げ形状及び寸法(末端部)

曲げ 角度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径(D)		使 用 箇 所
		SD295 SD345		
		D16 以下	D19 ~D38	
180°		3d以上	4d以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋
135°		3d以上	4d以上	 D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、 スパイラル筋
90°		3d以上	4d以上	 T形及びL形の梁の あばら筋
135° 90°		3d以上	4d以上	 幅止め筋

- (注)1. 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フック又は135° フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。
2. 90° 未満の折曲げの内法直径は図面による。

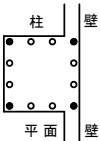
4 異形鉄筋の末端部

4. 1 フックを設ける位置

異形鉄筋の末端部には、4. 1表によりフックを設ける。

4. 1表 フックを設ける位置

部 位		継手方式		備 考
		重ね継手	圧接継手	
柱	四隅の主筋	――	1)最上階の柱頭部	4. 1図の●印 8. 1図参照
	上下階の柱断面が異なる場合	――	1)下階の柱主筋を引き通すことができない柱頭部	4. 1図の●印 8. 2図参照
	帯筋(HOOP)	1)末端部 2)継手部	1)末端部	9. 1図参照
	梁	あばら筋(STP)	1)末端部 2)継手部	11. 1図参照
杭基礎	独立フーチング基礎の底盤筋	1)末端部 2)継手部	1)末端部	20. 1図参照
	煙突の鉄筋	1)末端部 2)継手部	1)末端部	壁の一部となる場合を含む
幅止め筋		――	――	3. 1表参照

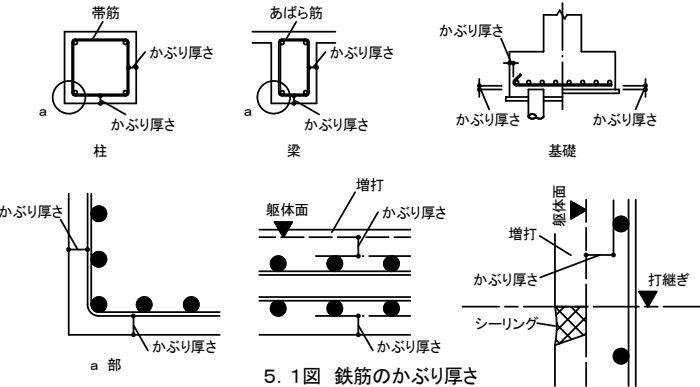


4. 1図 異形鉄筋の末端部

5 鉄筋のかぶり及び間隔

5. 1 かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋、組立筋を除く)の外面から躯体面までの距離(5. 1図)をいう。
鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



5. 1図 鉄筋のかぶり厚さ

5. 2 最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、5. 1表による。

- (1)床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。
(2)柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1. 5倍以上として最小かぶり厚さを定める。
(3)溶接金網にも適用する。

5. 1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)

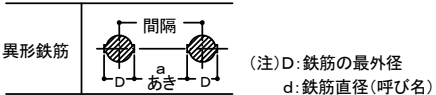
塩害区分 構造部分の種類		※ 通常の施工の場合	・塩害対策を 必要とする場合
一 般	床、耐力壁以外の壁	30	40
	柱、梁、耐力壁	40	50
	底版	40	50
土、水に 接する部分	柱、梁、床、壁	40	50
	底版、基礎	60	70
煙突等高熱を受ける部分		60	70

1:打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。
2:杭基礎の場合の最小かぶり厚さは、杭先端からとし、「21 杭基礎の補強」を参照。
3:仕上なしの場合を標準とする。

5. 3 鉄筋相互のあき及び間隔

鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手の場合のあきは図面による。

- (1)粗骨材の最大寸法の1. 25倍
(2)最小のあき25mm
(3)隣り合う鉄筋の平均径(呼び名の数値)の1. 5倍



5. 2図 鉄筋相互のあき及び間隔

5. 2表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

鉄筋径(mm)		鉄筋相互のあき:a			最小鉄筋芯間隔
鉄筋径 d	最外径 D	(1) 粗骨材径×1.25	(2) 最小あき	(3) 鉄筋径×1.5	
D10	11	32mm 粗骨材 最大径 25mm の場合	25mm	15mm	43mm
D13	14			20mm	46mm
D16	18			24mm	50mm
D19	21			29mm	53mm
D22	25			33mm	58mm
D25	28			38mm	66mm
D29	33			44mm	77mm

図面番号	A-047	縮 尺	—	
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	構造細目共通図(建築構造物)(2)		番号	
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

6 鉄筋の継手及び定着

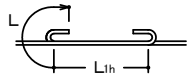
6. 1 継手及び定着

6. 1. 1 鉄筋の重ね継手
- (1)鉄筋の重ね継手の長さは、6. 1表による。
- (2)径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (3)主筋及び耐震壁の鉄筋の重ね継手の長さは40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。

6. 1表 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)	L ₁ (フックなし)	L _{1h} (フックあり)
SD295	24, 27	35d	25d
	30	35d	25d
SD345	24, 27	40d	30d
	30	35d	25d

(注) 1. L₁、L_{1h}:フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合のL_{1h} は、6. 1図に示すようにフック部分Lを含まない。



6. 1図

6. 1. 2 継手の特記事項

- (1) 継手は、極力応力の小さい位置に設ける。

6. 1. 3 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、6. 2表による。

6. 2表 鉄筋の定着の長さ

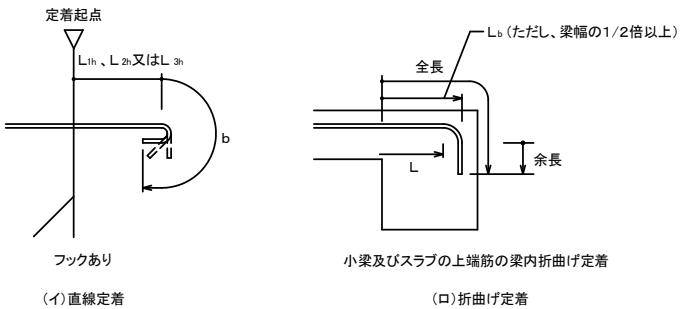
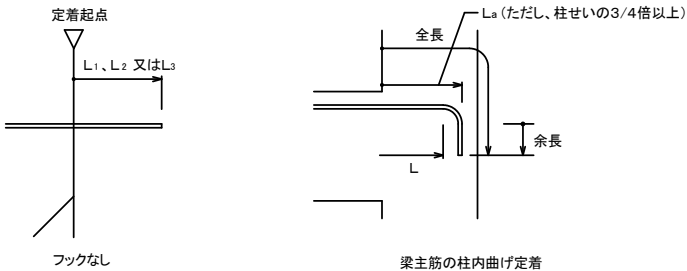
鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)	フックなし				フックあり			
		L ₁	L ₂	L ₃		L _{1h}	L _{2h}	L _{3h}	
				小梁	スラブ			小梁	スラブ
SD295	24, 27	35d	30d	20d	10d かつ 150mm 以上	25d	20d	10d	—
	30	35d	30d			25d	20d		
SD345	24, 27	40d	35d			30d	25d		
	30	35d	30d			25d	20d		

(注) 1. L₁、L_{1h}: 2. 以外の直線定着の長さ及びフックありの長さ
2. L₂、L_{2h}: 割裂破壊の恐れのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
3. L₃: 小梁及びスラブの下端の直線定着の長さ(基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く)
なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。
4. L_{3h}: 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5. フックあり定着の場合は、6. 2図(イ)に示すようにフック部分bを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。

6. 1. 4 定着の方法

定着の方法は6. 2図による。
なお、(ロ)折曲げ定着の梁主筋の柱内折曲げ定着において、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、6. 2表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を6. 2表に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを6. 3表に示す長さをのみ込ませる。

(注) 1. L_a、L_bは、6. 3表の鉄筋の投影定着長さを示し、下記条件を満たすものとする。
・梁主筋の柱内定着においては、原則として柱せいの3/4倍以上
・小梁主筋の大梁内定着においては、原則として大梁幅の1/2倍以上
・スラブの梁内定着においては、原則として梁幅の1/2倍以上



6. 2図 定着の方法

6. 3表 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)	L _a	L _b
SD295	24, 27	15d	15d
	30	15d	15d
SD345	24, 27	20d	15d
	30	15d	15d

(注) 1. L_a: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ(基礎梁、片持ちスラブを含む。)
2. L_b: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)

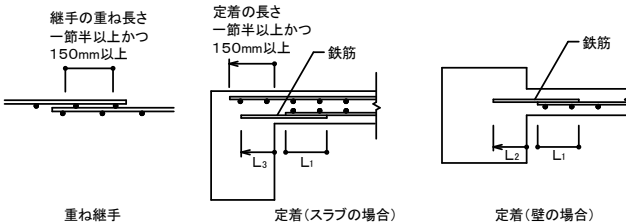
6. 2 隣り合う継手の位置及び定着

- (1)隣り合う継ぎ手の位置は、6. 4表により、a寸法を守ること。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合を除く。

6. 4表 隣り合う継手の位置

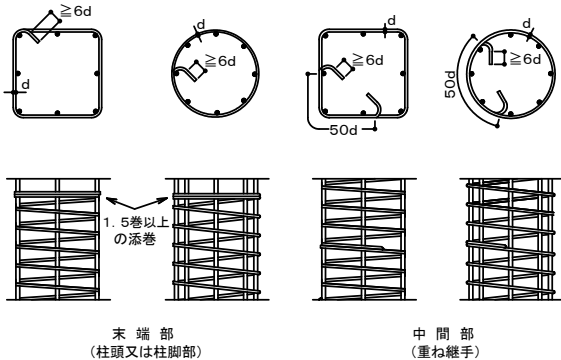
重ね継手	フック有りの場合	L _{1h}		L _{1h}		L _{1h}		L _{1h}	
		L _{1h}		L _{1h}		L _{1h}		L _{1h}	
		L _{1h}		L _{1h}		L _{1h}		L _{1h}	
フックなしの場合	—	L ₁		L ₁		L ₁		L ₁	
		L ₁		L ₁		L ₁		L ₁	
		L ₁		L ₁		L ₁		L ₁	
圧接継手	—	L ₁		L ₁		L ₁		L ₁	
		L ₁		L ₁		L ₁		L ₁	
		L ₁		L ₁		L ₁		L ₁	

- (2)溶接金網の継手及び定着は、6. 3図による。



6. 3図 溶接金網の継手及び定着要領

(3)スパイラル筋の継手及び定着



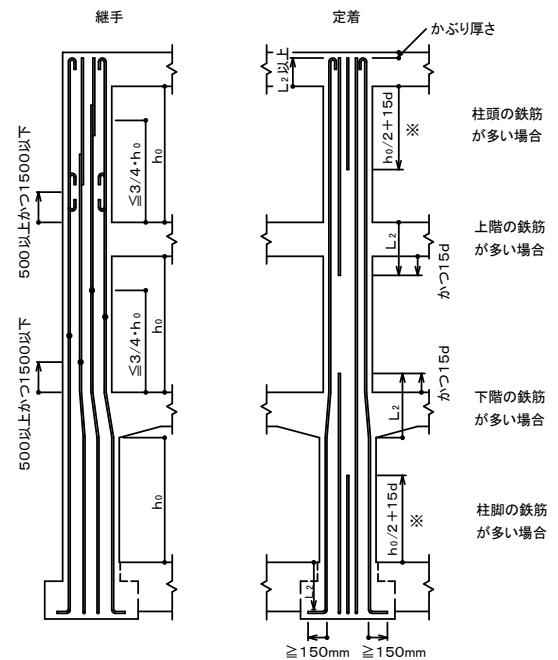
6. 4図 スパイラル筋の継手及び定着要領

7 (欠番)

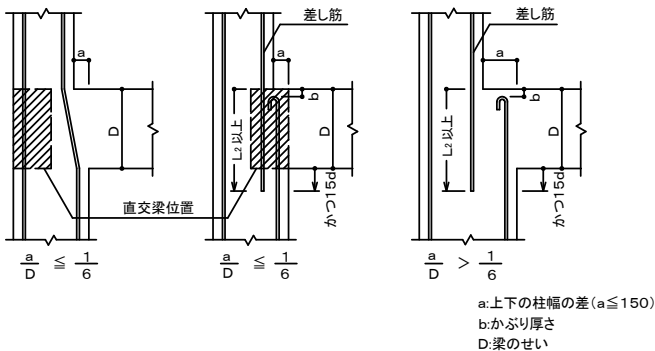
8 柱筋の継手及び定着

8. 1 一般事項

- (1)継手長さはL₁とし、定着及び余長は、8. 1図による。
- (2)柱頭定着長さL₂が確保出来ない場合は、図面による。
- (3)上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の折曲げ及び定着は、8. 2図による。
- (4)柱の継手及び圧接中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下かつ3/4h_o(h_oは柱の内法高さ)以下とする。
- (5)※鉄筋のカットオフの位置及び長さは図面による。



8. 1図 柱主筋の継手、定着及び余長

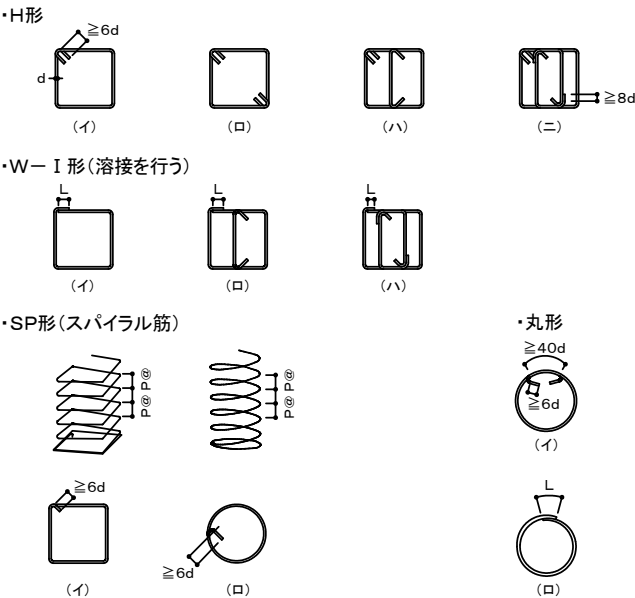


8. 2図 上下の柱断面が異なる柱主筋の折曲げ及び定着

9 帯筋

9. 1 帯筋の形状

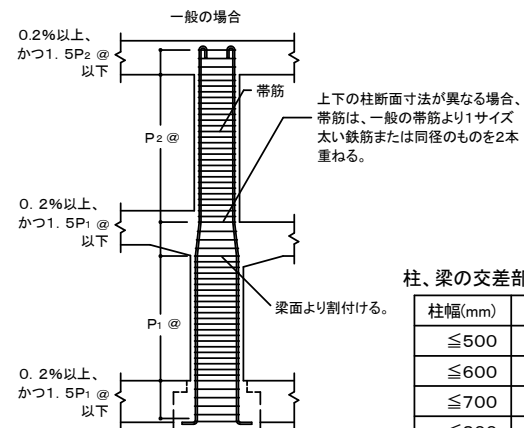
- (1)帯筋の形状は、9. 1図とし、種別は図面による。図面になければ下記による。
- (a)H形を標準とする。
- (b)H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W—I形とする。
- (c)溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とし、組立前に行う。
- (d)SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1. 5巻以上の添巻きを行う。



9. 1図 帯筋組立の形

9. 2 帯筋の割付け

- (1)フック及び継手の位置は交互とする。
- (2)帯筋の割付けは、9. 2図による。ただし、図面にある場合はそれによる。
- (3)柱、梁の交差部(パネルゾーン)の帯筋のせん断補強比は、0. 2%以上を確保し、補強筋間隔 ≤ 1. 5Pとする。



9. 2図 帯筋の割付け

柱、梁の交差部の配筋例(0. 2%確保)

柱幅(mm)	パネルゾーン
≤500	D10 @125
≤600	D10 @100
≤700	D10 @100
≤800	D13 @150
≤900	D13 @125
≤1000	D13 @125
≤1100	D13 @100
≤1200	D13 @100

※1. 5P₁、1. 5P₂ のピッチは150mm以下とする。

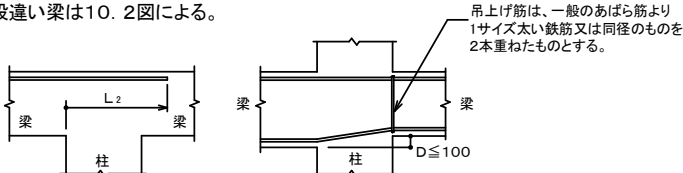
図面番号	A-048	縮 尺	—	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	構造細目共通図(建築構造物)(3)	番 号		
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

10 大梁筋の継手及び定着

10. 1 大梁(基礎梁以外の大梁に限る)主筋の継手、定着及び余長

大梁主筋の継手及び定着の一般事項

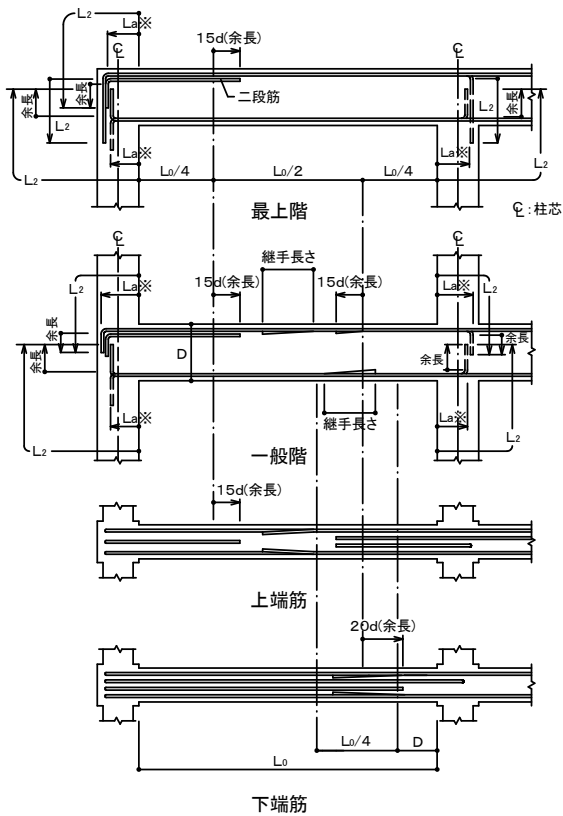
- a. 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことが出来ない場合は、b. により柱内に定着することができる。
ただし、やむ得ず梁内に定着する場合は、10. 1図による。
- b. 梁主筋を、柱内に折曲げて定着する場合は次による。
なお、定着の方法は、6. 1. 4による。
上端筋:曲げ下ろす。
下端筋:原則として曲げ上げる。
- c. 段違い梁は10. 2図による。



10. 1図 梁主筋の梁内定着

10. 2図 段違い梁

10. 2 ハンチのない場合

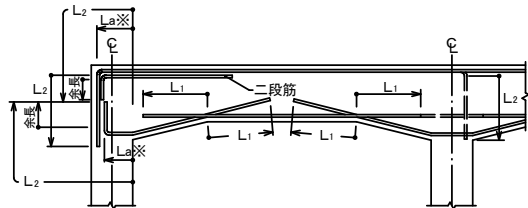


- (注) 1. 継手中心位置は次による。
上端筋:中央L #2以内
下端筋:柱面より梁せい(D)以上離し、L/4を加えた範囲以内
2. 4. 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。
3. 印は、継手及び余長を示す。
4. 破線は、柱内定着の場合を示す。
5. 梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。
※ Laの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

10. 3図 大梁の重ね継手、定着及び余長

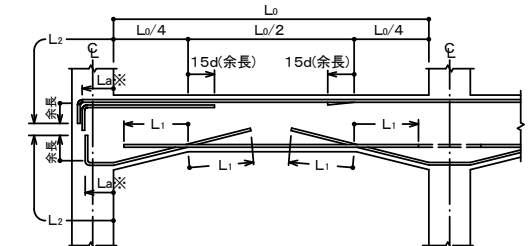
10. 3 ハンチのある場合

(1)最上階の場合



10. 4図 ハンチのある大梁の定着及び余長(最上階)

(2)一般階の場合

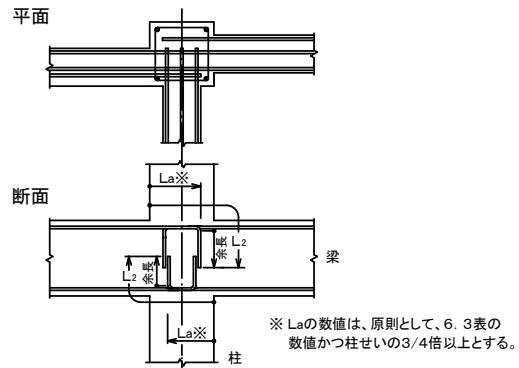


10. 5図 ハンチのある大梁の定着及び余長(一般階)

- (注) 1. 4. 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、— のように引き通すことができる。
4. 破線は、梁内定着の場合を示す。
5. 梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。
※ Laの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

10. 4 水平段差のある場合

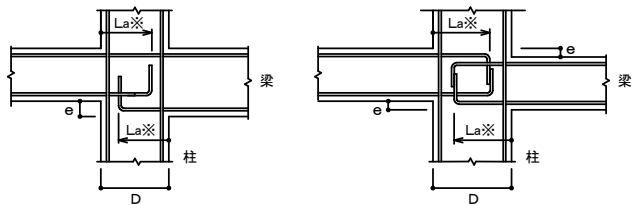
水平段差のある場合



10. 6図 大梁の定着及び余長(水平段差のある場合)

10. 5 鉛直段差(e)のある場合

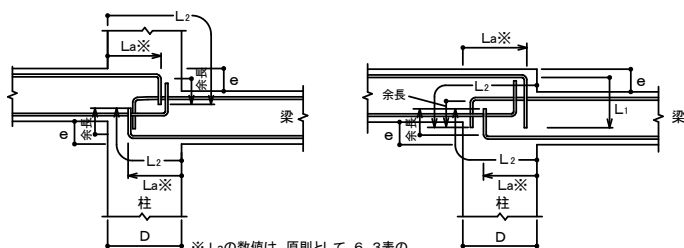
(1)e/D≤1/6の場合



- 定着の長さは、10. 3図に準ずる
※ Laの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

10. 7図 鉛直段差梁(その1)

(2)e/D>1/6の場合



10. 8図 鉛直段差梁(その2)

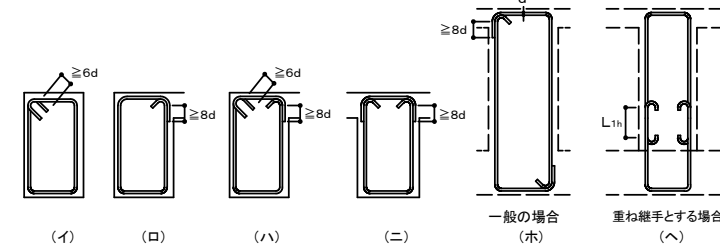
11 梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋

11. 1 一般事項

- (1)腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
(2)壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、L2とする。
(3)土圧、水圧を受ける梁は、図面による。
(4)幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10—1000mmピッチ程度とする。

11. 2 あばら筋組立の形及びフックの位置

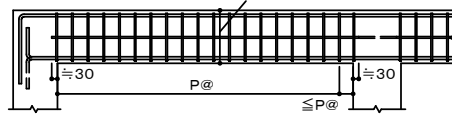
- (1)形は、11. 1図(イ)を標準とする。
ただし、(イ)によることが出来ない場合は、下記の方法によることが出来る。
a. 床版が片側に付く場合は、(ロ)又は(ハ)
b. 床版が両側に付く場合は、(ロ)～(ニ)
- (2)フックの位置
a. (イ)の場合は交互とする。
b. (ロ)の場合 床版が片側に付く場合は床版の付く側。床版が両側に付く場合は交互。
c. (ハ)の場合は床版の付く側を90°折曲げ、8d確保する。
d. (ホ)の場合は梁の上下にスラブが付く場合でかつ、梁せいが1. 5m以上の場合に適用する事ができる。(基礎梁)



11. 1図 あばら筋組立の形及びフックの位置

11. 3 あばら筋の割付け

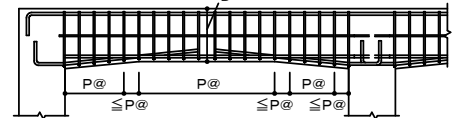
(1)間隔が一樣でハンチのない場合



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

11. 2図 あばら筋の割付け(その1)

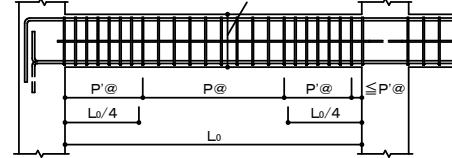
(2)間隔が一樣でハンチのある場合



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

11. 3図 あばら筋の割付け(その2)

(3)梁の端部で間隔の異なる場合



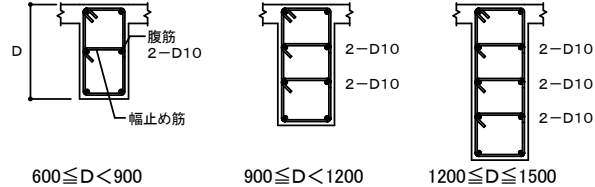
- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割付ける。
2. 図中のP@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

11. 4図 あばら筋の割付け(その3)

11. 4 腹筋及び幅止め筋

(1)一般の梁

a) 腹筋及び幅止め筋



11. 5図 腹筋及び幅止め筋

(2)特殊な梁

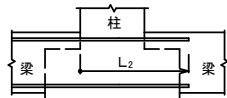
腹筋及び幅止め筋は、図面による。

12 基礎梁及び底版の継手及び定着

12. 1 基礎梁主筋の継手、定着及び余長

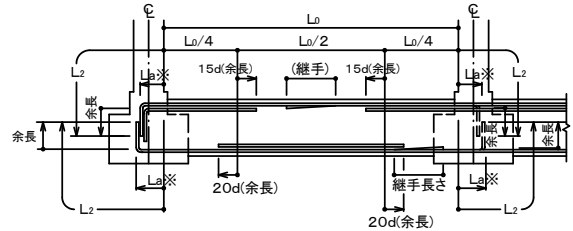
(1)一般事項

- (a)梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は柱内に定着する。やむを得ず梁内に定着する場合は、12. 1図による。
(b)梁筋を柱内に定着する場合は10. 1(1)bによる。

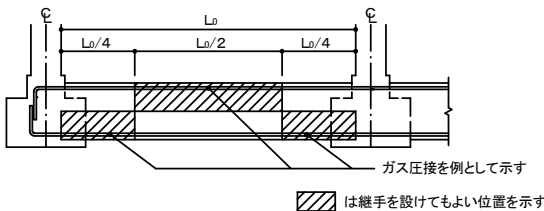


12. 1図 梁筋の基礎梁内への定着

- (2)独立基礎で基礎梁(スラブなどの上載荷重を受ける場合)の主筋の継手、定着及び余長

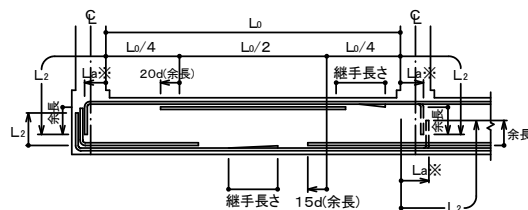


- (注) 1. 図示のない事項は、10. 1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※ Laの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。
4. 基礎梁内の主筋カットオフ位置及び余長は図面による。

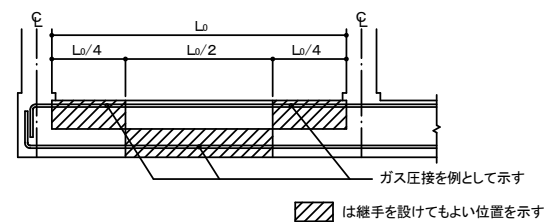


12. 2図 主筋の継手、定着及び余長(その1)

- (3)連続基礎及びべた基礎の基礎梁(基礎梁の下方より地反力(杭反力)を受ける場合)の主筋の継手、定着及び余長



- (注) 1. 図示のない事項は、10. 1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※ Laの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。
4. 基礎梁内の主筋カットオフ位置及び余長は図面による。

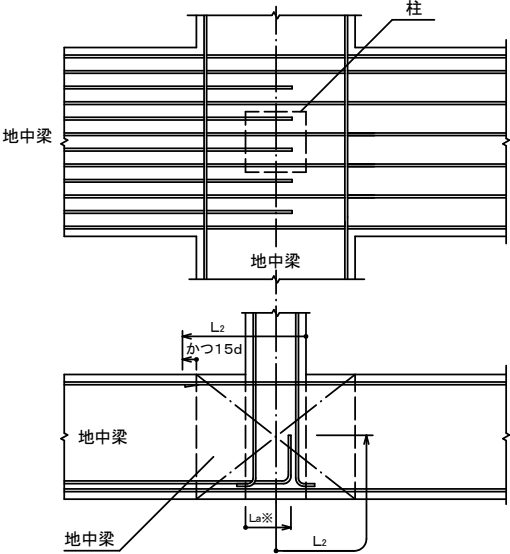


12. 3図 主筋の継手、定着及び余長(その2)

図面番号	A-049	縮 尺	—	
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	構造細目共通図(建築構造物)(4)		番 号	
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

(4)柱幅<梁幅の場合

(a)交差部のスターラップを設ける場合は、図面による。



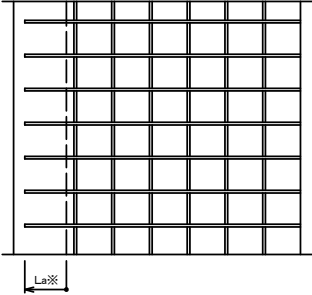
※ Laの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

12. 4図 主筋の継手、定着及び余長(その3)

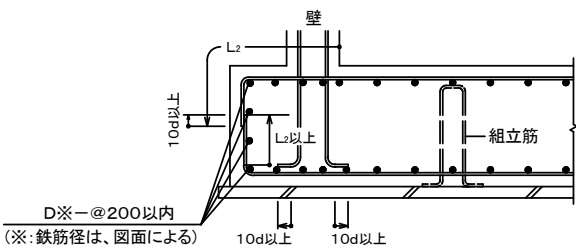
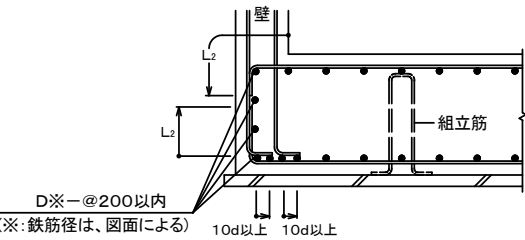
12. 4 梁形を設けない場合の基礎底板(オイルタンク等)

(1)定着の取り方は、壁の面からとする。

(2)途中で配筋が変わる場合の定着は、12. 2図のように基礎底板筋を梁筋と読みかえる。

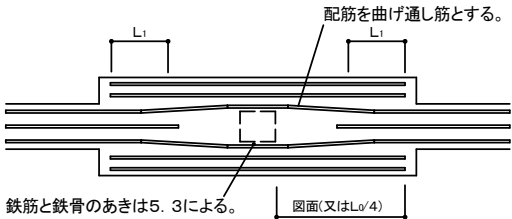


※ Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。



12. 5図 主筋の継手、定着及び余長(その4)

(3)鉄骨造のBOX柱等が埋め込まれる場合の端部と中央部の断面の異なる場合



12. 6図 主筋の継手、定着及び余長(その5)

13 小梁及び片持梁の配筋要領

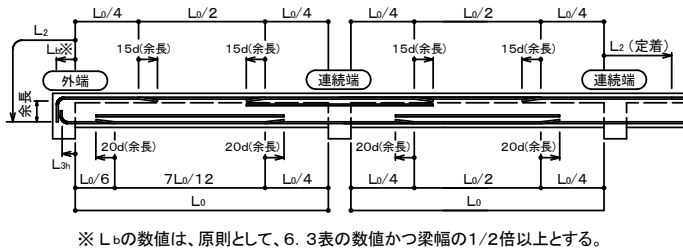
13. 1 一般事項

(1)図面にない事項は大梁、梁のあばら筋、及び基礎梁の項に準ずる。

(2) ≡ 印は、継手及び余長を示す。

13. 2 小 梁

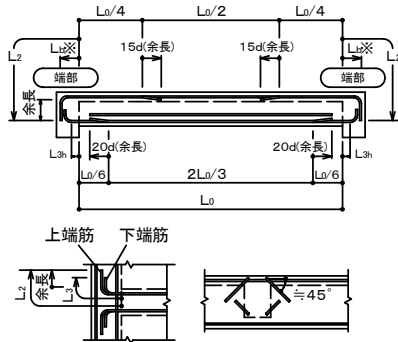
(1)連続小梁の場合



※ Lbの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。

13. 1図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)

(2)単独小梁の場合



13. 2図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)

(注) 1. ≡ 印は、継手及び余長を示す。

2. 梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。

3. 図示のない事項は、10. 1及び12. 1に準ずる。

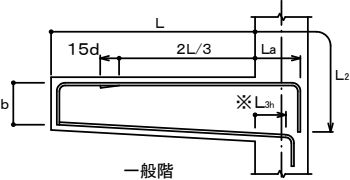
※ Lbの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。

13. 3 片持梁筋の定着

(1)先端に小梁のない場合

a. 先端の折曲げの長さblは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。

b. 梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。



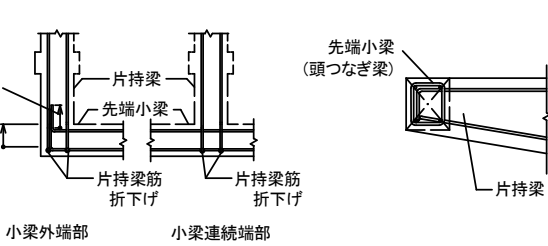
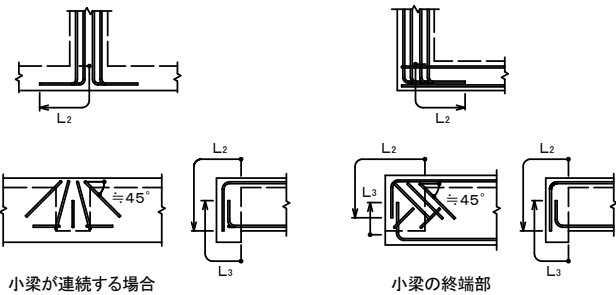
13. 3図 片持梁主筋の定着及び余長(先端に小梁のない場合)

(2)先端に小梁がある場合

a. 上端筋は、先端小梁内に斜めに定着する。

b. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。

c. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。



13. 4図 片持梁主筋の定着

14 壁の配筋要領

14. 1 一般事項

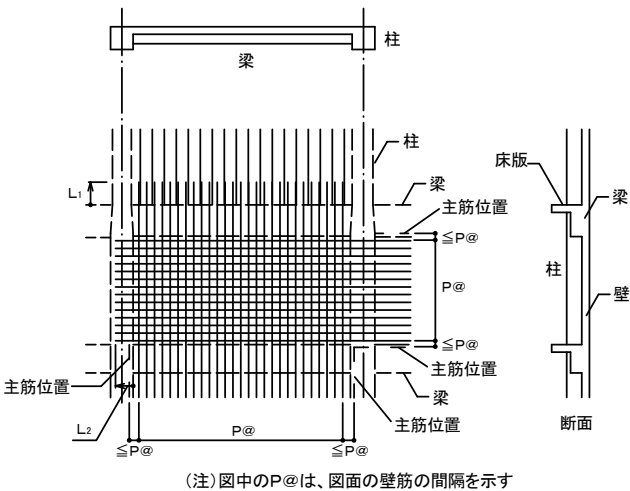
(1)一般壁配筋の重ね継手の長さはL1とし、耐震壁の鉄筋の重ね継手の長さは40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。

また、定着の長さは、L2とし、鉄筋の継手位置は、柱・梁部以外とする。

(2)幅止め筋は、縦、横ともD10―@1000を標準とする。

(3)打増し部分に、壁及びスラブ等が取りつく場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し部分は含まない。

(4)土圧及び水圧などを受ける壁の配筋は、図面による。



(注)図中のP@は、図面の壁筋の間隔を示す

14. 1図 壁の配筋

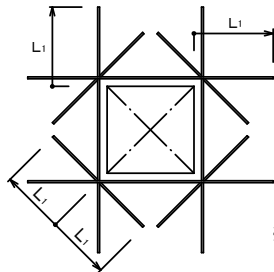
14. 2 耐震壁の開口

(1)耐震壁等の開口は、図面以外は設けてはならない。

(2)やむを得ず開口をあける場合は、H19国土交通省告示593号の規定を満足することを構造計算によって確認すること。

14. 3 壁開口部の補強

(1)壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、14. 3図を標準とする。



※:鉄筋径及び本数は、図面による

14. 3図 壁開口部の補強の定着長さ

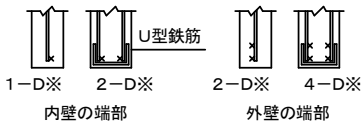
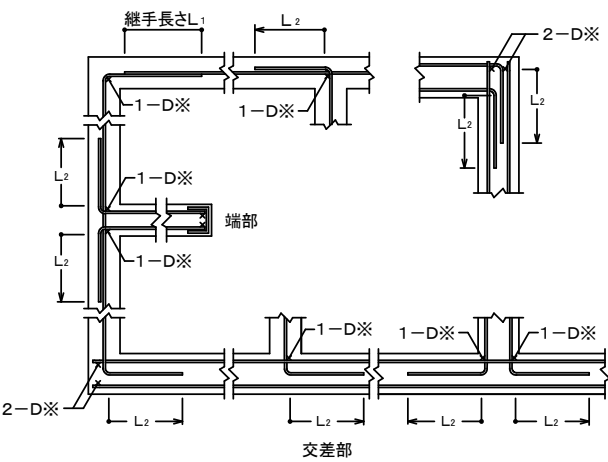
(2)開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

14. 4 壁の交差部及び端部

壁の交差部及び端部の交差部は、14. 4図による。

a. 交差部補強筋D※はD13以上、かつ壁主筋と同径とする。

b. 壁の端部にU型鉄筋を使用する場合の径及び間隔は、壁筋と同径及び同間隔とする。



14. 4図 壁の交差部及び端部の配筋

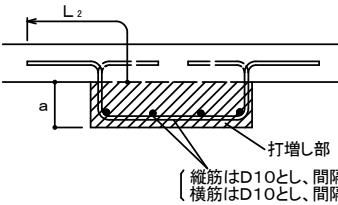
※壁構造の場合は、「壁構造配筋指針・同解説」(日本建築学会)に基づき図面による。

14. 5 壁の打増し要領

コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記によるほか、配管等での壁の打増し補強筋は、14. 5図による。

打増し厚さのaが50mm以上、200mm以下に適用する。

200mmを越える場合は、特記による。



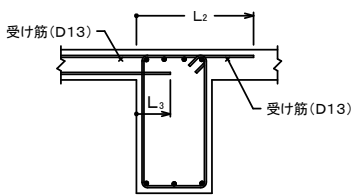
14. 5図 壁の打増し補強配筋

図面番号	A-050	縮 尺	—	
工 事 名	新選ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	構造細目共通図(建築構造物)(5)	番 号		
工事箇所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

15 床の配筋要領

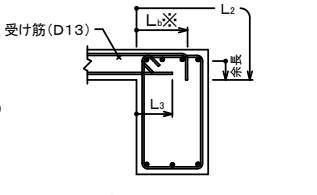
15.1 一般事項

- (1)鉄筋の継手長さは、 L_1 とする。
(2)定着長さ及び受け筋は、15. 1図による。ただし、引き通すことができない場合は、15. 2図、15. 3図により梁内に定着する。
(3)基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強は図面による。



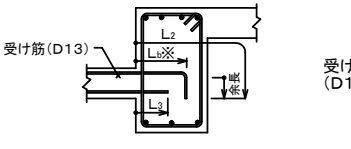
15. 1図

スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1)



15. 2図

スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その2)

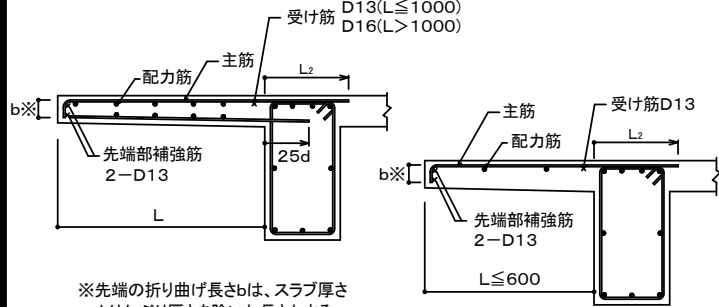


15. 3図

スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その3)

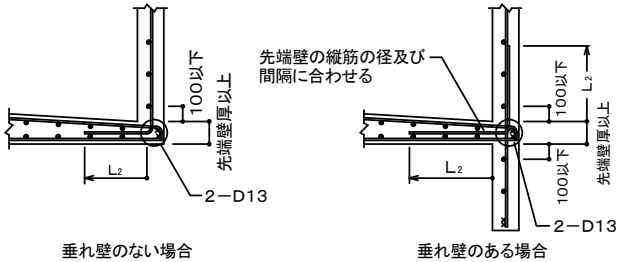
15.2 片持スラブ

(1)片持スラブの配筋



15. 4図 片持スラブの配筋

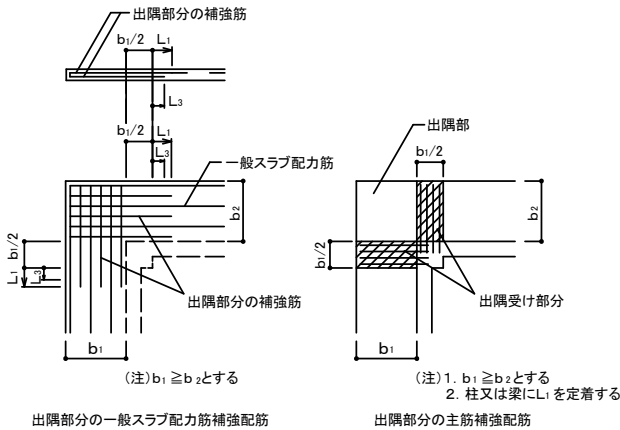
(2)先端に小梁がなく壁が取り付け場合



15. 5図 先端に壁が付く場合の配筋

15.3 片持ちスラブ出隅部の補強配筋

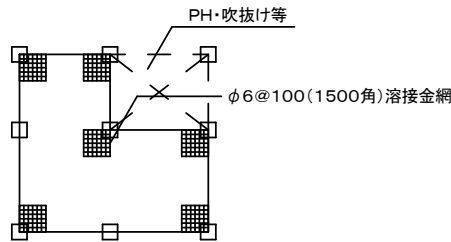
- (1)出隅部の補強筋は図面により、配筋方法は、15. 6図による。
(2)出隅受け部分(図のハッチ部分)の配筋は、図面による。



15. 6図 片持スラブ出隅部の補強配筋

15.4 地上部最上階の屋根床版

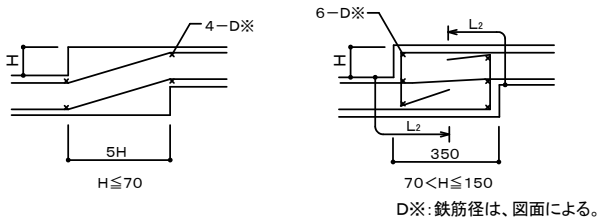
- (1)出隅及び入隅部分には、15. 7図により、補強筋(溶接金網)を上端筋の下側に配筋する。
(2)陸屋根、勾配屋根共通とする。



15. 7図 出隅及び入隅部分の補強配筋

15.5 段差床版の補強

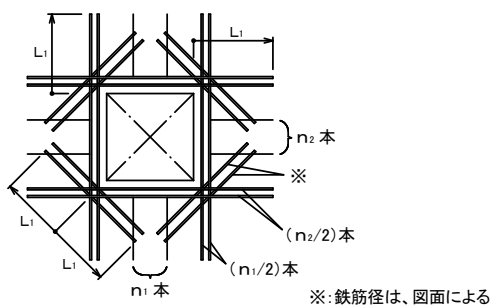
- 同一床版に段差がある場合、15. 8図の補強を行う。ただし、 $H>150$ の場合は、小梁を設ける事を原則とする。



15. 8図 段差のある床版の補強配筋

15.6 床版開口部の補強

- (1)開口の最大径 ≤ 700 の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には、斜め方向に主筋径以上の鉄筋2本を上下筋の内側に配筋する。(15. 9図) 開口の最大径 > 700 の場合は図面による。



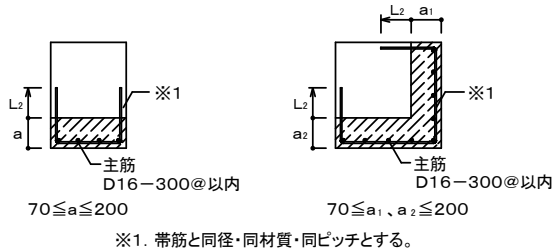
15. 9図 床版開口部の補強配筋

- (2)床版開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強筋を省略することができる。

16 柱及び梁の増し打ち要領

16.1 柱

- (1)増し打ちコンクリートの補強は、16. 1図による。
ただし、 $a<70\text{mm}$ の場合、補強は行わない。 $200\text{mm}<a$ の場合は、図面による。

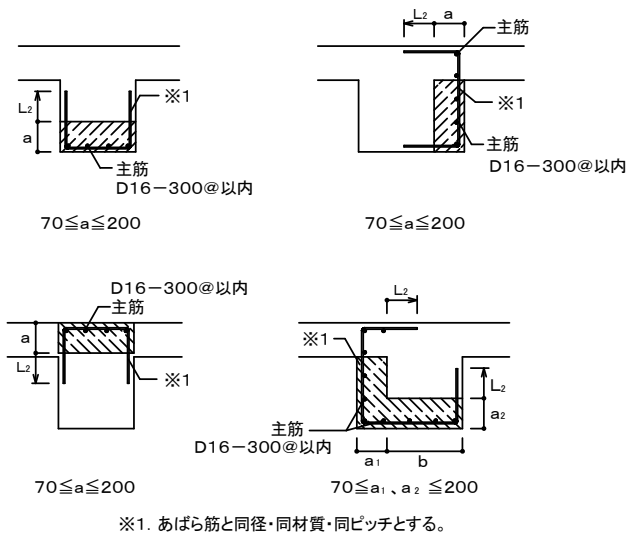


16. 1図 柱の増し打ち補強配筋

- (2)増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。
(3)増し打ち部分の帯筋の定着長さは、 L_2 以上とする。
(4)増し打ち部分主筋の定着、重ね長さは、柱の主筋による。

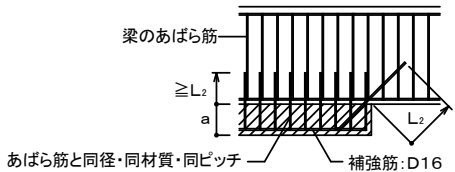
16.2 梁

- (1)増し打ちコンクリートの補強は、16. 2図による。
 $a<70\text{mm}$ の場合、補強は行わない。 $200\text{mm}<a$ の場合は、図面による。



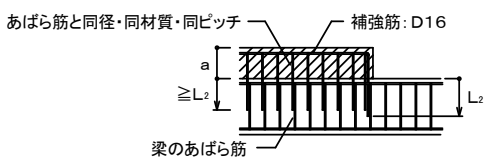
16. 2図 梁の増し打ち補強配筋

- (2)増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。
(3)増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、 L_2 以上とする。
(4)増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。
(5)梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合



16. 3図 梁の上下の増し打ち配筋補強(途中で終わる場合)

- (6)梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合

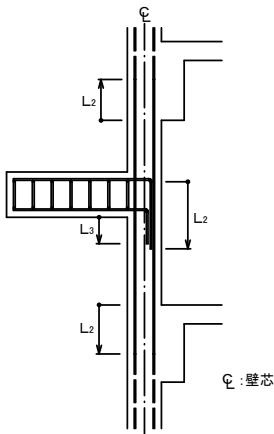


16. 4図 梁の側面の増し打ち補強配筋(途中で終わる場合)

18 階段の配筋要領

18.1 階段の配筋要領

- (1)壁配筋は、図面による。
(2)階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に曲げ下ろす。



18. 1図 片持スラブ形階段配筋の定着

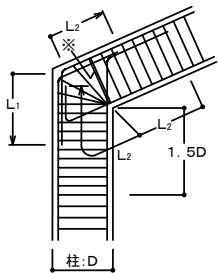
図面番号	A-051	縮 尺	—	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	構造細目共通図(建築構造物)(6)	番 号		
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

19 勾配屋根の取合い

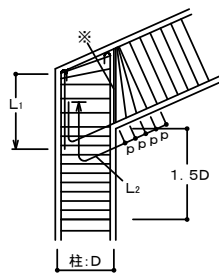
19. 1 斜め柱・斜め梁の取合い

- (1)※印の鉄筋は、同径以上とし、かつダブル巻きとする。
(2)1. 5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、またはダブル巻きとし@100以下とする。
(3)柱の取合い部における斜め梁のせん断補強筋中心間隔は、当該梁部材のせん断補強筋中心間隔p以下とする。

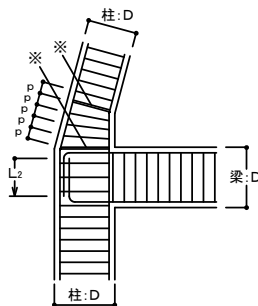
a) 柱幅と斜材(柱又は梁)幅が同一



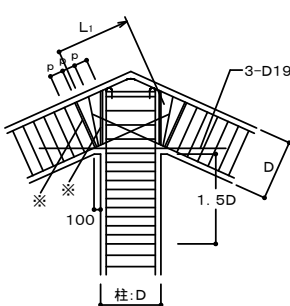
b) 柱幅と斜材幅が異なる



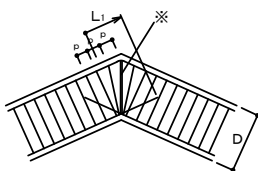
c) 柱脚で斜材となる



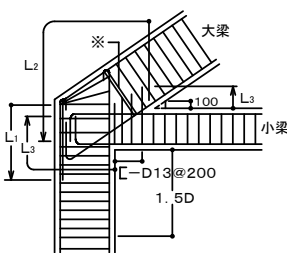
d) 柱頭で斜材となる上端筋は、連続筋とする。



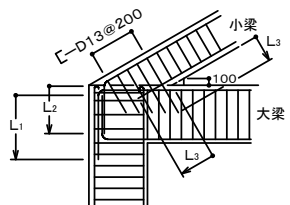
e) 梁が斜材となる上端筋は、連続筋とする。



f) 斜め大梁に小梁が接する場合
柱筋はa), b)に倣う。



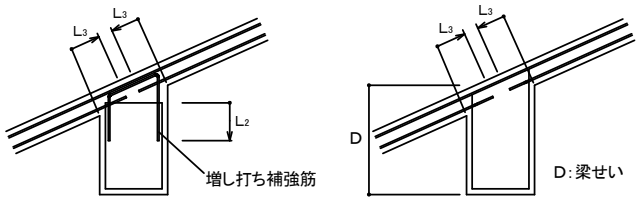
g) 大梁に斜め小梁が接する場合
柱筋はa), b)に倣う。



19. 1 図 斜め柱・斜め梁の取合い配筋

19. 2 梁と床版の取合い

増し打ち補強要領は、16. 2による。



Type A

Type B

19. 2 図 梁と床版の取合い配筋

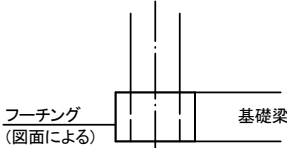
19. 3 円柱の取合い

円柱と梁の取合い



1) 柱頭部で柱芯に梁が
取り付く場合

2) 柱頭部で柱外面に梁が
取り付く場合



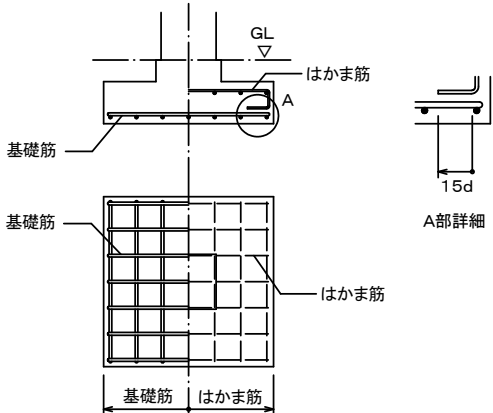
3) 柱脚部の円柱と基礎との
取合い

19. 3 図 円柱の取合い配筋

20 基礎及び基礎梁の配筋

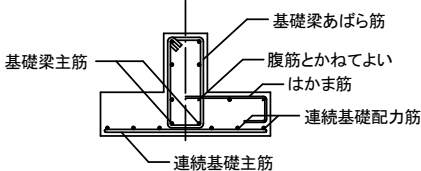
20. 1 直接基礎の配筋

(1)独立基礎



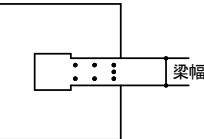
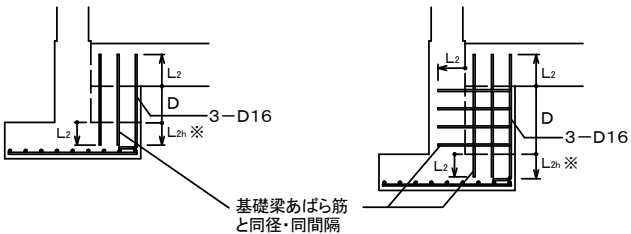
20. 1 図 独立基礎の配筋

(2)連続基礎

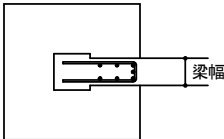


20. 2 図 連続基礎の配筋

20. 2 基礎接合部の補強配筋



0<D≤200



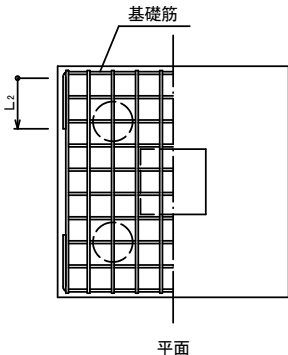
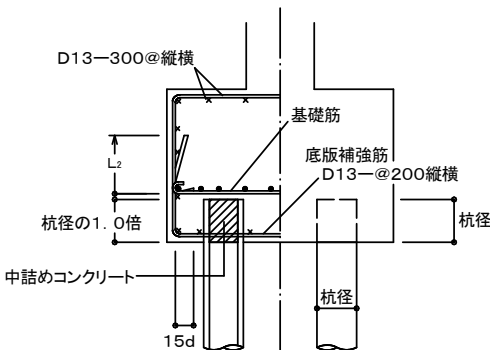
200<D≤1000

※L_{2a}を確保できない場合は、標仕(5. 3. 4(e)(2))によることができる。

21 杭基礎の補強

21. 1 杭基礎の配筋

- (1)中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。
(2)既製コンクリート杭以外の場合は、特記による。



21. 1 図 杭基礎の配筋及び杭頭部の補強方法

21. 2 基礎接合部の補強

基礎接合部の補強は、20. 2による。

図面番号	A-052	縮 尺	図 示
工 事 名	新涯ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)		
種 別	耐震補強特記仕様書	番号	
工事箇所	福山市新涯町二丁目及び新涯町四丁目地内		
設計年月	2025年8月		
福 山 市 上 下 水 道 局			

一般仕様

1. 使用材料

コンクリート	$F_c=21\text{N/mm}^2$	スランプ18
無収縮グラウト材	$F_m=30\text{N/mm}^2$ 以上	
無筋コンクリート	$F_c=18\text{N/mm}^2$	スランプ15

鉄 筋	JIS G 3112	SD295A	(D16以下)
	JIS G 3112	SD345	(D19以上)
	JIS G 3112	SR235	(割裂補強筋)

アンカー筋	JIS G 3112 SD295A	(D16以下)
	JIS G 3112 SD345	(D19以上)

接着系アンカー 有機系カプセル型アンカー

シャコネクター 有機系カプセル型アンカー
SD295A (D10) [増し壁の場合に使用する]

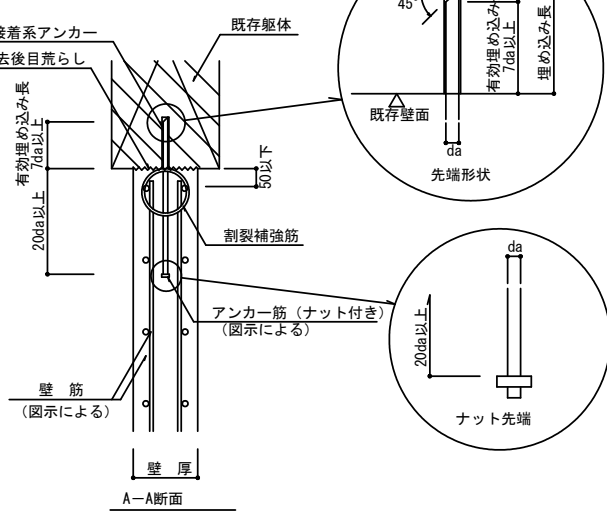
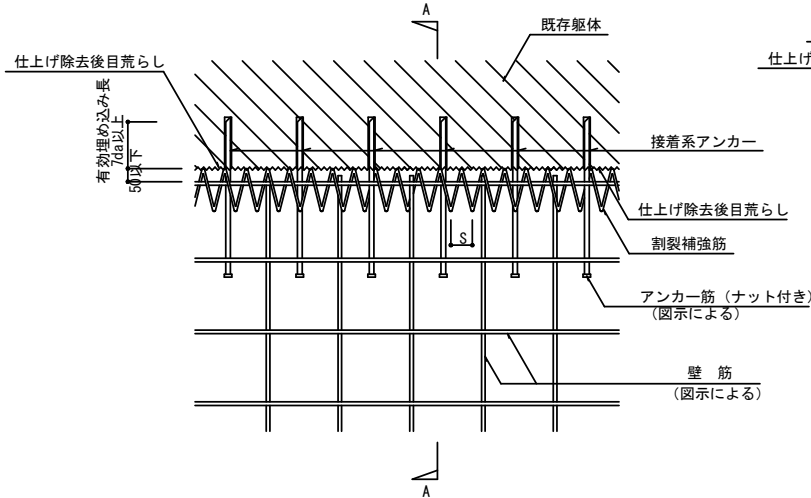
2. 注意事項

- 1) スパイラル筋や壁配筋等の材料の加工に先立ち躯体寸法を実測し、これらの補強筋を実状に合った寸法に加工すること。
- 2) 増設部分と既存コンクリート躯体との接合面については既存コンクリート躯体面を目荒らしし、コンクリート打設前に十分水湿しを行う。
打継ぎ面の目荒らしは、電動ピック等を用いて行い、平均深さ5mm(最大で10~15mm)程度の凹凸を、打継ぎ面の3/4~全面にわたって付けること。目荒らしは、他の部分にひび割れを生じさせないよう慎重に行う。
- 3) コンクリート打設にはバイブレーターの使用、又はタタキ締めを行い密実なコンクリートとなるように充分な施工計画を立てる。
- 4) 後打ちコンクリートは梁下20cmまで打設し壁頂部は無収縮グラウト材圧入とする。コンクリートの打込みは、圧入工法とする。
- 5) コンクリートの強度発現期間は充分な湿潤状態で養生する。また、養生期間中は振動を与えないように注意する。
- 6) 接着系アンカーの引張試験は、非破壊試験法による。試験箇所は1日に施工されたものの各径ごと1ロットとし、この中から3本を無作為に抜き取る。
- 7) 設計用引張強度の2/3以上の荷重に対して、アンカー筋が抜出す等の過大な変形が生じなければ合格とする。
- 8) その他は、公共建築改修工事標準仕様書(R.7)、及び特記仕様書による。
- 9) 既存躯体の埋設鉄筋探索を行い、適正に判断し施工を行うこと。
- 10) 耐震スリットは、鉄筋鉄筋を全て切断すること。

割裂補強筋配筋要領図 1/10

※1 daは鉄筋呼び径

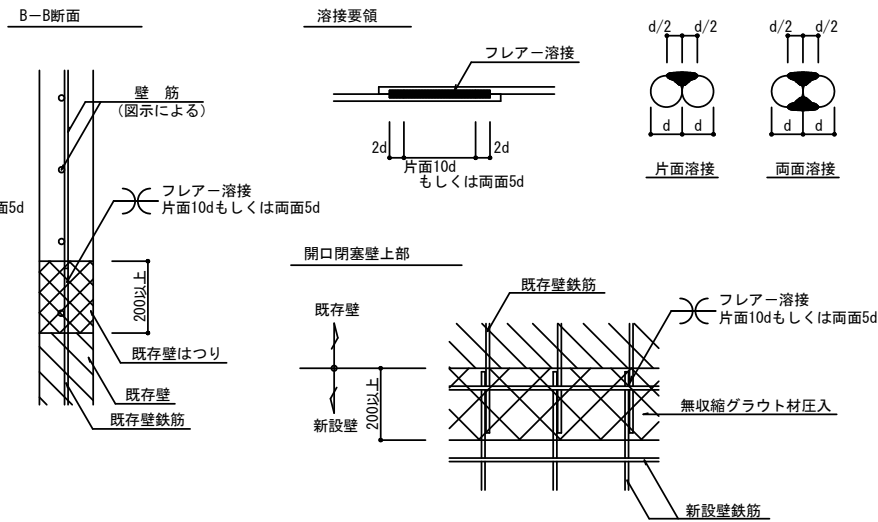
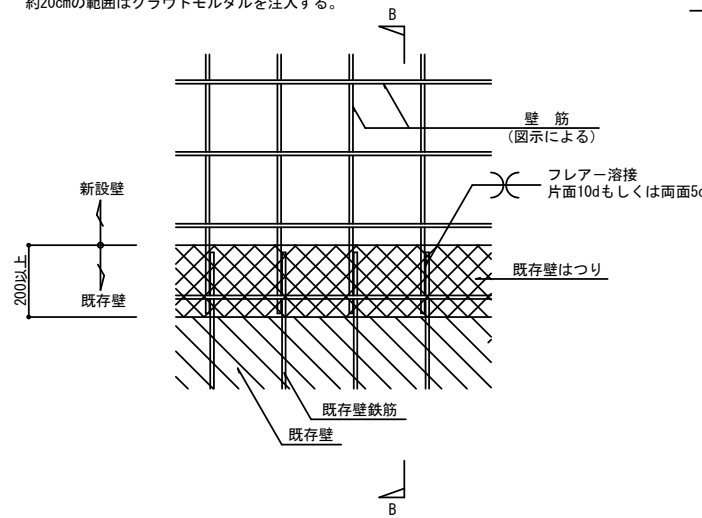
※2 開口補強筋に接着系アンカーを用いる場合の有効埋め込み長は10da以上とする。



既存壁鉄筋利用時配筋要領図 1/10

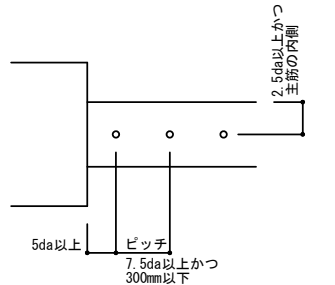
※1 dは鉄筋呼び径を示す。

※2 開口閉塞時の壁頭は、新設壁上部同様に約20cmの範囲はグラウトモルタルを注入する。

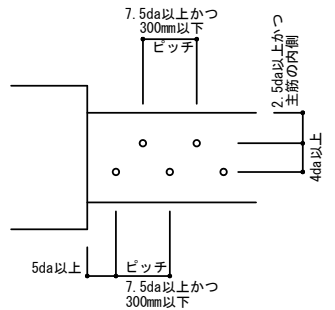


後施工アンカーの間隔 1/10

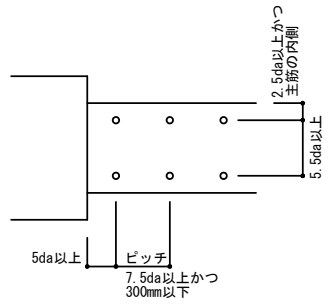
※ daは鉄筋呼び径



シングル配置



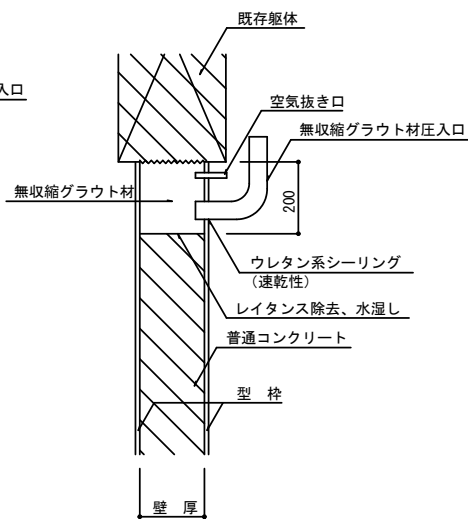
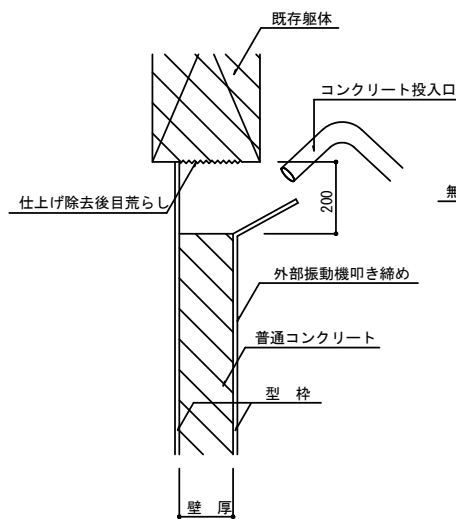
チドリ状配置



ダブル配置

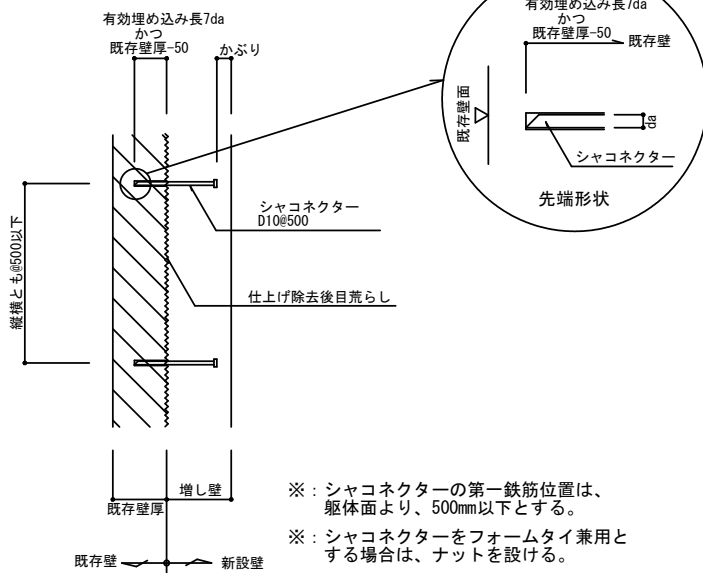
コンクリート及び無収縮グラウト材圧入要領図 1/10

(1) 普通コンクリート打設後、(2) 無収縮グラウト材を圧入する。



シャコネクター要領図 1/10

1/10

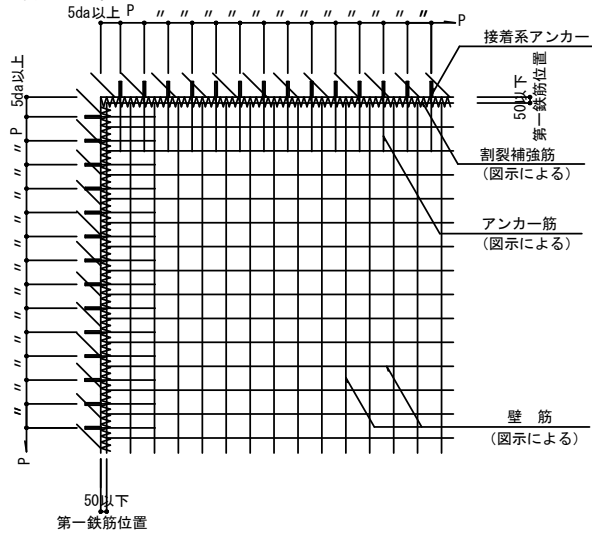


※：シャコネクターの第一鉄筋位置は、
躯体面より、500mm以下とする。

※：シャコネクターをフォームタイ兼用とする場合は、ナットを設ける。

増設壁配筋要領図 1/30

※ Pは図示による。



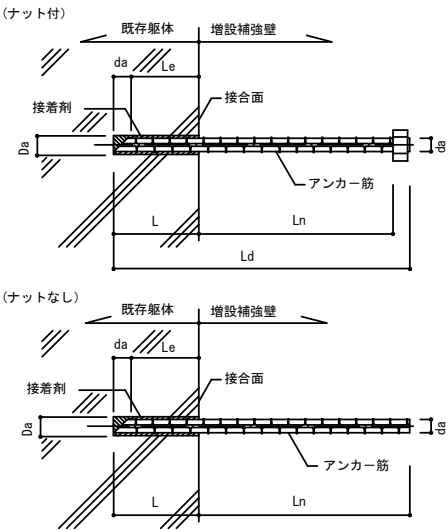
割烈防止筋寸法 (mm)

壁 厚	壁 筋	外径D	間隔S	壁 厚	壁 筋	外径D	間隔S
150	シングル	70	50	300	ダブル	220	50
180	ダブル	100	50	350	ダブル	270	50
200	ダブル	120	50	390	ダブル	310	50
250	ダブル	170	50				

図面番号	A-053	縮 尺	—	
工 事 名	新選ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	耐震改修標準詳細図	番 号		
工事箇所	福山市新選町二丁目及び新選町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

あと施工アンカー

(1) 接着系アンカー



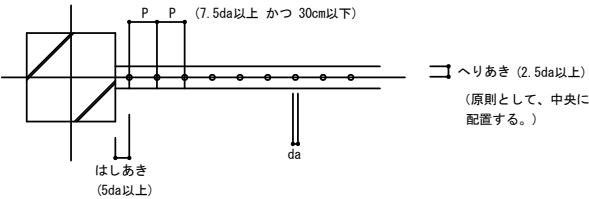
L : コンクリートの穿孔深さ、または接着系アンカーの埋め込み長さ
Le : アンカーの有効埋め込み長さ
Ld : アンカー筋の全長
Ln : 有効定着長さ
Da : 既存コンクリート躯体への穿孔径
da : アンカー軸部の直径、アンカー筋の呼び名

アンカー関係共通事項		
接着系アンカーの有効	埋め込み長さ	一般部 : $L_e = 7 da$ 開口補強筋 : $L_e = 10 da$
	定着長さ	一般部 : $L_n = 20 da$ 開口補強筋 : $L_n = L_1 + 5 da$ (=補強筋との継手長さ+クリアランス)
アンカー筋形状	ナット付き異形棒鋼(開口補強筋用はナットなし)とし、ナットからねじ山が2山以上でること。 また、先端形状は45°カットとする。	

施工確認試験荷重 (確認強度)		
アンカー筋呼び名 (da)	アンカーの有効埋込長さ (Le)	荷 重 (kN)
D [13]	[7] da	[21.0]
D [13]	[10] da	[24.8]
D [16]	[7] da	[31.6]
D [16]	[10] da	[38.9]
D [19]	[7] da	[44.6]
D [19]	[10] da	[56.3]
D [22]	[7] da	[59.8]
D [22]	[10] da	[76.1]

確認強度は、計算で得られた、アンカーの鋼材による引張荷重又はコンクリート破壊による引張荷重の小さい方の2/3程度の荷重。
※埋込みピッチ及びへりあきの影響を受ける場合は、低減した荷重を別途検討。

(2) あと施工アンカーの位置と間隔



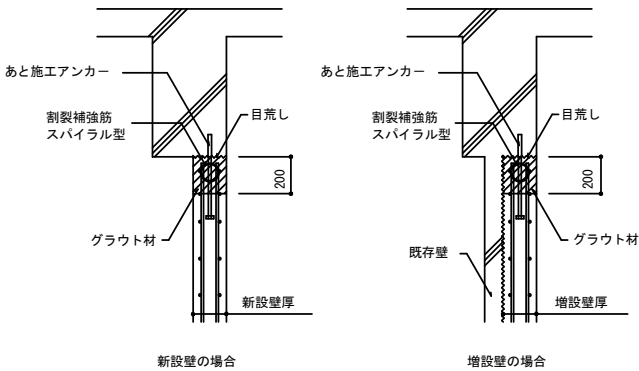
割裂補強筋配筋要領

- 割裂補強筋は、改修壁の柱・梁に接する面全てに配置する。
- 割裂補強筋は、6φスパイラル型とし、ピッチ、スパイラル径は下記による。
- 継手は、2巻以上の重ねとする。

壁 厚	スパイラル径	割裂補強筋	備 考
150	75φ	6φ#50	
180	100φ	6φ#50	
200	100φ	6φ#50	
250	150φ	6φ#50	
300	150φ	6φ#50	

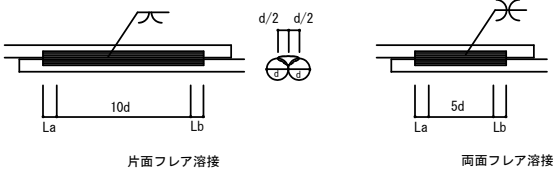
新設・増設壁上部グラウト要領

- 特記なき新設・増設壁上部は、グラウトを行う。

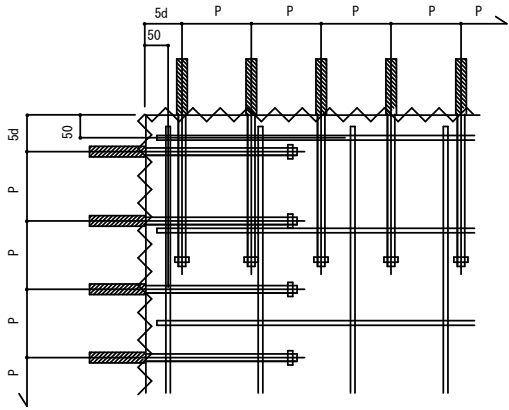


鉄筋フレア溶接要領

- 特記なき鉄筋のフレア溶接は、下図の片面または両面とする。
- 鉄筋のフレア溶接の溶接長さは、ビードの始点 (La) 及び、クレータ (Lb) を除いた部分の長さとする。但し、La 及び Lb は 2d 以上とする。



アンカー筋ピッチ標準

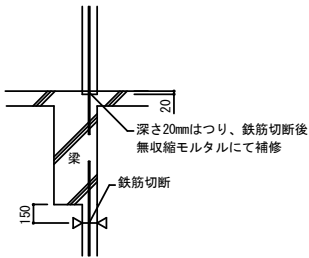


既存壁等撤去要領図 S=1/30

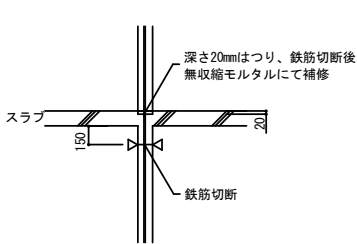
注記) 特記なき壁等の撤去は下図による。
注記) ≧印は、コンクリートカッター位置を示し、カッター深さ30とする。

注記) 鉄筋切断部には、錆止め塗装を行う。
注記) 鉄筋はつり出しは、特記による。

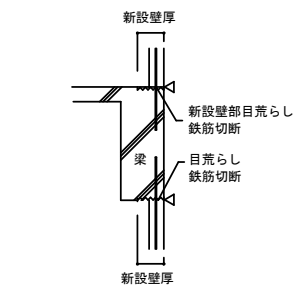
撤去壁-梁 取合部 (撤去のみの場合)



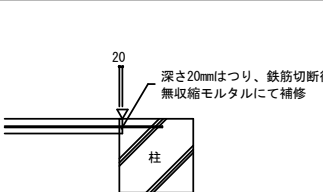
撤去壁-スラブ 取合部



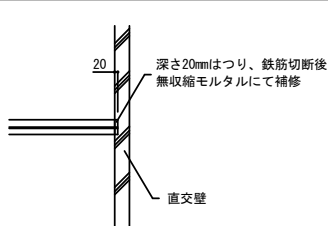
撤去壁-梁 取合部 (壁を新設する場合)



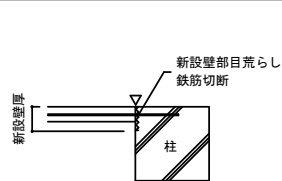
撤去壁-柱 取合部 (撤去のみの場合)



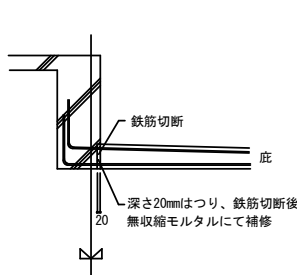
撤去壁-直交壁 取合部



撤去壁-柱 取合部 (壁を新設する場合)



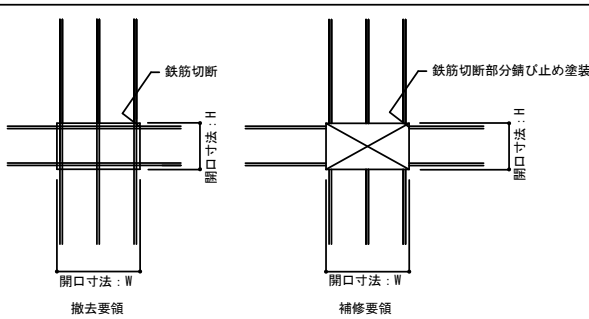
撤去底-梁 取合部



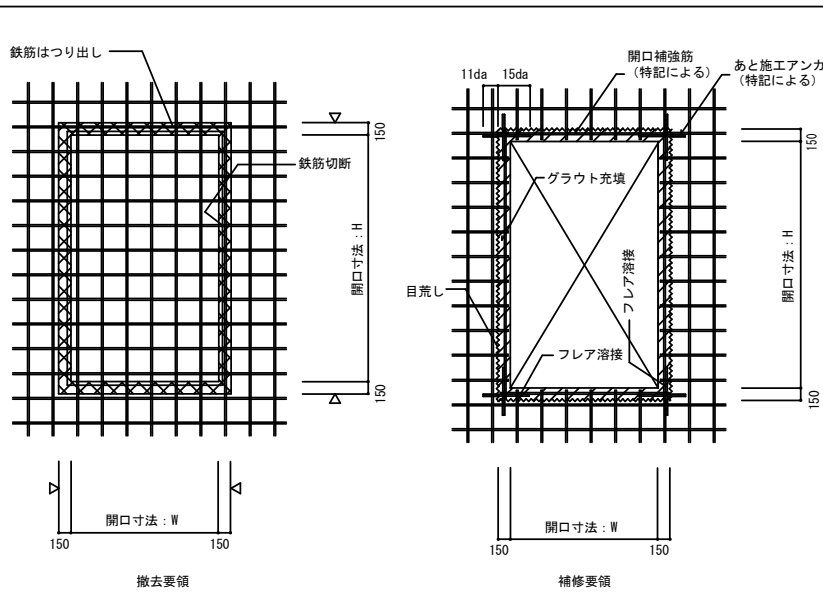
新設壁開口配筋要領図

- 床・壁にコア抜きにより先導孔を開ける。
- 各開口寸法に合わせ、コンクリートカッター及び、はつり出しにより開口部を開ける。
- 小開口部は切断面の補修 (錆び止め塗装) を施す。
大開口部はあと施工アンカーにより、開口補強筋を設ける。
開口補強筋を取り付けた後、内型枠に合わせグラウト材を充填する。

○小開口部 ・適用は特記による。



○大開口部 ・適用は特記による。



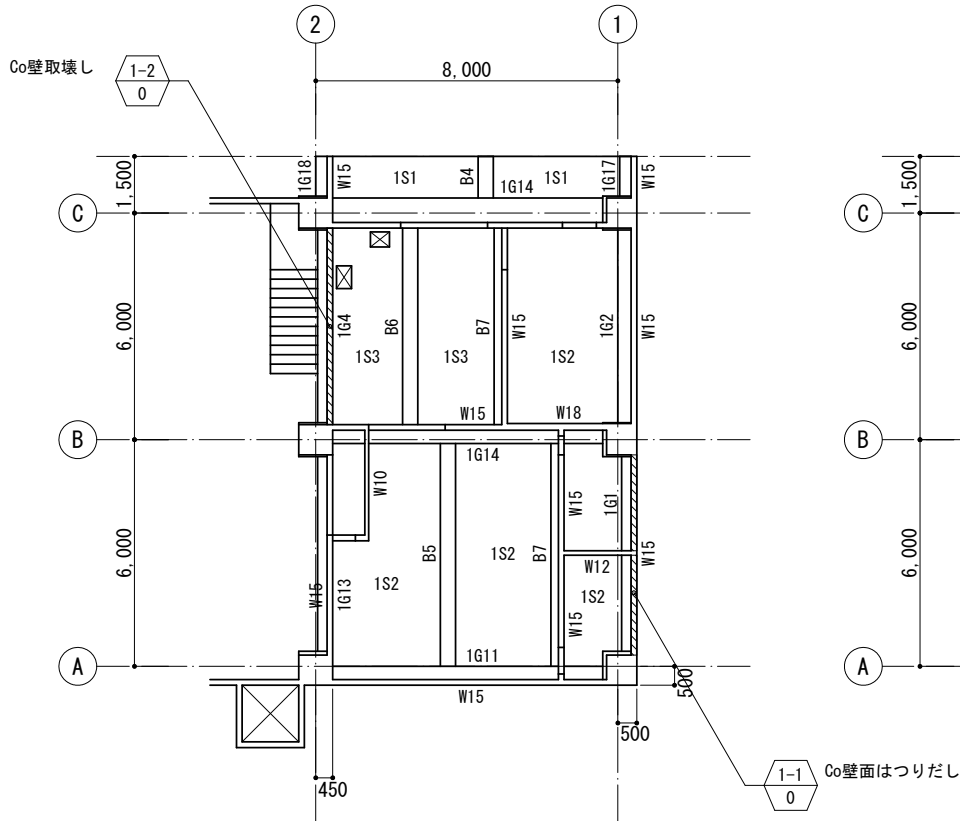
注記) ≧印は、コンクリートカッター位置を示し、カッター深さ30

- 一 般 事 項
- 参考図書
「2017年改訂版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針 同解説」 日本建築防災協会/国土交通大臣指定耐震改修支援センター
※第3章 補強部材・部位の設計
※第4章 補強工事の施工

図面番号	A-054		縮 尺	1/100	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	改修前 1F, 2F, RF 床伏図			番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

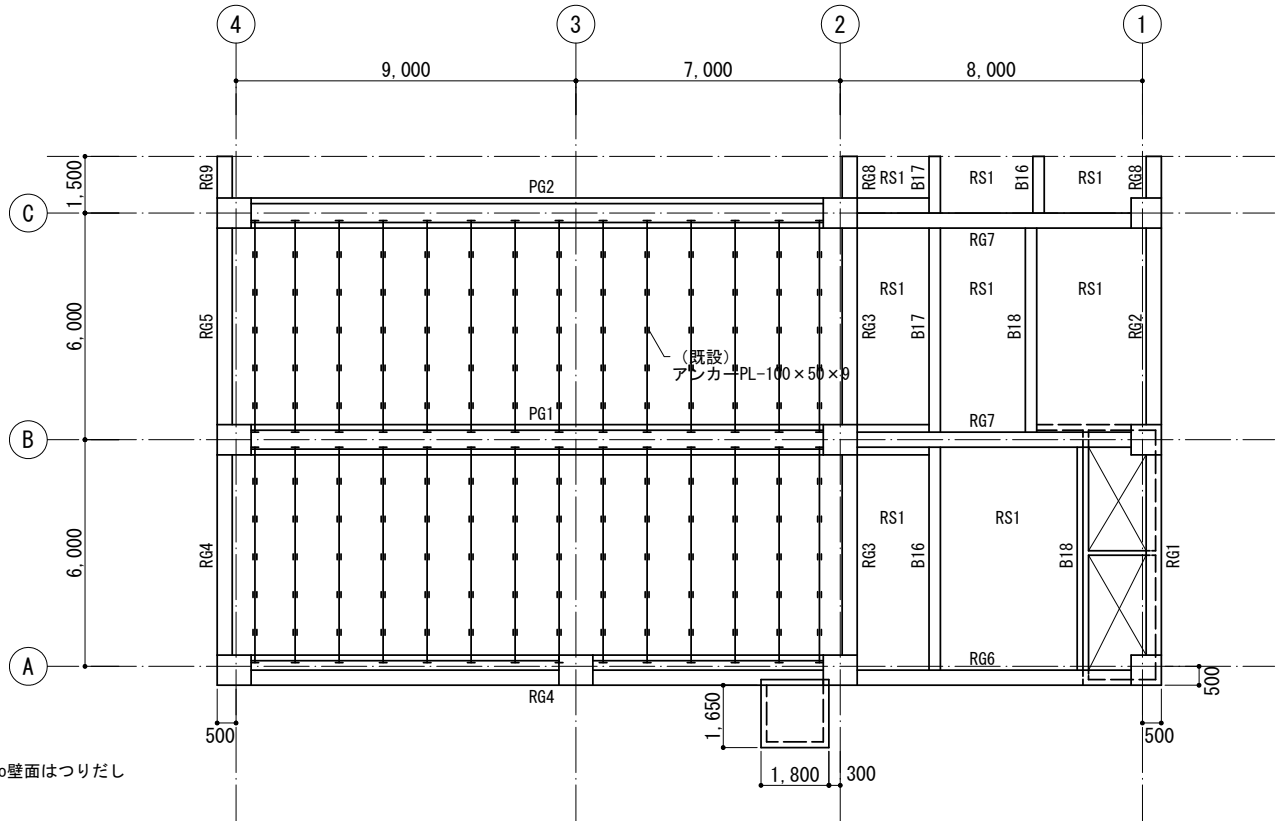
改修前 1F, 2F, RF 床伏図 S=1:100

凡 例	
	改修工事範囲
階数 — 0-0	部位番号
0	0:改修前



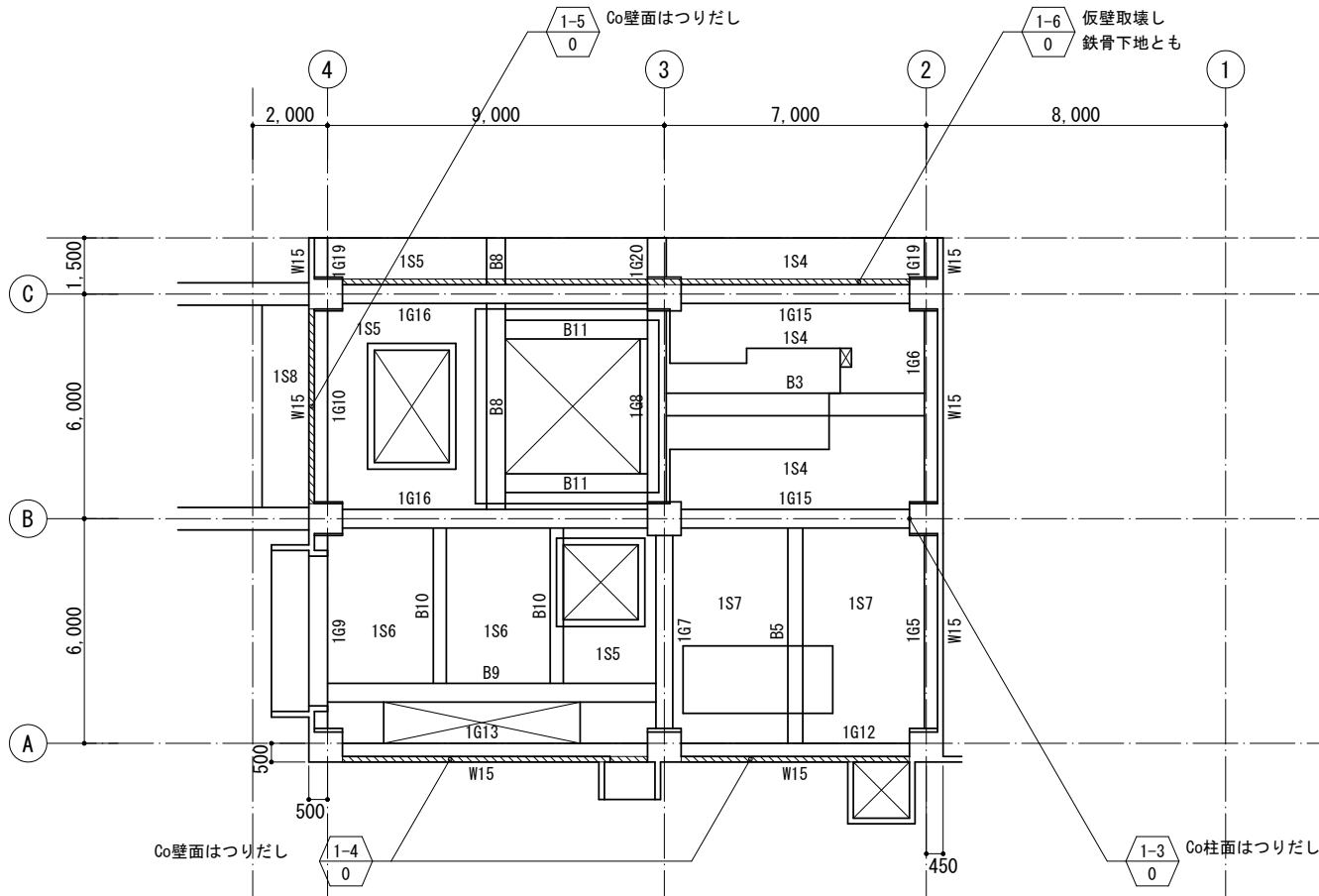
1階 床伏図 S=1:100

1SL=+7.500



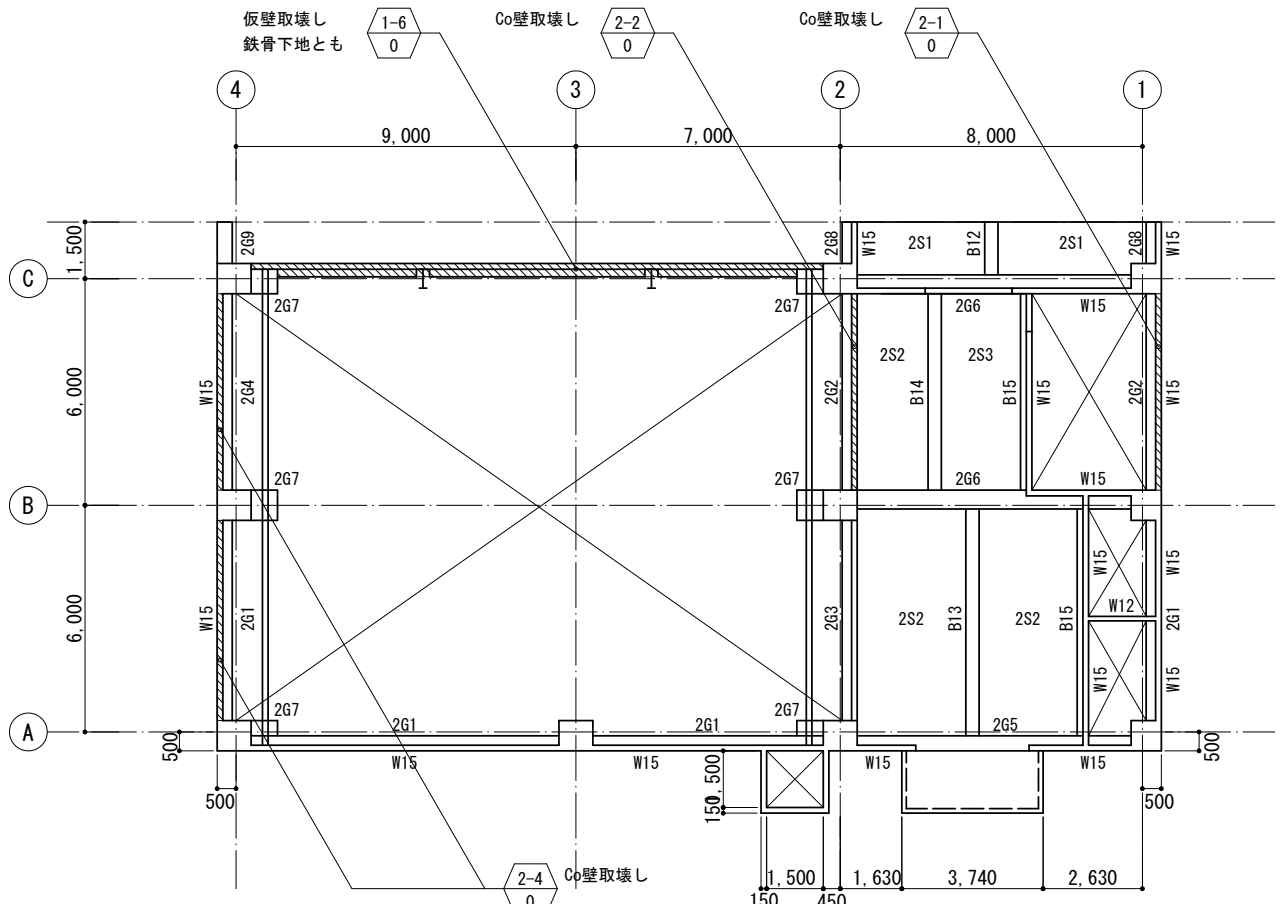
R階 床伏図 S=1:100

RSL=+16.500 (水下) ~+16.750 (水上)



1階 床伏図 S=1:100

1SL=+5.000



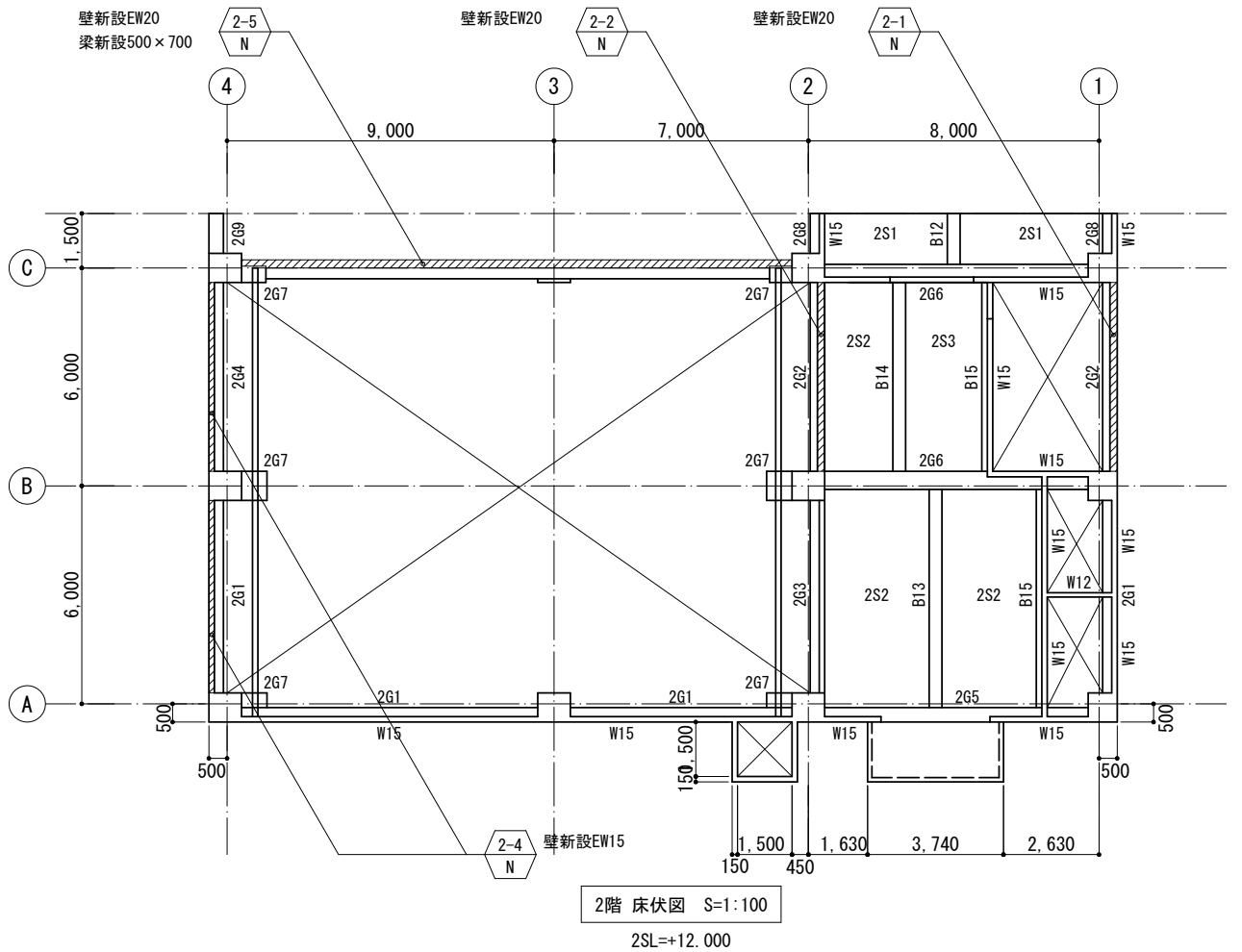
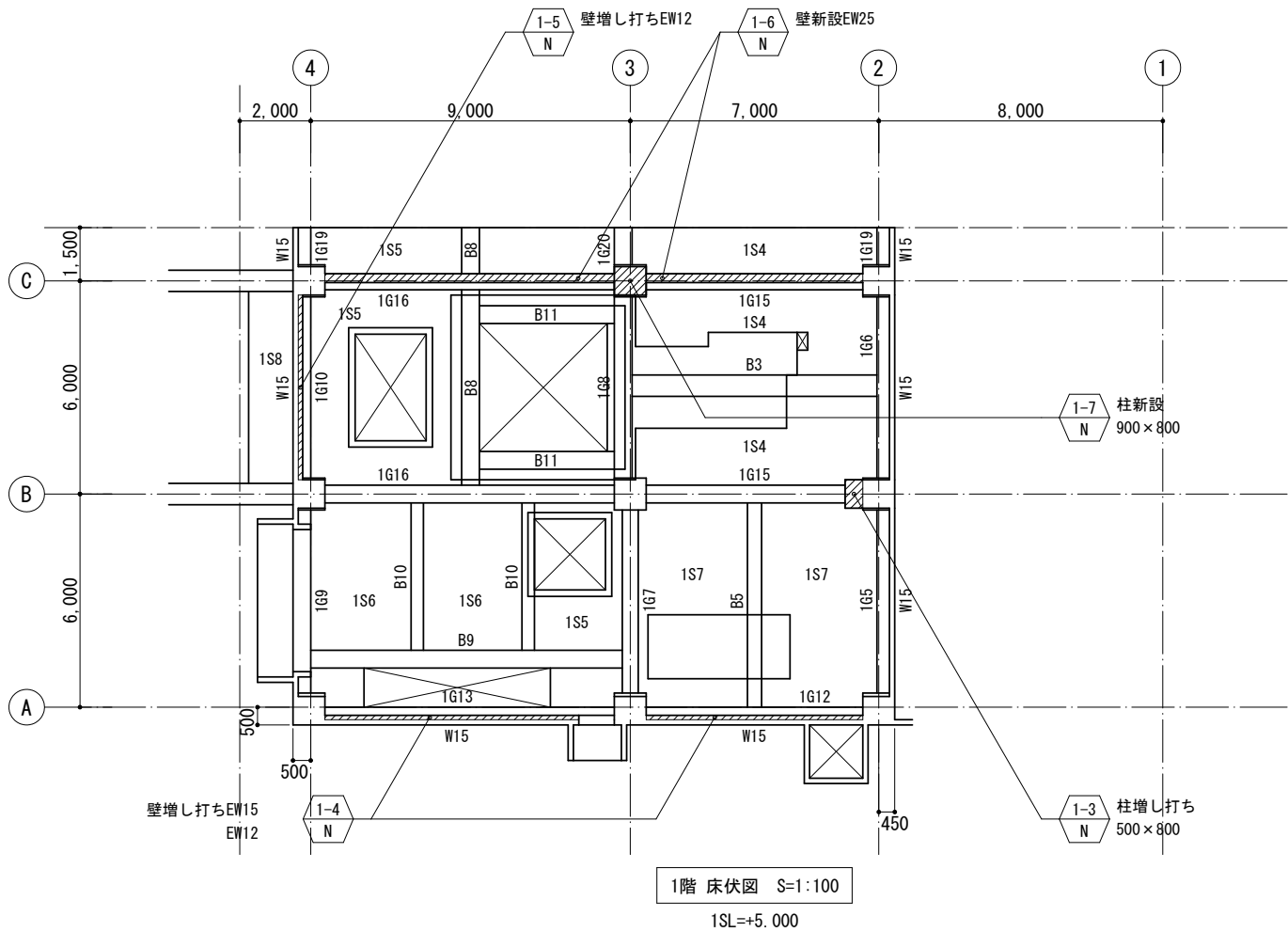
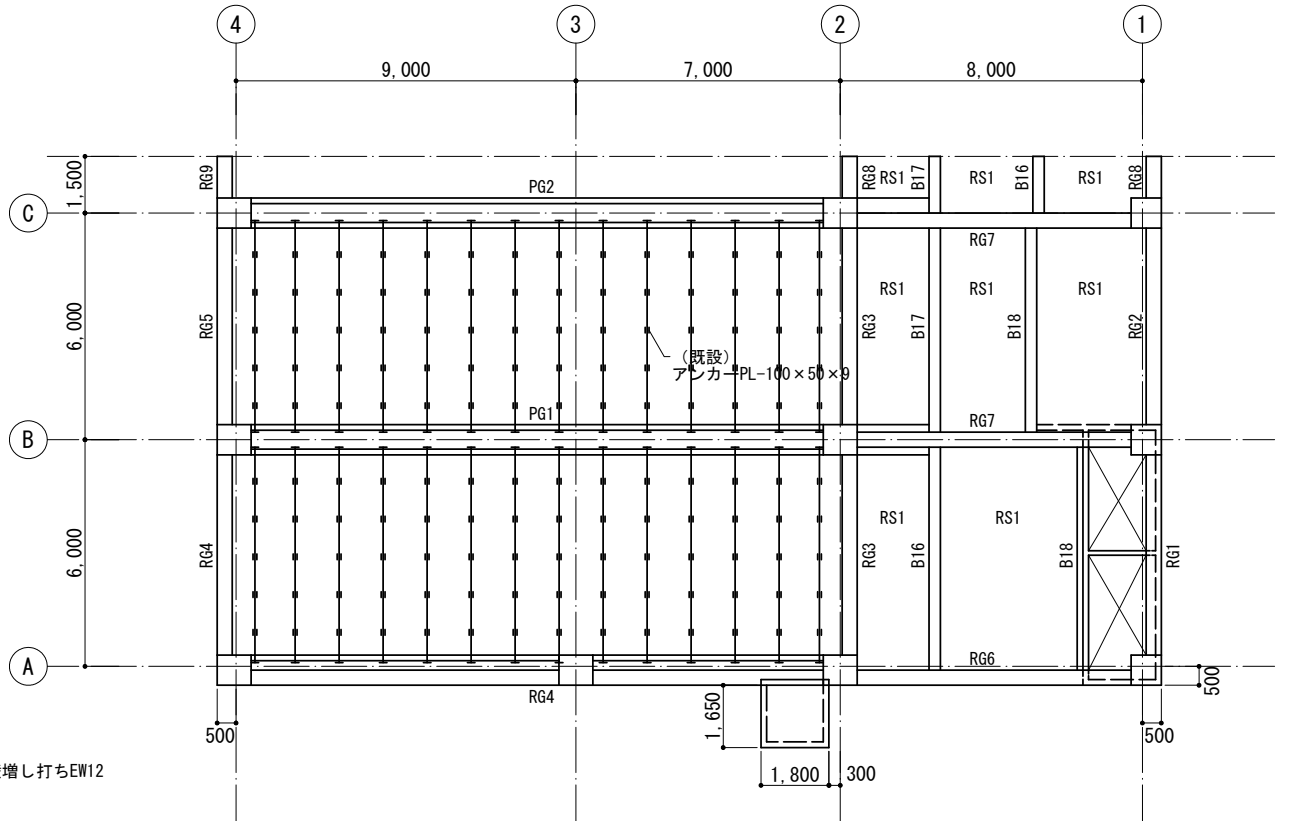
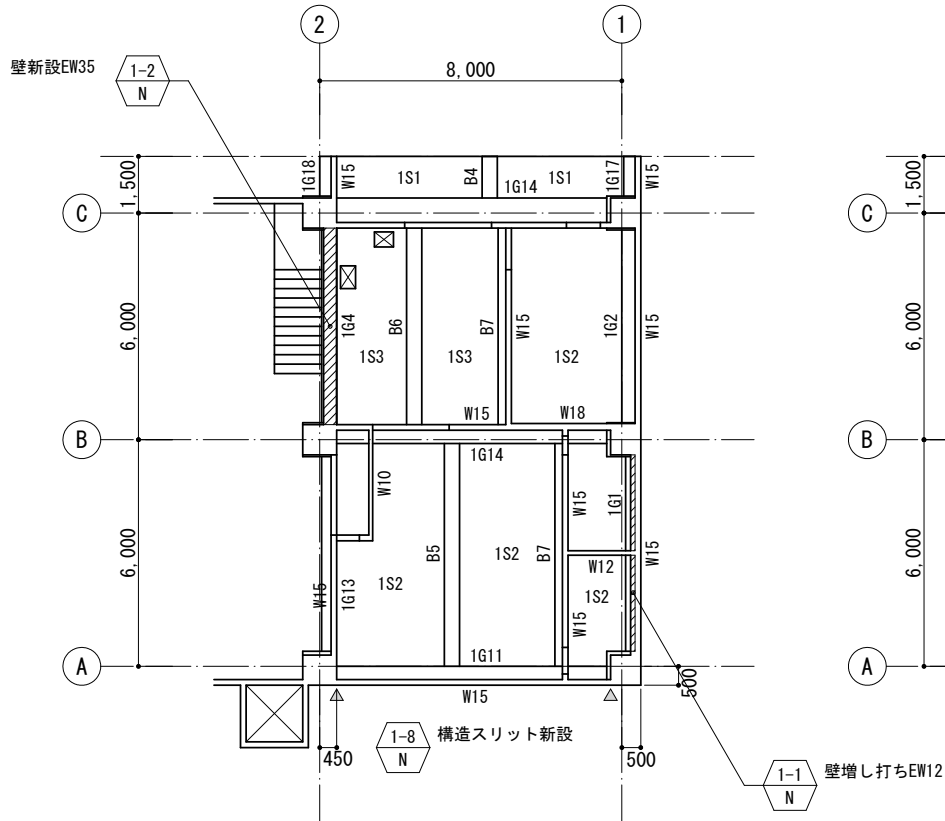
2階 床伏図 S=1:100

2SL=+12.000

図面番号	A-055		縮 尺	1/100	
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	改修後 1F, 2F, RF 床伏図			番 号	
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

改修後 1F, 2F, RF 床伏図 S=1:100

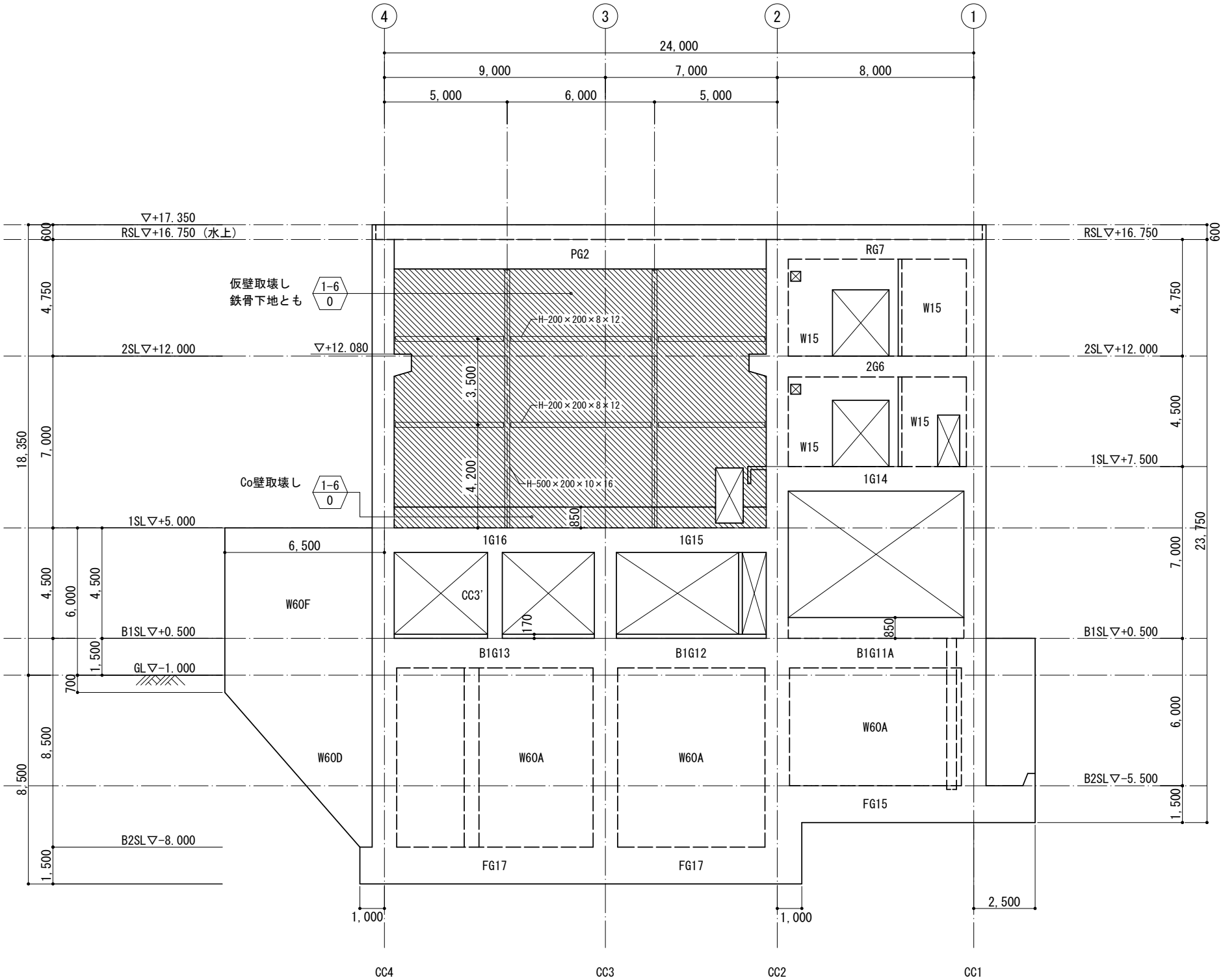
凡 例	
	改修工事範囲
階数	0-0 部位番号
N	N:改修後



図面番号	A-056		縮 尺	1/100	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	改修前 C通り軸組図			番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

改修前 C通り軸組図

S=1:100

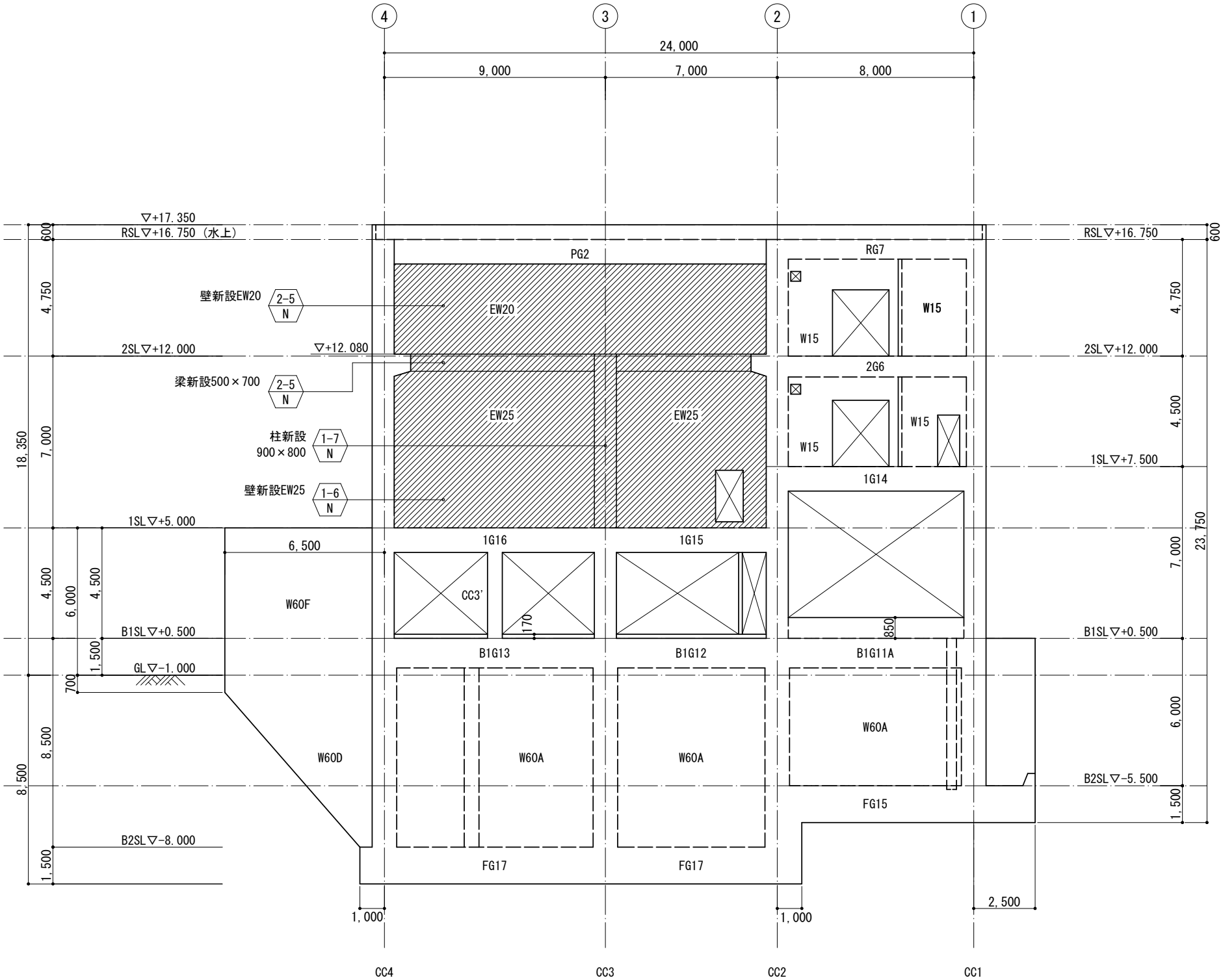


C通り軸組図 S=1:100

- 凡 例
- 改修工事範囲
 - 階数 0-0 部位番号 0: 改修前

図面番号	A-057		縮 尺	1/100	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	改修後 C通り軸組図			番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

改修後 C通り軸組図 S=1:100



C通り軸組図 S=1:100

凡 例

改修工事範囲

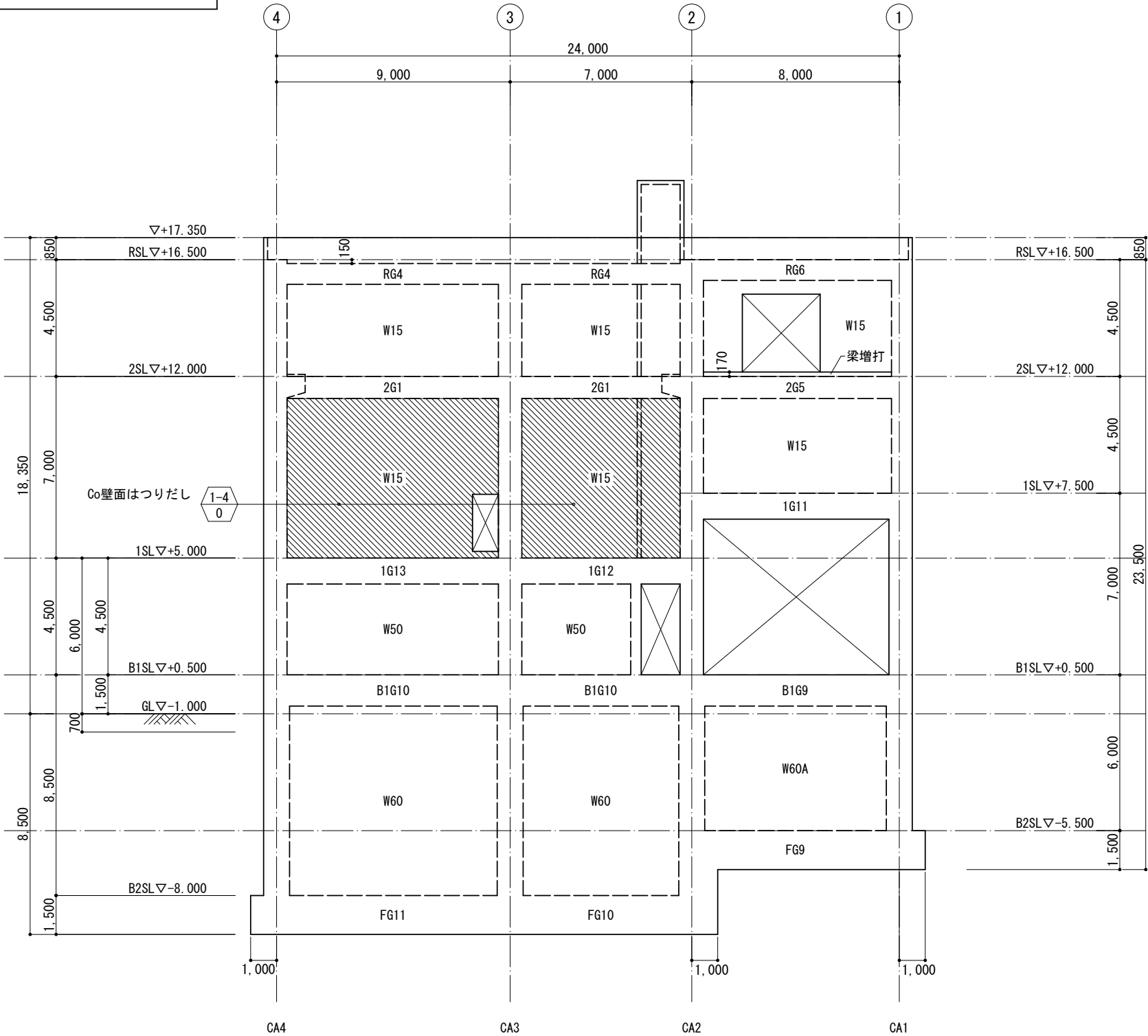
階数 — 0-0 — 部位番号

N

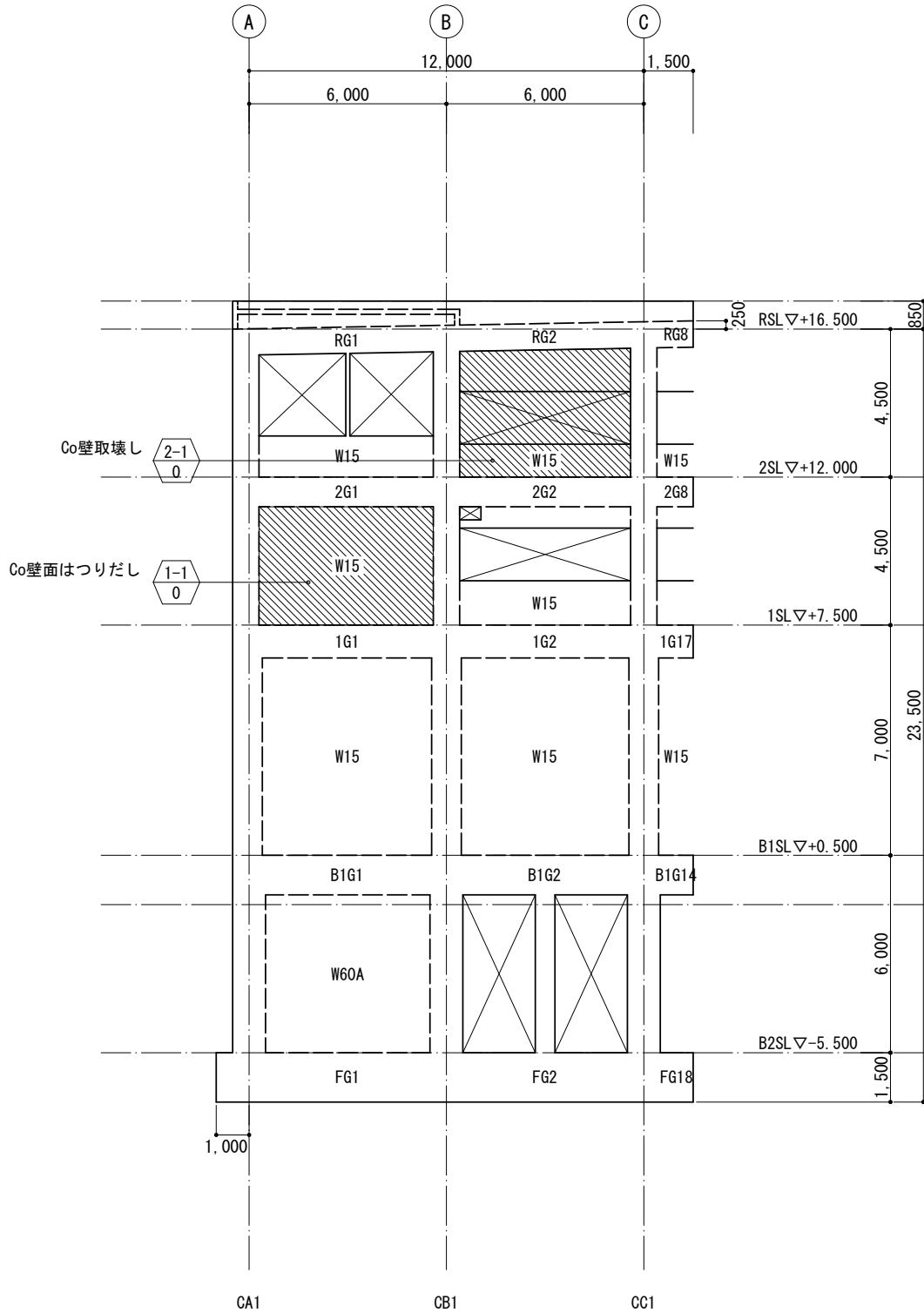
 — N: 改修後

図面番号	A-058		縮 尺	1/100	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	改修前 A通り、1通り軸組図			番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

改修前 A通り,1通り軸組図 S=1:100



A通り軸組図 S=1:100



1通り軸組図 S=1:100

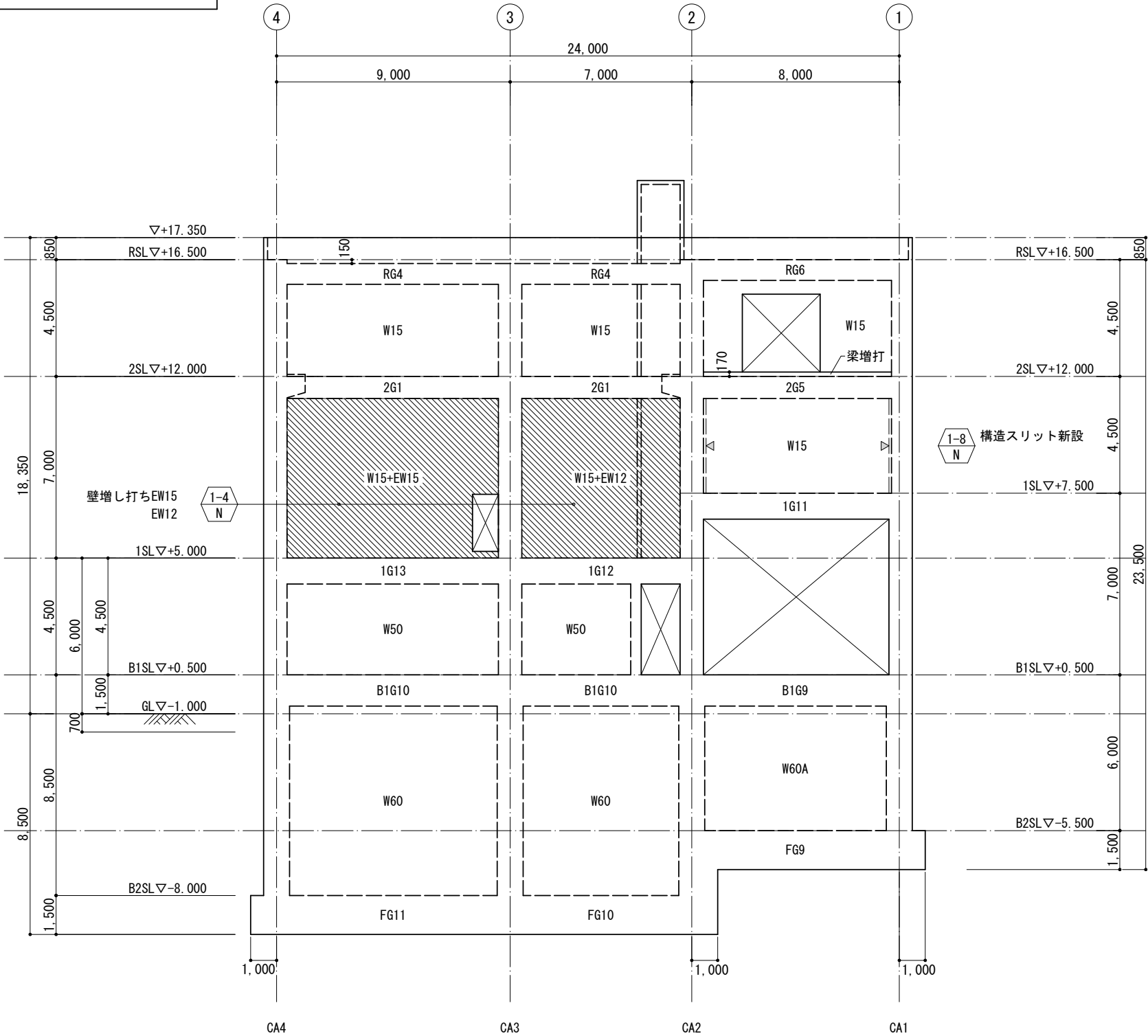
凡 例

改修工事範囲

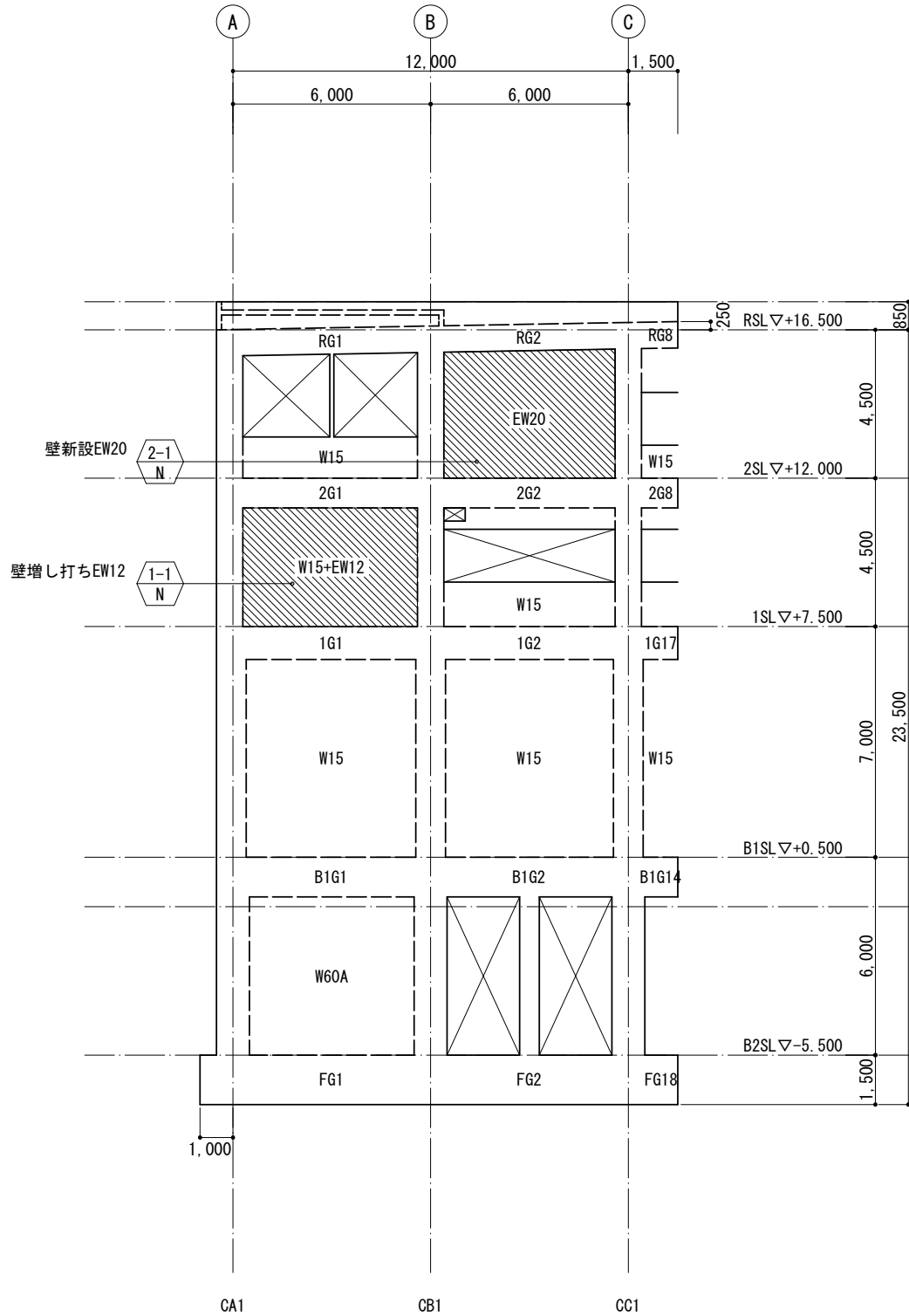
階数 — 0-0 — 部位番号
0 — 0:改修前

図面番号	A-059		縮 尺	1/100	
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	改修後 A通り、1通り軸組図			番 号	
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

改修後 A通り,1通り軸組図 S=1:100



A通り軸組図 S=1:100



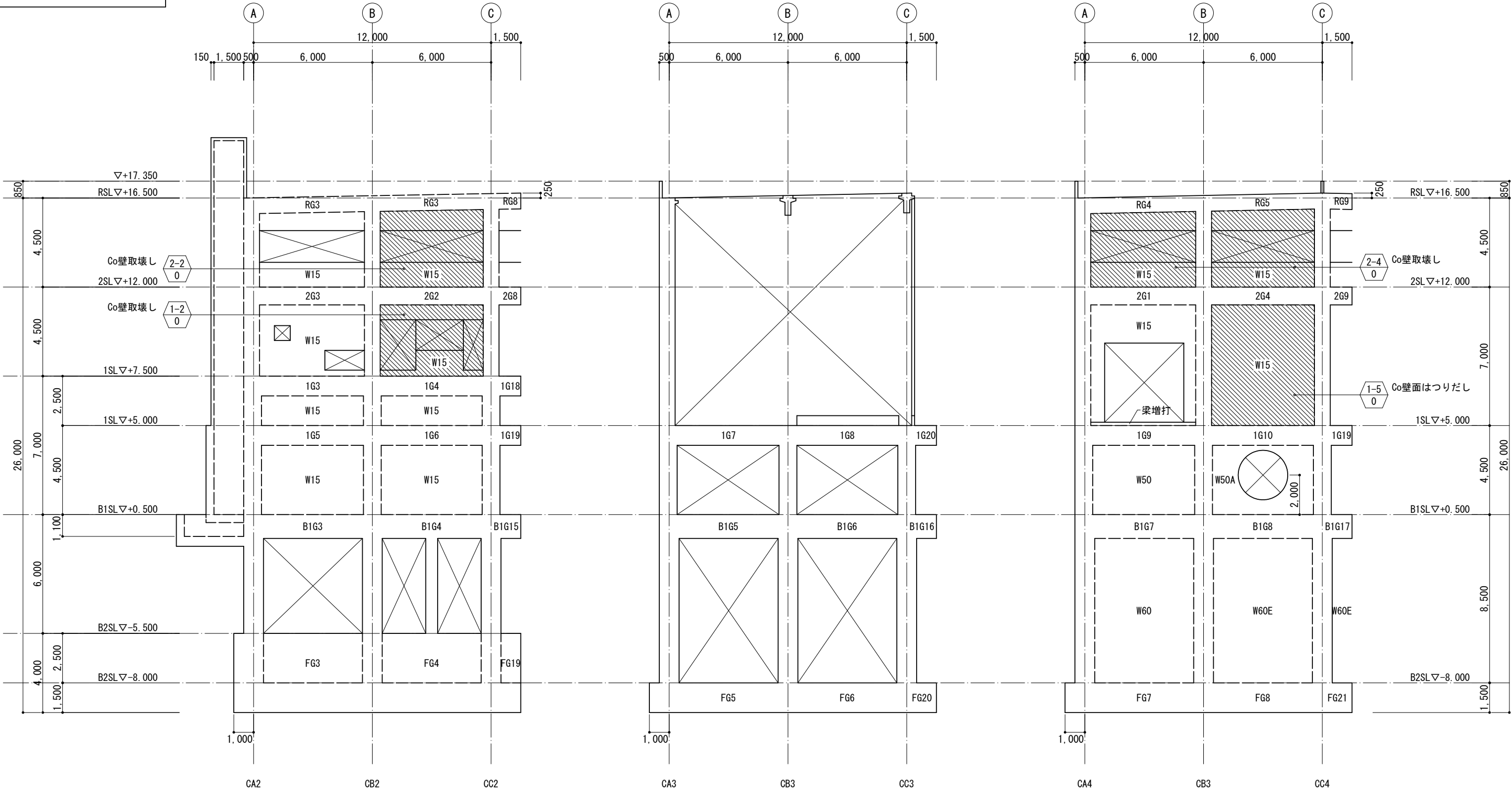
1通り軸組図 S=1:100

凡 例

- 改修工事範囲
- 階数 — 部位番号
N: 改修後
- 構造スリット

図面番号	A-060		縮 尺	1/100	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	改修前 2通り～4通り軸組図			番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

改修前 2通り~4通り軸組図 S=1:100



2通り軸組図 S=1:100

3通り軸組図 S=1:100

4通り軸組図 S=1:100

凡 例

改修工事範囲

階数

0-0

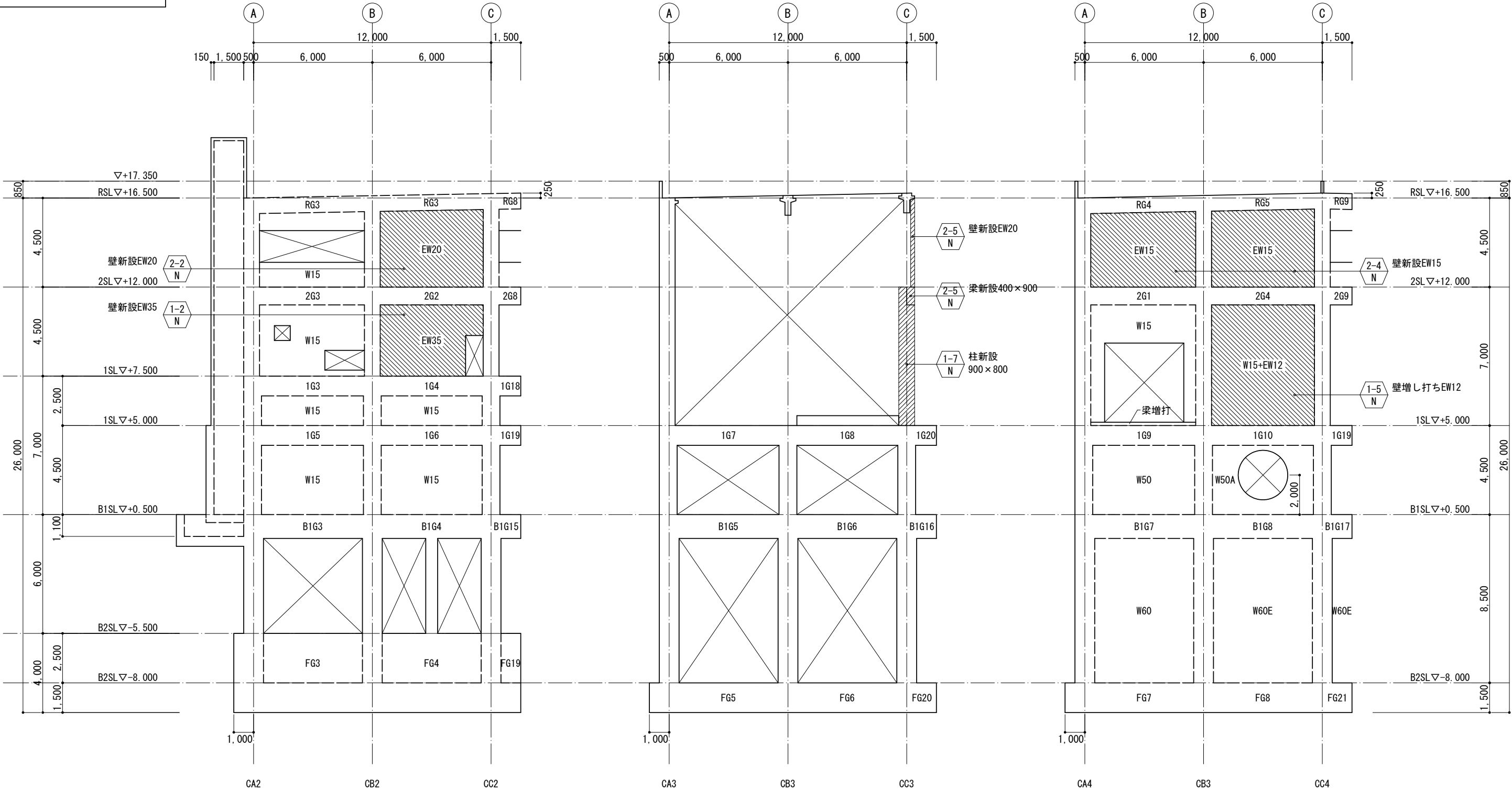
 部位番号

0

 0:改修前

図面番号	A-061		縮 尺	1/100	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	改修後 2通り～4通り軸組図			番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

改修後 2通り～4通り軸組図 S=1:100



2通り軸組図 S=1:100

3通り軸組図 S=1:100

4通り軸組図 S=1:100

凡 例

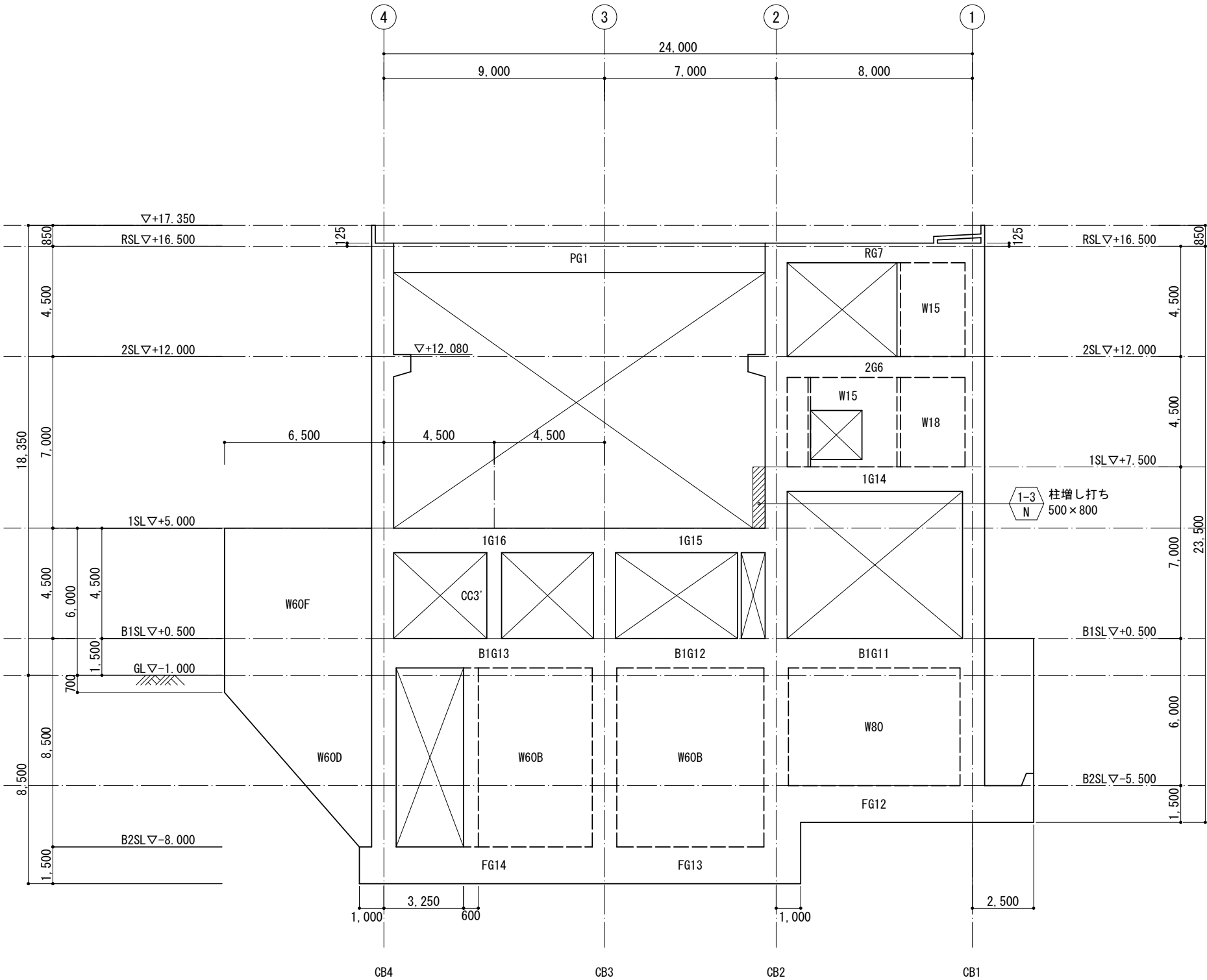
改修工事範囲

階数 0-0 部位番号 N: 改修後

図面番号	A-062		縮 尺	1/100	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	改修前 B通り軸組図			番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

改修後 B通り軸組図

S=1:100

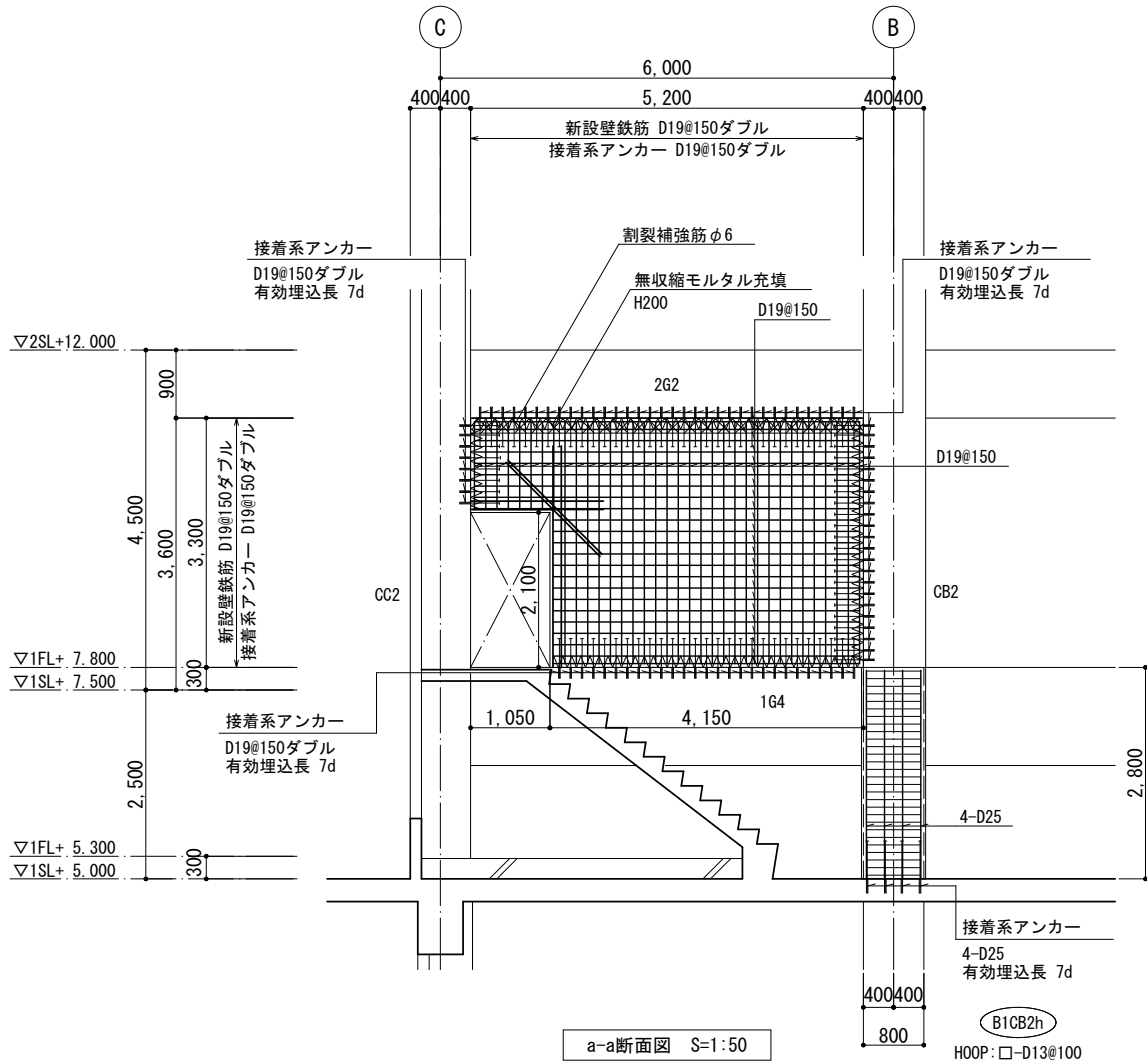
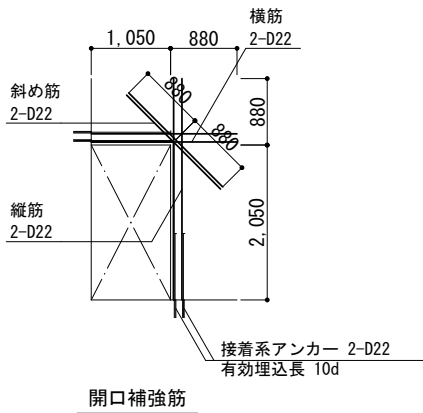
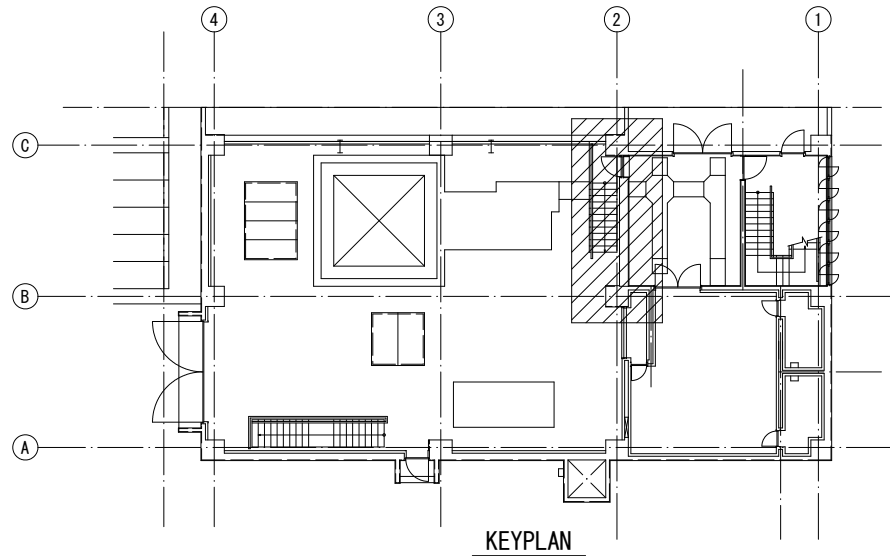
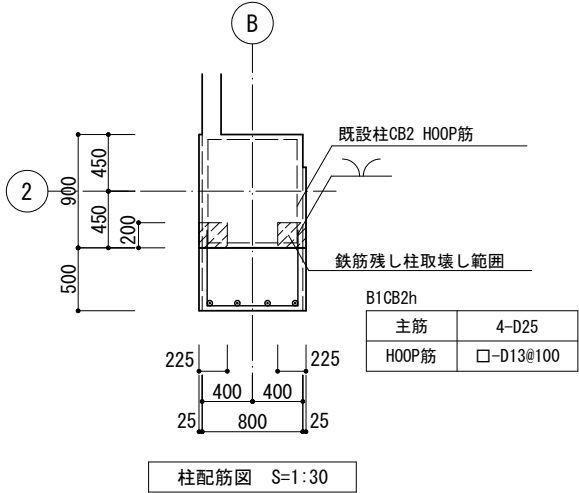
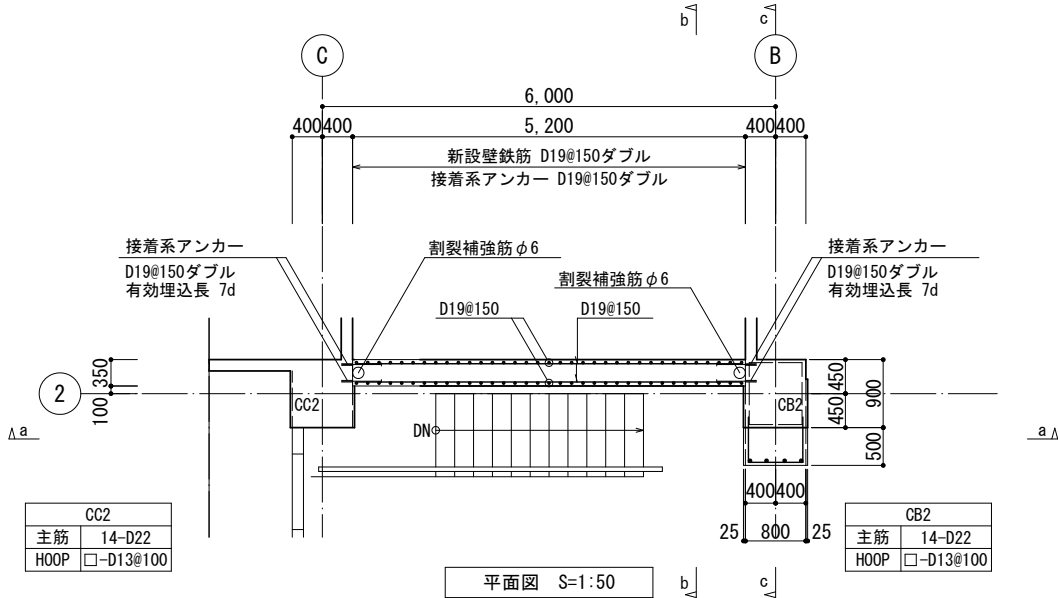


B通り軸組図 S=1:100

図面番号	A-064		縮 尺	1/30, 1/50	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	耐震補強詳細図(2)			番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

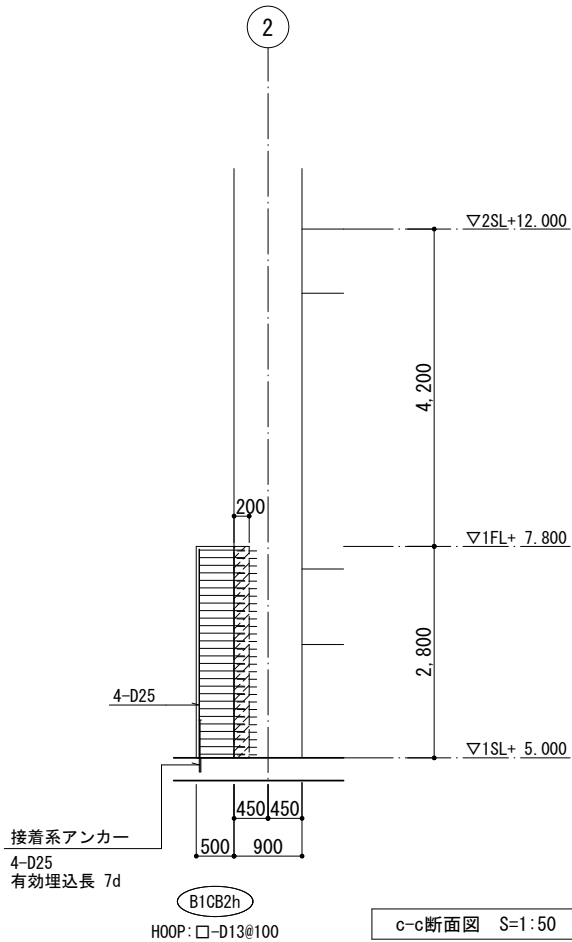
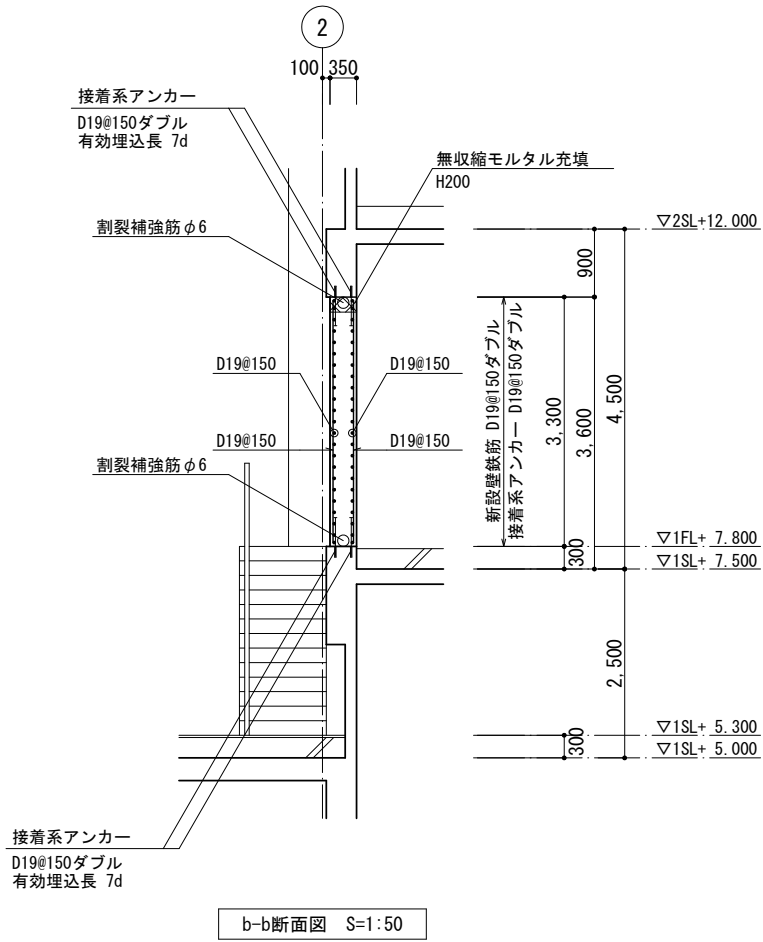
1-2 1-3
N N
1階 2通 B～C間 耐震壁EW35新設、建具新設、柱増打

- 注)
- 1 改修部の寸法は、現場測量後決定すること。
 - 2 鉄筋切断については、状況を確認後、監督員と協議の上行う。
 - 3 補強コンクリートは24-18-20とする。
 - 4 接着系アンカーの増打壁への有効定着長さは20da以上とする。
 - 5 幅止め筋は縦、横ともD10-@900とする。
 - 6 接着系アンカーは非破壊引張試験を実施すること。
- 試験方法は「JCAAあと施工アンカー施工指針(案)」に準じ、
施工1ロット毎に3本抜き取り検査とする。
施工1ロットは、同一施工条件で施工本数300本ごととする。



2G2			
	B端部	中央部	C端部
上端筋	6-D22	3-D22	8-D22
下端筋	3-D22	3-D22	6-D22
STP	□-D10@150		
腹筋	4-D10		

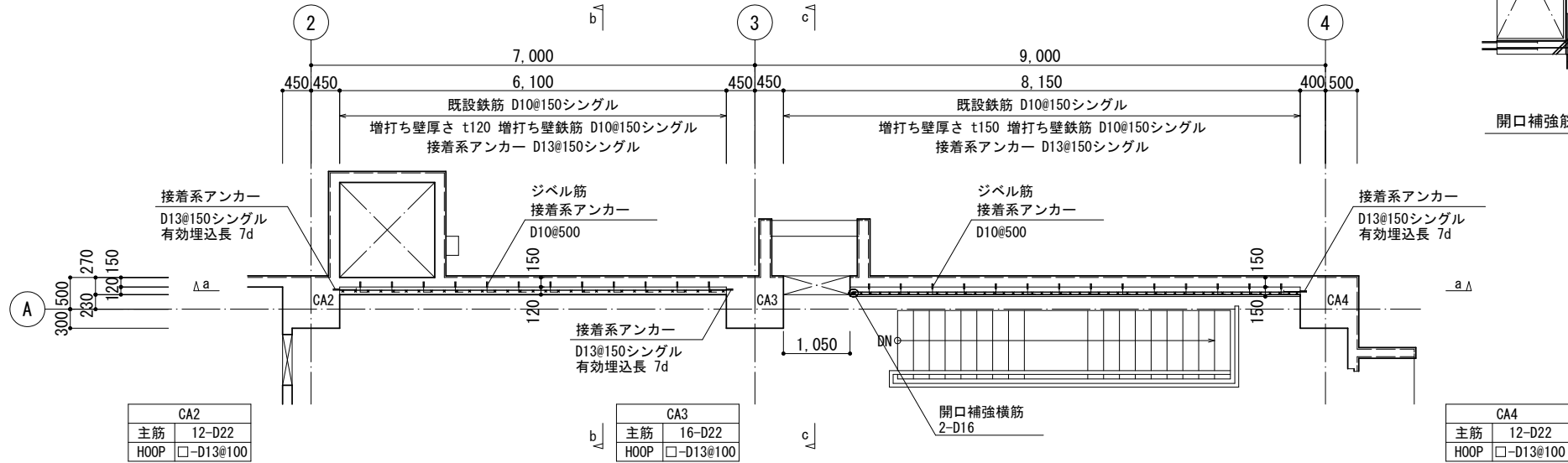
1G4			
	B端部	中央部	C端部
上端筋	4-D25	4-D25	7-D25
下端筋	4-D25	4-D25	7-D25
STP	□-D13@200		
腹筋	4-D10		



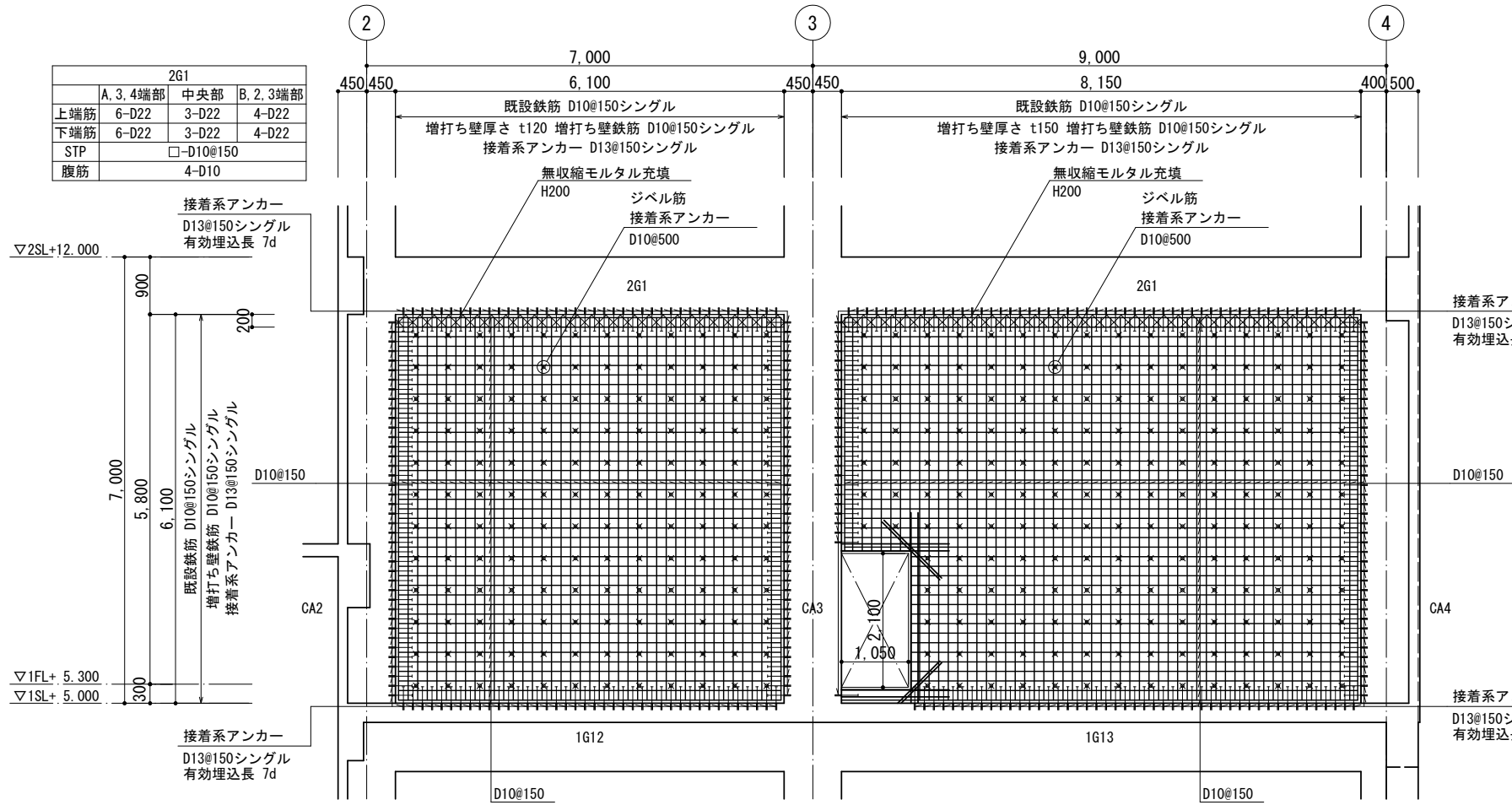
図面番号	A-065		縮 尺	1/50	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	耐震補強詳細図(3)			番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

1-4
N
1階 A通 2～4通間 耐震壁EW15 EW12増打、建具新設

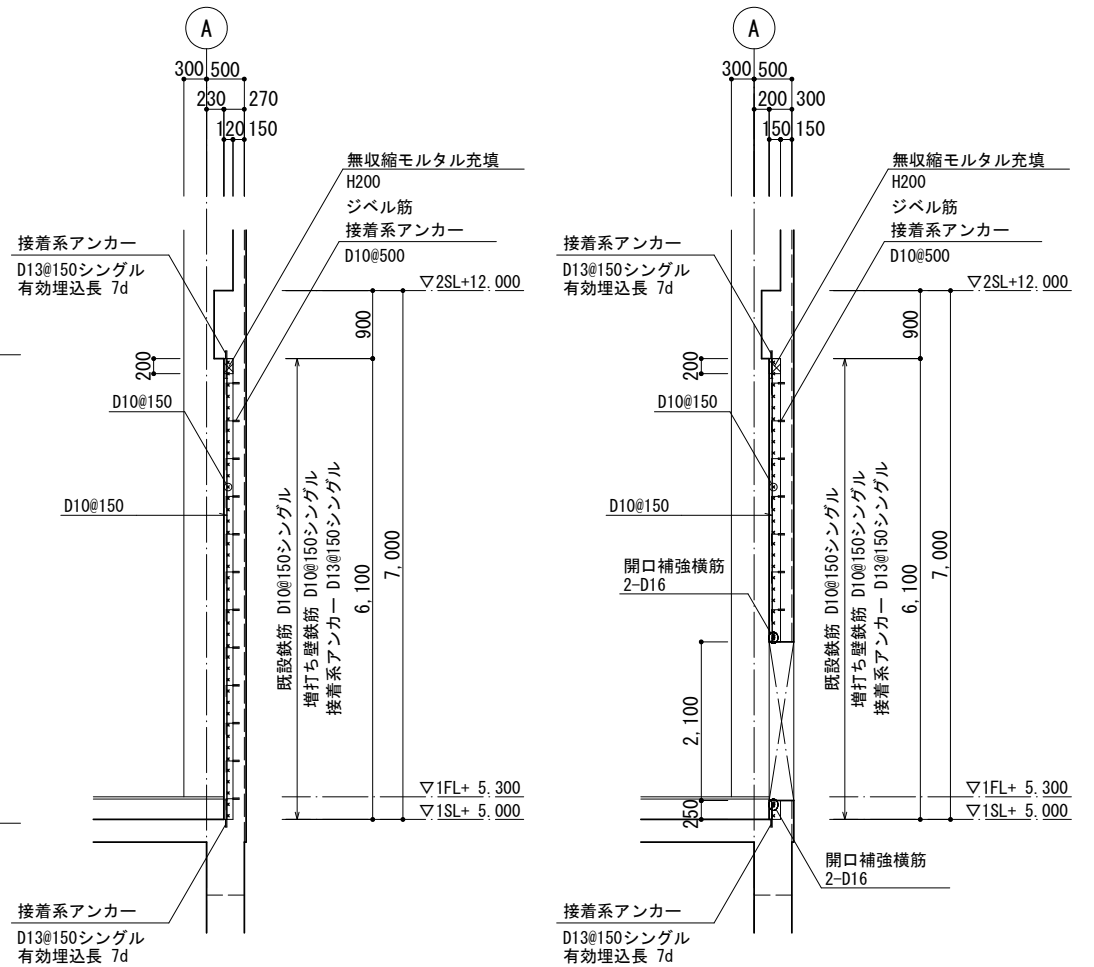
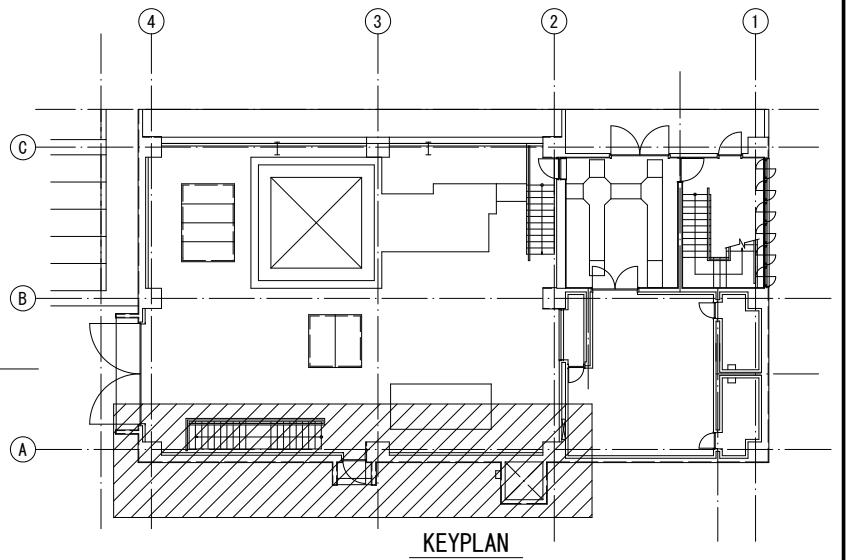
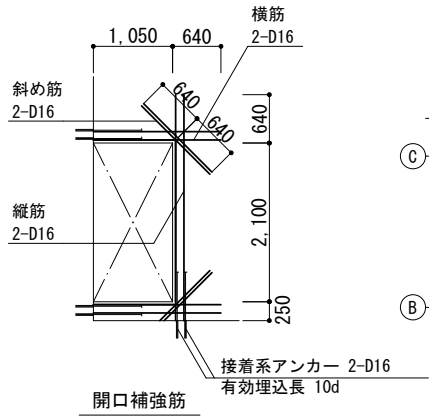
- 注)
- 1 改修部の寸法は、現場測量後決定すること。
 - 2 鉄筋切断については、状況を確認後、監督員と協議の上行う。
 - 3 補強コンクリートは24-18-20とする。
 - 4 接着系アンカーの増打壁への有効定着長さは20da以上とする。
 - 5 接着系アンカーは非破壊引張試験を実施すること。
- 試験方法は「JCAAあと施工アンカー施工指針(案)」に準じ、
施工1ロット毎に3本抜き取り検査とする。
施工1ロットは、同一施工条件で施工本数300本ごととする。



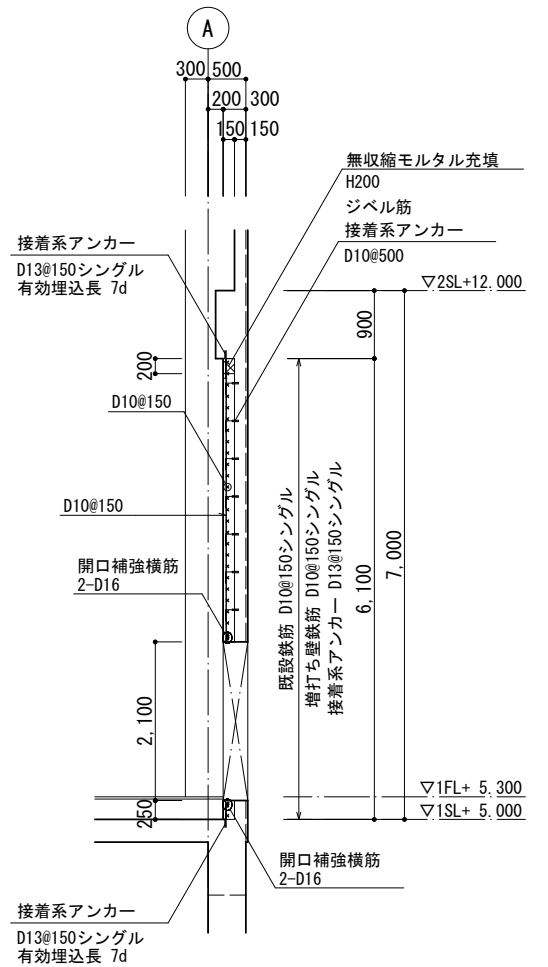
平面図 S=1:50



a-a断面図 S=1:50



b-b断面図 S=1:50



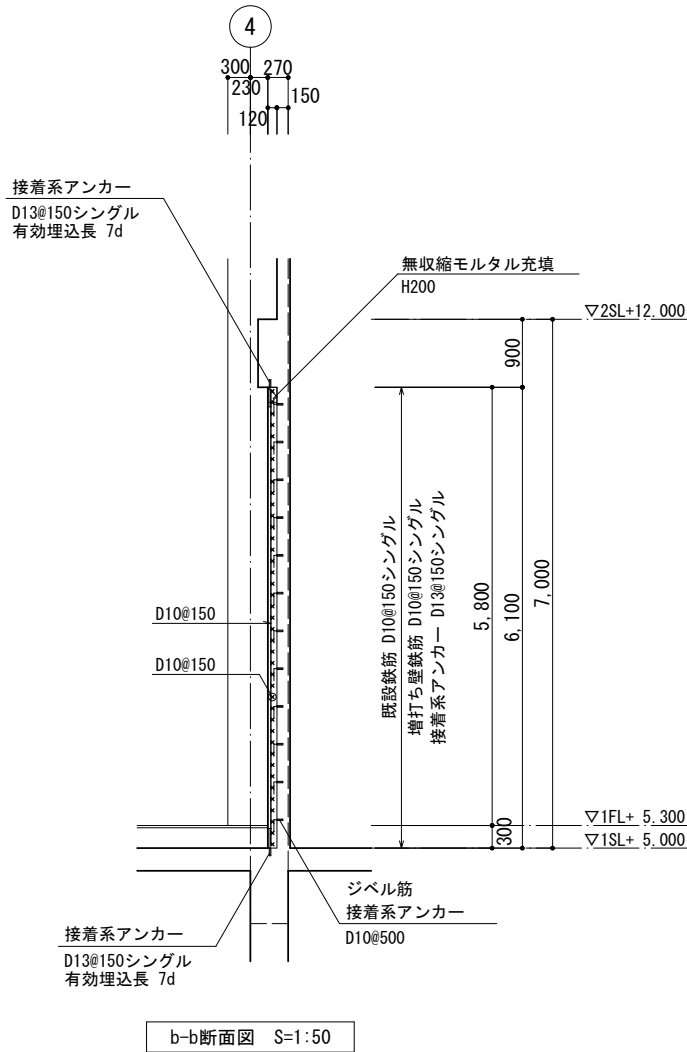
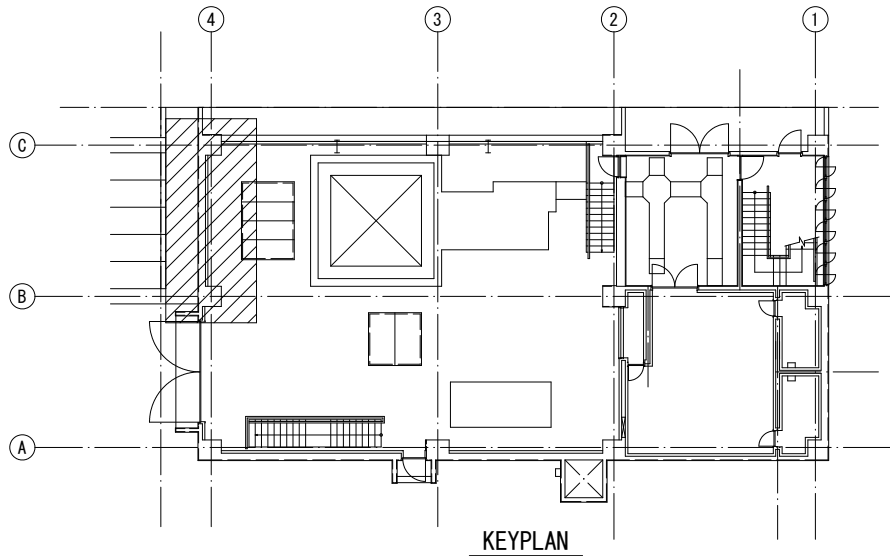
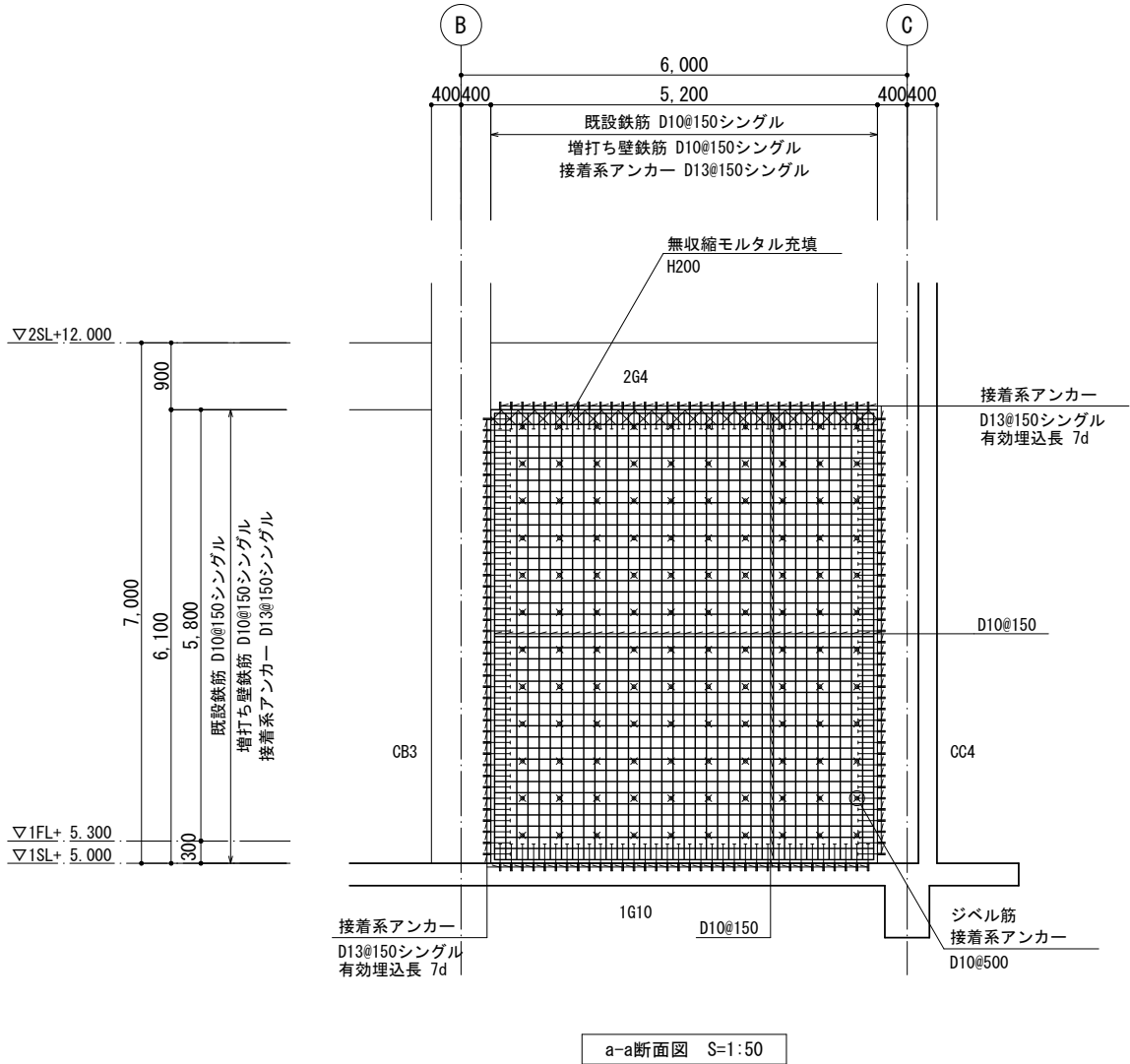
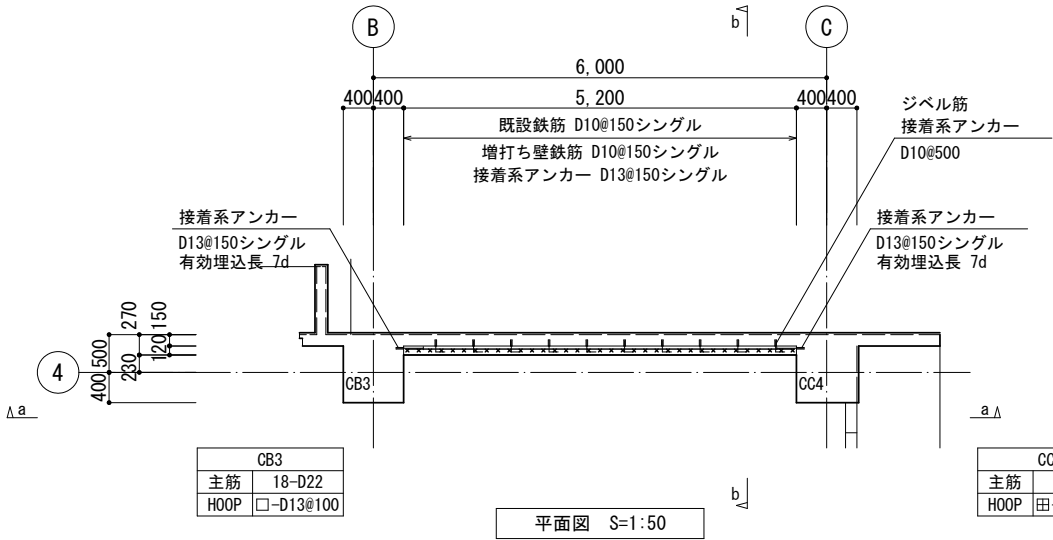
c-c断面図 S=1:50

図面番号	A-066	縮 尺	1/50
工 事 名	新渚ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)		
種 別	耐震補強詳細図(4)	番 号	
工事箇所	福山市新渚町二丁目及び新渚町四丁目地内		
設計年月	2025年8月		
福 山 市 上 下 水 道 局			

1-5
N

1階 4通 B〜C通間 耐震壁EW12増打

- 注)
- 改修部の寸法は、現場測量後決定すること。
 - 鉄筋切断については、状況を確認後、監督員と協議の上行う。
 - 補強コンクリートは24-18-20とする。
 - 接着系アンカーの増打壁への有効定着長さは20da以上とする。
 - 接着系アンカーは非破壊引張試験を実施すること。
試験方法は「JCAAあと施工アンカー施工指針(案)」に準じ、
施工1ロット毎に3本抜き取り検査とする。
施工1ロットは、同一施工条件で施工本数300本ごととする。

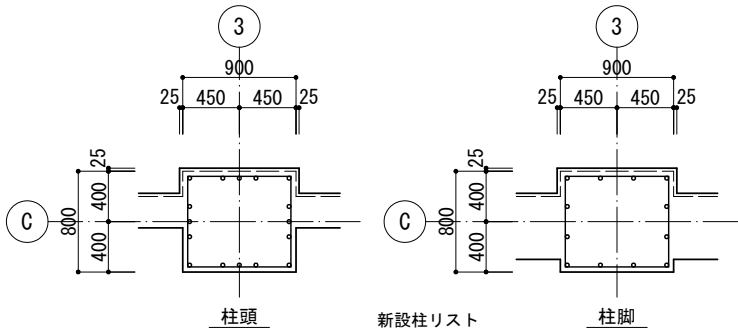


図面番号	A-067	縮 尺	1/30, 1/50	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	耐震補強詳細図(5)	番 号		
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

1-6	1-7	2-5
N	N	N

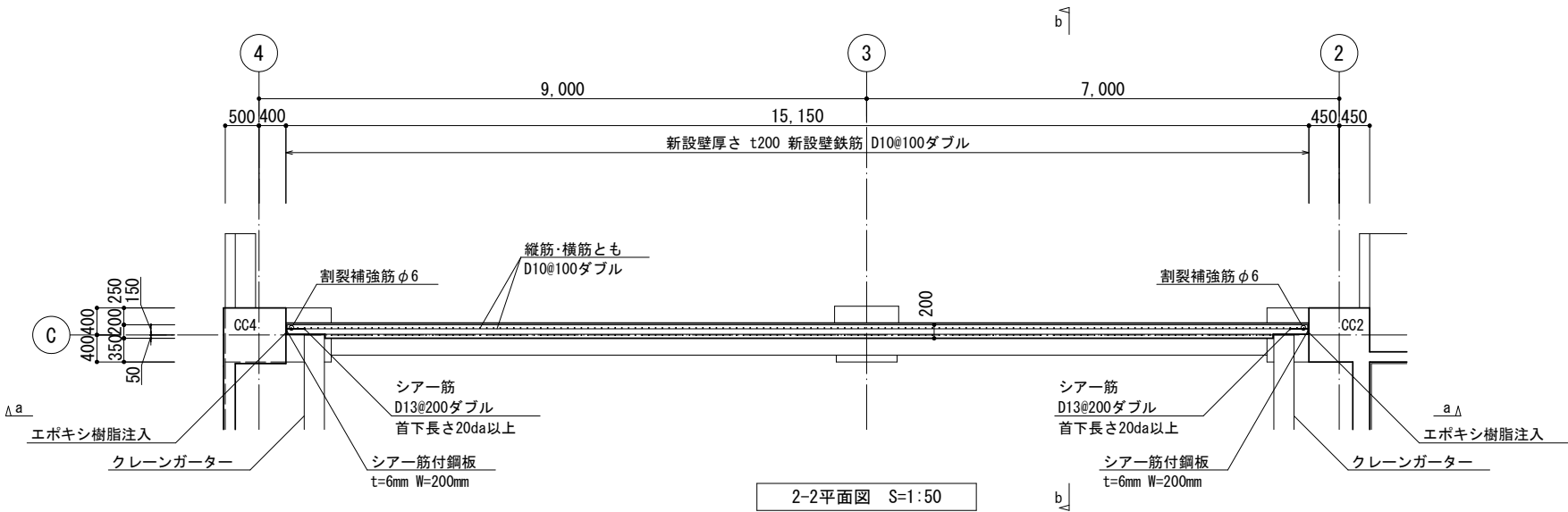
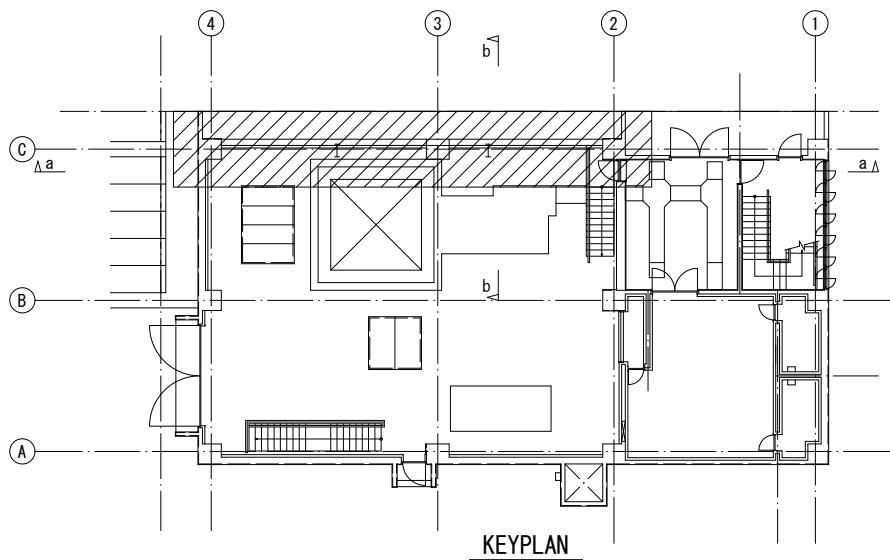
1階、2階 C通 2～4通間 耐震壁EW25新設、柱新設、梁新設、耐震壁EW20新設

- 注)
- 改修部の寸法は、現場測量後決定すること。
 - 鉄筋切断については、状況を確認後、監督員と協議の上行う。
 - 補強コンクリートは24-18-20とする。
 - 接着系アンカーの増打壁への有効定着長さは20da以上とする。
 - 幅止め筋は縦、横ともD10-@1000とする。
 - 接着系アンカーは非破壊引張試験を実施すること。
試験方法は「JCAAあと施工アンカー施工指針(案)」に準じ、
施工1ロット毎に3本抜き取り検査とする。
施工1ロットは、同一施工条件で施工本数300本ごととする。

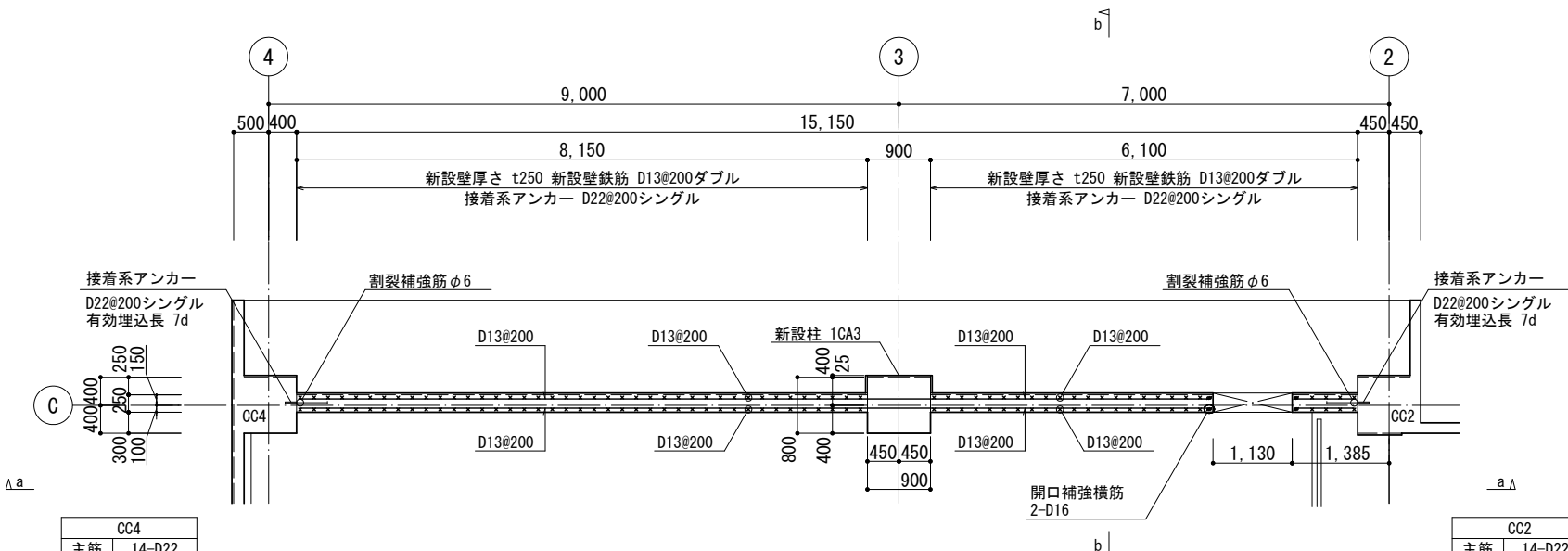


新設柱リスト		
1CA3		
主筋	柱頭	16-D22
	柱脚	12-D25
H00P筋	□-D13@100	

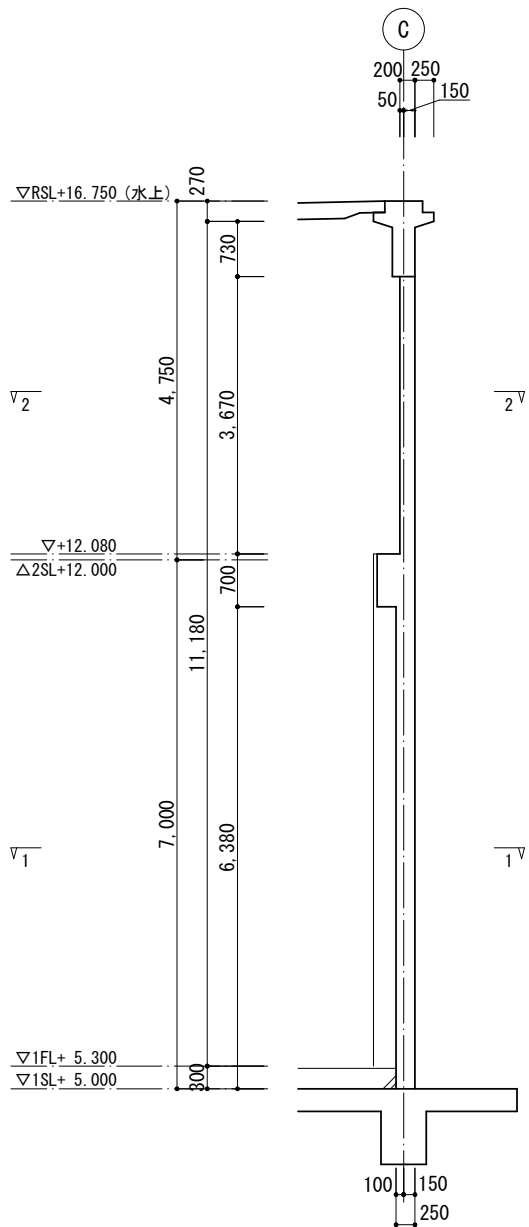
柱配筋図 S=1:30



2-2断面図 S=1:50

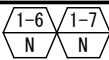


1-1断面図 S=1:50



b-b断面図 S=1:50

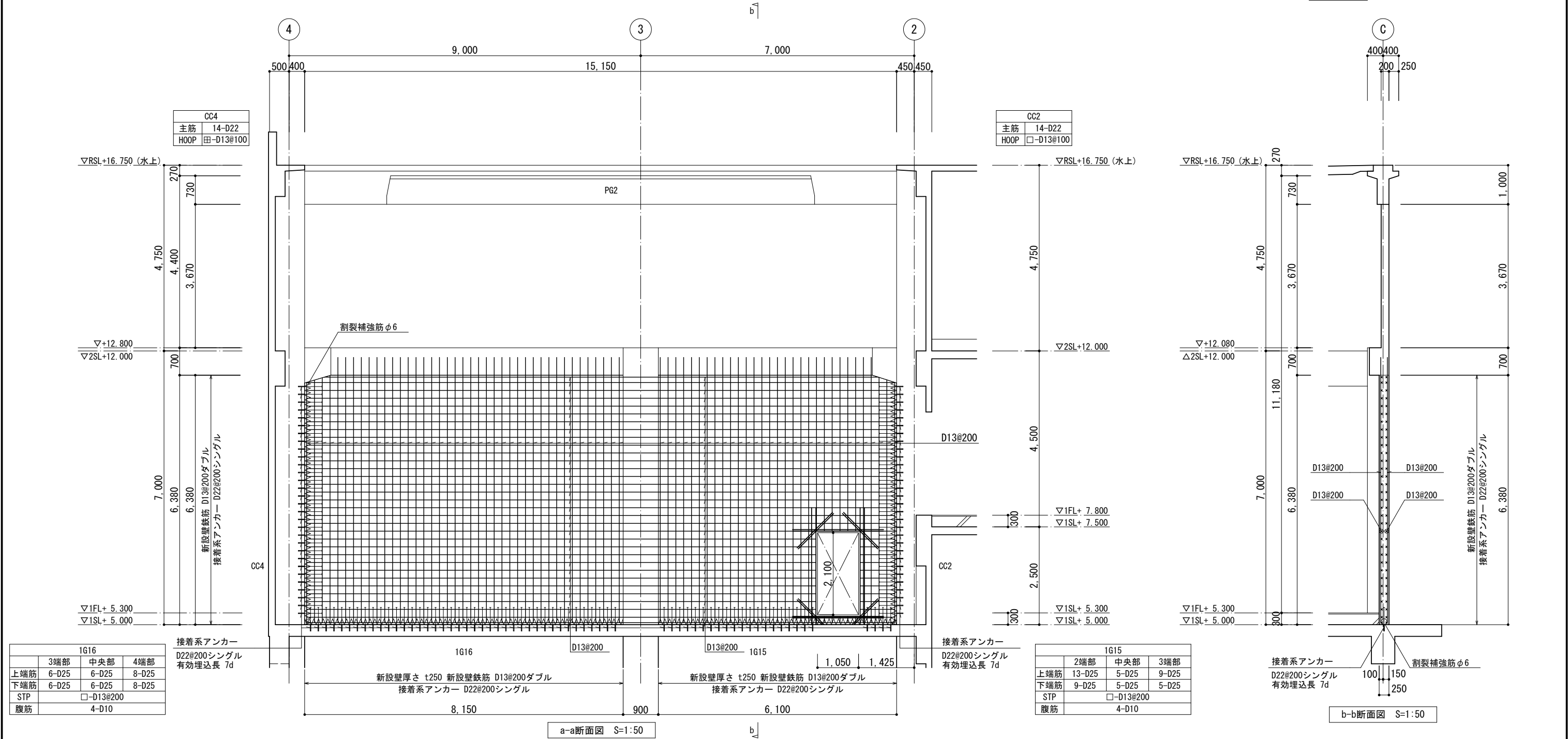
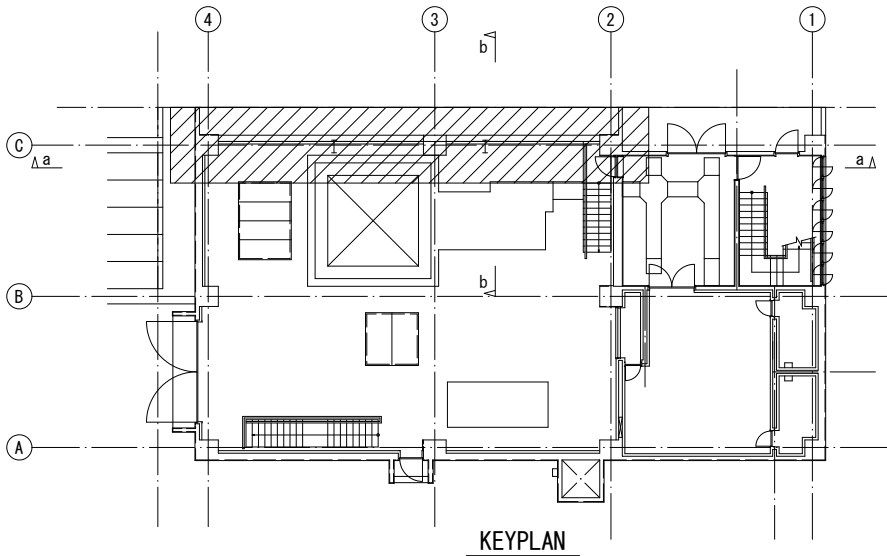
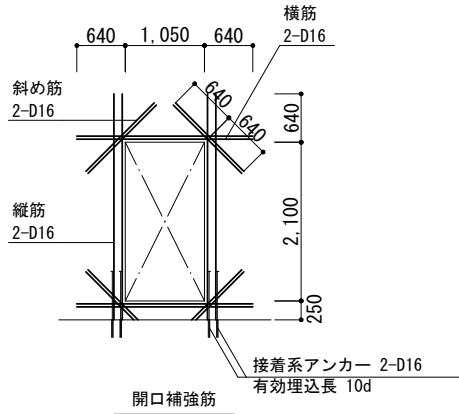
図面番号	A-068		縮 尺	1/50	
工 事 名	新渚ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	耐震補強詳細図(6)			番 号	
工事箇所	福山市新渚町二丁目及び新渚町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					



1階、2階 C通 2～4通間 耐震壁EW25新設

注)

- 改修部の寸法は、現場測量後決定すること。
- 鉄筋切断については、状況を確認後、監督員と協議の上行う。
- 補強コンクリートは24-18-20とする。
- 接着系アンカーの増打壁への有効定着長さは20da以上とする。
- 幅止め筋は縦、横ともD10-@1000とする。
- 接着系アンカーは非破壊引張試験を実施すること。
試験方法は「JCAAあと施工アンカー施工指針(案)」に準じ、
施工1ロット毎に3本抜き取り検査とする。
施工1ロットは、同一施工条件で施工本数300本ごととする。



図面番号	A-069		縮 尺	1/30, 1/50	
工 事 名	新渚ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	耐震補強詳細図(7)			番 号	
工事箇所	福山市新渚町二丁目及び新渚町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

1-6	1-7	2-5
N	N	N

1階、2階 C通 2～4通間 柱新設、梁新設

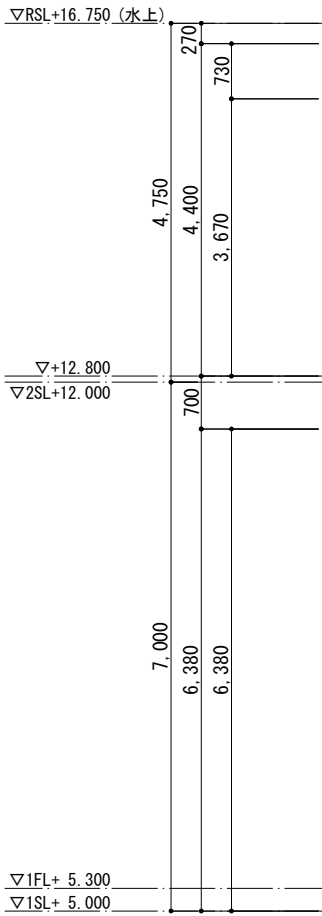
注)

1. 改修部の寸法は、現場測量後決定すること。
2. 鉄筋切断については、状況を確認後、監督員と協議の上行う。
3. 補強コンクリートは24-18-20とする。
4. 接着系アンカーの増打柱・梁への有効着長さは20da以上とする。
5. 幅止め筋は縦、横ともD10-@1000とする。
6. 接着系アンカーは非破壊引張試験を実施すること。
試験方法は「JCAAあと施工アンカー施工指針(案)」に準じ、
施工1ロット毎に3本抜き取り検査とする。
施工1ロットは、同一施工条件で施工本数300本ごととする。

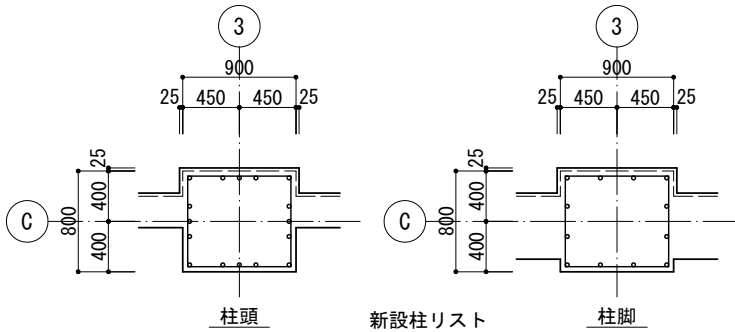
新設梁リスト

符 号	G1ho
位 置	全断面
断 面	
B x D	500 x 700
上 筋	3-D25
下 筋	3-D25
スタラップ	2-D13 @200
腹 筋	2-D10

CC4	
主筋	14-D22
H00P	田-D13@100



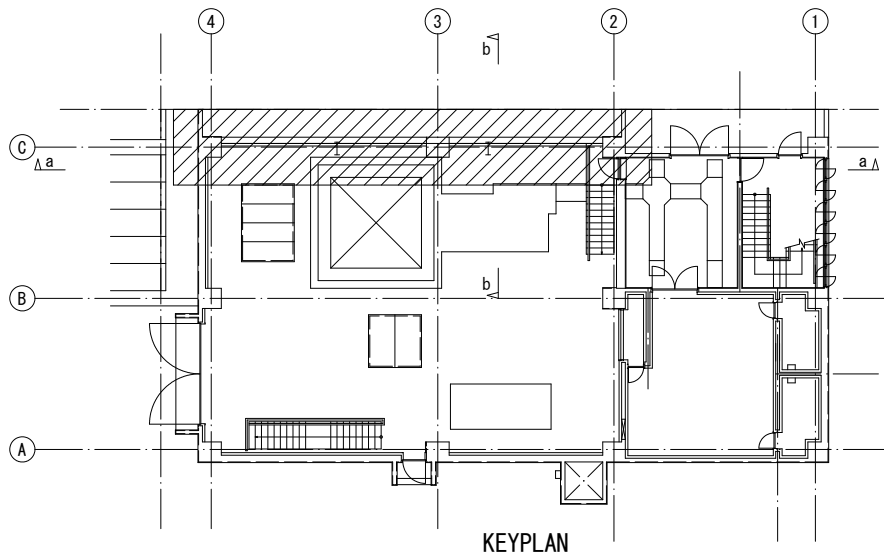
1G16			
	3端部	中央部	4端部
上端筋	6-D25	6-D25	8-D25
下端筋	6-D25	6-D25	8-D25
STP	□-D13@200		
腹筋	4-D10		



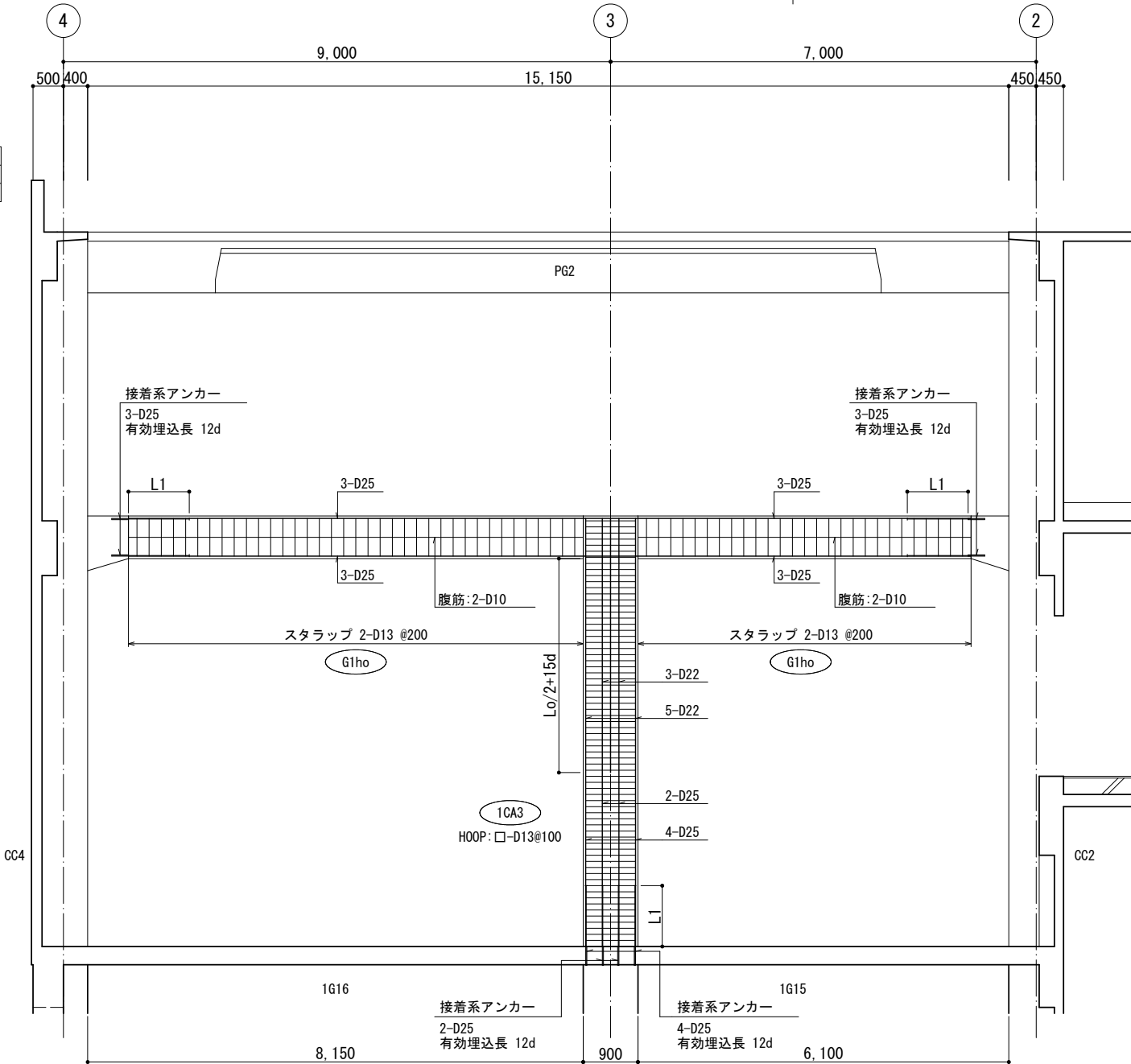
新設柱リスト

1CA3		
主筋	柱頭	16-D22
	柱脚	12-D25
H00P筋	□-D13@100	

柱配筋図 S=1:30

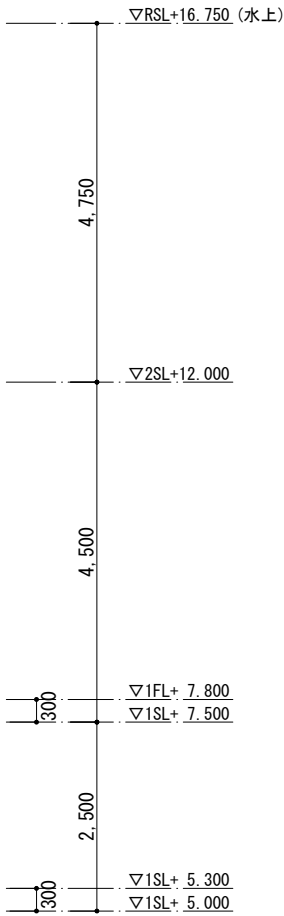


KEYPLAN

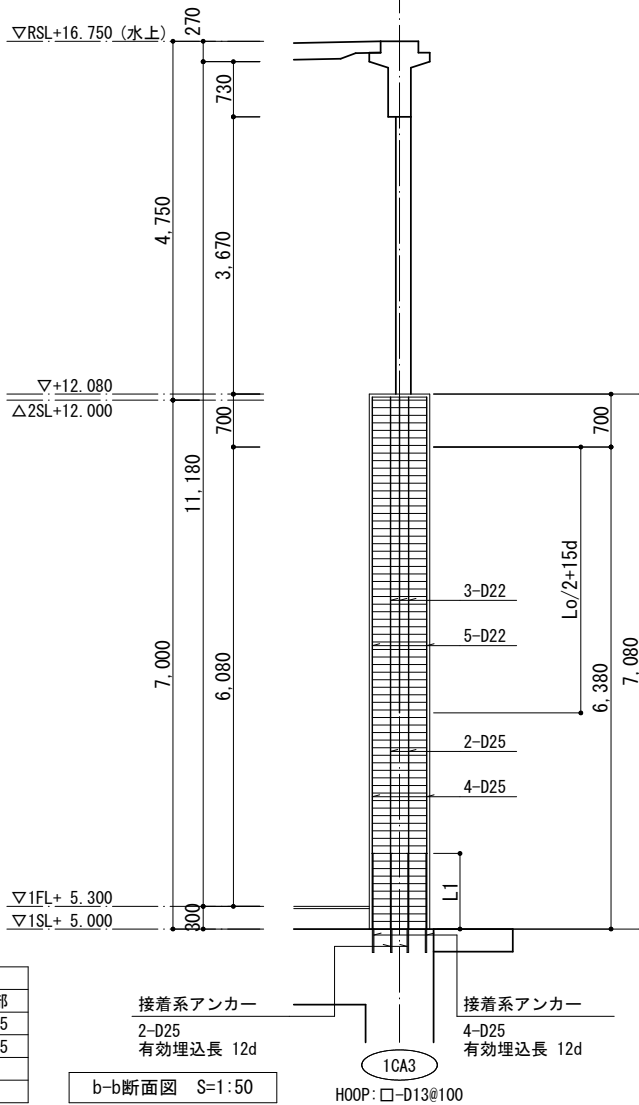


a-a断面図 S=1:50

CC2	
主筋	14-D22
H00P	□-D13@100



1G15			
	2端部	中央部	3端部
上端筋	13-D25	5-D25	9-D25
下端筋	9-D25	5-D25	5-D25
STP	□-D13@200		
腹筋	4-D10		



b-b断面図 S=1:50

図面番号	A-070		縮 尺	－	
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	耐震補強詳細図(8) ノンアンカーＲＣ壁 接着工法特記様書			番 号	
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					



ノンアンカーＲＣ壁接着工法特記仕様書

1. 一般事項

- (1) 適用範囲
- ・(財)日本建築防災協会 技術評価書 建防災発第18064号に基づく「ノンアンカーＲＣ壁接着工法設計施工指針」による。
- (2) 施工計画
- ・工事の着手に先立ち、下記の事項について充分検討し施工計画を作成して、監督職員に提出する。
- 工程計画
- 資材・機材の搬入および保管
- 鋼板の製作取付
- 現場養生
- 関連する別契約の工事との取り扱い納まり等
- 仮設計画
- (3) 専門工事会社
- ・本工法に関する施工は、1. (1)に記載された専門工事会社による。

2. 材料仕様

- (1) 鋼材
- ・本工法で用いる鋼材は、特別の場合を除き、下記の6種類とする。
- 一般構造用圧延鋼材 SS400級
- 溶接構造用圧延鋼材 SM400級. SM490級
- 建築構造用圧延鋼材 SN400級. SN490級
- 一般構造用軽量形鋼 SSC400級
- (2) 注入接着用エポキシ樹脂
- ・注入接着用エポキシ樹脂は、本工法設計施工指針に記載された製品、かつ製造ロット毎に下記の品質規格を満足することが確認された製品を使用する。
- ・製造日から1年以内のものを使用する。
- ・製造ロット毎の材料試験成績書を提出する。
- 注入接着用エポキシ樹脂の品質規格
- | | | | |
|-----------|-------------------|------------|-------|
| 項 目 | 単 位 | 試験方法 | 規格値 |
| 圧縮降伏強度 | N/mm ² | JIS K 7208 | 60 以上 |
| 引 張 強 度 | N/mm ² | JIS K 7113 | 20 以上 |
| 引張せん断接着強度 | N/mm ² | JIS K 6850 | 10 以上 |
- グラウトＴＫ-Ⅱ(低臭タイプ)(ショーボンドマテリアル㈱)同等以上

- (3) シール用樹脂
- ・シール用樹脂は、本工法設計施工指針に記載された製品、かつ製造ロット毎に下記の品質規格を満足することが確認された製品を使用する。
- ・シール用樹脂のパテ状エポキシ樹脂は、コンクリートと鉄骨枠の接着性を充分確保できるもので、間隙充填時に垂れ下がりのないものとする。
- ・製造日から1年以内のものを使用する。
- ・製造ロット毎の材料試験成績書を提出する。

パテ状エポキシ樹脂の品質規格			
項 目	単 位	試験方法	規格値
圧縮降伏強度	N/mm ²	JIS K 7208	60 以上
引 張 強 度	N/mm ²	JIS K 7113	20 以上
引張せん断接着強度	N/mm ²	JIS K 6850	10 以上

＃101TK(低臭タイプ)(ショーボンドマテリアル㈱)同等以上

- (4) コンクリートおよびモルタル
- ・普通コンクリート(後打ちコンクリート)
- 設計基準強度：既存コンクリートの設計基準強度以上かつ21N/mm²以上
- ・膨張性コンクリート
- 設計者承認の上、下記のいずれの膨張性コンクリートを用いても良い。
- (a)アルミ粉末を混入して初期の膨張を大きくするもの(膨張率1%程度)
- (b)膨張剤および収縮低減剤を混入したもの(膨張率0.02%程度)
- ・無収縮モルタル
- 設計基準強度：後打ちコンクリートの設計基準強度以上かつ30N/mm² 以上
- 原則として市販のプレミックスタイプのものを用いるものとする。

- (5) 防錆塗料
- ・鋼板接着接合面の防錆塗料
- 防錆塗料の種類は、下記を標準とし、接着性能が確認されている塗料を使用する。
- JIS K 5633(長期暴露形エッチングプライマー2種)
- 接着性能：JIS K 6850(接着剤の引張せん断接着強さ試験方法)による引張せん断接着強さが10N/mm²以上で、材令によって低下しないこと。
- 指定材料：メタラクトH15(関西ペイント㈱)
- 又は、注入接着用エポキシ樹脂との適合性が確認されたものによる。
- ・鋼板接着接合面以外の防錆塗料
- ☐ JIS K 5674(鉛・クロムフリーさび止めペイント)
- (6) 既存躯体コンクリートの断面補修材
- ・既存躯体コンクリートの断面補修材(ポリマーセメントモルタル)は、充分な接着強度と既存コンクリートと同等以上の圧縮強度を有する材料とする。
- ・断面補修材は製造ロット毎に下記の品質規格を満足することが確認された製品を使用する。
- 断面補修材の品質規格(Fc:コンクリートの設計基準強度)

項 目	単 位	試 験 方 法	規格値
圧縮強度	N/mm ²	JIS A 1108に準拠	Fc以上
		JIS A 1172 (JIS R 5201)	1.2Fc以上
コンクリートとの 接着強さ	N/mm ²	JIS A 6203 又は JIS A 6909 に準拠(建研式付着強さ試験)	0.38√Fc 以上

NAモルタル(住友大阪セメント㈱)同等以上

- (7) シアー筋
- ・シアー筋付き鋼板のシアー筋は、ナット付き鉄筋スタッド・頭付きスタッド・ナットなし鉄筋スタッドのいずれかとする。
- シアー筋の定着長さ(da:鉄筋径)
- | 使用スタッド | 定着長さ |
|-------------|----------|
| ナット付き鉄筋スタッド | 首下20da以上 |
| 頭付きスタッド | |
| ナットなし鉄筋スタッド | 30da以上 |

- (8) シアー筋付き鋼板
- ・シアー筋付き鋼板の板厚は、4.5mm以上かつシアー筋の直径の1/2.5以上とする。
- ・シアー筋付き鋼板の鋼板は、4箇所以上仮止めする。
- ・シアー筋付き鋼板の鋼板は、スパン方向および柱高さ方向に適宜分割しても良い。
- ただし、鋼板間の隙間は5mm以下とする。
- ・出入り口開口壁のスラブ上に配置するシアー筋付き鋼板はスパン方向に分割してはならない。
- (9) その他の材料
- ・既存躯体コンクリートの部分的な断面欠損などの修復に使う修復材(ポリマーセメントモルタル)は、充分な接着強度と既存コンクリートと同等以上の圧縮強度を有する材料を使用する。
- ・既存躯体コンクリートのひび割れ補修を行う場合のひび割れ注入材は、ひび割れの深部まで浸透し、コンクリートを一体化するために充分な接着強度を有し、ひび割れから供給される水を遮断する性能を持つ材料を使用する。

3. 施工

- (1) 施工手順
- 準備

下地処理

シアー筋付き鋼板取付

シール工事

樹脂注入工事

鉄筋コンクリート工事

仕上げ

鋼板製作

- (2) 準備
- ・既存コンクリートのひび割れ・欠損・脆弱部、その他の損傷部を調査記録して報告書を提出する。
- ・なお、既存部材に欠損などがあり、補強が必要と思われる場合は、監督職員と協議する。
- ・既存躯体の寸法を記録し、鉄骨製作に反映させる。
- ・事前に、施工対象部の記録写真を撮影する。
- (3) 下地処理
- ・表面仕上げ材を撤去し、構造体コンクリートを露出する。
- ・ひび割れは、エポキシ樹脂などを注入して補修する。
- ・コンクリートの欠損部は、2. (6)のポリマーセメントモルタルなどで補修する。
- ・鉄筋が露出している場合は、鉄筋の錆を除去して防錆材を塗布した後に修復する。
- ・コンクリートの豆板や劣化部などは、健全な下地まではつり取り、2. (6)のポリマーセメントモルタルなどで補修する。
- ・コンクリート表面の突起や段差部などは、ディスクサンダーなどで除去し、平坦にする。
- ・コンクリート表面の風化層、レィタンス、汚れ、油分、型枠剥離材などは、ディスクサンダーや高圧水洗浄などを用いて除去し、清浄な面にする。
- ・表面研磨時に生じた埃などは、エアブロー、吸引器、ウェスなどで除去する。
- ・既存躯体は、鉄骨の取付に支障のないように不陸修正を2. (6)のポリマーセメントモルタルで行う。厚さは、原則として30mm以下とする。
- ・ドライアウト防止として、ポリマーセメントモルタルにて不陸修正直後に、養生シート(住友3M コンクリート保水テープ2227HP)を用いて24時間以上養生を行う。
- ただし、1. (3)の専門工事会社が保水テープによる養生が必要でないと認めた材料についてはこの限りではない。
- ・躯体面や不陸修正材の表面の乾燥状態は8%以下を目安とし最大10%以下とする。
- (4) シアー筋付き鋼板製作
- ・シアー筋付き鋼板の加工に先立ち、既存躯体の実測を行い、工作図及び原寸図を作成し、承認を受ける。
- ・鋼板の接着接合面は、ブラスト処理(ISO Sa2 1/2(SSPC SP-10))以上とし、ブラスト後、錆を発生させないようにし、速やかに2. (5)に指定された防錆塗料を塗布する。
- ・シアー筋付き鋼板の仮固定用アンカーボルトの穴径は、ボルト径より5～10mm程度大きくし、鋼板の両端部に2箇所づつ開ける。
- ・鋼板の寸法が長くなる場合は、必要に応じてその間に仮固定用アンカーボルトの穴を設ける。
- (5) シアー筋付き鋼板取付
- ・取付に必要なレベル墨及び出入り墨を出す。
- ・シアー筋付き鋼板を取付けるためのアンカーボルトを所定の位置に打設する。
- ・シアー筋付き鋼板と躯体の間隙幅を所定の寸法とするため、スペーサーを鋼板接着面に取付ける。
- ・シアー筋付き鋼板を仮止めし、固定する。
- (6) シールおよび注入パイプの取付
- ・計量容器や混合用具類は、乾燥して清浄であること。
- ・パテ状エポキシ樹脂の一回の混合量は、シール長さ等を考慮して可使時間以内に使用できる量とする。
- ・可使時間を過ぎたパテ状エポキシ樹脂は、使用してはならない。
- ・既存コンクリートと鋼板の隙間に、注入パイプの取付と、エポキシ樹脂の流出防止シールを行う。
- ・エポキシ樹脂の注入パイプと空気抜きパイプを、エアだまりの無い様に、シール材で取り付ける。
- ・施工は原則として、5℃以上の環境で行う。5℃以下で施工する場合は、適切な保温対策を行う。
- ・外壁に面する場所での補強は、雨天の場合施工を中止するか、雨水の掛からない対策を行う。
- ・硬化養生の時間は、施工後24時間以上を目途とし、指触確認を行う。
- (7) 接着用エポキシ樹脂の注入
- ・計量容器や混合用具類は、乾燥して清浄であること。
- ・接着用エポキシ樹脂の一回の混合量は、注入作業等を考慮して可使時間以内に使用できる量とする。
- ・可使時間を過ぎた接着用エポキシ樹脂は、使用してはならない。
- ・混合したエポキシ樹脂を注入器に入れ、最下部の注入パイプから徐々に加圧しながら連続して注入する。
- ・エポキシ樹脂が隣接の空気穴から流出してきたら、当該の空気抜きパイプを密栓し引き続きエポキシ樹脂を注入する。または、注入していたパイプを密栓し、続いてエポキシ樹脂が流出したパイプからエポキシ樹脂を注入する。

- ・この注入作業を順次繰り返して、すべての注入作業を終了する。空隙が出来た場合は、再注入する。
- ・木ハンマーなどで鋼板を軽く打診して、エポキシ樹脂の未注入部がないことを確認する。
- ・施工は原則として、5℃以上の環境で行う。5℃以下で施工する場合は、適切な保温対策を行う。
- ・外壁に面する場所での注入は、雨天の場合、施工を中止するか、雨水の掛からない対策を行う。
- ・硬化養生時間は、施工後24時間以上とする。
- (8) 注入パイプ撤去
- ・エポキシ樹脂の硬化後、鋼板を打診して未注入部が無いことを確認して、パイプ等を除去する。
- (9) 鉄筋コンクリート工事
- ・「建築工事標準仕様書 JASS 5 鉄筋コンクリート工事」および「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針・同解説」に準拠する。
- (10) 仕上げ
- ・型枠等を撤去し、仕上げ作業を行う。

4. 品質検査

- (1) 使用する材料の品質検査は、製造所の試験成績書を提出する。
- (2) 使用した材料の品質検査は、下記による。

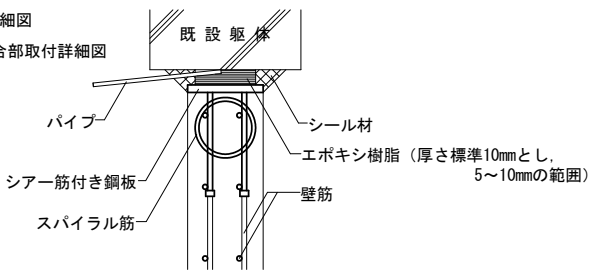
材 料	主な検査方法		判 定	試験回数
注入接着用 エポキシ樹脂	圧縮強度	JIS K 7208	60N/mm ² 以上	工事期間中 1回以上かつ 製造ロット毎
	充填確認	目視	パイプ内に流出樹脂 が残存していること	全箇所
防錆塗料	材料納品書	設計図書との適合	一致していること	
シアー筋溶接部	折り曲げ法	打撃法	溶接部で折れない	施工前

5. 施工記録

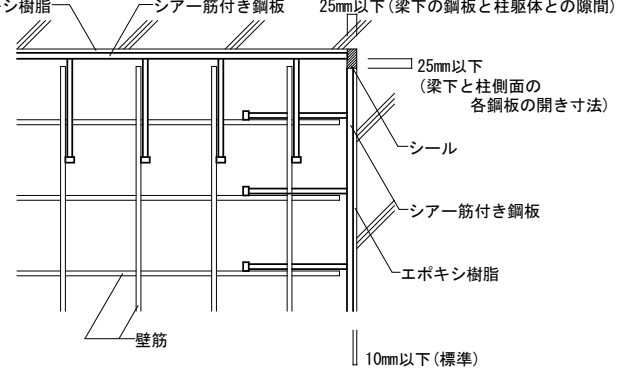
- ・下記の事項について施工記録を作成し、監督職員に提出する。
- 作業工程、 施工方法、 天候・気温、 品質検査記録、 工事記録写真

6. 標準詳細図

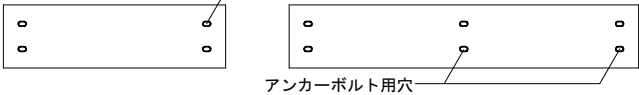
- ・接着接合部取付詳細図



- ・シアー筋付き鋼板納まり詳細図



- ・鋼板の穴あけ詳細図(例)



採用項目に ☒ を記す

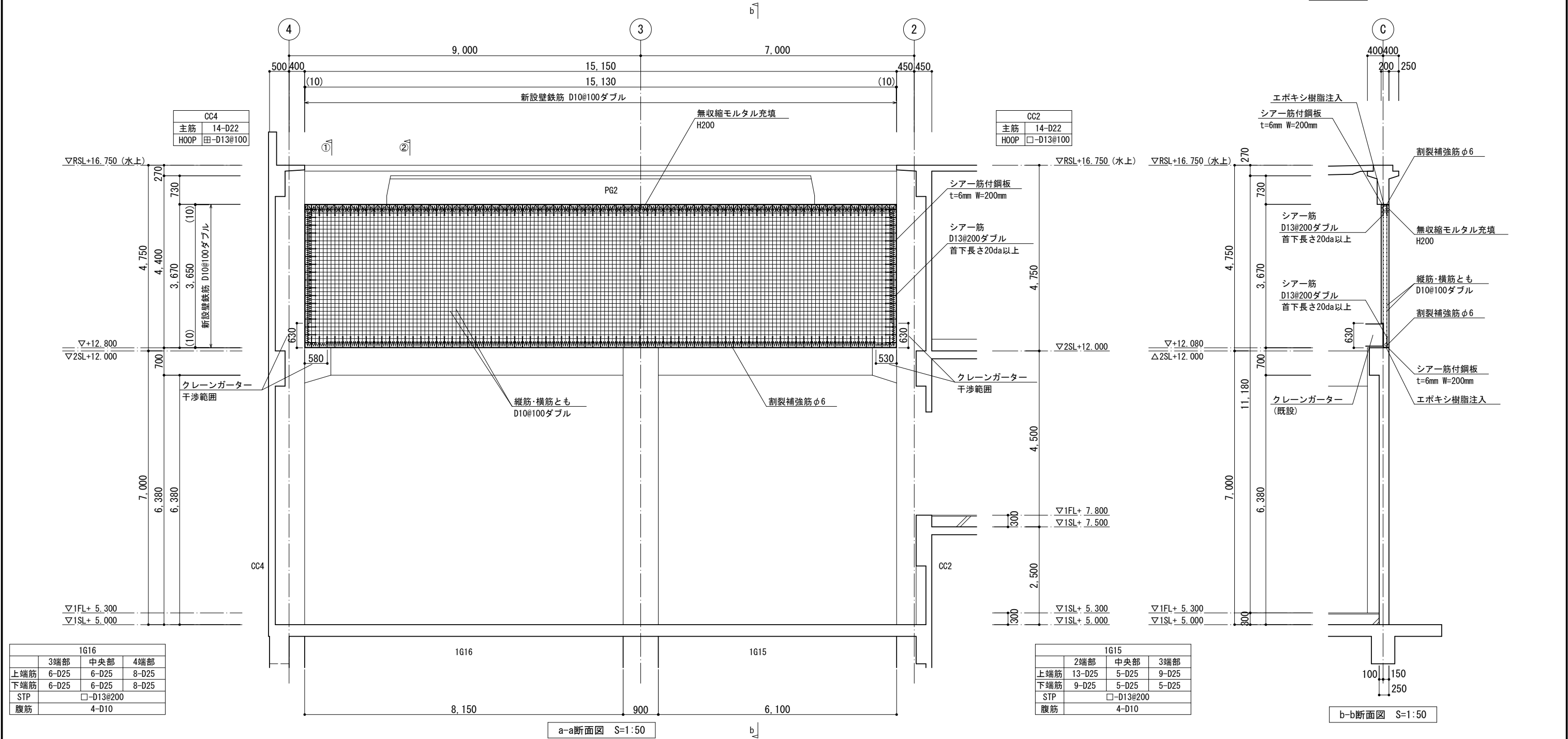
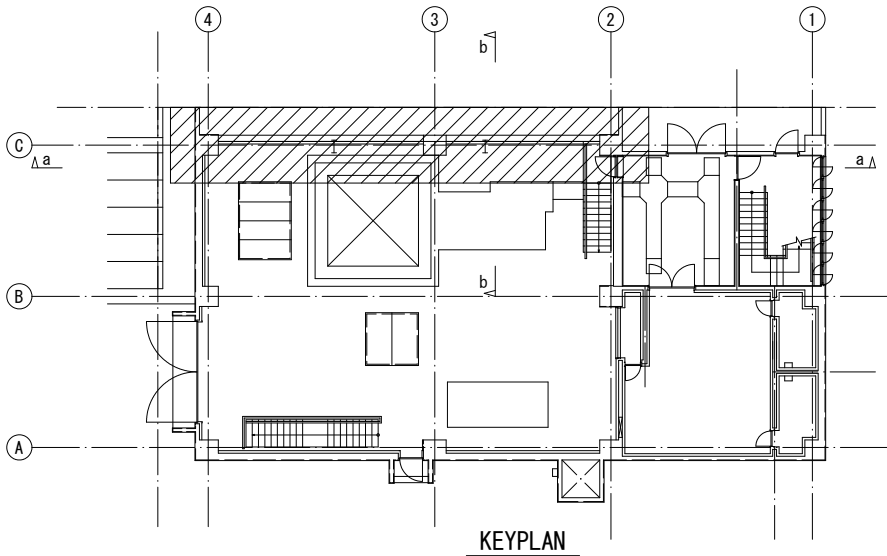
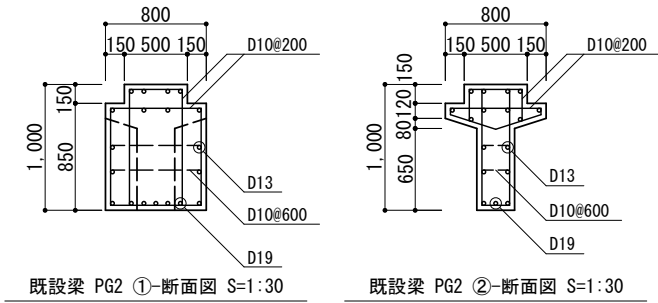
図面番号	A-071	縮 尺	1/30, 1/50	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	耐震補強詳細図(9)	番 号		
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

2-5
N

2階 C通 2~4通間 耐震壁EW20新設

注)

- * 印寸法は現場実測の上、決定すること。
- 特記無き限り、鋼材はSS400とする。
- 特記無き限り、コンクリートFc24、無収縮モルタルFm30、鉄筋・シアー筋はSD295とする。
- 特記無き限り、スパイラル筋はSR235とする。
- シアー筋付鋼板継手位置は、現場条件を考慮し決定すること。
- (10)寸法は標準を10mmとし、最大25mm以内で決定すること。
- 幅止め筋は縦、横ともD10-@1000とする。



1G16			
	3端部	中央部	4端部
上端筋	6-D25	6-D25	8-D25
下端筋	6-D25	6-D25	8-D25
STP	□-D13@200		
腹筋	4-D10		

1G15			
	2端部	中央部	3端部
上端筋	13-D25	5-D25	9-D25
下端筋	9-D25	5-D25	5-D25
STP	□-D13@200		
腹筋	4-D10		

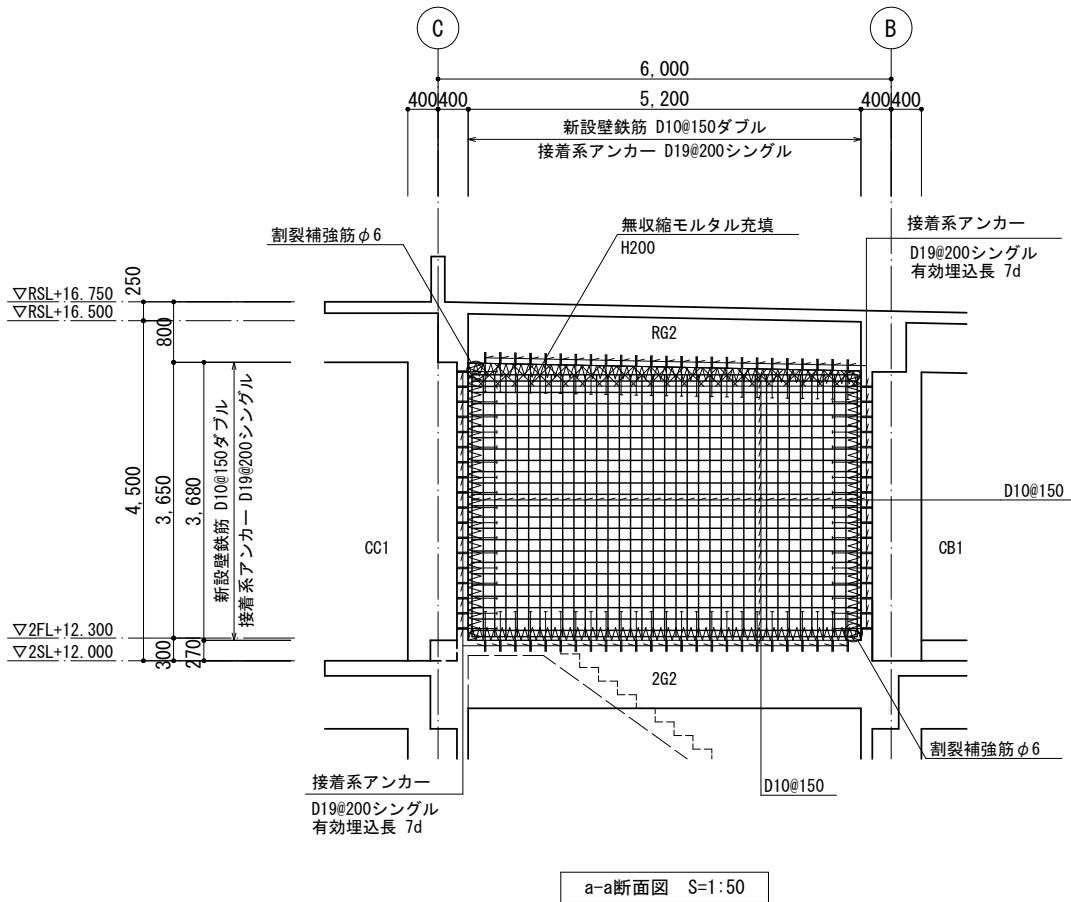
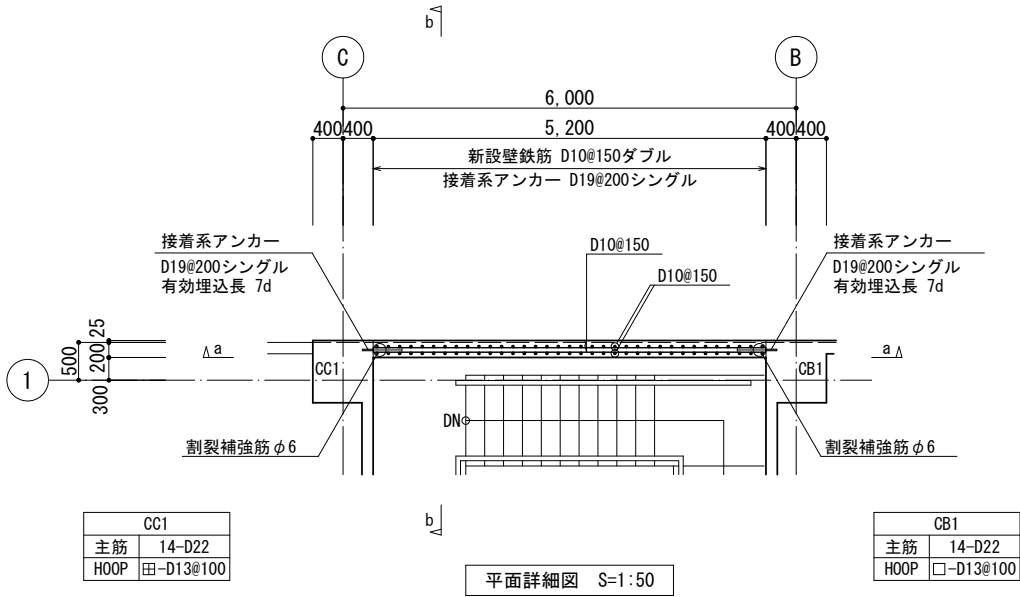
b-b断面図 S=1:50

図面番号	A-072		縮 尺	1/50	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	耐震補強詳細図(10)			番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					



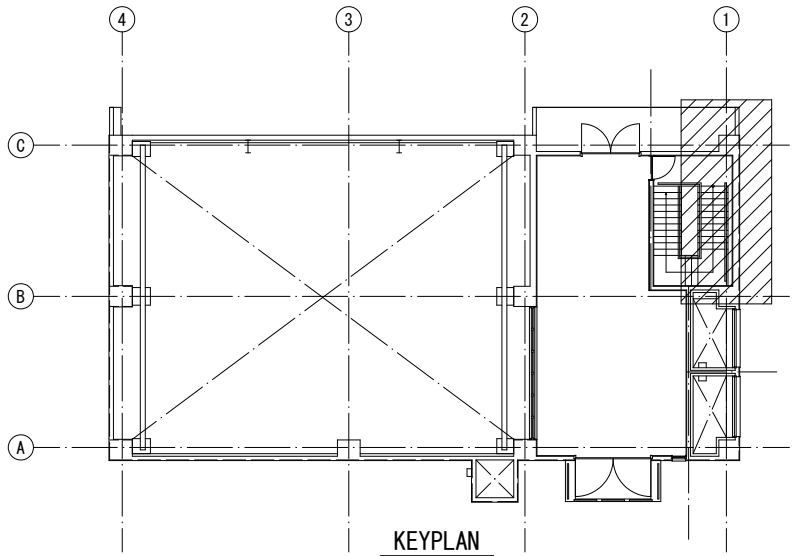
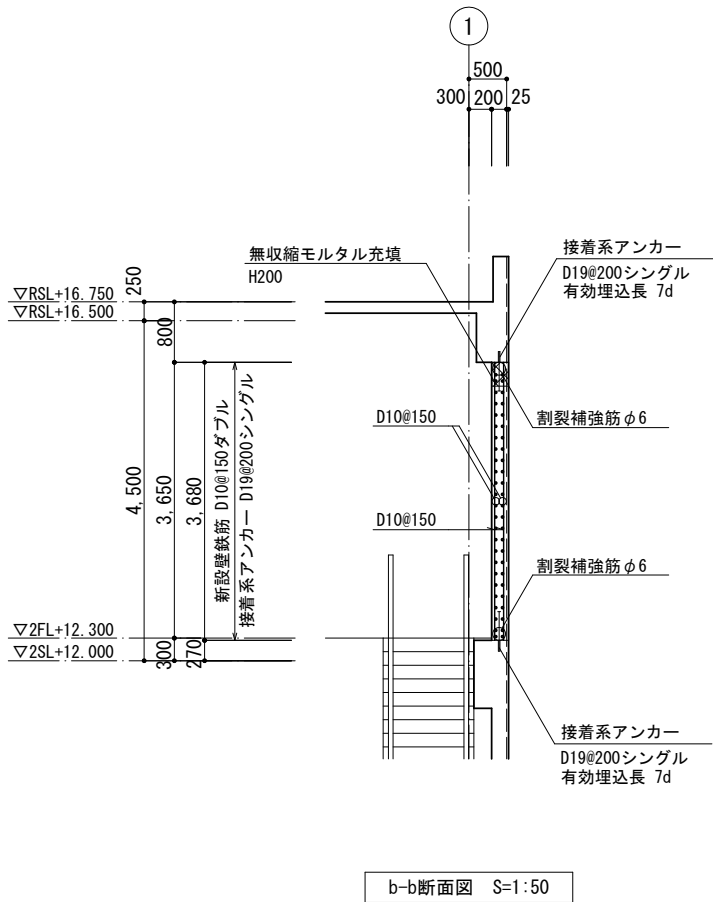
2階 1通 B～C通間 耐震壁EW20新設

- 注)
- 改修部の寸法は、現場測量後決定すること。
 - 鉄筋切断については、状況を確認後、監督員と協議の上行う。
 - 補強コンクリートは24-18-20とする。
 - 接着系アンカーの増打壁への有効定着長さは20da以上とする。
 - 幅止め筋は縦、横ともD10-@1000とする。
 - 接着系アンカーは非破壊引張試験を実施すること。
試験方法は「JCAAあと施工アンカー施工指針(案)」に準じ、
施工1ロット毎に3本抜き取り検査とする。
施工1ロットは、同一施工条件で施工本数300本ごととする。



RG2		
	B端部、中央部	中央部
上端筋	3-D22	5-D22
下端筋	3-D22	3-D22
STP	□-D10@150	
腹筋	2-D10	

2G2		
	B端部	中央部
上端筋	6-D22	3-D22
下端筋	3-D22	3-D22
STP	□-D10@150	
腹筋	4-D10	

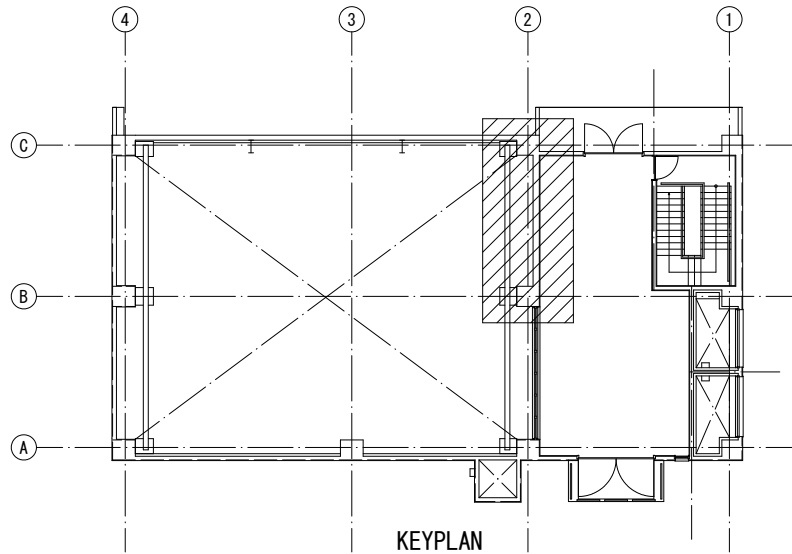
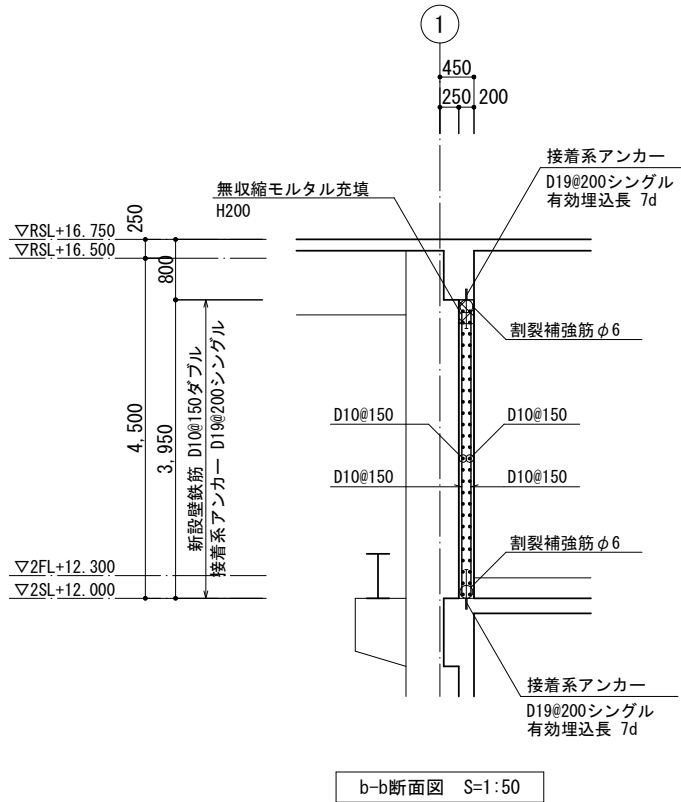
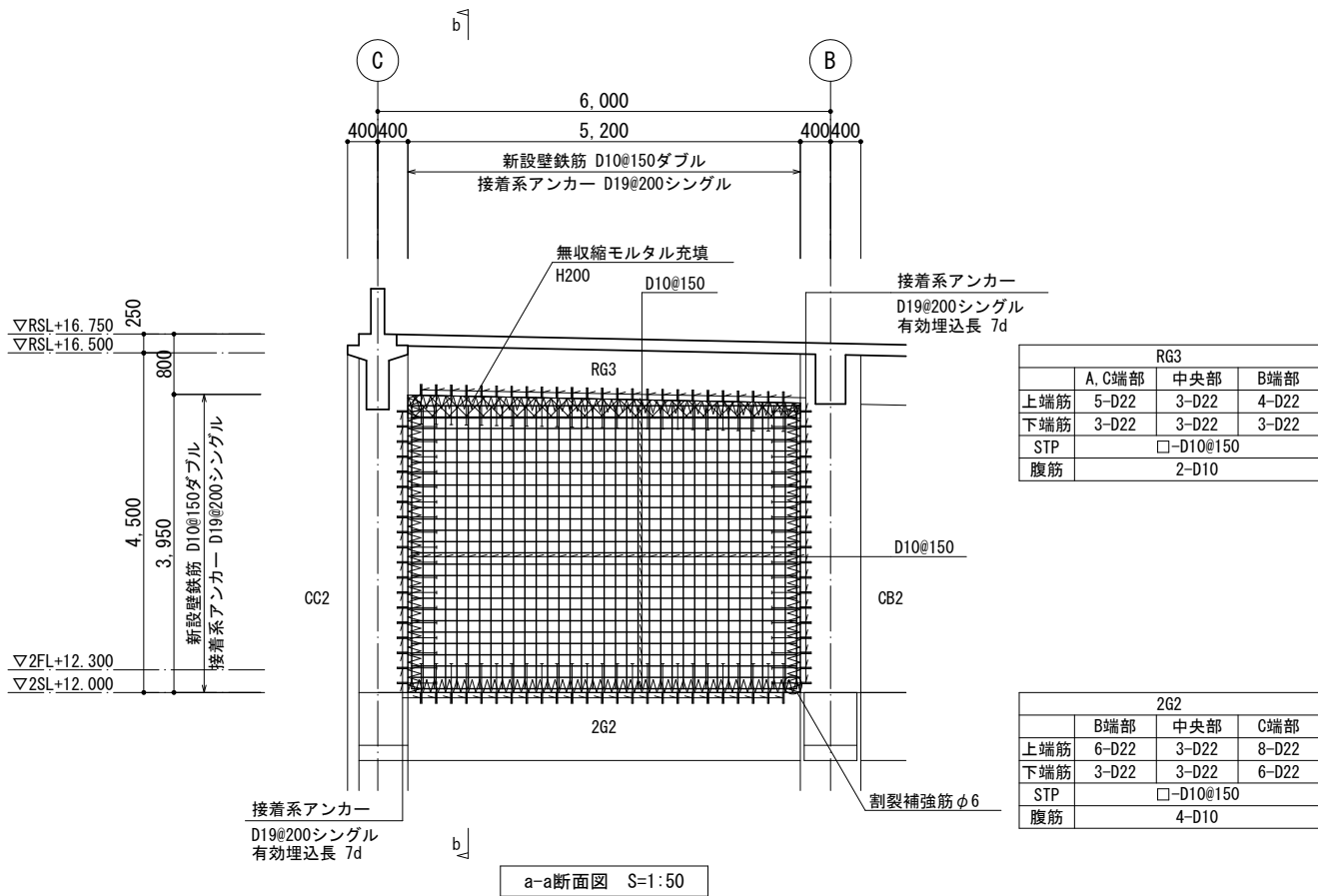
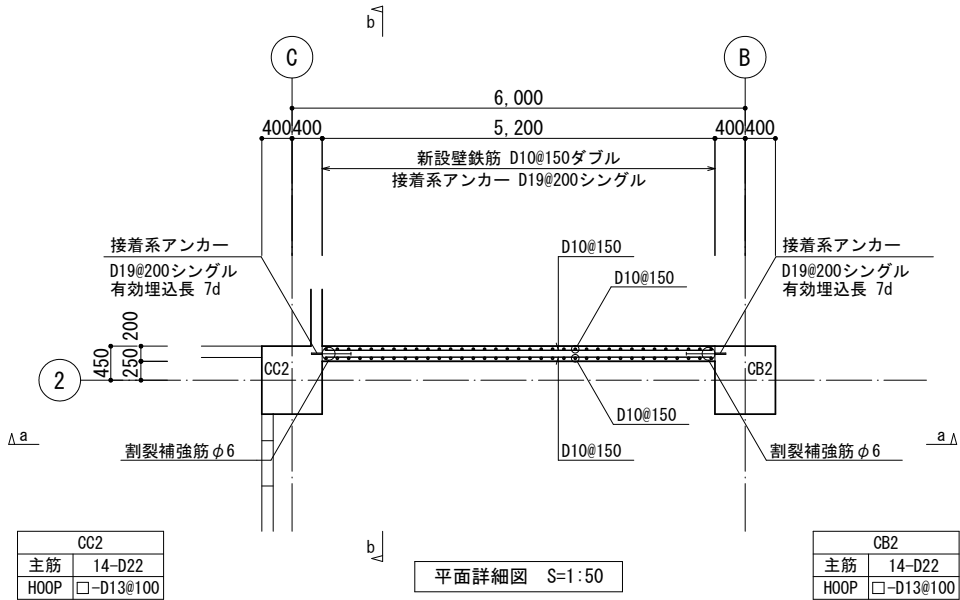


図面番号	A-073		縮 尺	1/50	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	耐震補強詳細図(11)			番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

2-2
N

2階 2通 B〜C通間 耐震壁EW20新設

- 注)
- 改修部の寸法は、現場測量後決定すること。
 - 鉄筋切断については、状況を確認後、監督員と協議の上行う。
 - 補強コンクリートは24-18-20とする。
 - 接着系アンカーの増打壁への有効着長さは20da以上とする。
 - 幅止め筋は縦、横ともD10-@1000とする。
 - 接着系アンカーは非破壊引張試験を実施すること。
試験方法は「JCAAあと施工アンカー施工指針(案)」に準じ、
施工1ロット毎に3本抜き取り検査とする。
施工1ロットは、同一施工条件で施工本数300本ごととする。

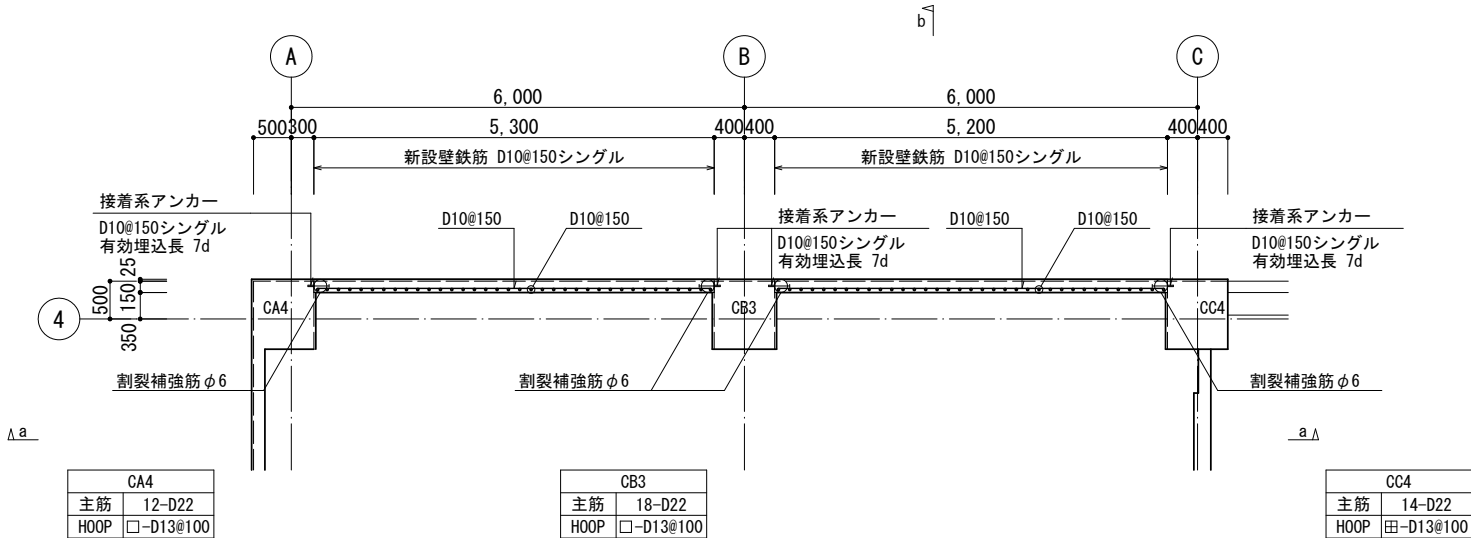


図面番号	A-074	縮 尺	1/50
工 事 名	新渚ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)		
種 別	耐震補強詳細図(12)	番 号	
工事箇所	福山市新渚町二丁目及び新渚町四丁目地内		
設計年月	2025年8月		
福 山 市 上 下 水 道 局			

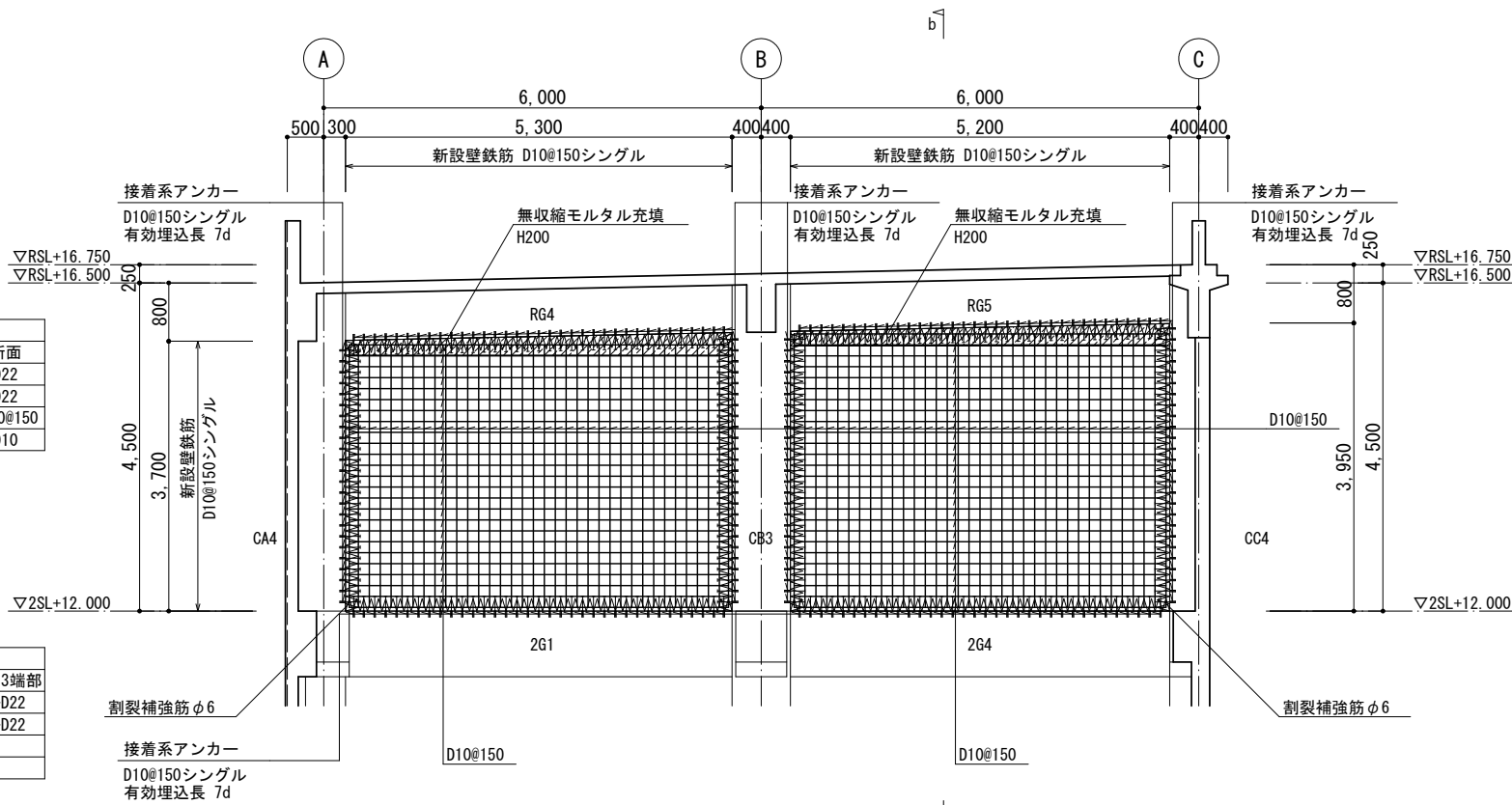
2-4
N

2階 4通 A～C通間 耐震壁EW15新設

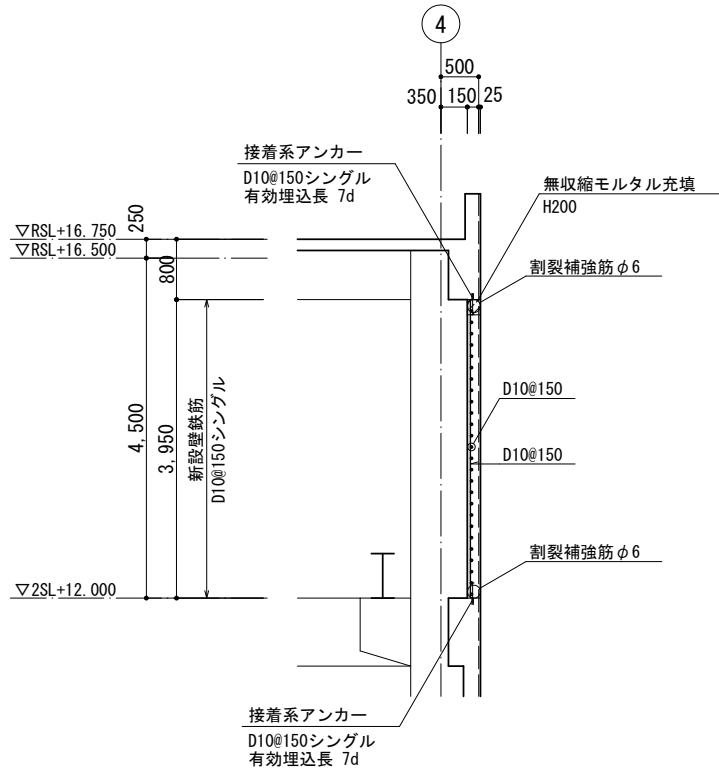
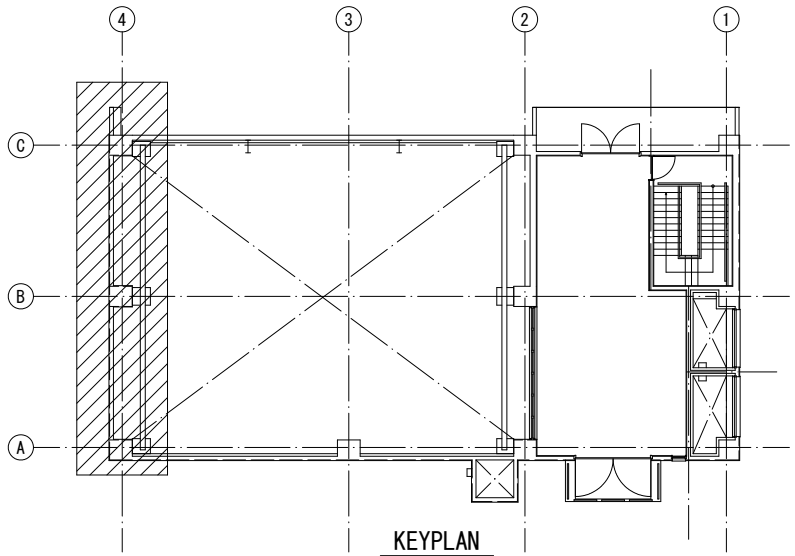
- 注)
- 改修部の寸法は、現場測量後決定すること。
 - 鉄筋切断については、状況を確認後、監督員と協議の上行う。
 - 補強コンクリートは24-18-20とする。
 - 接着系アンカーの増打壁への有効定着長さは20da以上とする。
 - フレア溶接は、10d以上確保する。
 - 接着系アンカーは非破壊引張試験を実施すること。
試験方法は「JCAAあと施工アンカー施工指針(案)」に準じ、
施工1ロット毎に3本抜き取り検査とする。
施工1ロットは、同一施工条件で施工本数300本ごととする。



平面詳細図 S=1:50



a-a断面図 S=1:50



b-b断面図 S=1:50

排水設備	1 （ 屋 内 ） 管 （第1層まで）	※ 硬質ポリ塩化ビニル管 （ J I S K 6 7 4 1 ） V P （ ・ 露出部 カラー V P ） ・ 排水用鉛管 （ S H A S E - S 2 0 3 ） ・ コーティング鋼管 ・ 耐火二層管 ・ 配管用炭素鋼鋼管 （ J I S G 3 4 5 2 ） S G P ・ 配管用炭素鋼鋼管 （ J I S G 3 4 5 2 ） S G P ・ 硬質ポリ塩化ビニル管 （ J I S K 6 7 4 1 ） V P （ ・ 露出部 カラー V P ） ・ 耐火二層管 3階以上にわたる排水立て管には、各階ごとに満水試験継手を取付ける。 ・ 施工する ・ 施工しない	ガス設備	1 種別 2 管 3 継手 4 プロパンガス集合装置 5 機器等 6 遮断装置等 7 その他	・ 都市ガス ・ 液化石油ガス ・ 配管用炭素鋼鋼管 （ J I S G 3 4 5 2 ）（ 白管 ） ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管 （ J I S G 3 4 5 4 ）（ 黒管 ） ・ ガス用ステンレス鋼フレキシブル管 ・ ガス用ポリエチレン管 （ J I S K 6 7 7 4 ） ポリエチレン被覆鋼管 （ J I S G 3 4 6 9 ） ・ 塩化ビニル被覆鋼管 ・ 鋼管継手 （ 亜鉛メッキ ） ・ P L S 継手同等品以上 ・ 溶接継手 ・ （ ） k g × （ ） 本立 ・ 無 ・ バルク貯槽 （ ） k g ・ 縦型 ・ 横型 ・ 別図による ・ 遮断弁 ・ ガス漏れ警報器 ・ 取付は （ ・ 本工事 ・ 別途工事 ） とする。 ・ 配線接続は （ ・ 本工事 ・ 別途工事 ） とする コントローラーは圧力確認復帰形とする。 ・ 本工事は、当地区ガス会社責任施工とする。 気密試験は、配管途中埋戻前又は、配管完了後監督員立会いの上試験を行う。	自動制御設備	1 中央監視制御装置 2 電源装置 3 計装工事の配線	・ 有り （ 構成機能図は図示による ） ・ 無し ・ 要 （ ・ 本工事 ・ 別途工事 ） ・ 不要 屋外、屋内露出の配線は、図面に特記のない限り金属管配線とする。														
	2 通気管 3 満水試験継手 4 ビット内配管保温 （ 屋 外 ） 5 方式 6 管 7 インバート樹 8 インバート樹用蓋 9 排水樹 10 排水樹用蓋 11 埋設深さ 12 その他	・ 自然排水 ・ ポンプ排水 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管 （ J I S K 6 7 4 1 ）（ ・ V P ※ V U ） ・ S A , A B 形 ・ S C 形 ・ 小口径 ・ 塩ビ製 ・ 鋳鉄製 （ ・ M H A ・ M H B ・ 小口径用防護ハット ） ・ R A , R B 形 ・ S C 型 ・ 小口径 ・ 塩ビ製 ・ 鋳鉄製 （ ・ M H A ・ M H B ・ 小口径用防護ハット ） ・ グレーチング ・ 鉄板製 O A 6 m / m ・ 300 m / m 以上（車両道路以外） ・ 600 m / m 以上（車両道路） ・ 別図による。 ・ 配管工事完了後、防露工事前に監督員立会の上、通水試験を行う。 ・ 配管途中、埋戻し前又は配管完了後、防露工事前に監督員立会の上満水試験を行う。		1 設計条件 2 冷水・温水・冷却水 冷温水管 膨張・補給水管 3 蒸気・油管及び冷媒管 4 ブライン管 5 給水及び排水管 6 ファンコイルユニット 及びパッケージエアコン 7 フレキシブルジョイント 8 吹出口・吸込口 9 防煙・防火ダンパー 10 風道 11 冷温水管の空気抜 12 その他 13 予備品等	<table><tr><th rowspan="2">条 件</th><th colspan="2">屋 外</th><th colspan="2">屋 内</th></tr><tr><th>温度（DB）</th><th>湿度（RH）</th><th>温度（DB）</th><th>湿度（RH）</th></tr><tr><td>夏 季</td><td>35.0℃</td><td>67.1%</td><td>28.0℃</td><td>50.0[※]%</td></tr><tr><td>冬 季</td><td>0.1℃</td><td>71.5%</td><td>19.0℃</td><td>40.0[※]%</td></tr></table> ※ 湿度調節機能がない設備については、成行とする。 ・ 水道用亜鉛メッキ鋼管 （ J I S G 3 4 4 2 ） S G P W ・ 配管用炭素鋼鋼管 （ 白管 ） （ J I S G 3 4 5 2 ） S G P ・ 一般配管用ステンレス鋼管 （ J I S G 3 4 4 8 ） S U S 3 0 4 ・ 配管用炭素鋼鋼管 （ 黒管 ） （ J I S G 3 4 5 2 ） S G P ・ 断熱材被覆鋼管 （ J C D A 0 0 0 9 ） ・ 配管用炭素鋼鋼管 （ 黒管 ） （ J I S G 3 4 5 2 ） S G P 給、排水設備の項による。 ・ 床置形 ・ 天吊形 （ ・ 露出 ・ 隠ぺい形 ・ カセット形 ） ・ ・ ステンレス製ベローズ形 ・ 合成ゴム製 ・ 枠及びスリットの材質は ・ 鋼板製 ・ アルミニウム製 ・ 防煙ダンパー（ S D ） ・ 防火ダンパー（ F D ） ・ 防煙防火ダンパー（ S F D ） ・ 防煙ダンパーは ・ 電気式 ・ 空気式 ・ ダンパー復帰機構は ※ 遠隔式 ・ 手元式 ・ グラスウールダクト（円形ダクト）（注：火気使用室、多湿箇所は使用不可） ・ 亜鉛鉄板製（空調、換気、排煙） ・ 鋼板製（排煙） （ ※ 低圧ダクト ・ 高圧1ダクト ・ 高圧2ダクト ） 長方形ダクトは ※ コーナーボルト工法（ ・ 共振工法 ・ スライドオンフランジ工法 ・ アングルフランジ工法 ） 消音材を内貼りした風道、チャンパーは図示寸法は内法寸法とする。 ・ ダンパー前後の風量測定口は、図示した箇所設ける。 ・ 空気溜りを生ずると思われる配管箇所には、必要に応じて操作の容易な位置に空気抜弁を設ける。自動空気抜弁は、元バルブ付とする。 試験は、配管途中若しくは隠ぺい、埋戻し前又は配管完了後の塗装又は保温施工前に行う。 空気調和設備機器取付完了後試運転調整を行ない、風量、温度、湿度及び騒音の測定を行い、測定表を提出する。 ・ 冷媒及び吸収液等の処理については、回収後適正に破壊処理し、その結果を書面をもって監督員に報告する。 ・ 業務用冷凍空調機器は、「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」に従って適切に処理し、その結果を書面をもって監督員に報告する。 法に基づく機器台帳を製作し監督員に提出する。 ・ 特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）の対象となるものは、法の定めに従って適切に処理し、その結果を書面をもって監督員に報告する。 ※ 機器表特記による。 ・ 空気調和機等又はフィルターキャンパーの装着枚数の （ ） %を予備品（特付）として納める。 低圧ダクト（ ㊦ スパイラルダクト ・ コーナーボルト工法（ ・ 共振 ・ スライド ） ㊦ アングル工法 ） とする。 厨房系統の排気用ダクトは標準仕様書よりも一層手厚いものを使用する。 厨房用ダクトはアングルフランジ工法とする。 ・ グラスウールダクト（円形ダクト）（注：火気使用室、多湿箇所は使用不可） 取付位置は （ ・ 図示した位置 ㊦ 連心送風機吐出ダクト又は吸込ダクト ・ 外気取入れダクト ） とする。 空気調和設備の当該項目による。 ・ 浴室 （ シャワー室、脱衣室を含む ） 系統 空気調和設備の当該項目による。 下配ダクトの保温を行う。 ・ 全熱交換器用のダクト （ 保温の厚さ25mm、範囲は図示による。 ） ・ （ ・ 厨房 ・ 湯沸室 ・ ） のダクト（仕様はh・(イ)・Ⅶとし範囲は図示による。 ） ・ 0Aダクト 機器から外壁の間（保温の厚さ25mm） ・ EAダクト 外壁より1m （ 保温の厚さ25mm ）		条 件	屋 外		屋 内		温度（DB）	湿度（RH）	温度（DB）	湿度（RH）	夏 季	35.0℃	67.1%	28.0℃	50.0 [※] %	冬 季	0.1℃
条 件	屋 外		屋 内																			
	温度（DB）	湿度（RH）	温度（DB）	湿度（RH）																		
夏 季	35.0℃	67.1%	28.0℃	50.0 [※] %																		
冬 季	0.1℃	71.5%	19.0℃	40.0 [※] %																		
給湯設備	1 方式 2 管 3 弁 4 熱源 5 膨張水槽 6 その他	・ 単管式 ・ 復管式 ・ 鋼管 （ J I S H 3 3 0 0 ）（ ・ Mタイプ ・ Lタイプ ） ・ 被覆鋼管 （呼び径20までとする） ・ 水道用亜鉛メッキ鋼管 （ J I S G 3 4 4 2 ） S G P W ・ 保温付被覆鋼管（ J I S H 3 3 0 0 の外面に発泡断熱材（14mm以上）で被覆したもの） ・ 一般配管用ステンレス鋼管 （ J I S G 3 4 4 8 ） S U S 3 0 4 ・ 架橋ポリエチレン管 ・ ポリブテン管 ・ J I S 1 0 K ・ J I S 5 K ・ ボイラ ー （ ） ・ 給湯器、湯沸器 （ ） ・ 電気温水器 （ ） ・ ヒートポンプ式給湯器（ ） ・ ステンレス製 （ ） ・ 鋼 板 製 （ ） ・ コンクリート埋設管内の保温はアスファルトジュート1回巻きとする。 配管終了後、保温施工前に監督員立会の上、規定の水圧試験を行う。	空気調和設備	1 管 2 弁 3 消火栓箱 4 水源用水槽 5 消火ポンプユニット 6 ポンプ基礎 7 消火器 8 保温 9 その他	・ 水道用亜鉛メッキ鋼管 （ J I S G 3 4 4 2 ） S G P W ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（第2種亜鉛メッキ製品）（ J I S G 3 4 5 4 ） S T P G ・ 配管用炭素鋼鋼管 （ J I S G 3 4 5 2 ） S G P ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管 （ W S P 0 4 1 ） S G P - V S ※ 消火用配管は、消防法令に適合するものとする。 ・ J I S 1 0 K ・ ・ 総合形（ ・ H B - 1 A ・ H B - 1 B ） ・ 単独形（ ・ H B - 2 A ・ H B - 2 B ） ・ 総合形（ ・ H B - 4 A ・ H B - 4 B ） ・ 消火器箱併設形（ ・ H B - 1 A S ・ H B - 1 B S ） ・ ステンレス製 （ ） ・ 鋼 板 製 （ ） ・ 認定型 φ × ∕ min × m kW × 台 ・ 標準 型 ・ 防振 型 ・ （ ） 型 （ ） 本 ・ 収納箱共 ・ 置台共 ・ 壁掛フック共 イ） 呼水タンクの保温 ・ 施工しない ・ 施工する ロ） 充水タンクの保温 施工しない ・ 施工する ハ） 消火配管の保温は次による。 ・ 屋内消火栓用 ・ 施工しない ・ 施工する ・ スプリンクラー用 ・ 施工しない ・ 施工する ・ 連絡送水用 ・ 施工しない ・ 施工する ・ 連絡散水用 ・ 施工しない ・ 施工する 水圧試験及び消防設備等の機能等についての試験基準に基づく外観試験及び性能試験を行う。	① ダクト ② 風量測定口 ③ ダンパー 4 排気ダクトのシール ⑤ チャンパー 6 保温																
浄化槽設備	1 処理種別 2 構造 3 形式・容量 4 排水方式 5 マンホール 6 その他	・ 小規模合併処理 ・ 合併処理 ・ 単独処理槽 ・ 放流水質 （ ・ B O D m g ∕ 以下 ・ C O D m g ∕ 以下 ・ T - N m g ∕ 以下 ・ T - P m g ∕ 以下 ） ・ 分離接触ばっ気方式 ・ 長時間ばっ気方式 ・ 分離ばっ気方式 ・ その他（ ） ・ ユニッ ト 型 （ 型 人槽 ∕ 日 ） ・ 現場施工型 （ 人槽 ∕ 日 ） ・ 自然排水 ・ ポンプ排水 （ ） ・ M H A 型 ・ M H B 型 ・ 製造者の規格品 工事竣工後、6ヶ月間は試運転調整とし、 処理水試験の報告書を作成し、浄化槽法による法定検査を受注者の責任において受ける。 槽の水張り試験及び配管の満水、水圧、通水、空気圧試験を行う。 無償保守点検期間中の消耗薬剤については、受注者において準備し、期間終了後の引継時までに必要薬剤名やその量を報告する。		① ② ③ ④ ⑤ ⑥																		

新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事（その2）		A-076
機 械 設 備 工 事 特 記 仕 様 書 No. 2		
2025年8月		
福山市上下水道局		

	福山市電気設備工事特記仕様書		
	2025年8月	新涯ポンプ場ポンプ棟耐震化工事（その2）	A-077
	福山市上下水道局		

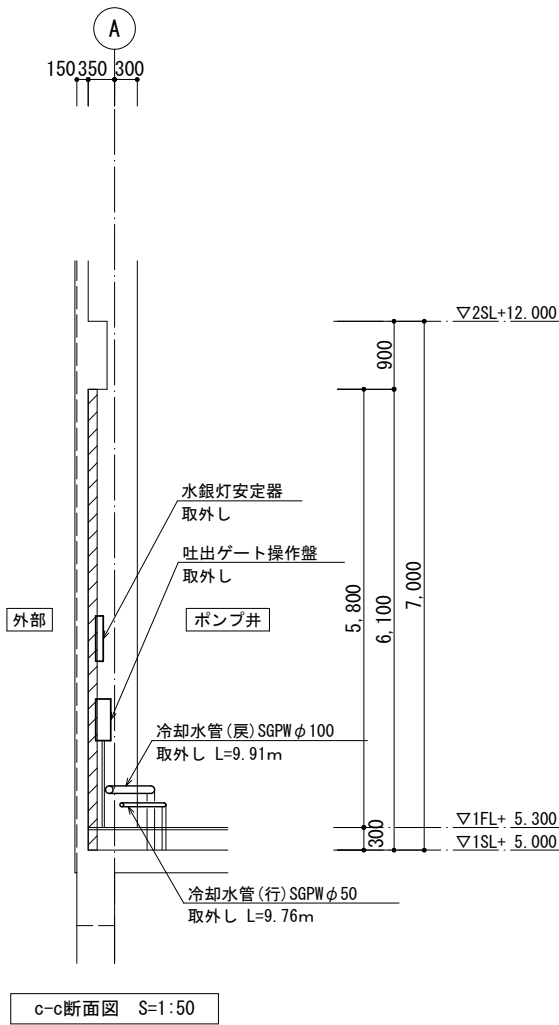
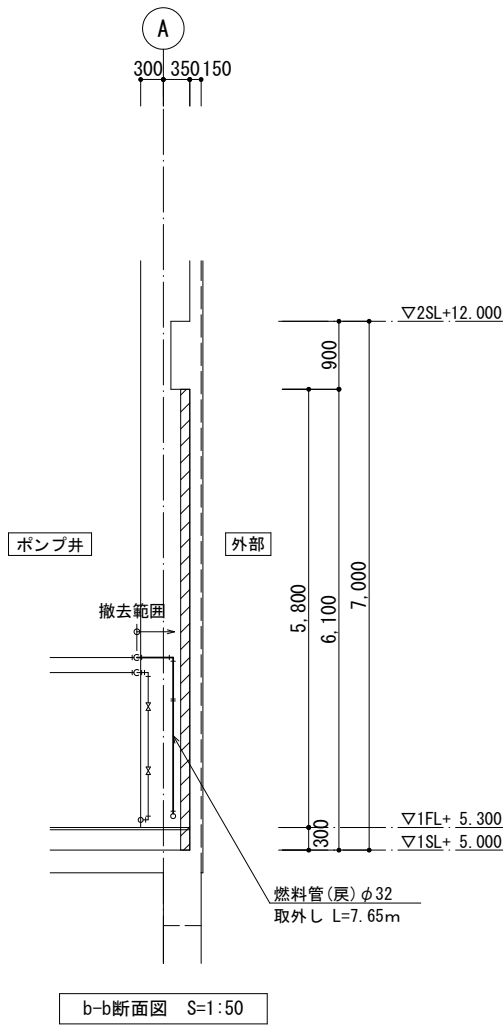
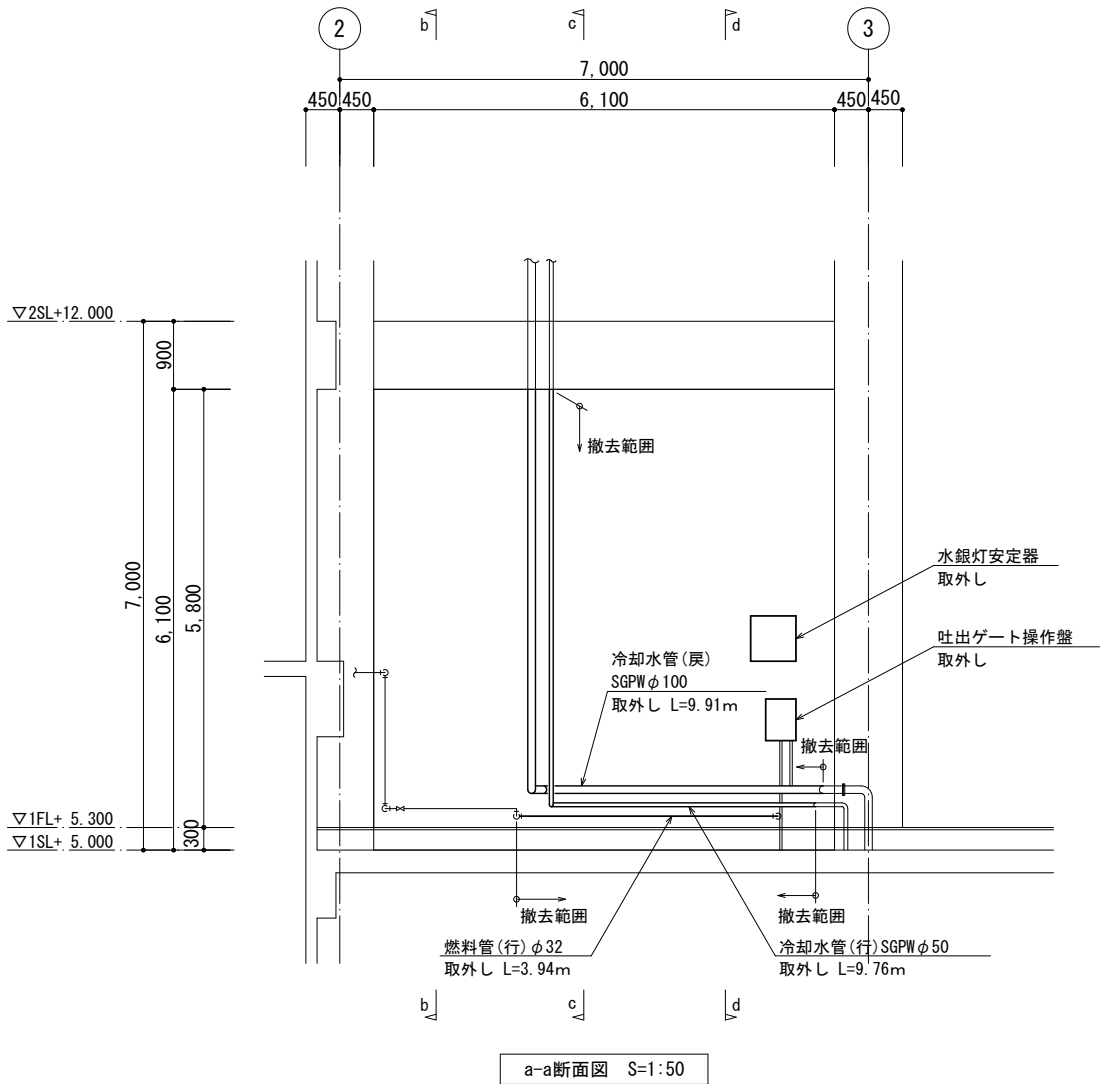
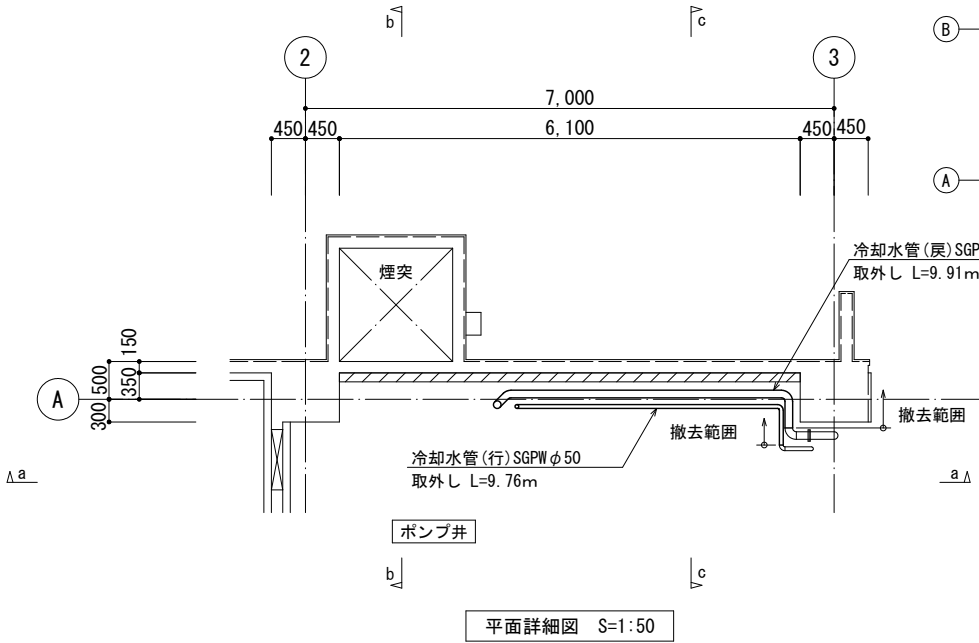
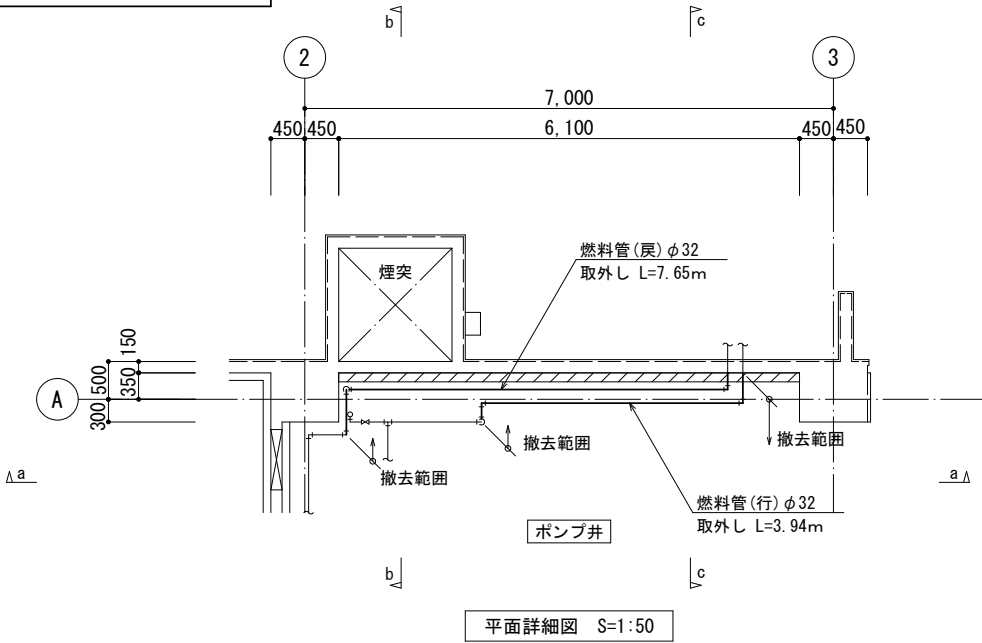
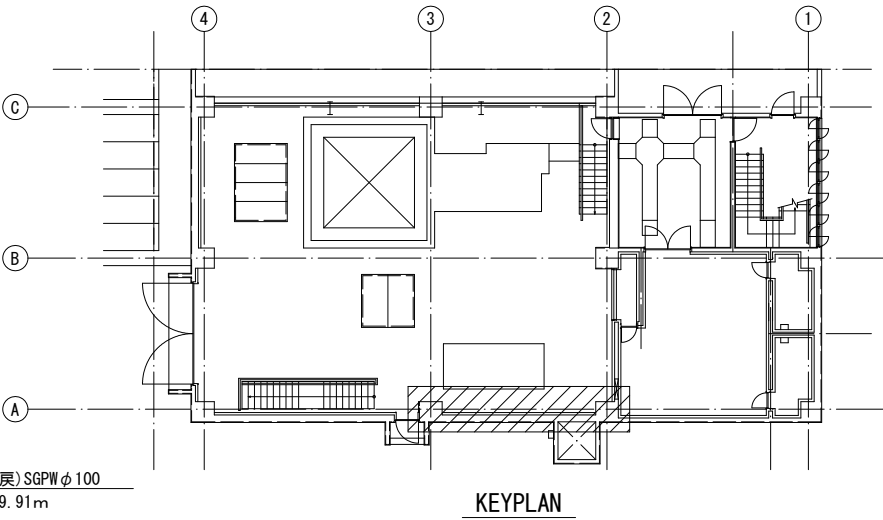
図面番号	A-078		縮 尺	1/50	
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	1F壁 A通 配管撤去図			番 号	
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

凡 例

改修工事範囲

1F壁 A通 配管撤去図

S=1:50



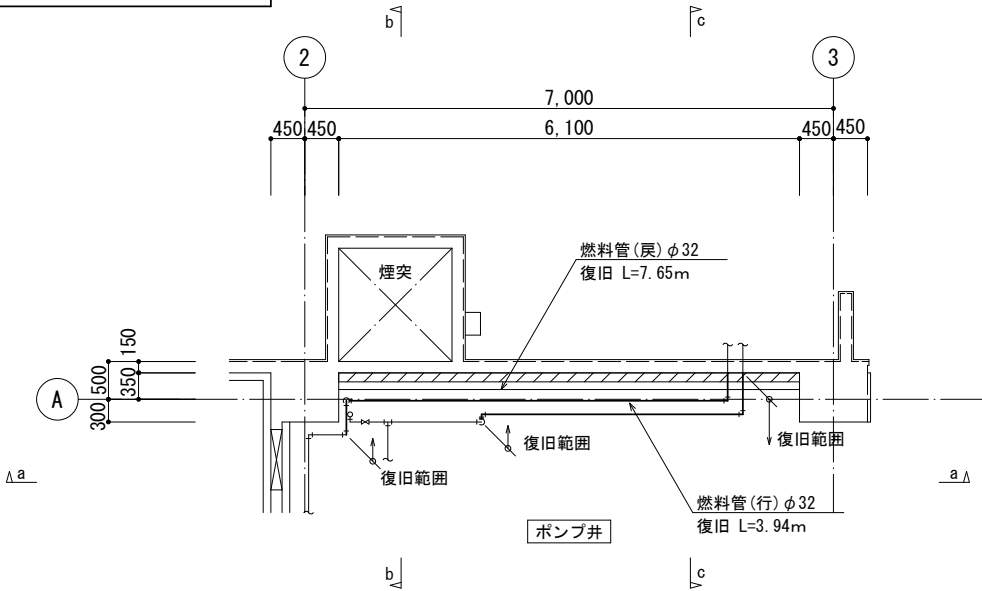
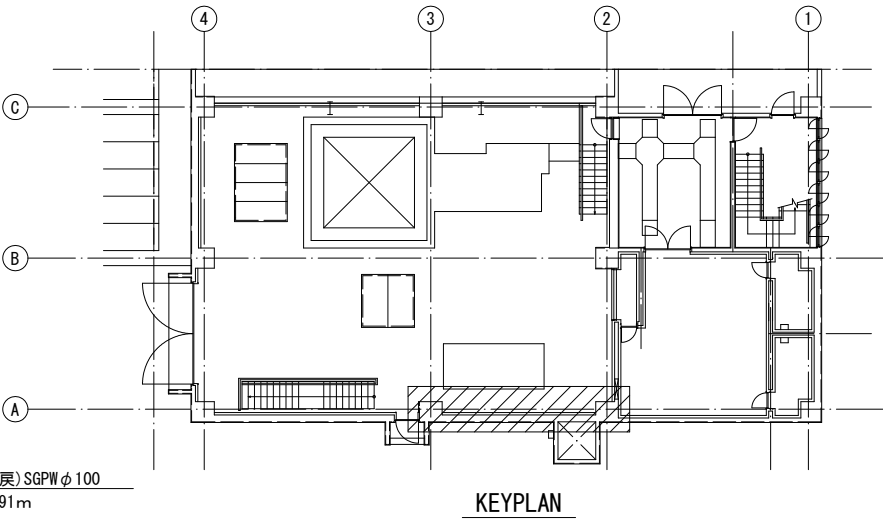
図面番号	A-079		縮 尺	1/50	
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	1F壁 A通 配管復旧図			番 号	
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

凡 例

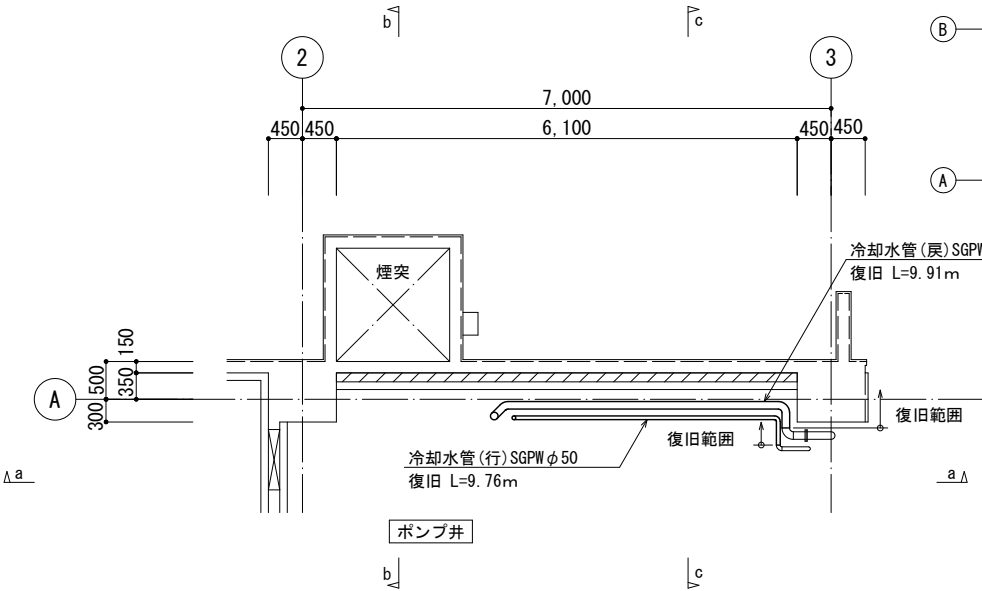
改修工事範囲

1F壁 A通 配管復旧図

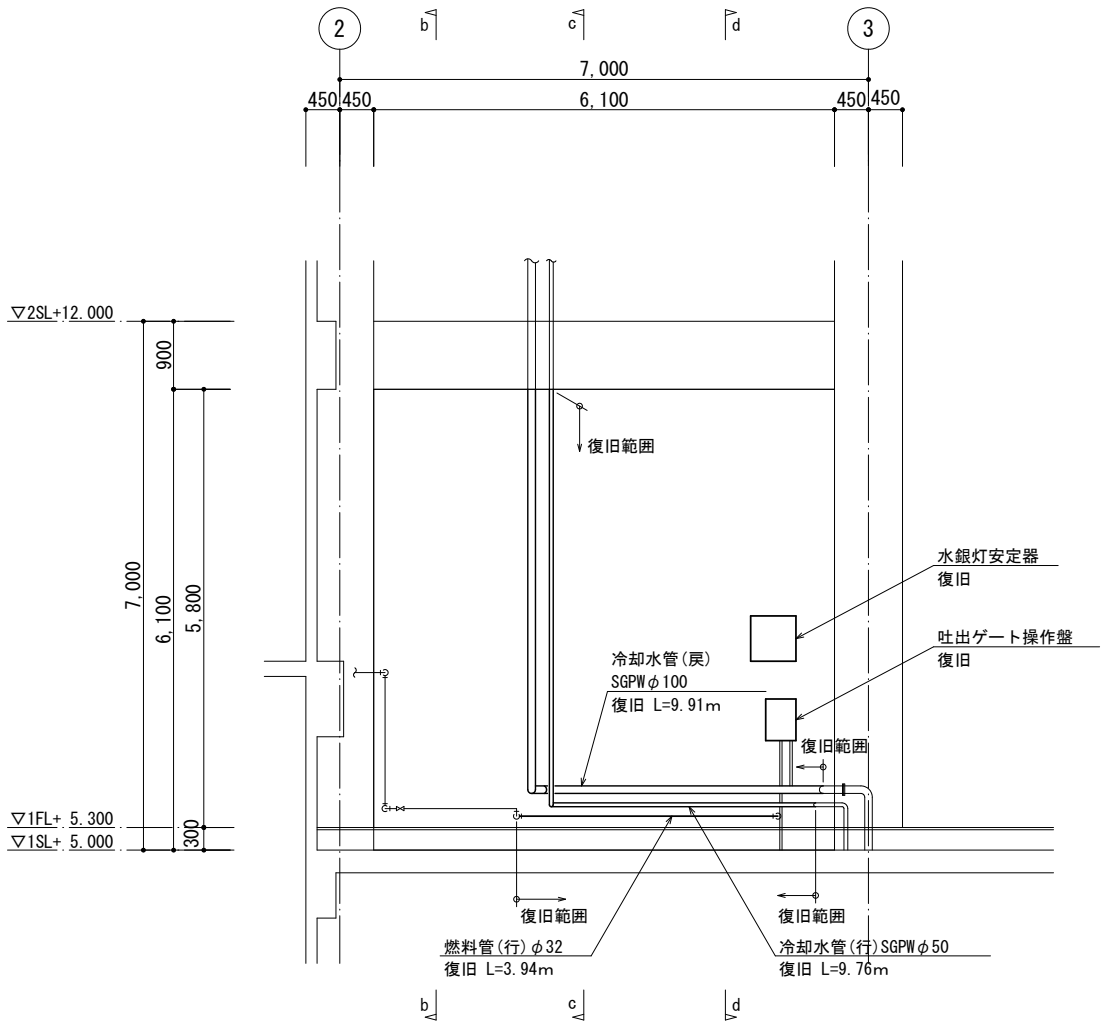
S=1:50



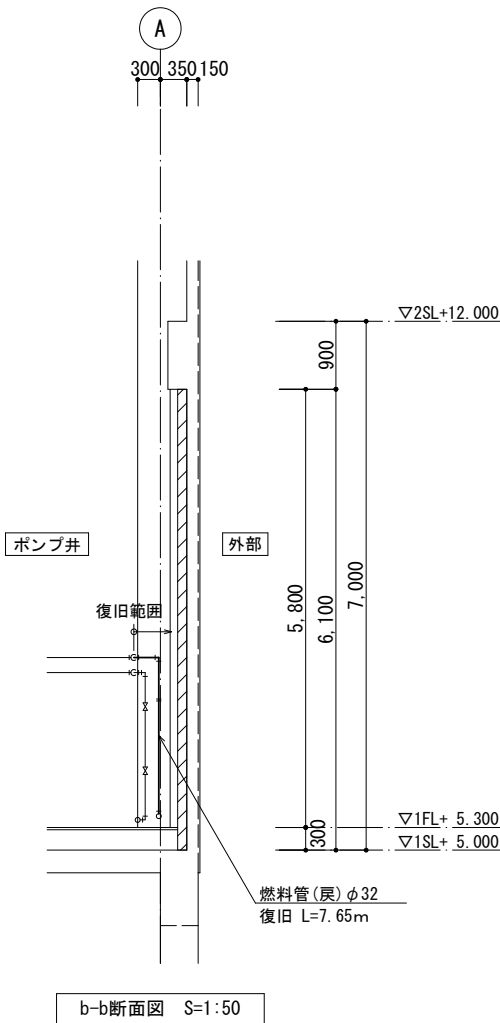
平面詳細図 S=1:50



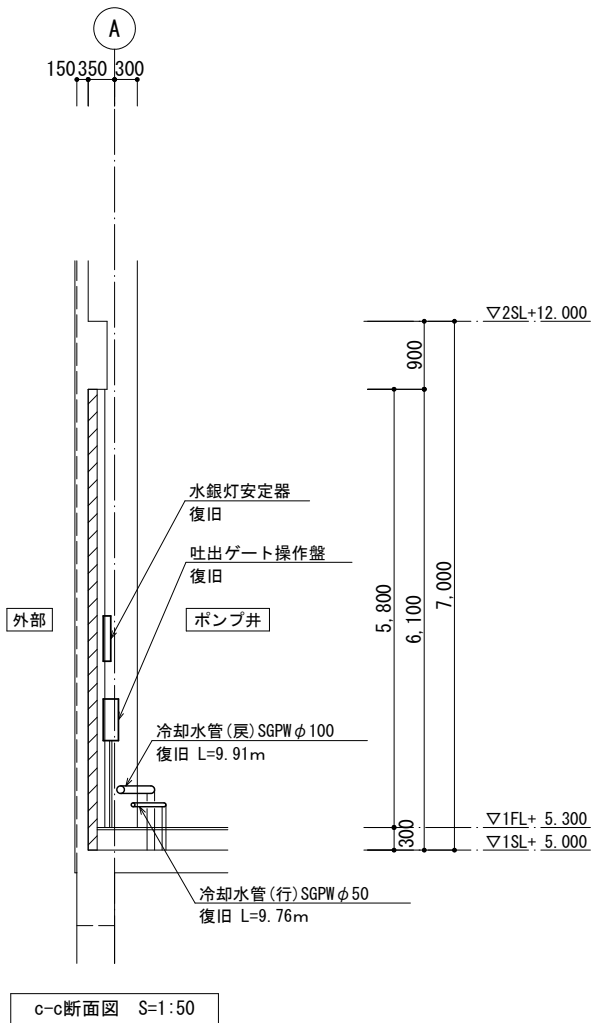
平面詳細図 S=1:50



a-a断面図 S=1:50



b-b断面図 S=1:50

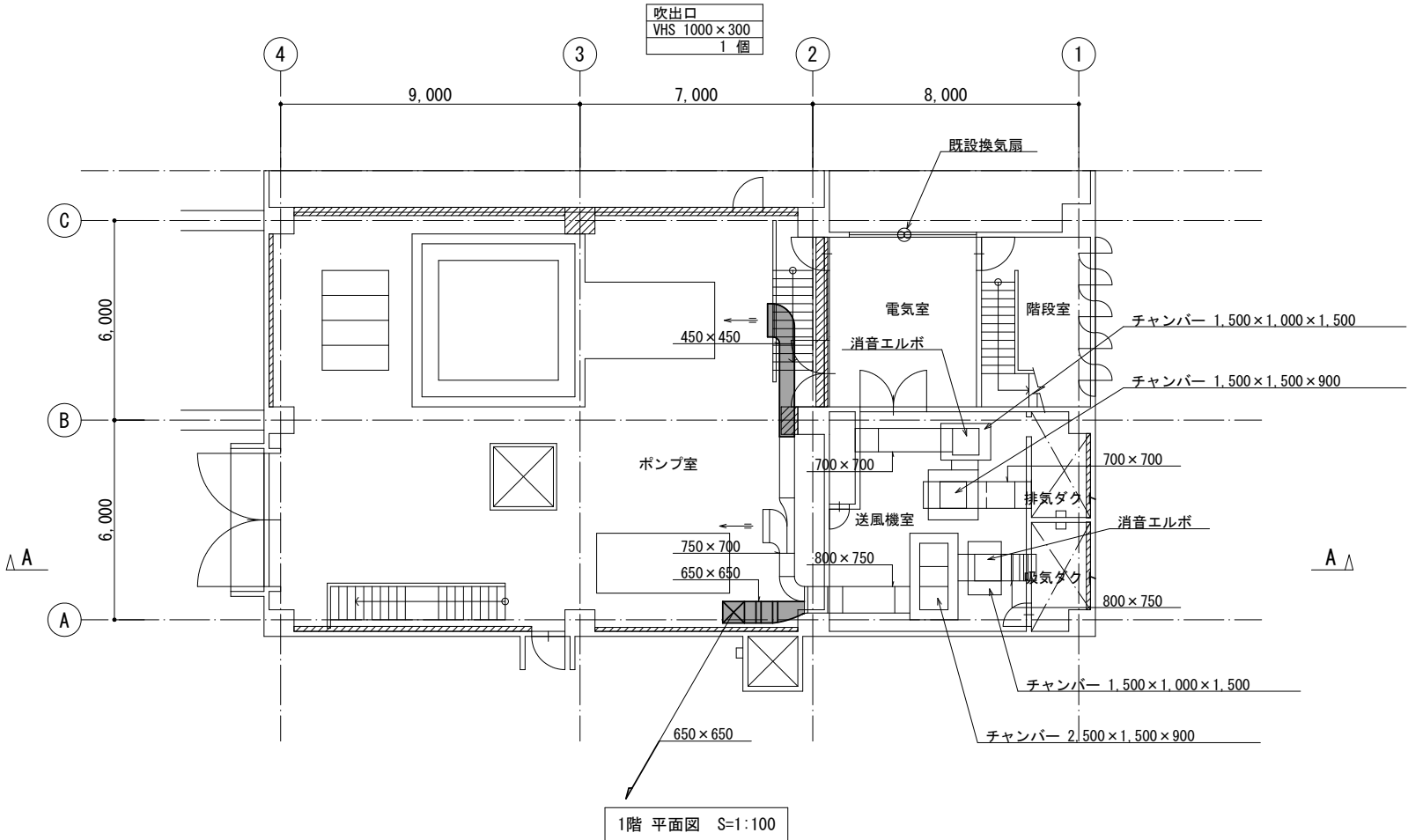
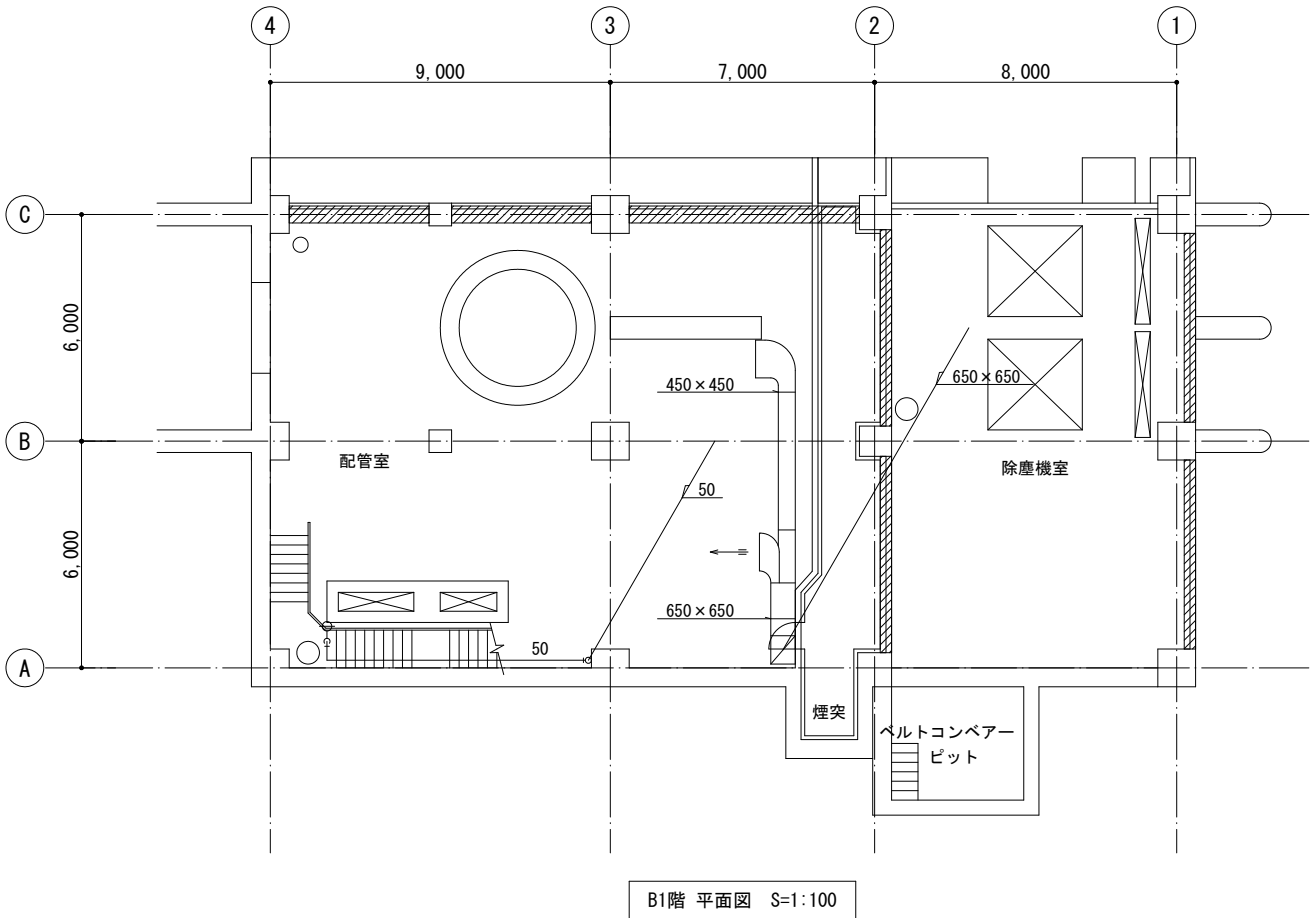
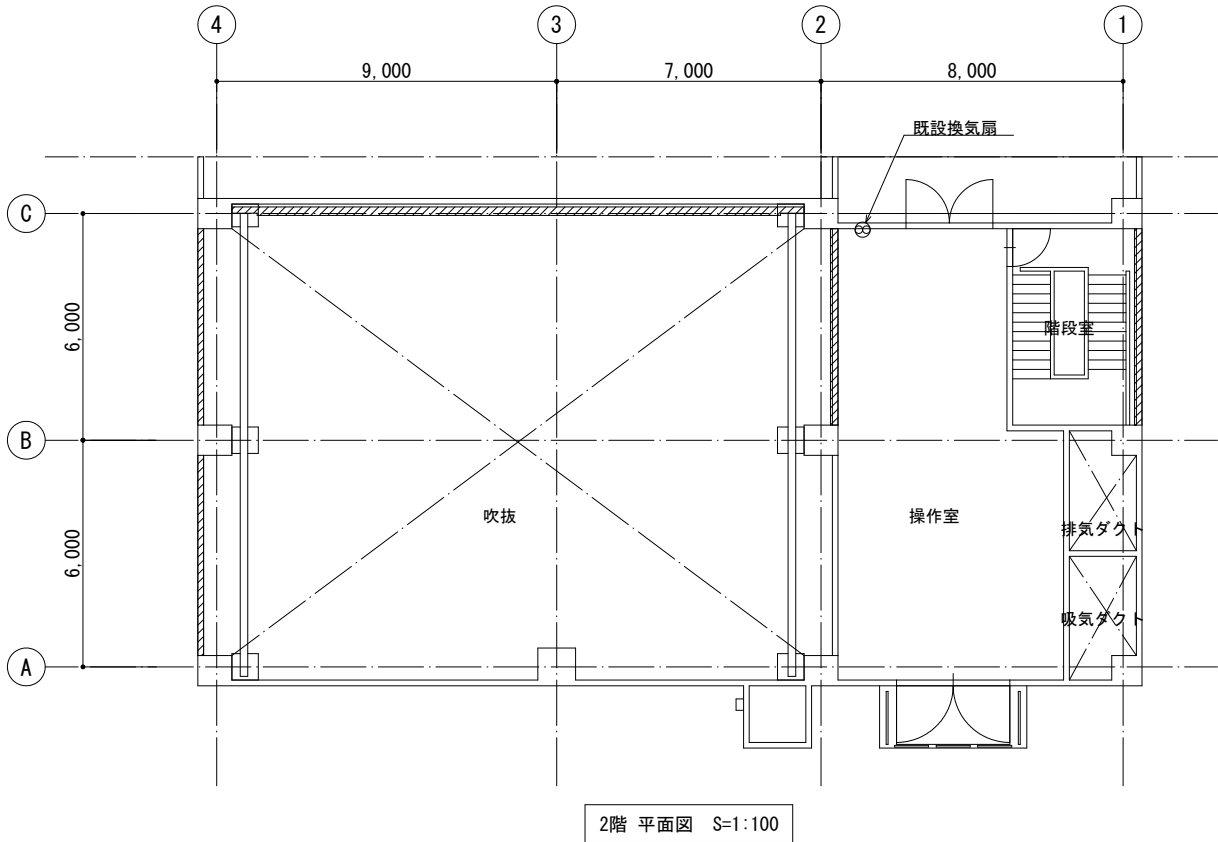


c-c断面図 S=1:50

図面番号	A-080	縮 尺	1/100	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	換気設備 改修前 平面図		番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

- 注) 特記なき限り
- 1.  改修工事範囲を示す。
 - 2.  ダクト一時撤去範囲を示す。
 - 3.  既設ダクトを示す。

換気設備 改修前 平面図 S=1:100



図面番号	A-081	縮 尺	1/100	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	換気設備 改修後 平面図		番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

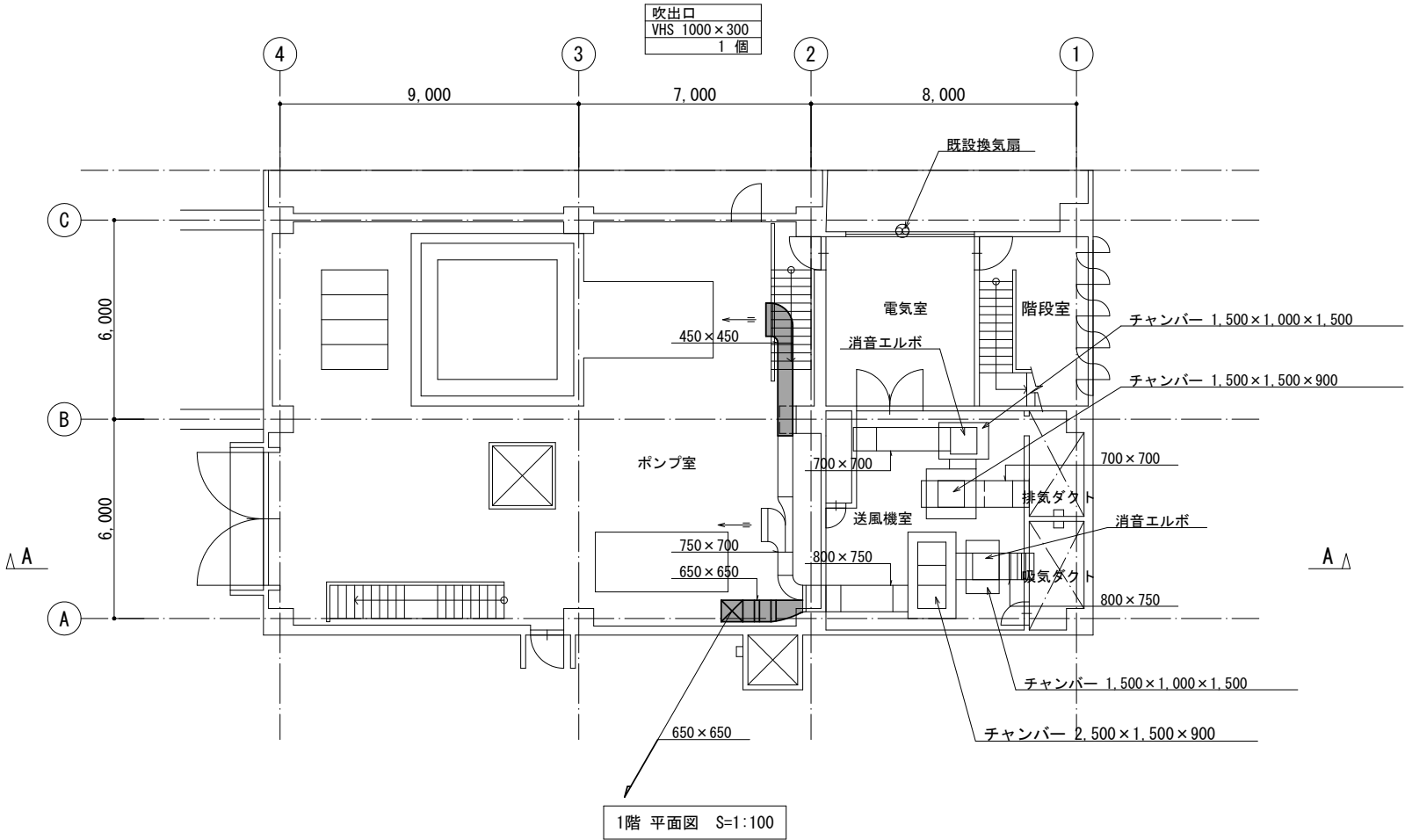
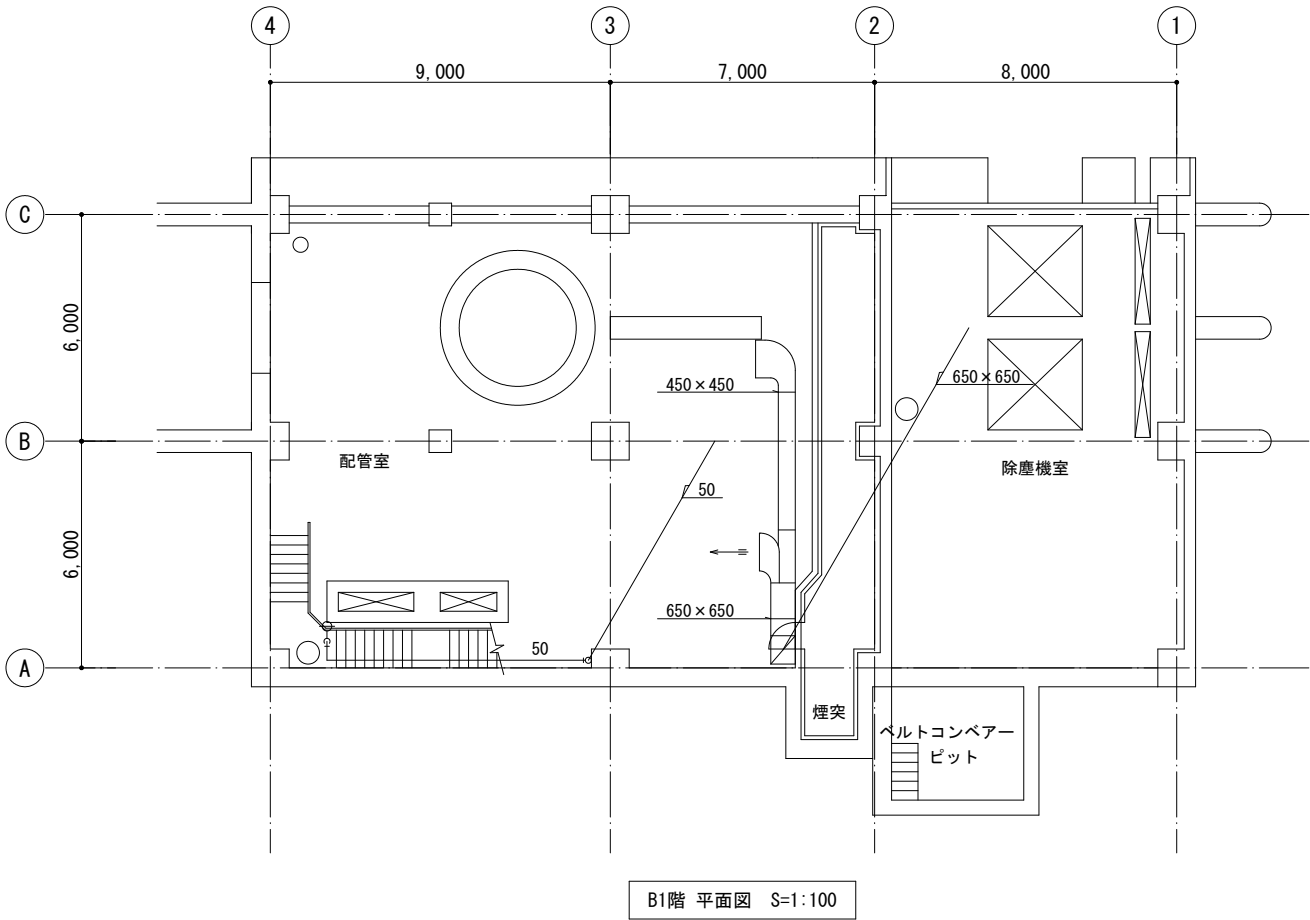
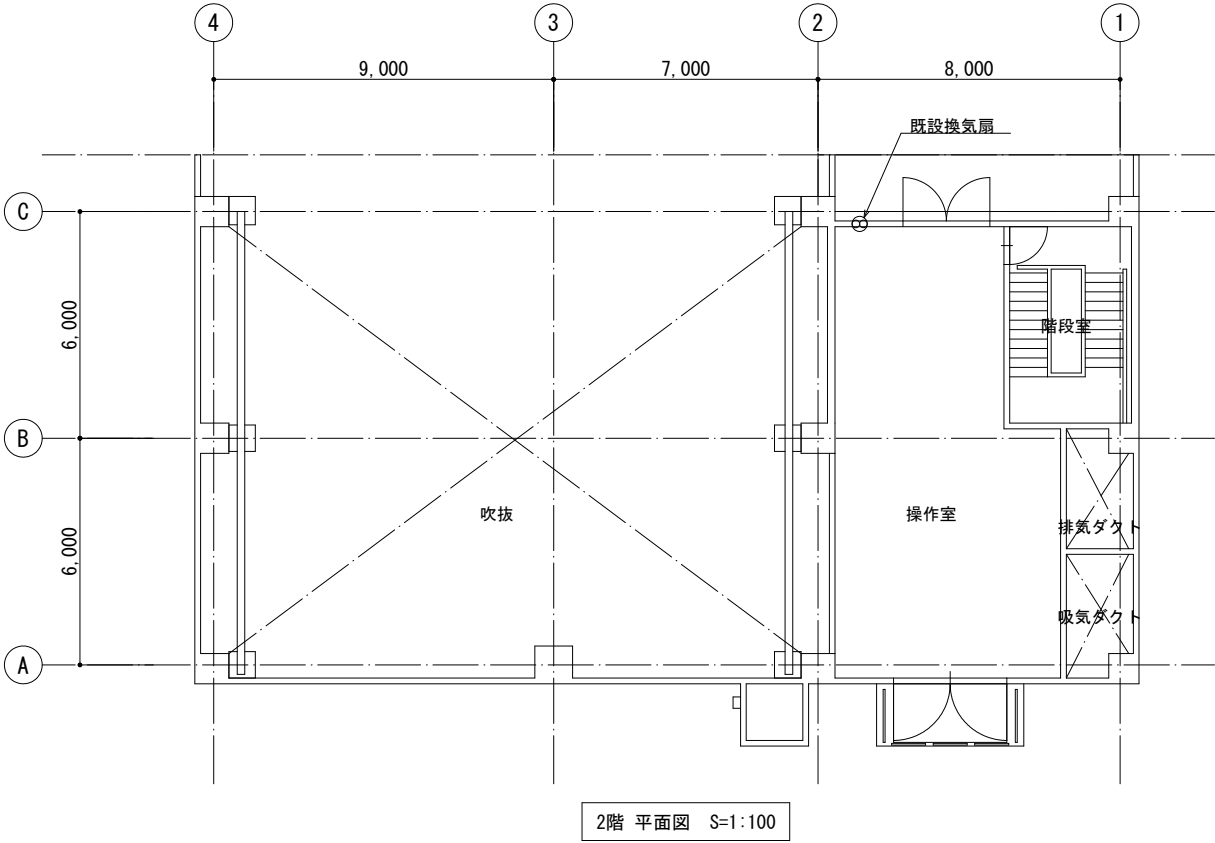
- 注) 特記なき限り
1.

改修工事範囲を示す。
2.

ダクト復旧範囲を示す。
3.

既設ダクトを示す。

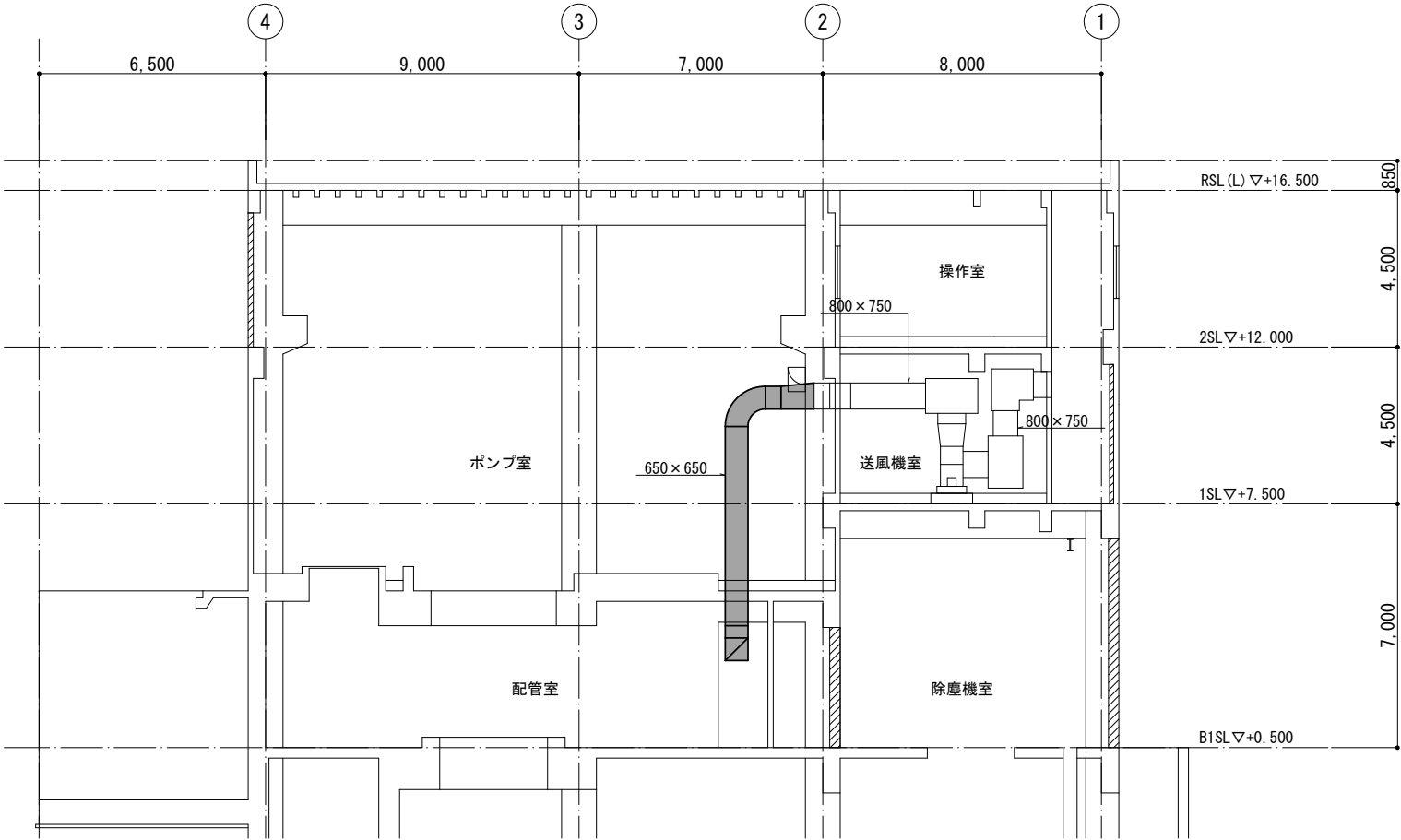
換気設備 改修後 平面図 S=1:100



図面番号	A-082		縮 尺	1/100	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	換気設備 改修前 断面図			番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

換気設備 改修前 断面図 S=1:100

- 注) 特記なき限り
1.  改修工事範囲を示す。
 2.  ダクト一時撤去範囲を示す。
 3.  既設ダクトを示す。

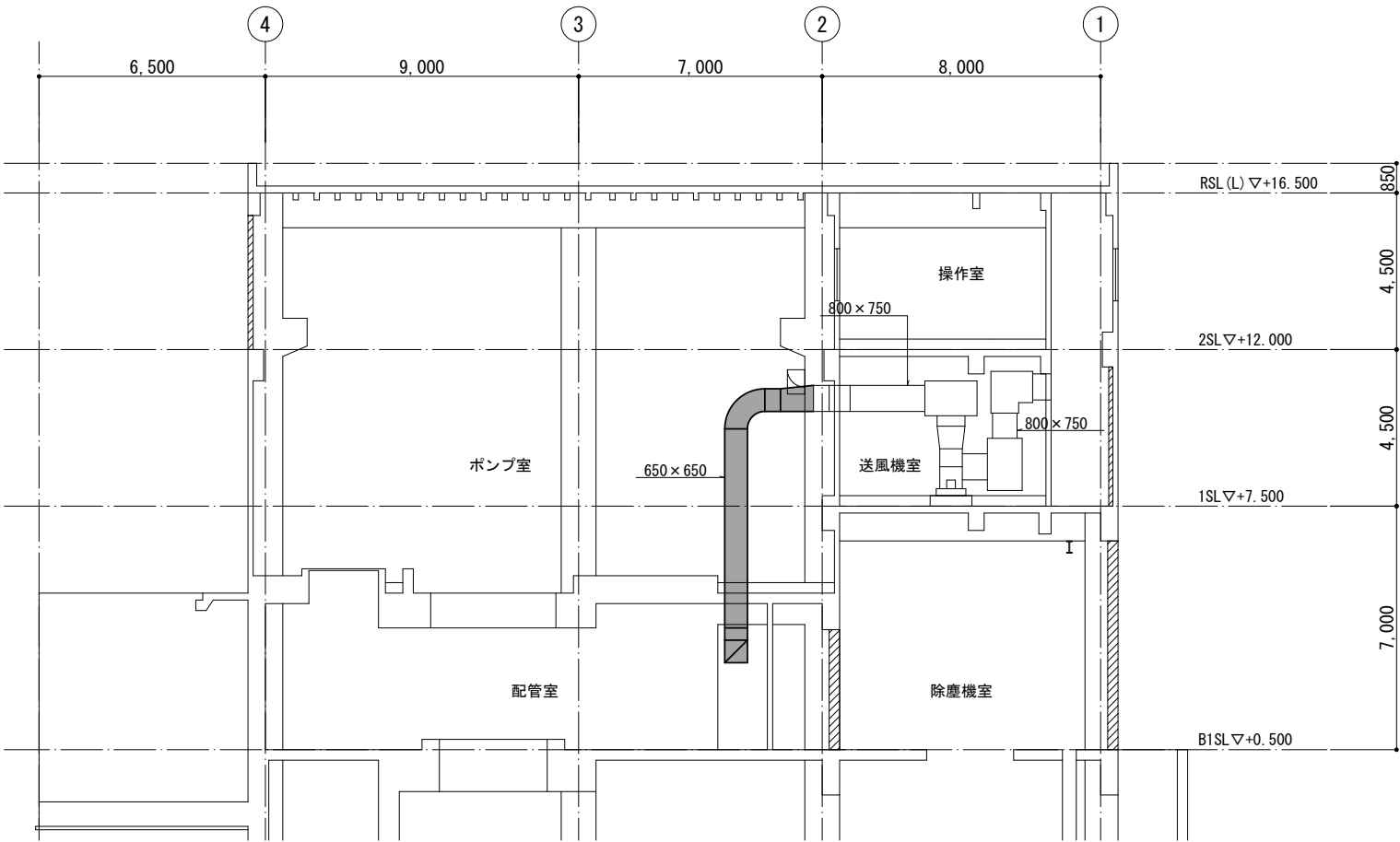


A-A断面図 S=1:100

図面番号	A-083	縮 尺	1/100	
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	換気設備 改修後 断面図		番 号	
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

換気設備 改修後 断面図 S=1:100

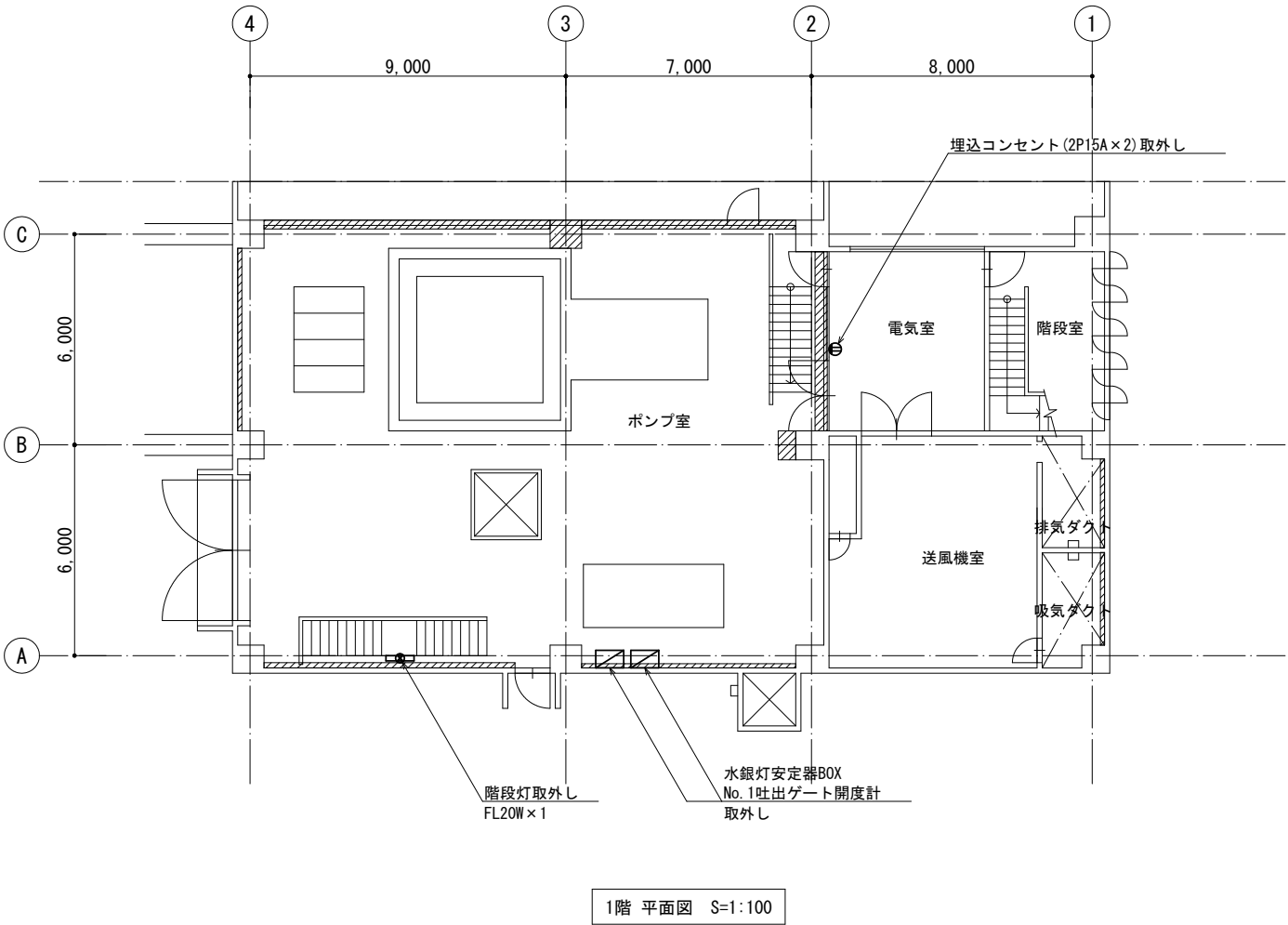
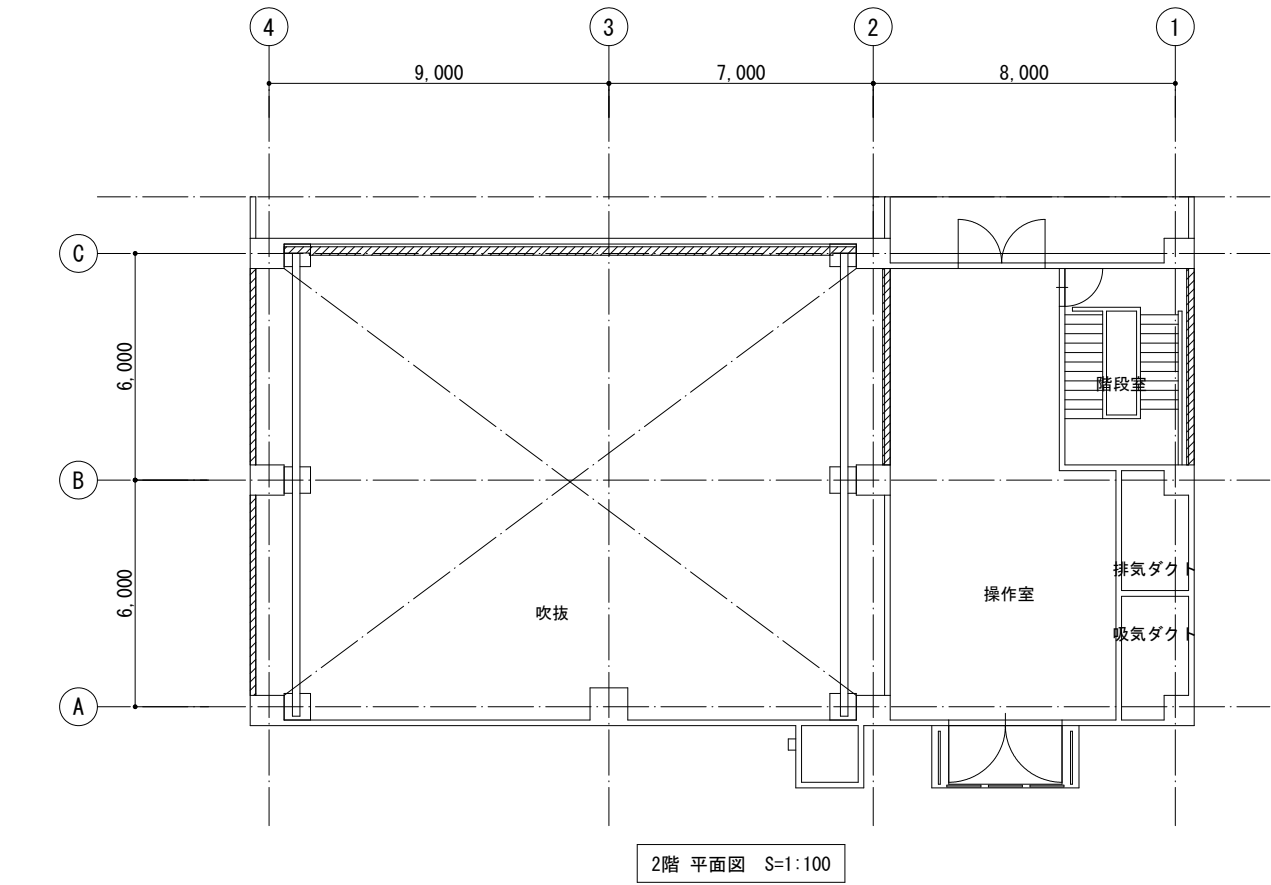
- 注) 特記なき限り
1.  改修工事範囲を示す。
 2.  ダクト復旧範囲を示す。
 3.  既設ダクトを示す。



A-A断面図 S=1:100

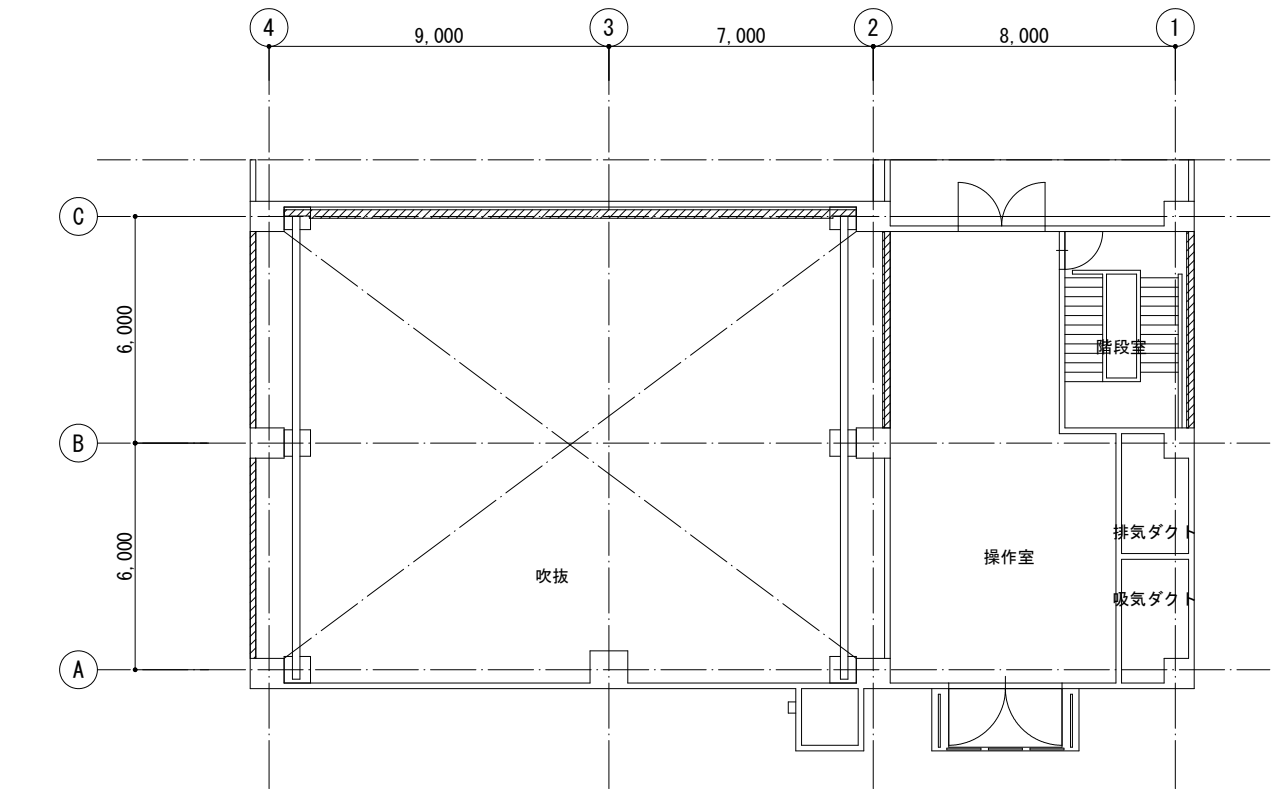
図面番号	A-084	縮 尺	1/100	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	建築電気設備 改修前 平面図		番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

建築電気設備 改修前 平面図 S=1:100

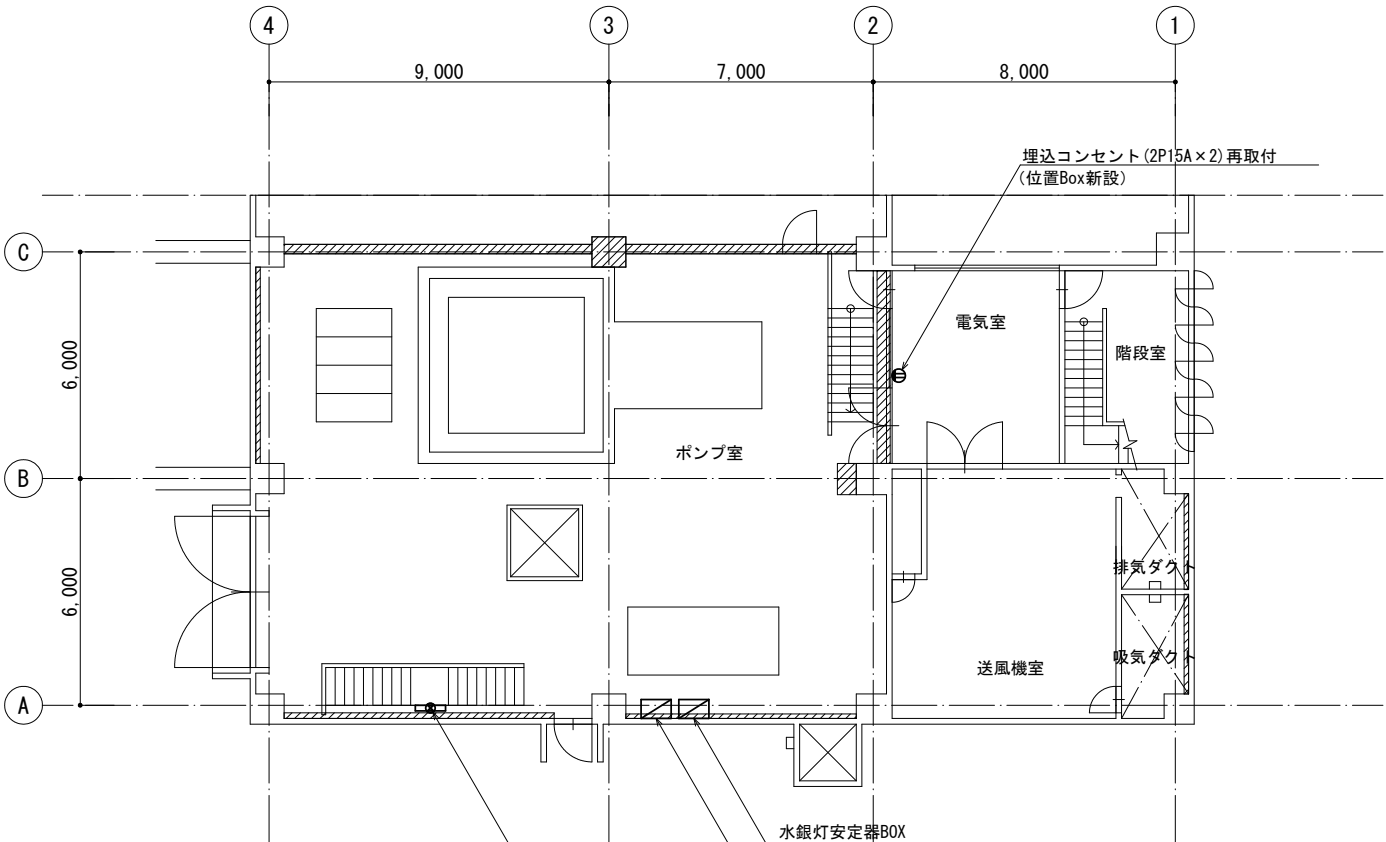


図面番号	A-085	縮 尺	1/100	
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	建築電気設備 改修後 平面図		番 号	
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

建築電気設備 改修後 平面図 S=1:100



2階 平面図 S=1:100



1階 平面図 S=1:100

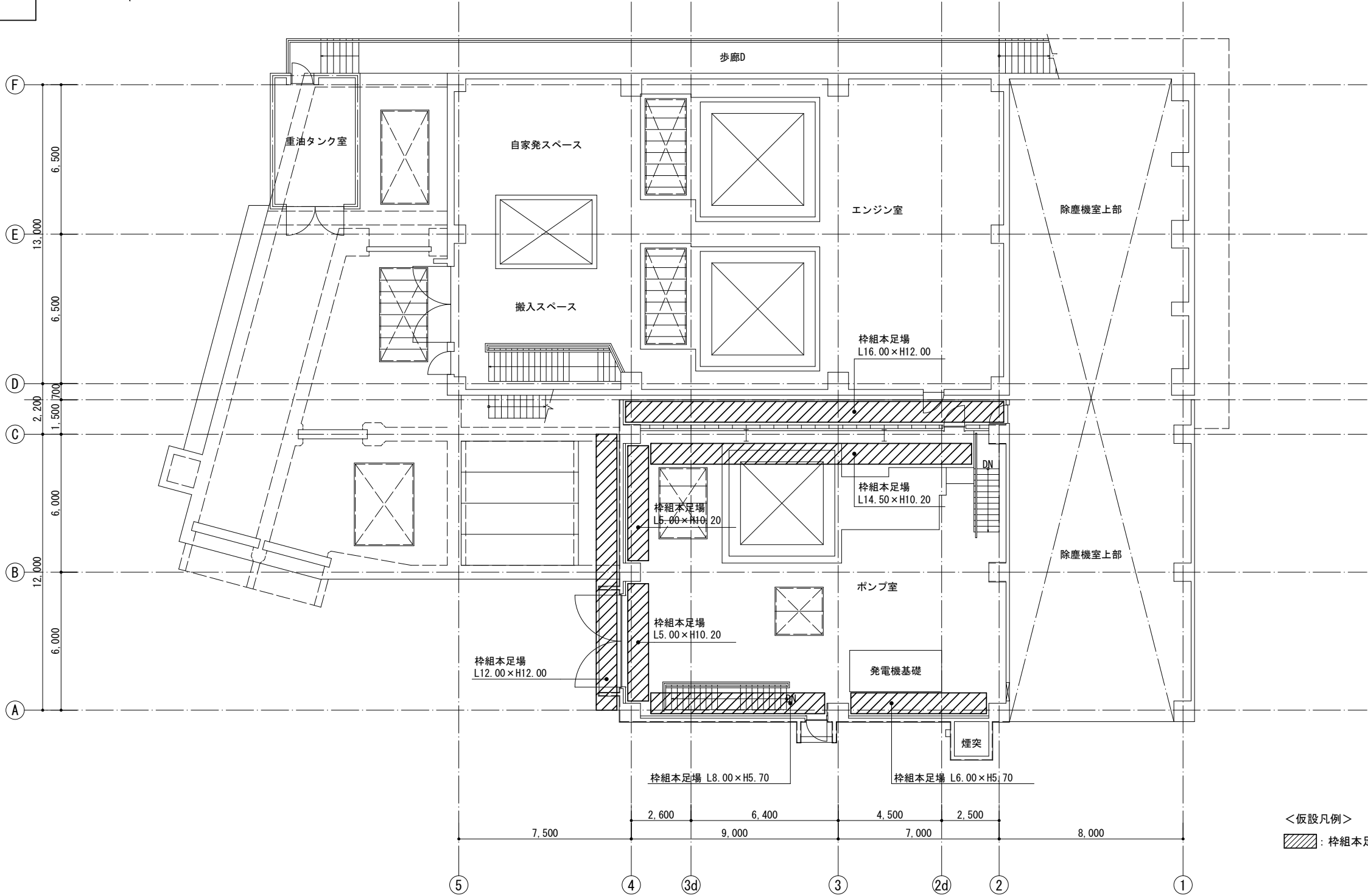
<凡例>

改修工事範囲

図面番号	A-086	縮 尺	1/100	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	1階仮設計画図 (参考図)		番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				



1階仮設計画図 S=1:100
(参考図)

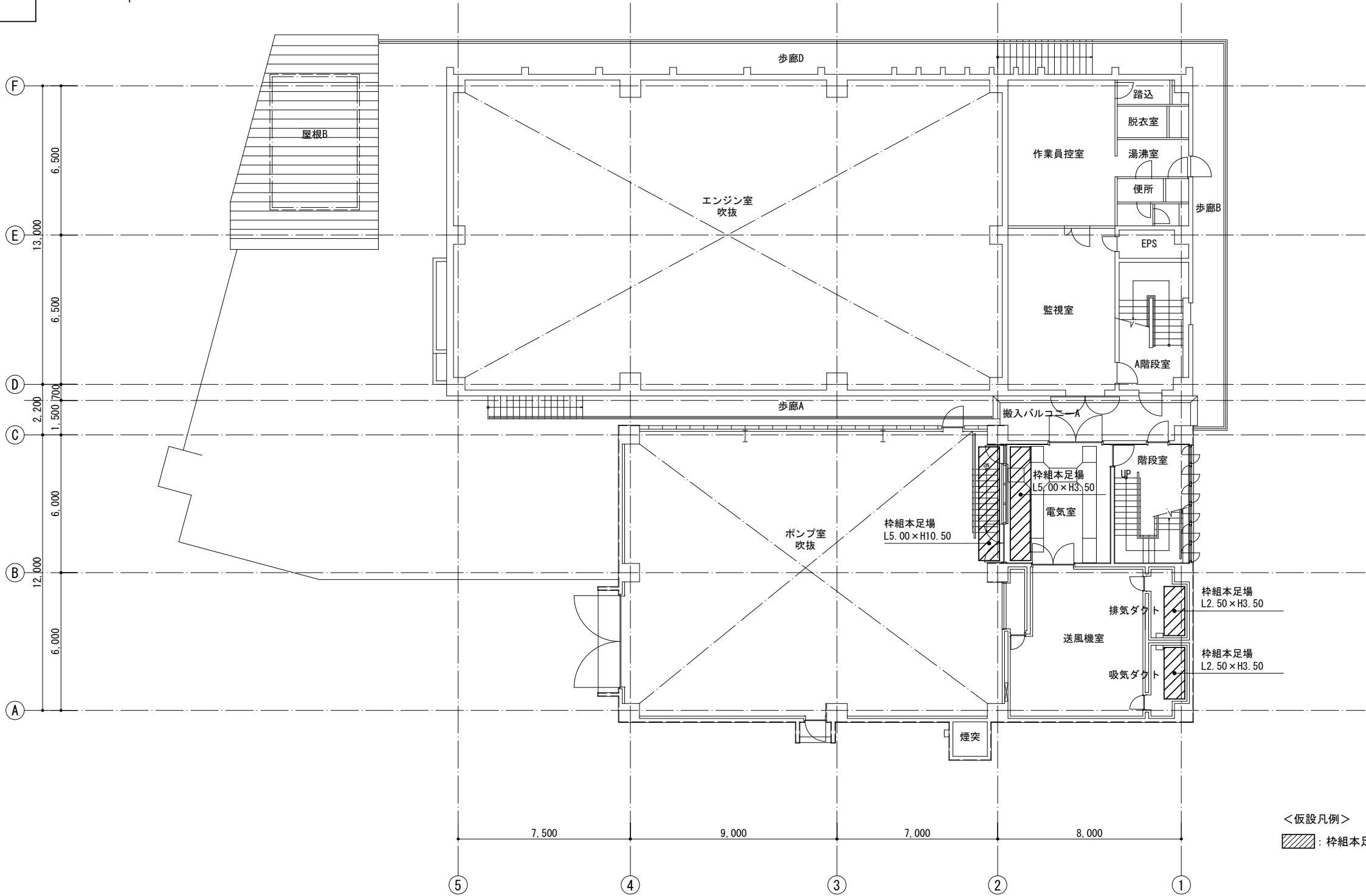


<仮設凡例>
枠組本足場 (養生シートあり)

図面番号	A-087	縮 尺	1/100
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)		
種 別	1階上部仮設計画図 (参考図)	番 号	
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内		
設計年月	2025年8月		
福 山 市 上 下 水 道 局			



1階上部仮設計画図 S=1:100
(参考図)



<仮設凡例>
[Hatched Box]: 桝組本足場 (養生シートあり)

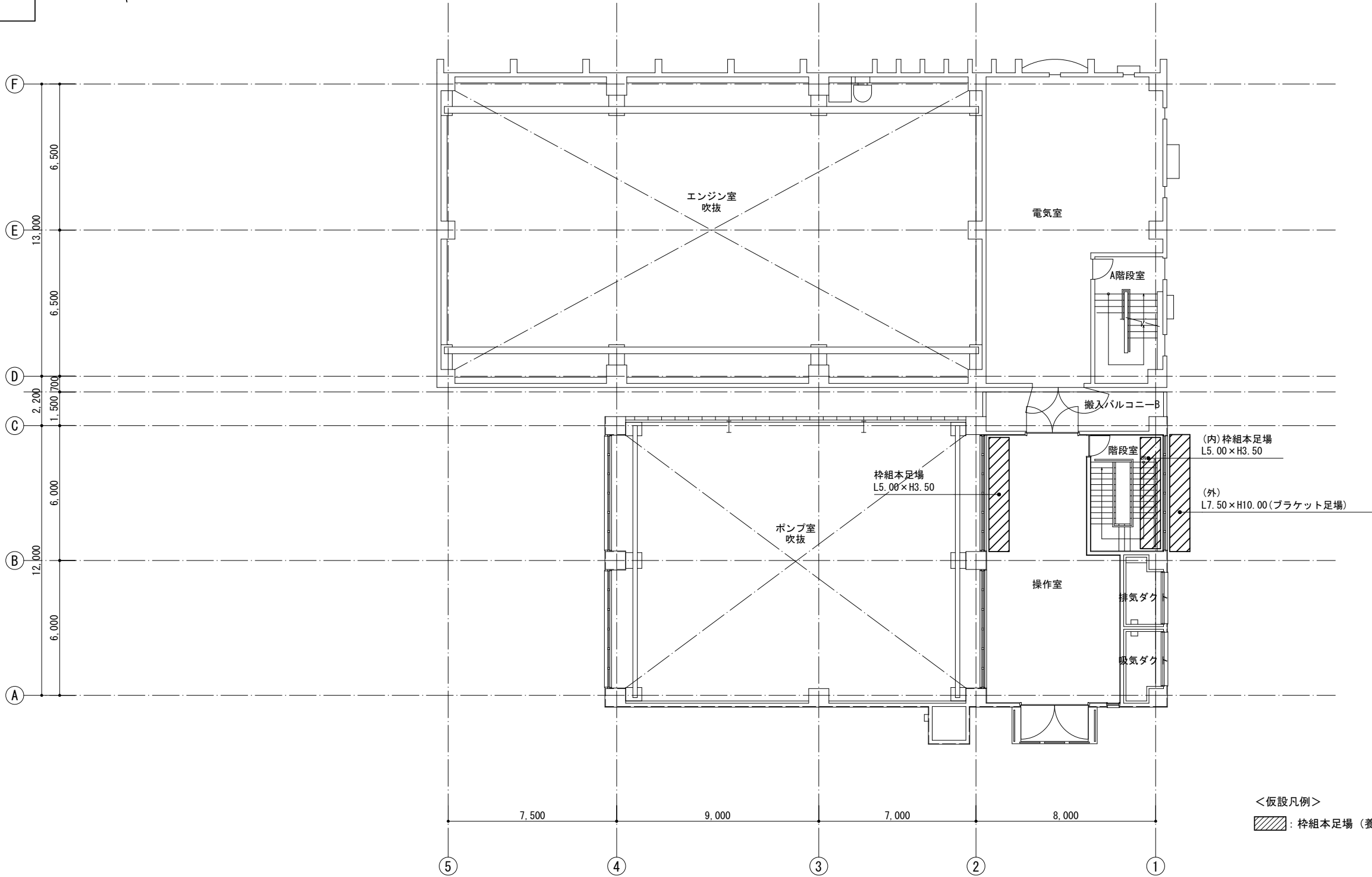
図面番号	A-088		縮 尺	1/100	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	2階仮設計画図 (参考図)			番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					



2階仮設計画図

S=1:100

(参考図)

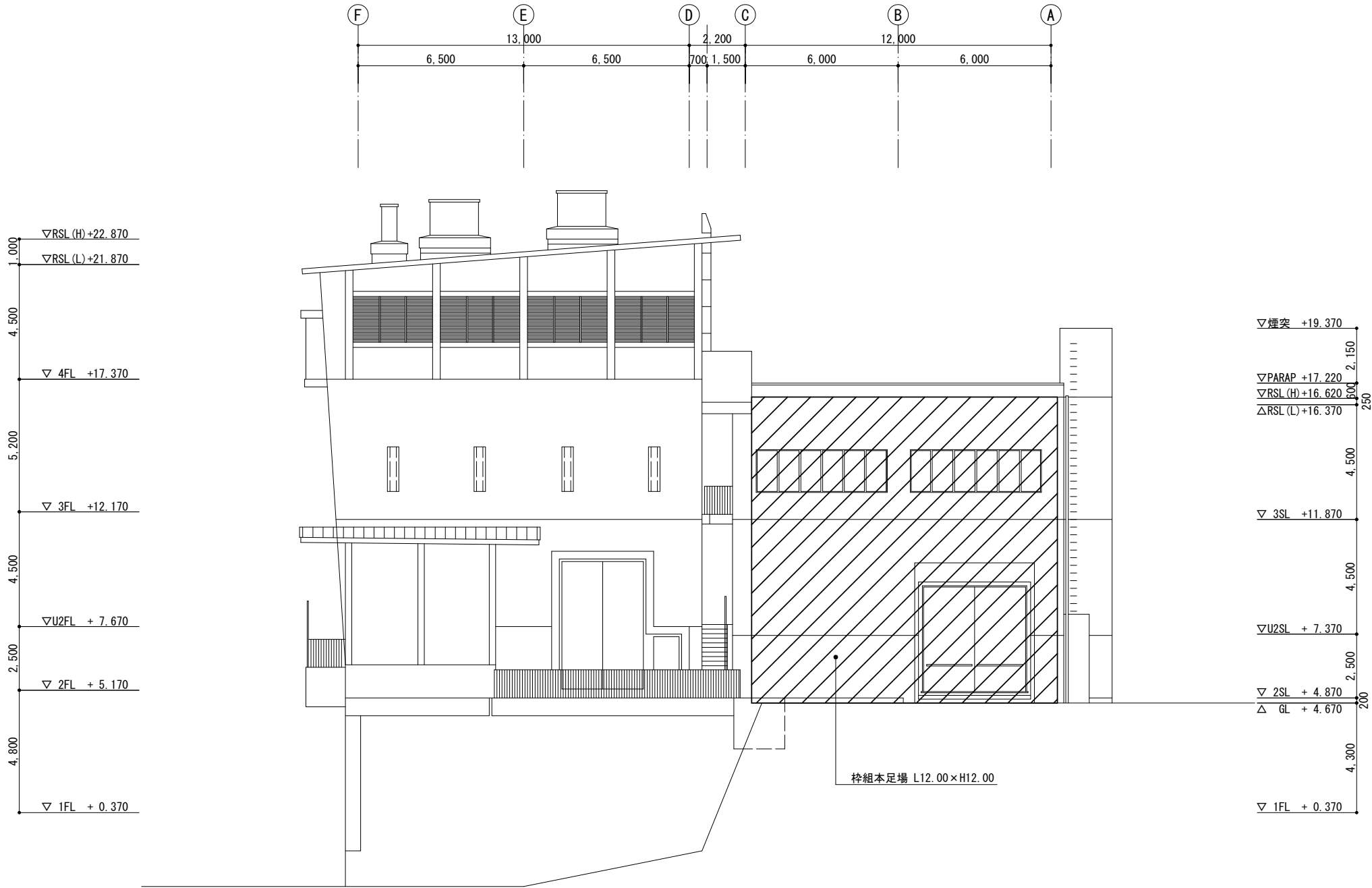


図面番号	A-089		縮 尺	1/100	
工 事 名	新漣ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)				
種 別	南立面仮設計画図 (参考図)			番 号	
工事箇所	福山市新漣町二丁目及び新漣町四丁目地内				
設計年月	2025年8月				
福 山 市 上 下 水 道 局					

南立面仮設計画図

S=1:100

(参考図)

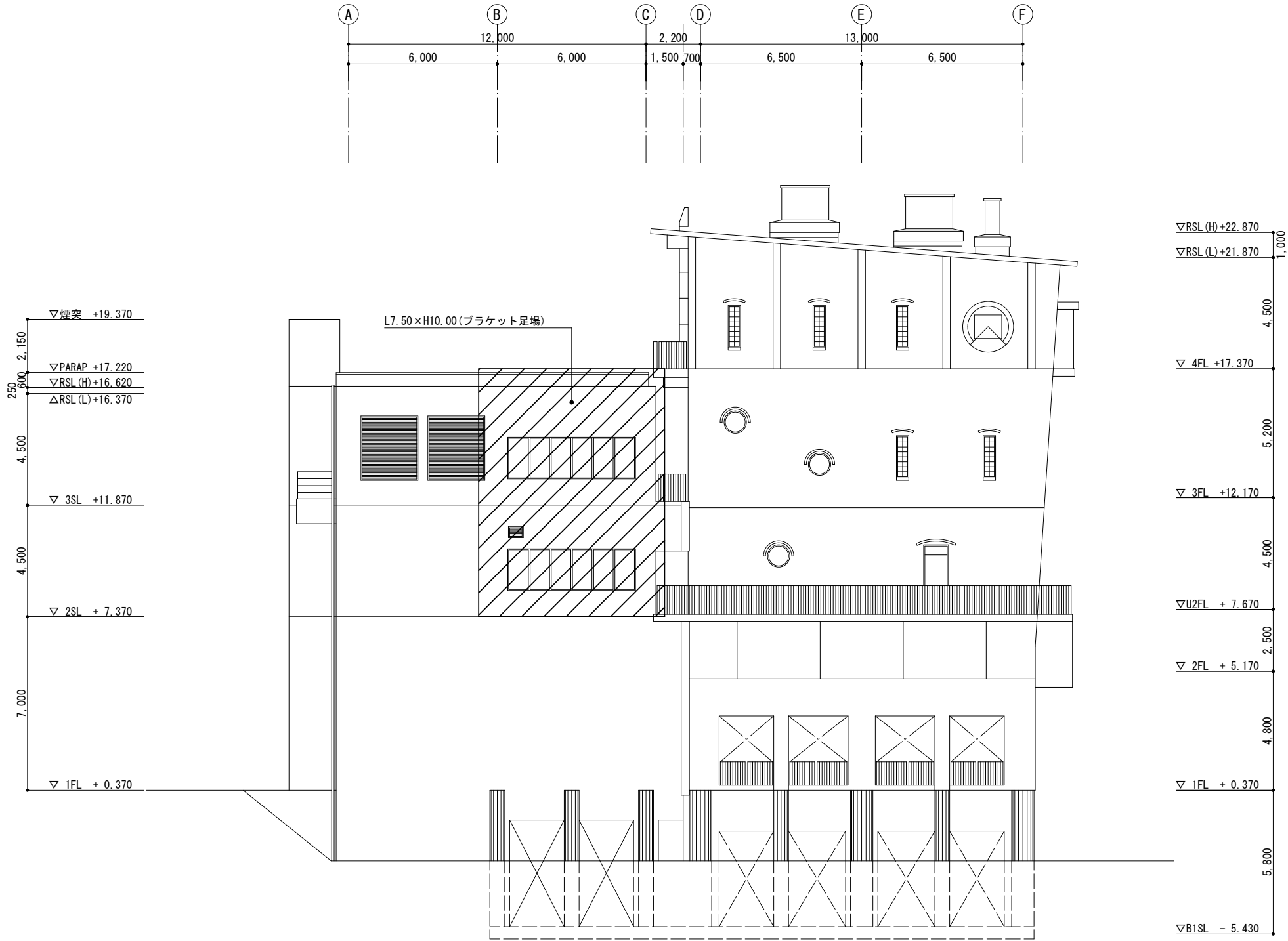


<仮設凡例>

: 枠組本足場 (養生シートあり)

図面番号	A-090	縮 尺	1/100	
工 事 名	新漕ポンプ場ポンプ棟耐震化工事(その2)			
種 別	北立面仮設計画図 (参考図)		番 号	
工事箇所	福山市新漕町二丁目及び新漕町四丁目地内			
設計年月	2025年8月			
福 山 市 上 下 水 道 局				

北立面仮設計画図 S=1:100
(参考図)



<仮設凡例>
棒組木足場 (養生シートあり)

参考数量書

§ 工事名称	新涯ポンプ場ポンプ棟耐震化工事（その２）
§ 工事場所	福山市新涯町二丁目及び新涯町四丁目地内

特記事項

- 1 この数量書は、福山市建設工事請負契約約款第１条に定める「設計図書」ではなく参考数量です。従って、契約後の変更等を含意するものではありません。
- 2 数量の算出は次の基準によっています。
 - ※ 「建築数量積算基準・同解説」（建築工事積算研究会制定）
 - ※ 「建築設備数量積算基準・同解説」（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）

設 計 書

工事名称 新涯ポンプ場ポンプ棟耐震化工事（その2）
工事場所 福山市新涯町二丁目及び新涯町四丁目地内

【工事概要】	
耐震補強工	一式
電気設備工	一式
機械設備工	一式

名 称	数 量	単位	金 額	備 考
直接工事費				
建築工事	1	式		
電気設備工事	1	式		
機械設備工事	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 %
工事費	1	式		

[illegible]

[illegible]

福山市上下水道局

[illegible]

耐震補強工事						
名	称	数	量	単位	金 額	備 考
直接仮設		1		式		
鉄筋		1		式		
コンクリート		1		式		
型枠		1		式		
金属		1		式		
左官		1		式		
建具		1		式		
塗装		1		式		
防水		1		式		
内外装		1		式		
取壊し撤去		1		式		
環境配慮改修		1		式		
	計					

福山市上下水道局

[illegible]

[illegible]

[illegible]

耐震補強工事					
科 目 名 称	中 科 目 名 称	数 量	単位	金 額	備 考
直接仮設		1	式		
計					
鉄筋	躯体	1	式		
計					
コンクリート	躯体	1	式		
計					
型枠	躯体	1	式		
計					
金属	内部	1	式		
計					
左官	外部	1	式		
左官	内部	1	式		
計					
建具	鋼製建具	1	式		
計					
塗装	内部	1	式		
計					
防水	内部	1	式		
計					
内外装	内部	1	式		

[illegible]

耐震補強工事廃材処分

[illegible]

耐震補強工事廃材運搬

[illegible]

[illegible]

機械設備工事廃材運搬

[illegible]

[illegible]

耐震補強工事		鉄筋		躯体		
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295 D10	3.2	t			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295 D13	2.7	t			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295 D16	0.1	t			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD345 D19	1	t			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD345 D22	0.3	t			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD345 D25	0.6	t			
スクラップ 控除	H2程度	1	式			別紙 00-0856
鉄筋加工組立	耐震改修用 -	7.6	t			
鉄筋運搬費	10 t 車 30km程度	7.6	t			
スパイラル筋	φ6×φ200@50 材工共	13.9	m			
スパイラル筋	φ6×φ150@50 材工共	27	m			
スパイラル筋	φ6×φ100@50 材工共	71.4	m			
スパイラル筋	φ6×φ50@50 材工共	38.7	m			
計						

福山市上下水道局

[illegible]

耐震補強工事		金属		内部		
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
後施工アンカー	接着系 SD345-D10 L=200mm	120	本			
後施工アンカー	接着系 SD345-D10 L=250mm	406	本			
後施工アンカー	接着系 SD345-D10 L=300mm	242	本			
後施工アンカー	接着系 SD345-D13 L=400mm	483	本			
後施工アンカー	接着系 SD345-D16 L=450mm	125	本			
後施工アンカー	接着系 SD345-D16 L=900mm	4	本			
後施工アンカー	接着系 SD345-D19 L=550mm	366	本			
後施工アンカー	接着系 SD345-D22 L=600mm	144	本			
後施工アンカー	接着系 SD345-D25 L=700mm	4	本			
後施工アンカー	接着系 SD345-D25 L=1300mm	24	本			
軽量鉄骨壁下地	90形 下地張りなし @300	329	m ²			
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内) ふところ1.5m未満 下地張りあり @360 インサート別途	9.9	m ²			
ノンアンカーRC壁接着	シー-筋付鋼板接着取付 エポキシ樹脂注 入とも t6×W200+D13@200 ^φ フル	1	式			
計						

福山市上下水道局

福山市上下水道局

福山市上下水道局

福山市上下水道局

耐震補強工事		取壊し撤去		内部		
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
(床)						
カッター入れ	コンクリート面 厚さ20～30mm	52.2	m			
コンクリート撤去	鉄筋切断共 人力 集積共	0.1	m ³			
コンクリート撤去	無筋 人力 集積共	5.1	m ³			
コンクリートはつり	床 厚30mm 集積共	2.4	m ²			
床モルタル・床人研ぎ撤去	集積共	0.6	m ²			
(壁)						
カッター入れ	コンクリート面 厚さ20～30mm	200	m			
コンクリート撤去	鉄筋切断共 人力 集積共	9.7	m ³			
コンクリートはつり	壁 厚30mm 集積共	149	m ²			
ALC壁取壊し	ALC仮壁取壊し撤去 t120 人力+ハンド・ブレード	24.3	m ³			
壁下地撤去	集積共	323	m ²			
壁 グラスウールボード 取壊し	壁面 t100	18.7	m ²			
壁 グラスウールボード 取壊し撤去	壁面 t25	323	m ²			
鉄骨 取壊し撤去		3.7	t			
壁 ケイカル板取壊し撤去	t15	4.2	m ²			
壁 押出成型セメント板 取壊し撤去	t60	16.8	m ²			
鋼材取壊し撤去	H-148-100他	0.5	t			
(天井)						
天井 コンクリート面 はつりだし		8.1	m ²			

耐震補強工事		取壊し撤去		内部		
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
天井下地撤去	集積共	10.4	m ²			
鉄筋探査	床面	12.9	m ²			
鉄筋探査	壁面	120	m ²			
鉄筋探査	天井面	8.4	m ²			
アルミ製建具 取壊し撤去	AW-2 アルミ製嵌め殺し連窓 W5070×H1600	1	か所			
アルミ製建具 取壊し撤去	AW-3 アルミ製フラッシュドア付き 嵌め殺し連窓 W5075×H2600	1	か所			
アルミ製建具 取壊し撤去	AW-4 アルミ製嵌め殺し連窓 W5070×H1600	1	か所			
アルミ製建具 取壊し撤去	AW-6 アルミ製嵌め殺し連窓 W5070×H1600	2	か所			
鋼製建具 取壊し撤去	SD-3 鋼製片開き防音ドア W900×H2000	1	か所			
ガス撤去	集積共	36.8	m ²			
手すり撤去	H=1100 鋼製パイプ手すり	0.2	m			
計						

福山市上下水道局

福山市上下水道局

福山市上下水道局

[illegible]

福山市上下水道局

福山市上下水道局

[illegible]

耐震補強工事 直接仮設						
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
墨出し		1	式			別紙 00-0001
墨出し	一 般 RC・SRC造 地上階	58.5	m ²			
計						
養生		1	式			別紙 00-0002
養生	一 般 RC・SRC造 地上階	78.7	m ²			
計						
整理清掃後片付け		1	式			別紙 00-0003
整理清掃 後片付け	一 般 RC・SRC造 地上階	78.7	m ²			
計						
外部足場		1	式			別紙 00-0004
桢組本足場	手すり先行 900桢500+240 12m未満 耐震補強	336	掛m ²			
桢組本足場	手すり先行 900桢500+240 12m未満 ブラケット共 耐震補強	75	掛m ²			
計						
内部足場		1	式			別紙 00-0005
桢組本足場	手すり先行 12m以下 900桢500×1枚 耐震補強	452	掛m ²			
計						

福山市上下水道局

福山市上下水道局

耐震補強工事		環境配慮改修		撤去		
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
仮設・養生	レハ ⁺ R3	1	式			別紙 00-0857
床養生	二重張り シート厚さ0.15mm	10.4	m ²			
計						
除去石綿材処理	二重梱包＋密閉処理	1	式			別紙 00-0858
除去石綿材処理	レハ ⁺ R3 二重梱包＋密閉処理	0.2	m ³			
計						
石綿含有材運搬	レハ ⁺ R3 場内集積・積込み含む	1	式			別紙 00-0859
除去石綿材運搬	レハ ⁺ R3 現場～処分場 場内集積＋積込み含む	0.2	m ³			
計						
石綿含有材処分	レハ ⁺ R3	1	式			別紙 00-0860
石綿含有材処分	レハ ⁺ R3	0.2	m ³			
計						

福山市上下水道局

福山市上下水道局

[illegible]

[illegible]

[illegible]